
那覇市男女共同参画社会に関する
市民意識調査
報告書

I 調査の概要

1. 調査の目的

那覇市は、平成 10 年に「なは男女共同参画都市宣言」、平成 17 年に「那覇市男女共同参画推進条例」を制定し、平成 20 年度から「第 3 次那覇市男女共同参画計画（以下、「現行計画」という。）」に基づき、様々な施策に取り組んでいる。平成 29 年度は現行計画の最終年度を迎えるにあたり、「第 4 次那覇市男女共同参画計画（以下、「次期計画」という。）」策定に向けた取り組みも進めている。

平成 28 年に女性活躍推進法が施行され、男女共同参画社会の実現に向けた女性の社会進出の支援や、子育て支援等において企業の役割が期待されている。次期計画の策定にあたり、事業者の男女共同参画に関する意識や実態、期待されるニーズ等の把握とともに、施策策定の基礎として活用することを目的に、調査を実施した。

2. 調査の内容

調査の内容は以下の通り。

- ①調査対象：20 歳以上の市民 男女 3,000 人
- ②調査期間：平成 29 年 10 月 5 日（木）～11 月 20 日（月）まで
- ③調査方法：郵送による配布・回収
- ④回収状況：

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000 件	1,070 件	35.6%

回答者の性別・年代別構成比

	性別	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答	合計
全体 (%)		13.6	18.4	21.5	16.3	16.2	13.6	0.6	100.2
男性 (%)	460	13.3	15.4	27.8	15.7	16.5	10.7	0.7	100.1
女性 (%)	605	13.9	20.7	16.7	16.7	16.0	15.5	0.5	100.0
その他 (%)	2	—	50.0	50.0	—	—	—	—	100.0
無回答 (%)	3	—	—	—	33.3	—	66.7	—	100.0
実数 (人)	1,070	145	197	230	174	173	145	6	

※構成比は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100 とならない。

⑤調査項目

- ・男女平等に関する意識について
- ・家庭生活について
- ・仕事について
- ・老後の生活について
- ・配偶者等からの暴力について
- ・性の多様性について
- ・男女共同参画社会について

※留意点

- ・構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100 とはならない。

II 那覇市男女共同参画社会に関する市民意識調査結果

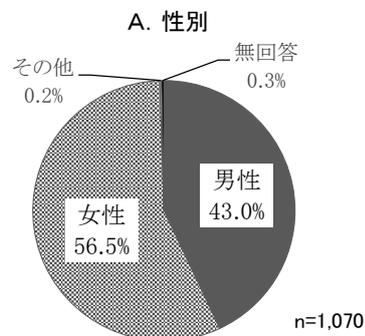
1. 調査対象者の基本属性

A. 性別について

回答者の性別は「女性」が56.6%に対し、「男性」は43.0%となっている。

単位：人（%）

No.	性別	件数	構成比
1	男性	460	43.0
2	女性	605	56.5
3	その他	2	0.2
4	無回答	3	0.3
	合計	1,070	100.0



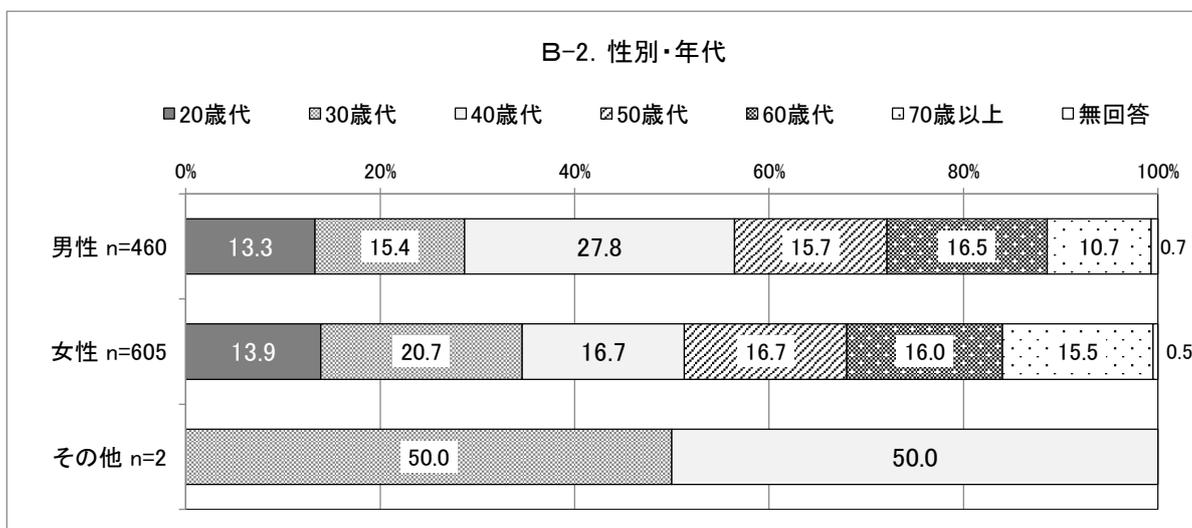
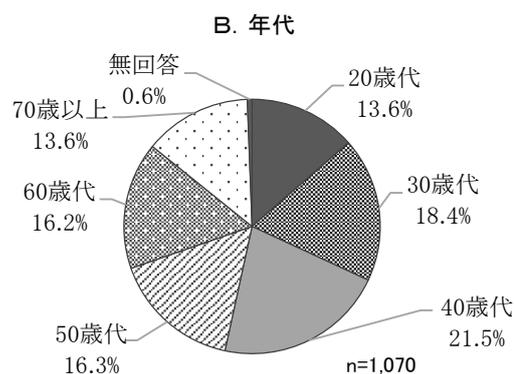
B. 年齢について

回答者の年齢は「40歳代」が21.5%でやや多いが、全体的には、ほぼ均等な割合となっている。

性・年代別では40代男性の回答率が特に高いが、その他の年代では極端な差は見られない。

単位：人（%）

No.	年代	件数	構成比
1	20歳代	145	13.6
2	30歳代	197	18.4
3	40歳代	230	21.5
4	50歳代	174	16.3
5	60歳代	173	16.2
6	70歳以上	145	13.6
7	無回答	6	0.6
	合計	1,070	100.2



C. 職業

回答者の職業は「正社員（一般職）」が 20.1%と最も多く、以下、「主夫・主婦」の 11.6%、「常勤パートタイマー」10.1%、「公務員」8.1%、「契約社員、派遣社員」7.8%となっている。

性別でみると、男性の正規雇用率が 56.3%に対し、女性では 25.5%と男性の半分以下で、逆にパートタイマー、臨時・アルバイトの割合が男性の約 2.5 倍となっている。

※男性正規雇用率 56.3%=正社員（一般職）25.2%、正社員（技術職）10.2%、管理職・会社役員 8.3%、公務員 12.6%

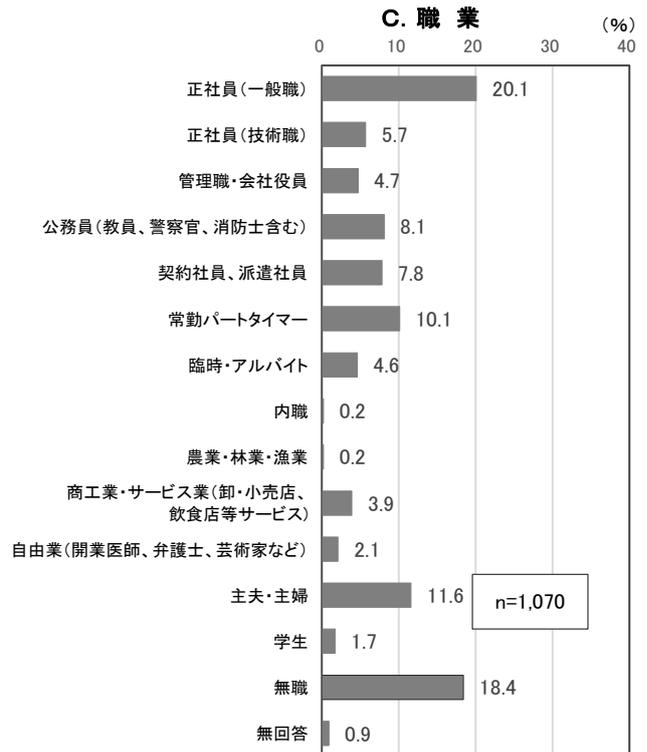
※女性正規雇用率 25.5%=正社員（一般職）16.4%、正社員（技術職）2.3%、管理職・会社役員 2.0%、公務員 4.8%

※男性パート・臨時・アルバイト率 12.7%=契約社員 7.0%、パート 2.0%、臨時・アルバイト 3.7%

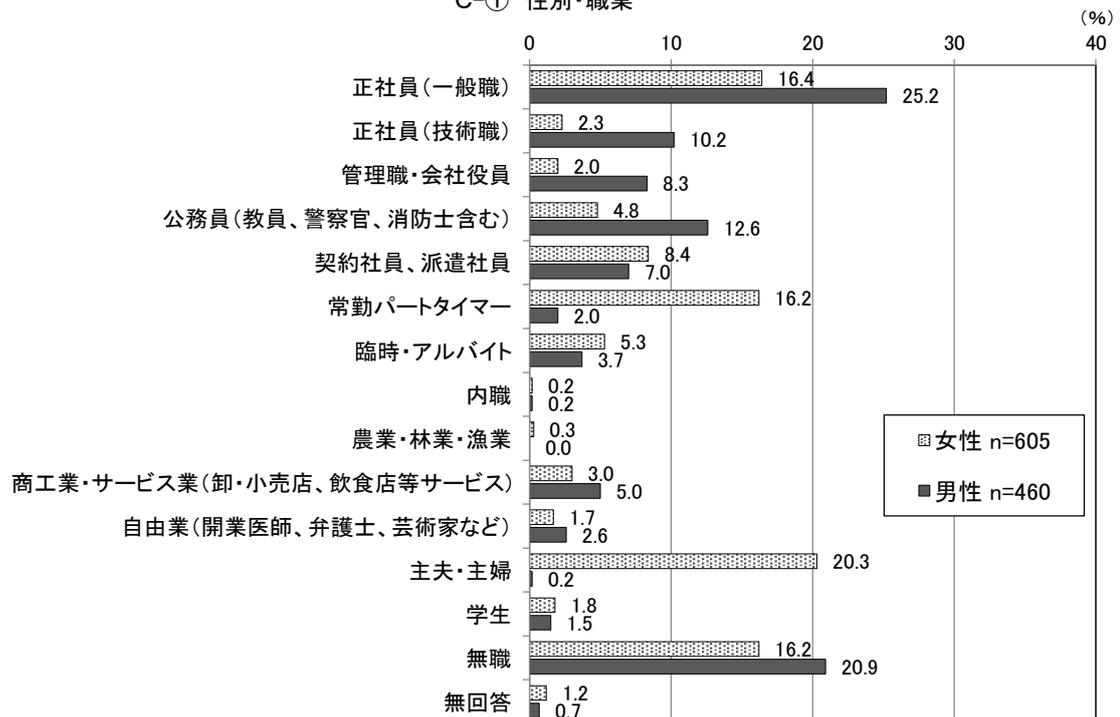
※女性パート・臨時・アルバイト率 29.9%=契約社員 8.4%、パート 16.2%、臨時・アルバイト 5.3%

単位:人(%)

No.	職業	件数	構成比
1	正社員（一般職）	215	20.1
2	正社員（技術職）	61	5.7
3	管理職・会社役員	50	4.7
4	公務員（教員、警察官、消防士含む）	87	8.1
5	契約社員、派遣社員	83	7.8
6	常勤パートタイマー	108	10.1
7	臨時・アルバイト	49	4.6
8	内職	2	0.2
9	農業・林業・漁業	2	0.2
10	商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店等サービス）	42	3.9
11	自由業（開業医師、弁護士、芸術家など）	22	2.1
12	主夫・主婦	124	11.6
13	学生	18	1.7
14	無職	197	18.4
	無回答	10	0.9
	合計	1,070	100.1

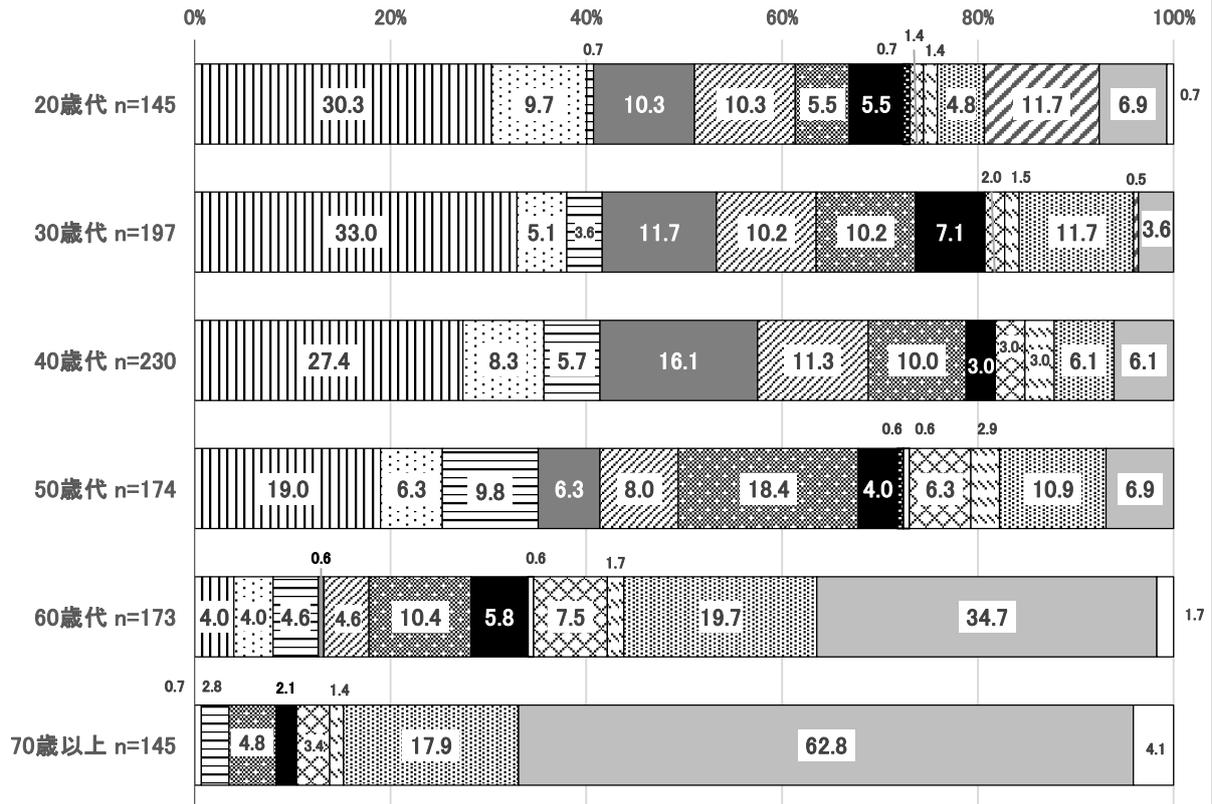


C-① 性別・職業



C-② 年代別・職業

- 正社員(一般職)
- 管理職・会社役員
- ▨ 契約社員、派遣社員
- 臨時・アルバイト
- 農業・林業・漁業
- ▨ 自由業(開業医師、弁護士、芸術家など)
- ▨ 学生
- 無回答
- 正社員(技術職)
- 公務員(教員、警察官、消防士含む)
- ▨ 常勤パートタイマー
- 内職
- ▨ 商工業・サービス業(卸・小売店、飲食店等サービス)
- ▨ 主夫・主婦
- 無職

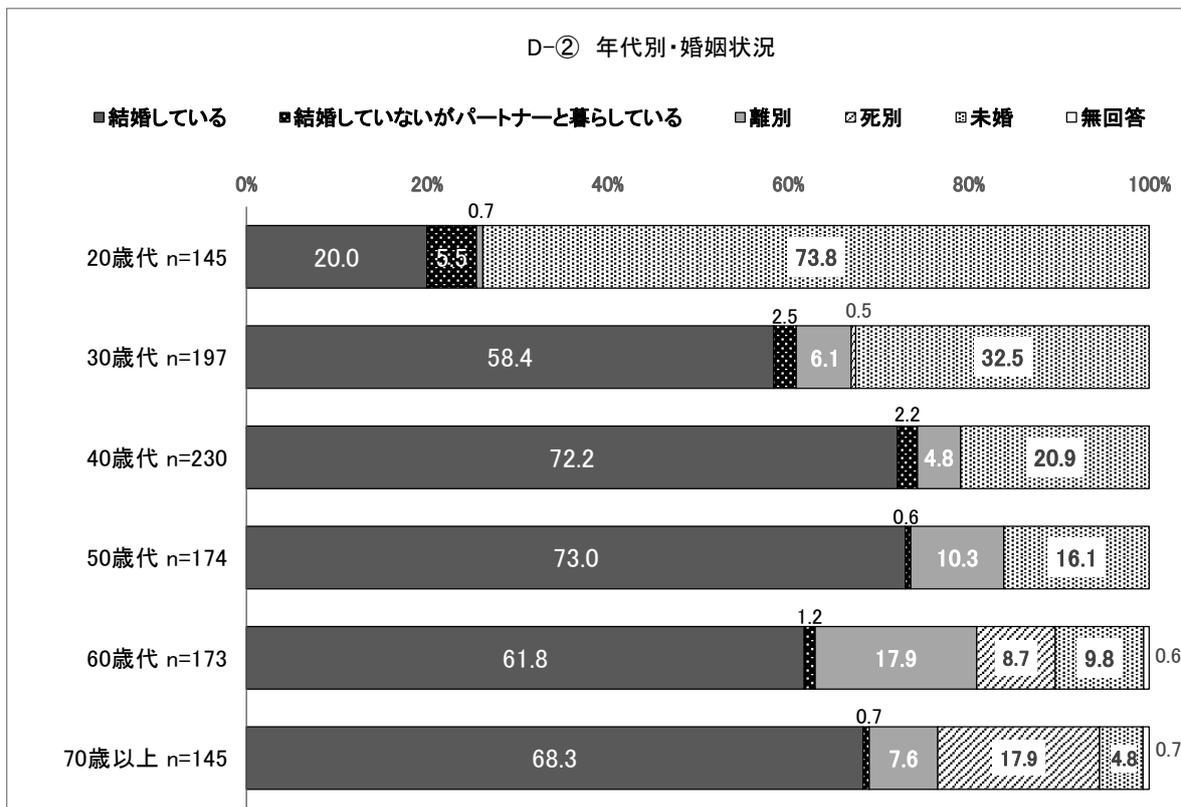
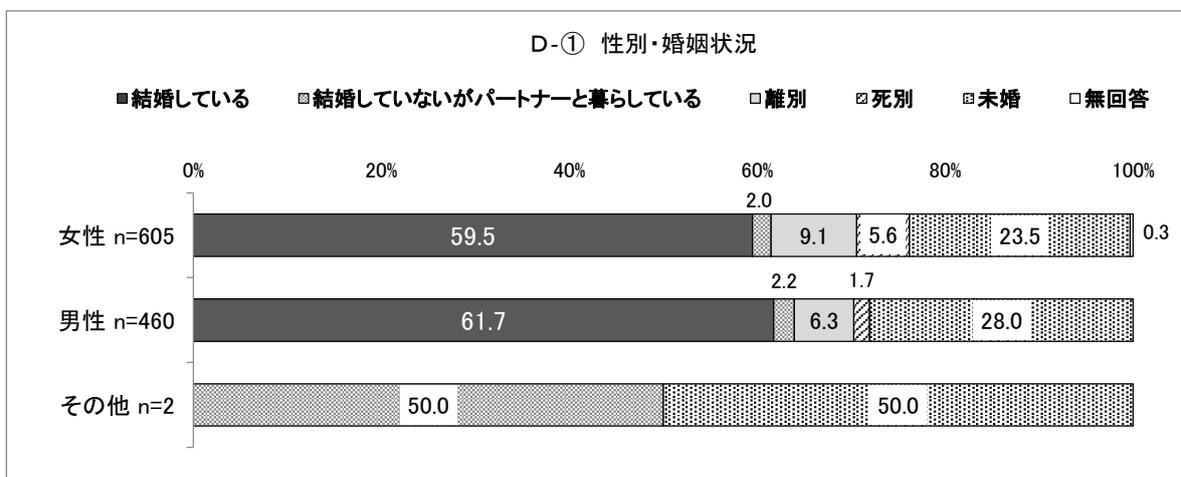
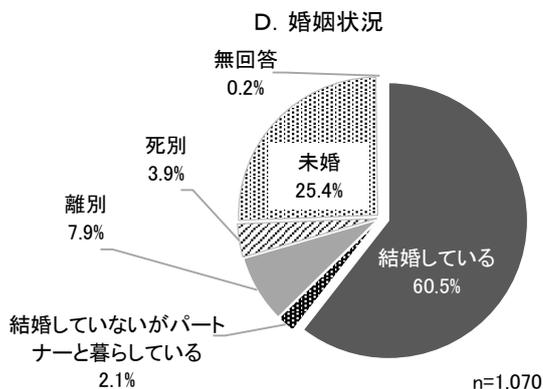


D. 婚姻状況

回答者の婚姻状況は「結婚している」が60.5%を占め、「未婚」は25.4%で約1/4を占める。性別では男性の婚姻率が若干高いが婚姻経験率は女性が4.5%高い。

単位:人(%)

	婚姻状況	件数	構成比
1	結婚している	647	60.5
2	結婚していないがパートナーと暮らしている	23	2.1
3	離別	84	7.9
4	死別	42	3.9
5	未婚	272	25.4
	無回答	2	0.2
	合計	1,070	100.0



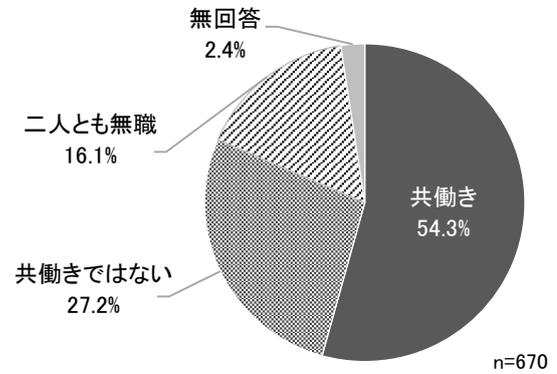
D-2. 配偶者（パートナー）の就業状況

配偶者（パートナー）の就業状況は「共働き」が54.3%を占めており、「共働きではない」は27.2%となっている。

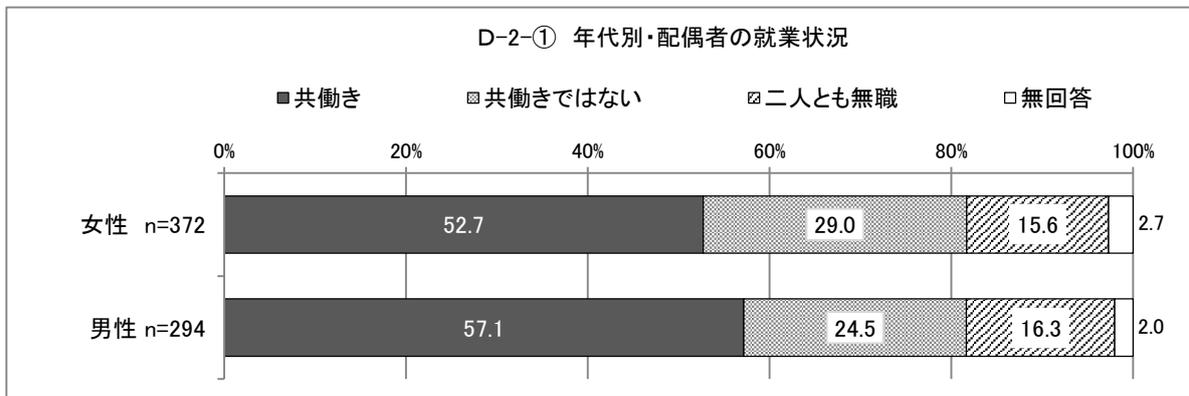
単位：人（%）

No.	就業状態	件数	構成比
1	共働き	364	54.3
2	共働きではない	182	27.2
3	二人とも無職	108	16.1
	無回答	16	2.4
	合計	670	100.0

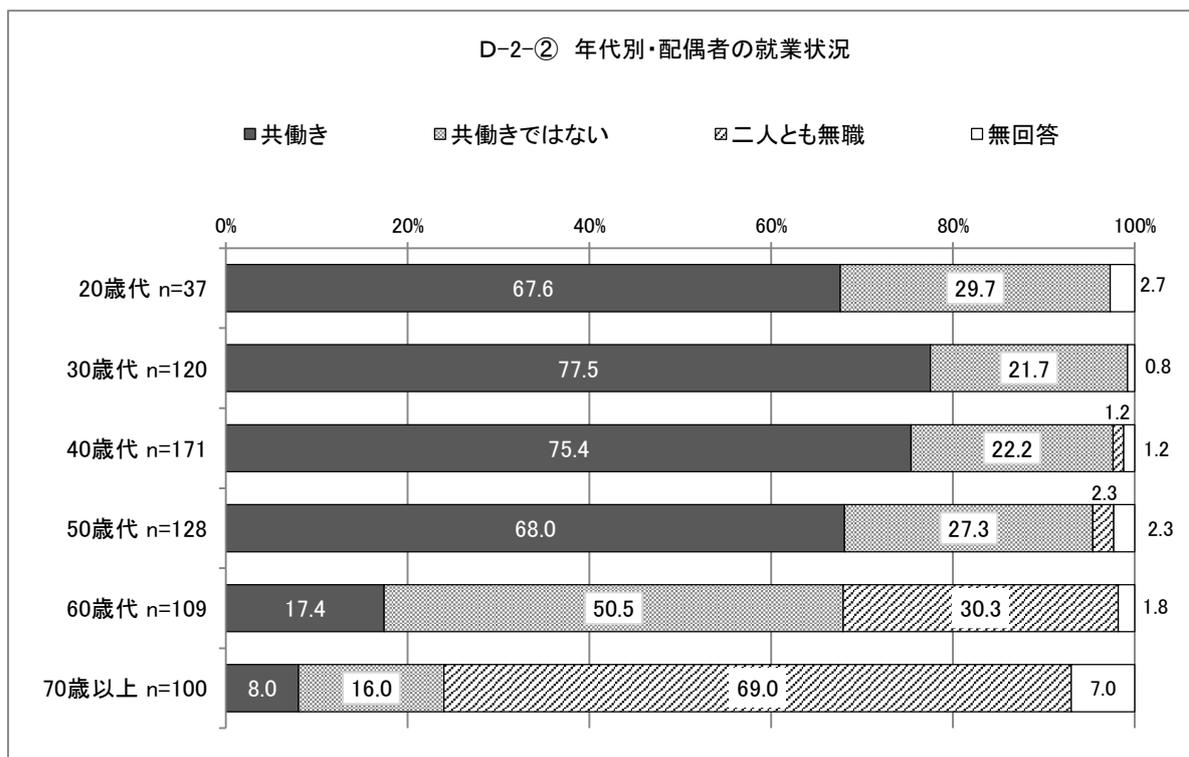
D-2. 配偶者（パートナー）の就業状況



D-2-① 年代別・配偶者の就業状況



D-2-② 年代別・配偶者の就業状況



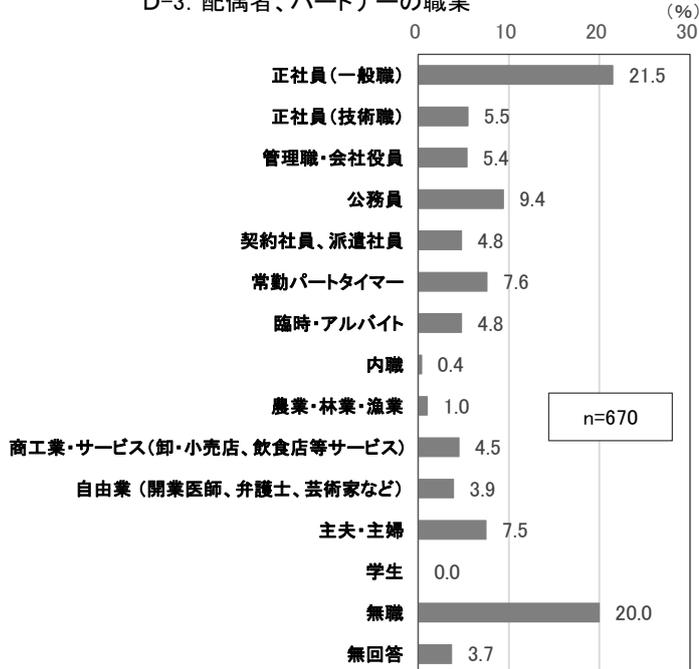
D-3. 配偶者（パートナー）の職業

配偶者（パートナー）の職業は「正社員（一般職）」が21.5%で最も多く、以下、「公務員」9.4%、「常勤パートタイマー」7.6%、「主夫・主婦」の7.5%となっている。
性別では、前述のC-1の自身の職業と逆の結果となっている。

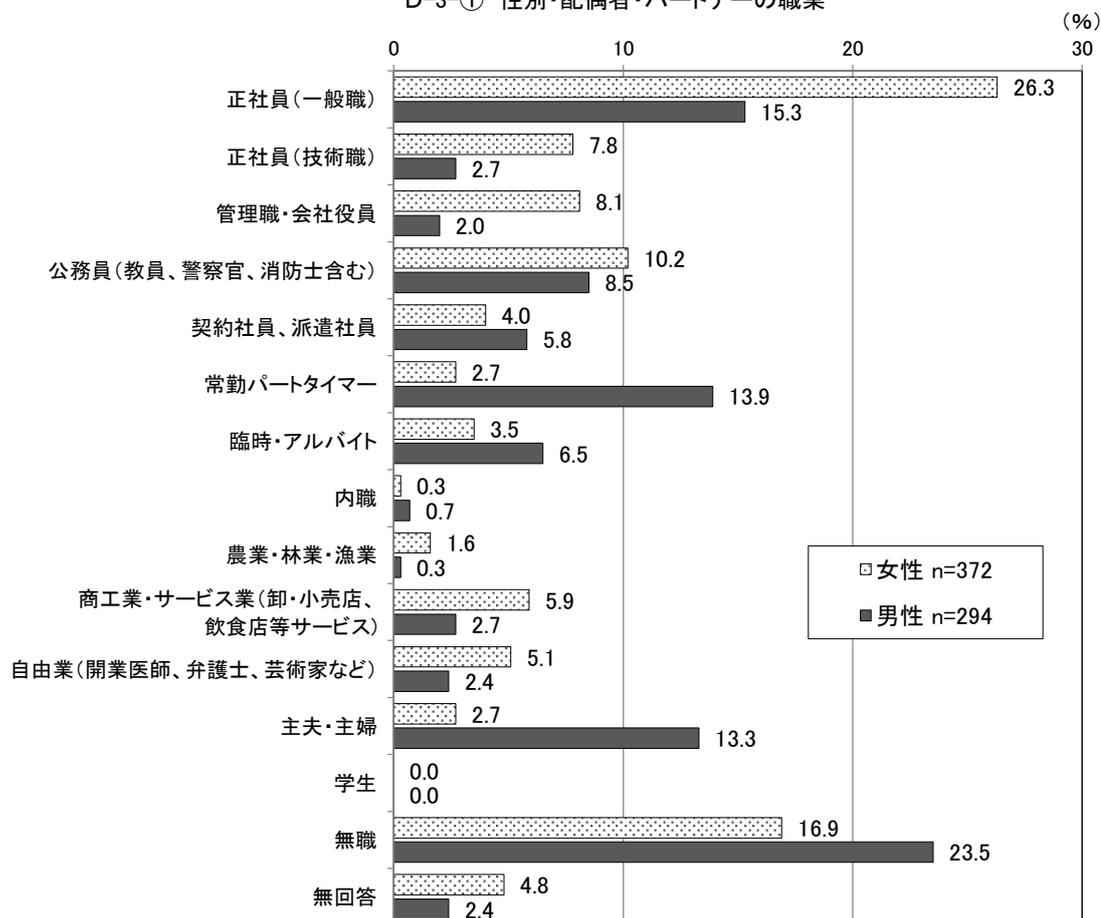
単位：人（%）

No.	配偶者の職業	件数	構成比
1	正社員（一般職）	144	21.5
2	正社員（技術職）	37	5.5
3	管理職・会社役員	36	5.4
4	公務員（教員、警察官、消防士含む）	63	9.4
5	契約社員、派遣社員	32	4.8
6	常勤パートタイマー	51	7.6
7	臨時・アルバイト	32	4.8
8	内職	3	0.4
9	農業・林業・漁業	7	1.0
10	商工業・サービス業（卸・小売店、飲食店等サービス）	30	4.5
11	自由業（開業医師、弁護士、芸術家など）	26	3.9
12	主夫・主婦	50	7.5
13	学生	0	0.0
14	無職	134	20.0
	無回答	25	3.7
	合計	670	100.0

D-3. 配偶者、パートナーの職業

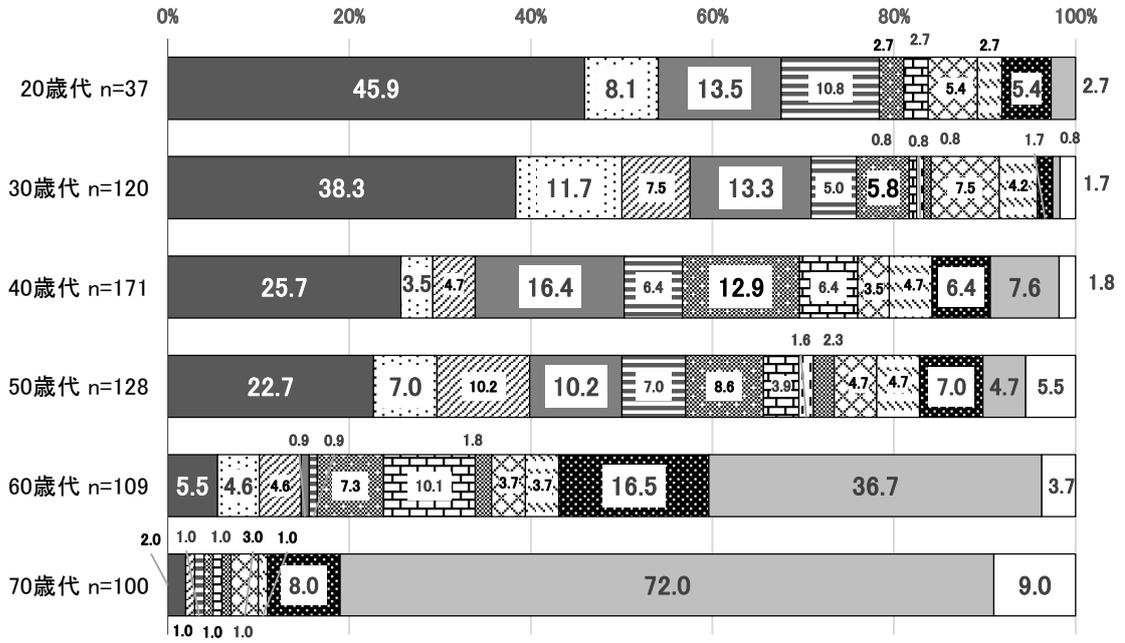


D-3-① 性別・配偶者・パートナーの職業



D-3-② 年代別・配偶者・パートナーの職業

- 正社員(一般職) □ 正社員(技術職) ▨ 管理職・会社役員 ■ 公務員 □ 契約社員、派遣社員
- ▨ 常勤パートタイマー □ 臨時・アルバイト □ 内職 ▨ 農業・林業・漁業 ▨ 商工業・サービス業
- 自由業 ■ 主夫・主婦 ☆ 学生 □ 無職 □ 無回答



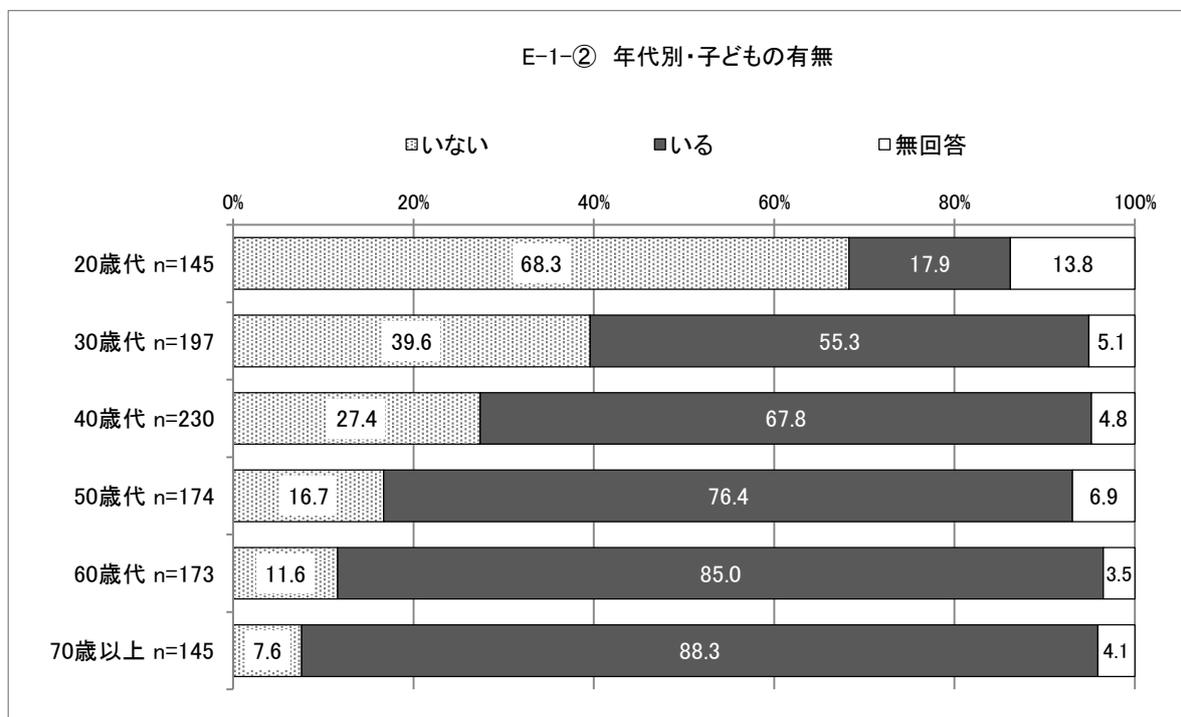
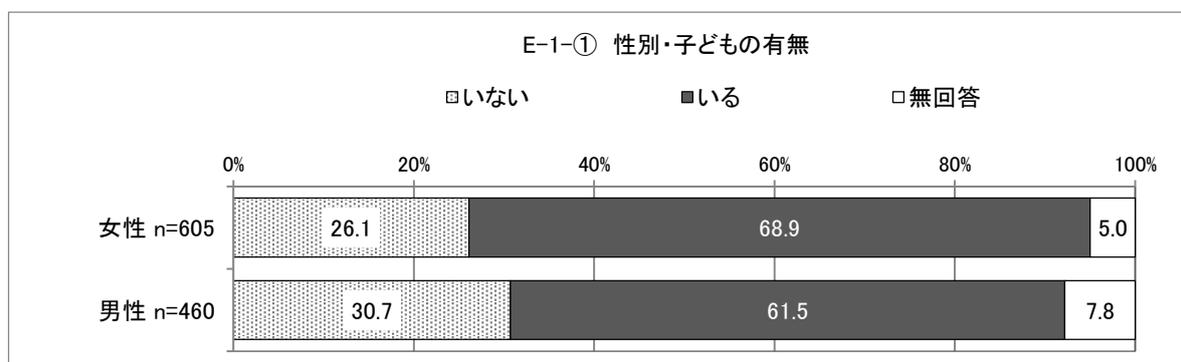
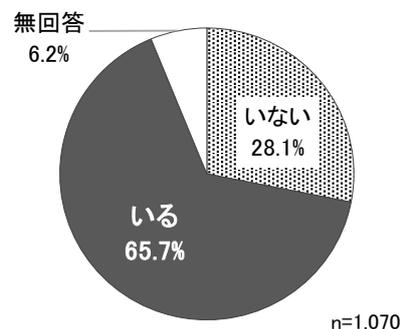
E. 子どもの有無

子どもの有無では、全体の65.7%が「いる」としている。

単位:人(%)

No.	子どもの有無	件数	構成比
1	いない	301	28.1
2	いる	703	65.7
	無回答	66	6.2
	合計	1,070	100.0

E. 子どもの有無

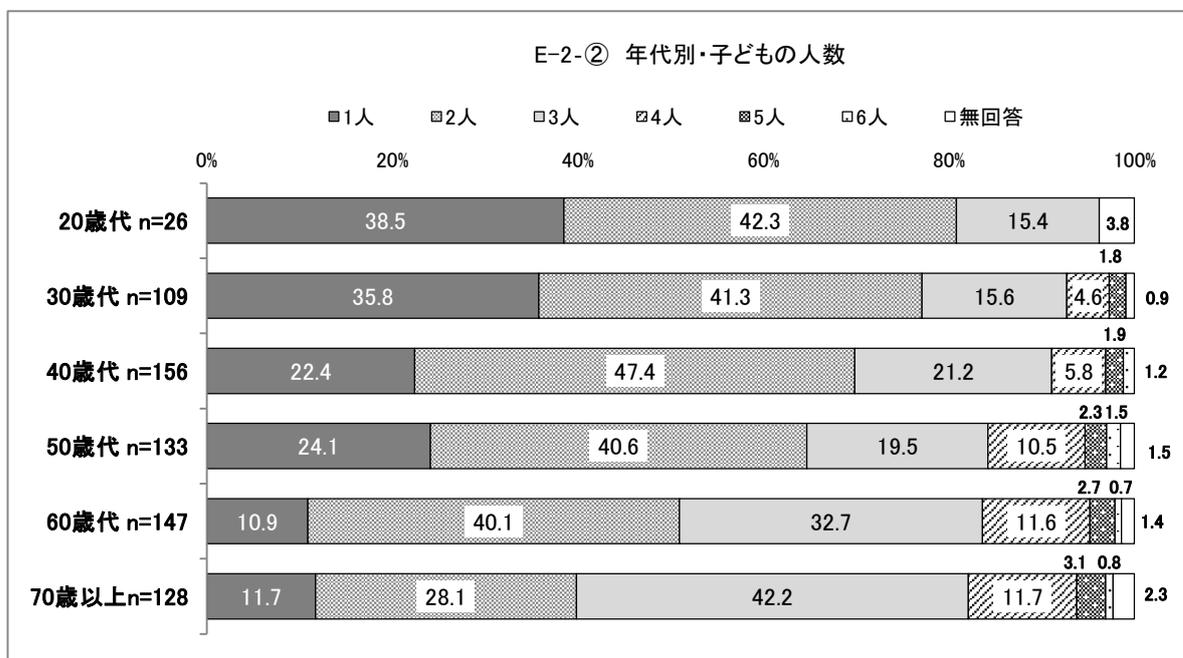
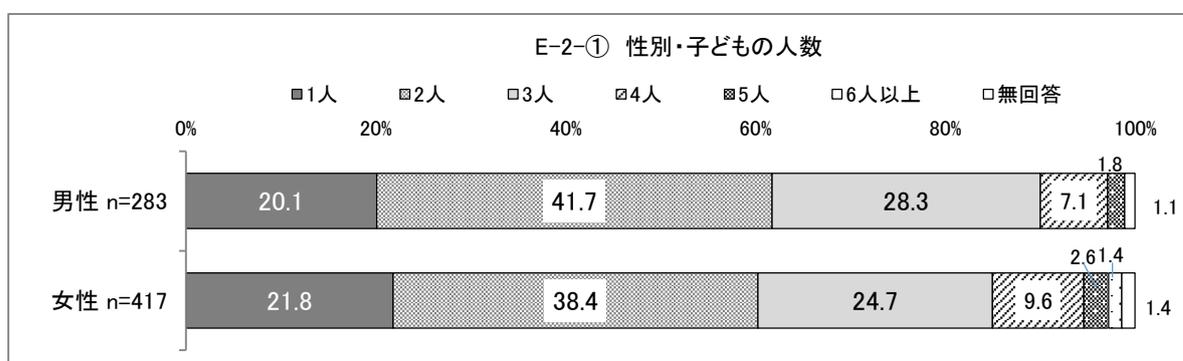
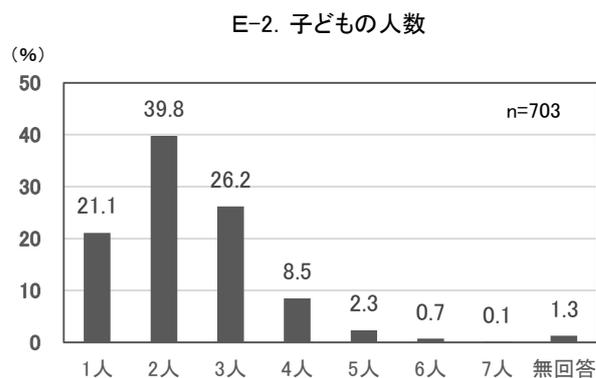


E-2. 子どもの人数

子どもがいる家庭の子どもの人数は、「2人」が39.8%で最も多く、次に「3人」26.2%となっている。

単位:人(%)

No.	こどもの人数	件数	構成比
1	1人	148	21.1
2	2人	280	39.8
3	3人	184	26.2
4	4人	60	8.5
5	5人	16	2.3
6	6人	5	0.7
7	7人	1	0.1
	無回答	9	1.3
	合計	703	100



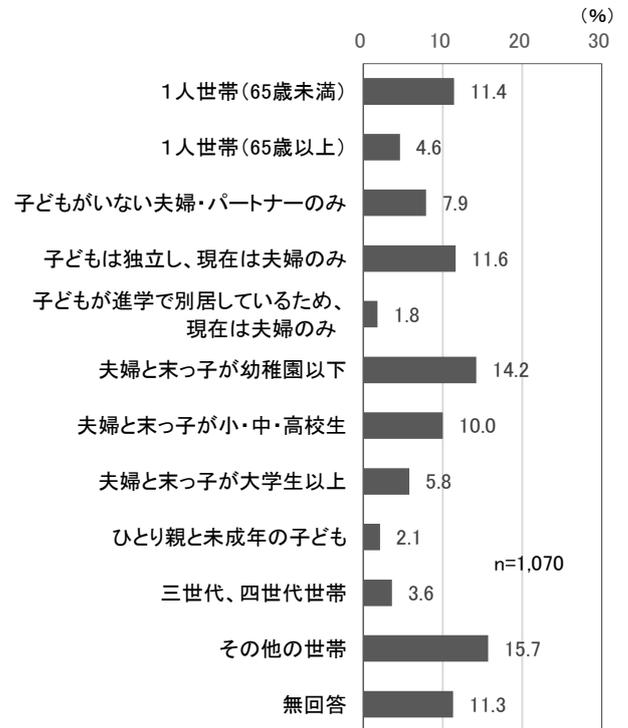
F. 世帯の家族類型

世帯の家族類型では、「夫婦と末っ子が幼稚園以下の世帯」が14.2%で最も多く、次に「子どもは独立し、現在は夫婦のみ」11.6%と続く。

単位: 人 (%)

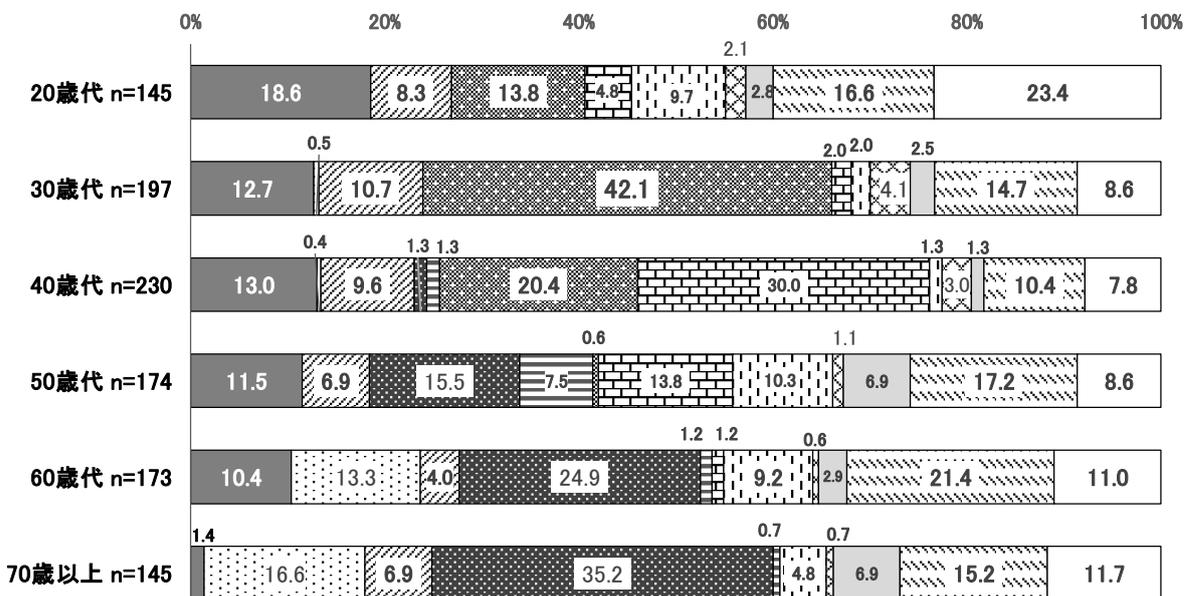
No.	家族類型	件数	構成比
1	1人世帯(65歳未満)	122	11.4
2	1人世帯(65歳以上)	49	4.6
3	子どもがいない夫婦・パートナーのみ	85	7.9
4	子どもは独立し、現在は夫婦のみ	124	11.6
5	子どもが進学で別居しているため、現在は夫婦のみ	19	1.8
6	夫婦と末っ子が幼稚園以下	152	14.2
7	夫婦と末っ子が小・中・高校生	107	10.0
8	夫婦と末っ子が大学生以上	62	5.8
9	ひとり親と未成年の子ども	22	2.1
10	三世代、四世代世帯	39	3.6
11	その他の世帯	168	15.7
	無回答	121	11.3
	合計	1,070	100.0

F. 世帯の家族類型



F. 年代別・世帯の家族類型

- 1人世帯(65歳未満)
- ▨ 子どもがいない夫婦・パートナーのみ
- ▩ 子どもが進学で別居しているため、現在は夫婦のみ
- ▧ 夫婦と末っ子が小・中・高校生
- ▦ ひとり親と未成年の子ども
- ▤ その他の世帯
- 1人世帯(65歳以上)
- 子どもは独立し、現在は夫婦のみ
- ▨ 夫婦と末っ子が幼稚園以下
- ▩ 夫婦と末っ子が大学生以上
- ▧ 三世代、四世代世帯
- ▦ 無回答



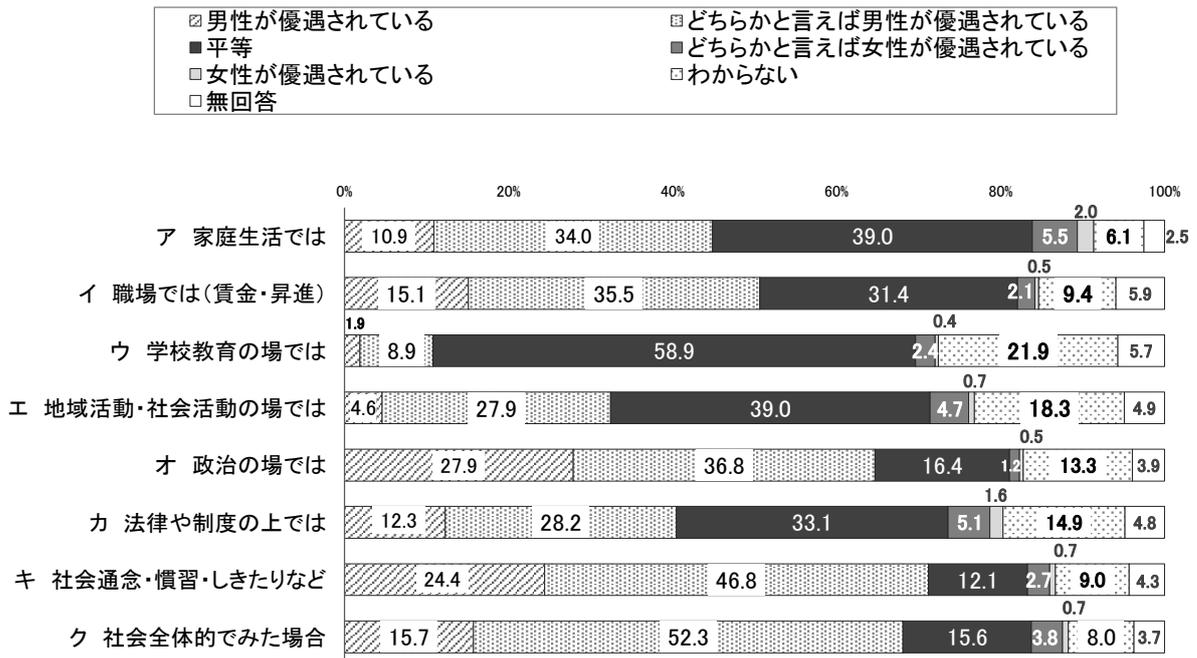
2. 調査結果

(1) 男女平等に関する意識について

問1. あなたは、次のア～ク分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。それぞれの分野について、あなたのお考えに近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

男女の地位の平等感は、「学校教育の現場」で約6割が平等としているが、「社会全体でみた場合」では15.6%に留まり、特に「社会通念・慣習・しきたりなど」で男性の優遇感が高い。

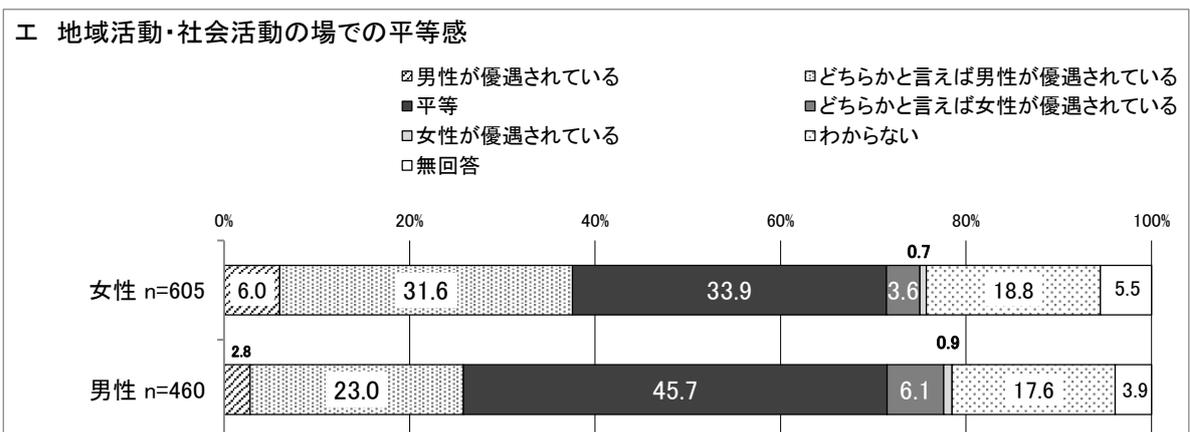
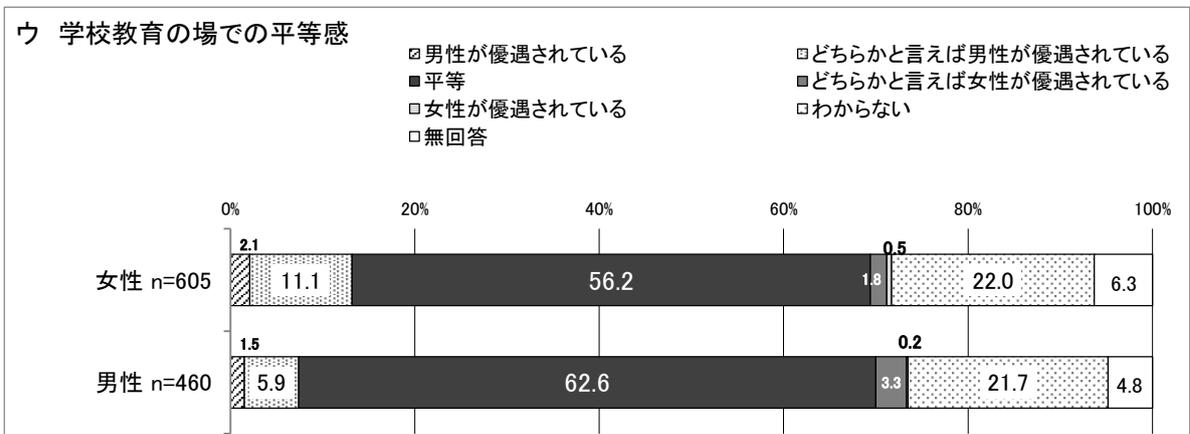
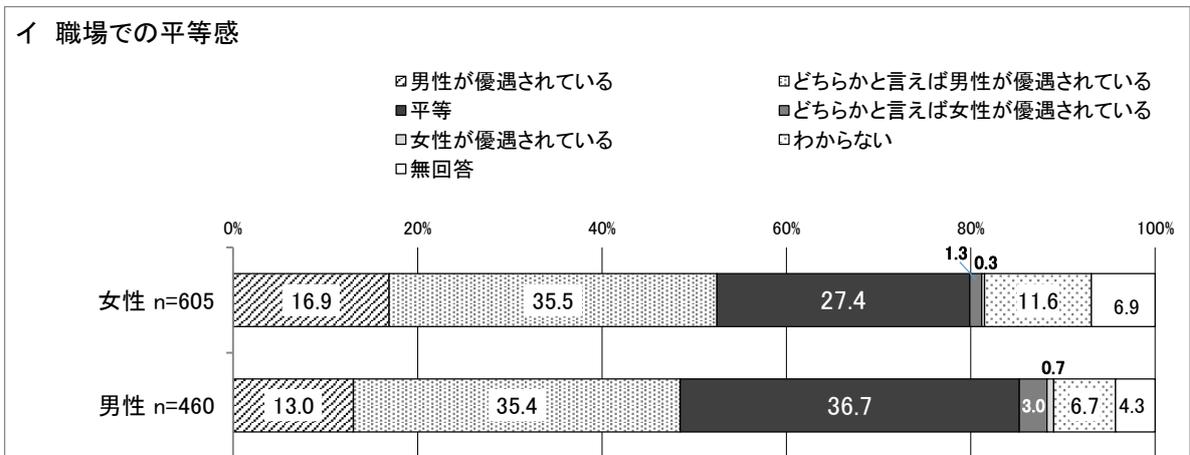
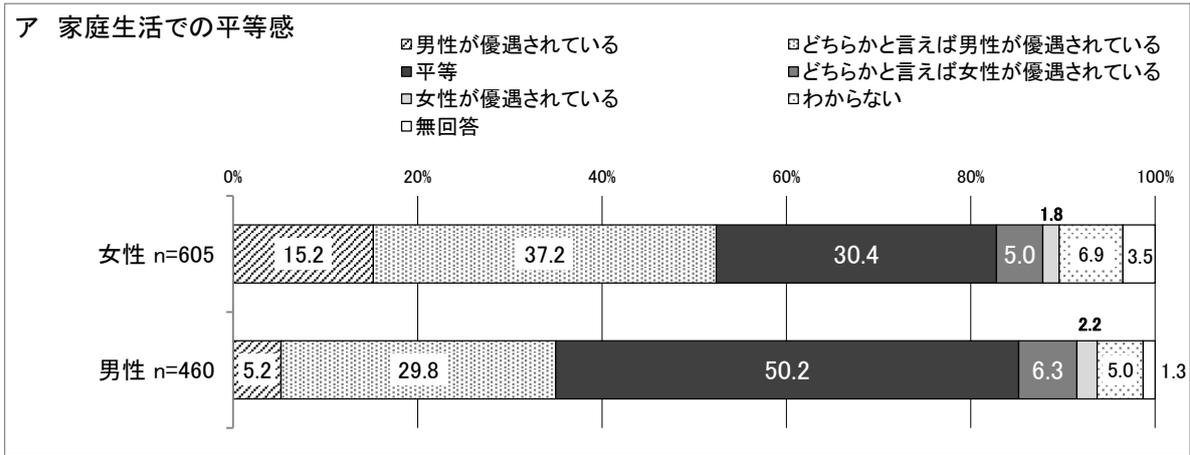
図1. 各分野での男女の地位の平等感



※上段/件数 下段/構成比(%)

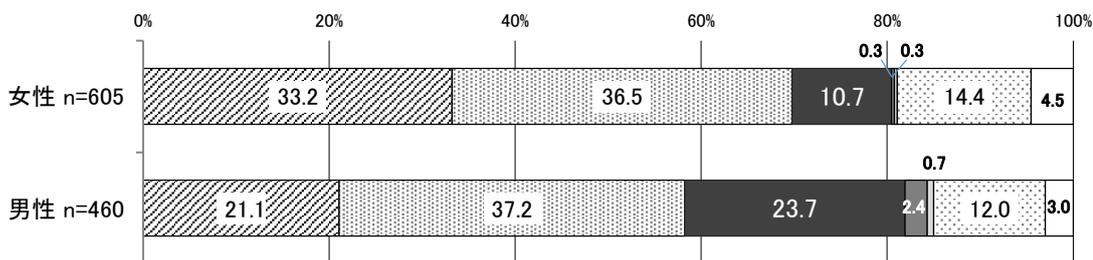
分野	男性が優遇されている	どちらかと言えば男性が優遇されている	平等	どちらかと言えば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答
ア 家庭生活では	n=1,070						
	117	364	417	59	21	65	27
イ 職場では(賃金・昇進)							
	162	380	336	23	5	101	63
ウ 学校教育の場では							
	20	95	630	26	4	234	61
エ 地域活動・社会活動の場では							
	1.9	8.9	58.9	2.4	0.4	21.9	5.7
オ 政治の場では							
	49	298	417	50	8	196	52
カ 法律や制度の上では							
	4.6	27.9	39.0	4.7	0.7	18.3	4.9
オ 政治の場では							
	299	394	175	13	5	142	42
カ 法律や制度の上では							
	27.9	36.8	16.4	1.2	0.5	13.3	3.9
カ 法律や制度の上では							
	132	302	354	55	17	159	51
キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは							
	12.3	28.2	33.1	5.1	1.6	14.9	4.8
キ 社会通念・慣習・しきたりなどでは							
	261	501	130	29	7	96	46
ク 社会全体的でみた場合							
	24.4	46.8	12.1	2.7	0.7	9.0	4.3
ク 社会全体的でみた場合							
	168	560	167	41	8	86	40
ク 社会全体的でみた場合							
	15.7	52.3	15.6	3.8	0.7	8.0	3.7

図2. 性別・男女平等に関する意識



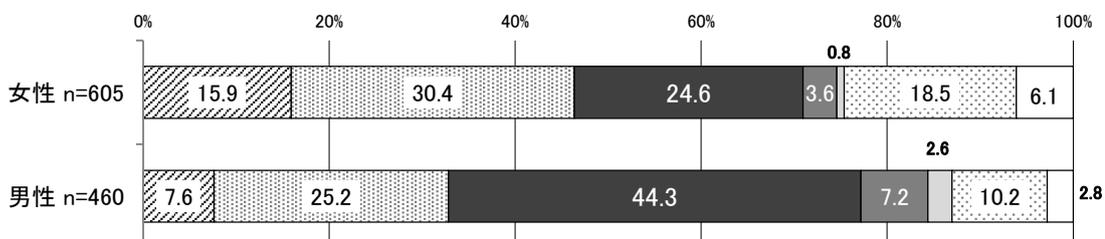
オ 政治の場での平等感

- ▨ 男性が優遇されている
- 平等
- ▨ 女性が優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



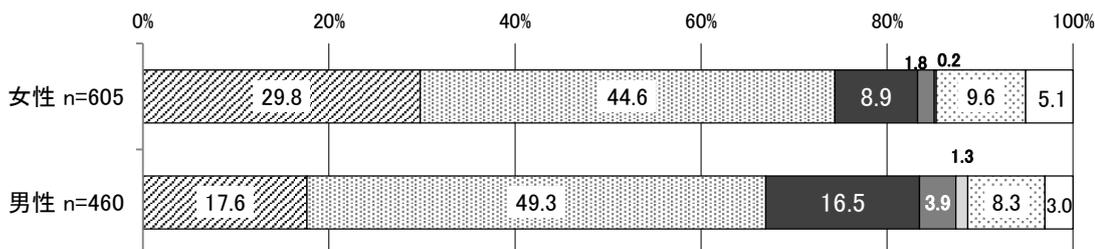
カ 法律や制度上の平等感

- ▨ 男性が優遇されている
- 平等
- ▨ 女性が優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



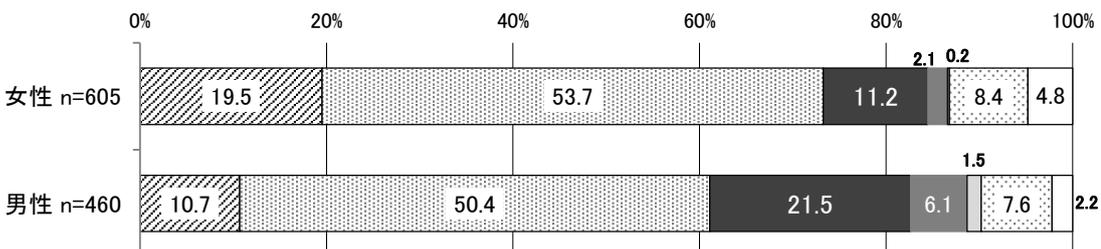
キ 社会通念・慣習・しきたりでの平等感

- ▨ 男性が優遇されている
- 平等
- ▨ 女性が優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない

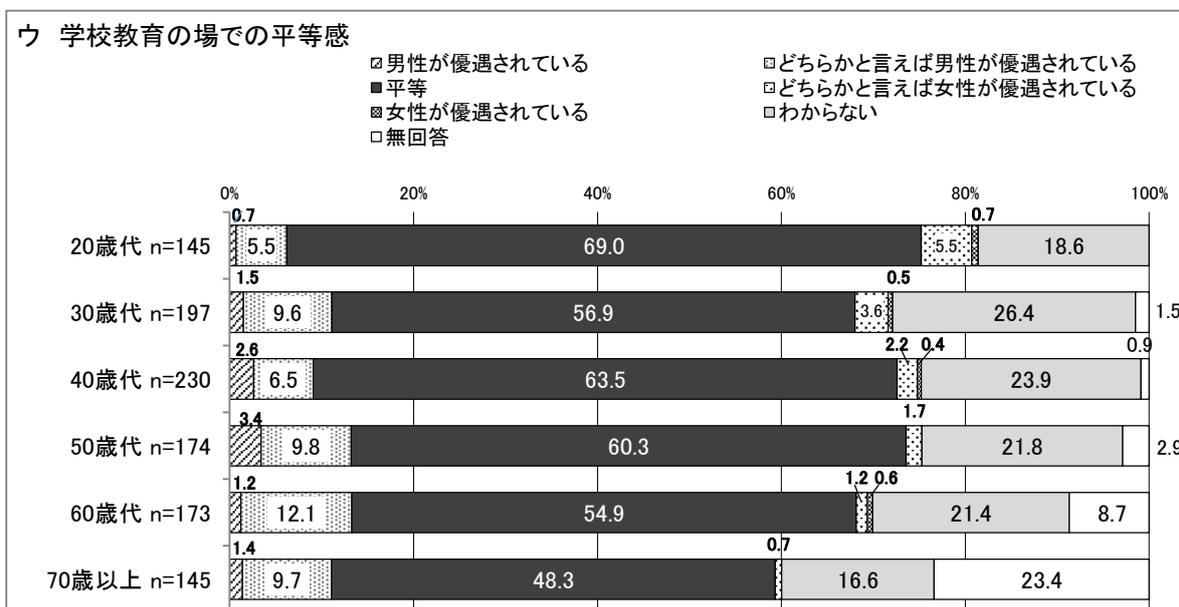
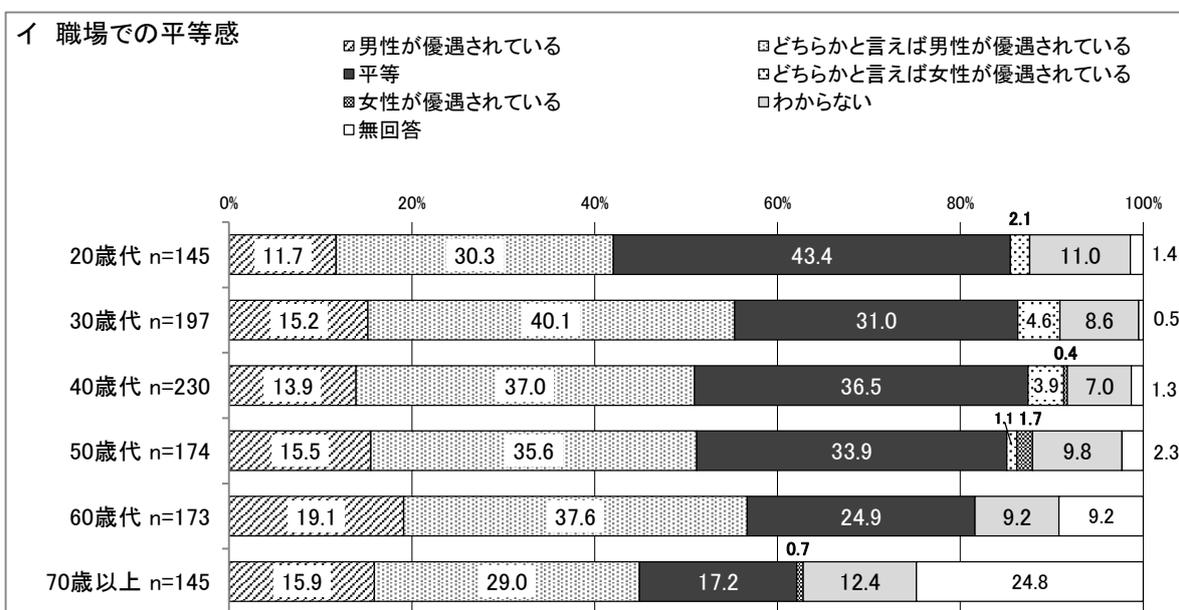
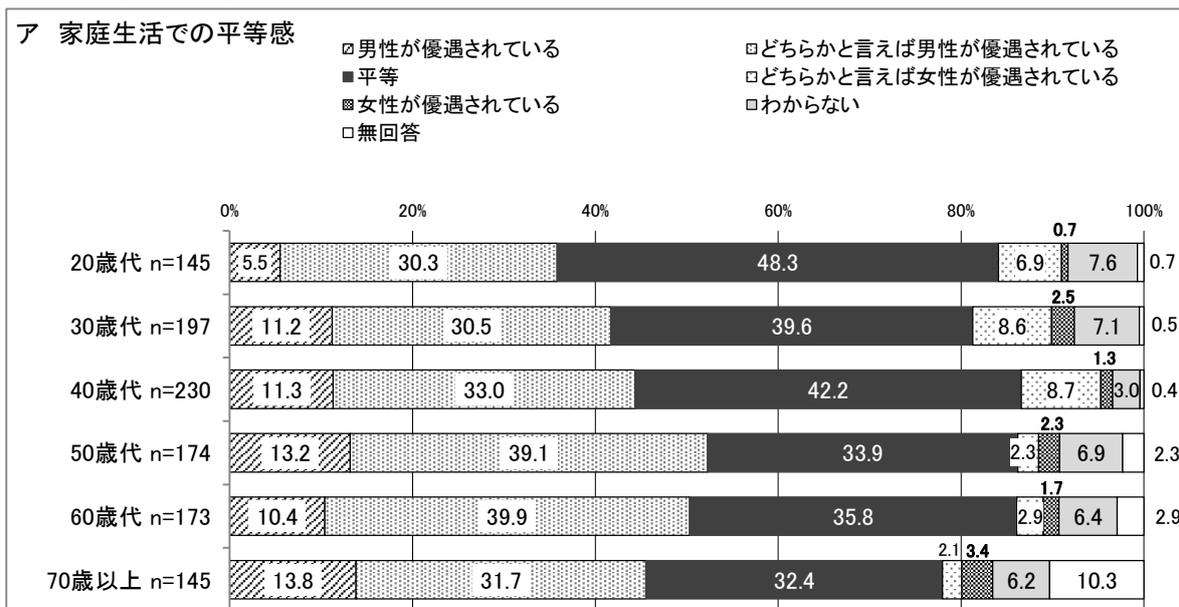


ク 社会全体での平等感

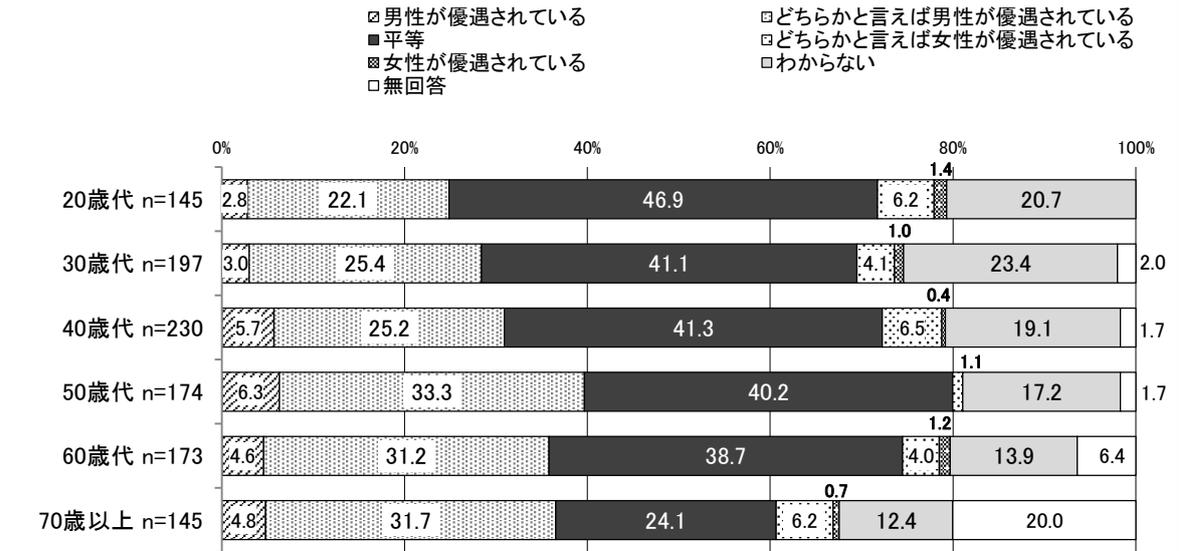
- ▨ 男性が優遇されている
- 平等
- ▨ 女性が優遇されている
- 無回答
- ▨ どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



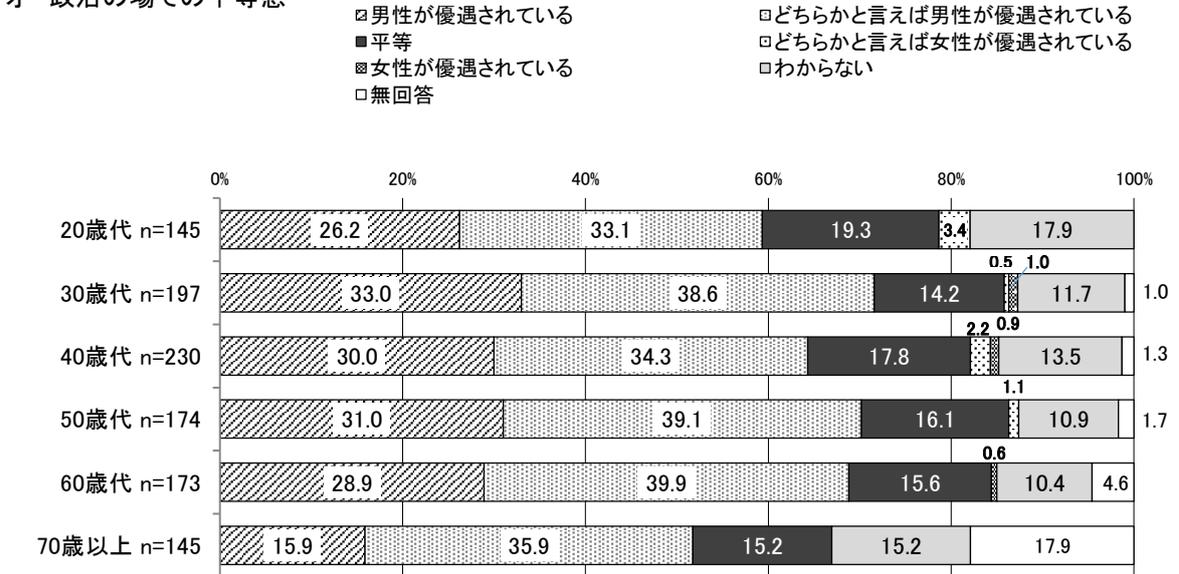
3. 年代別・男女平等に関する意識



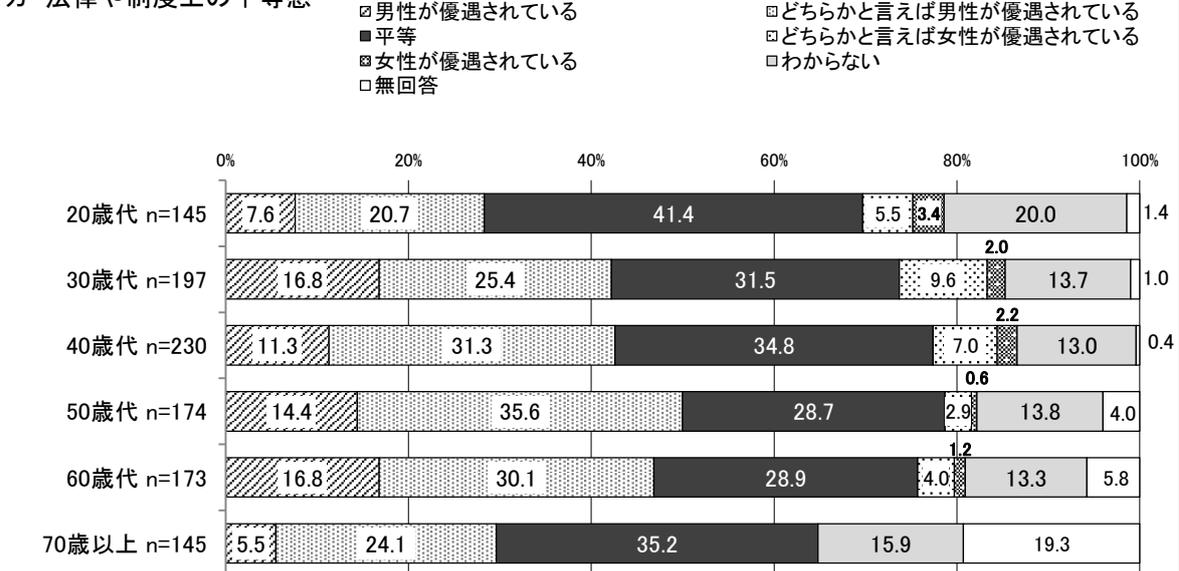
エ 地域活動・社会活動の場での平等感



オ 政治の場での平等感

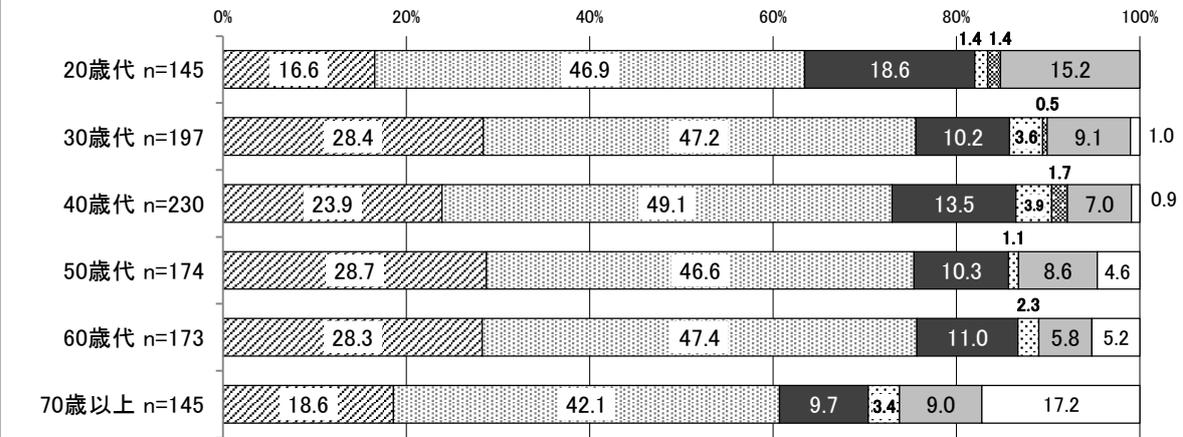


カ 法律や制度上の平等感



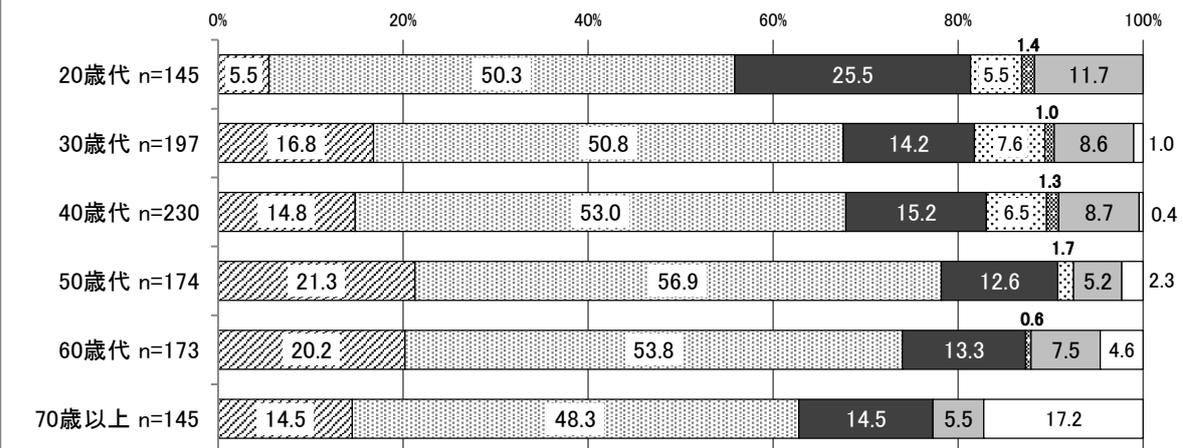
キ 社会通念・慣習・しきたりでの平等感

- ▨ 男性が優遇されている
- 平等
- ▨ 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



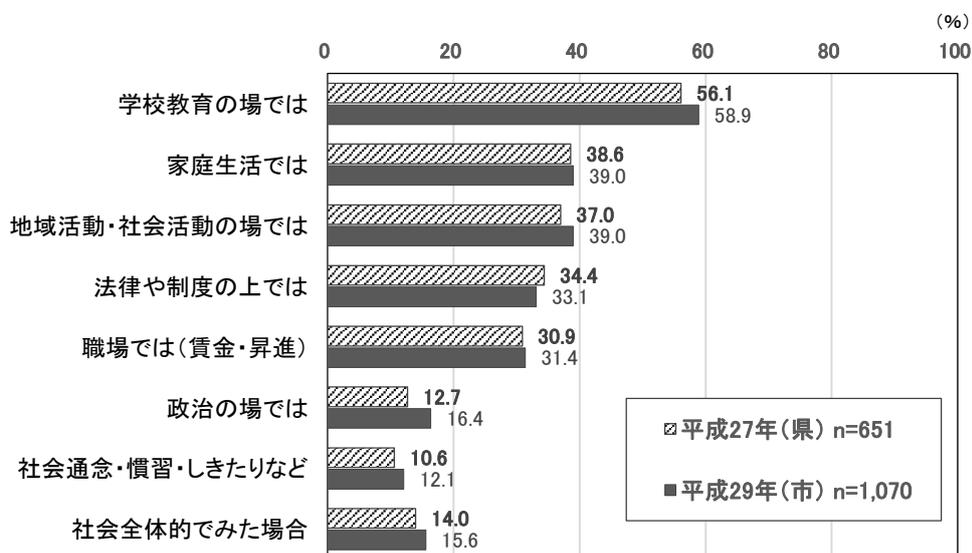
ク 社会全体での平等感

- ▨ 男性が優遇されている
- 平等
- ▨ 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



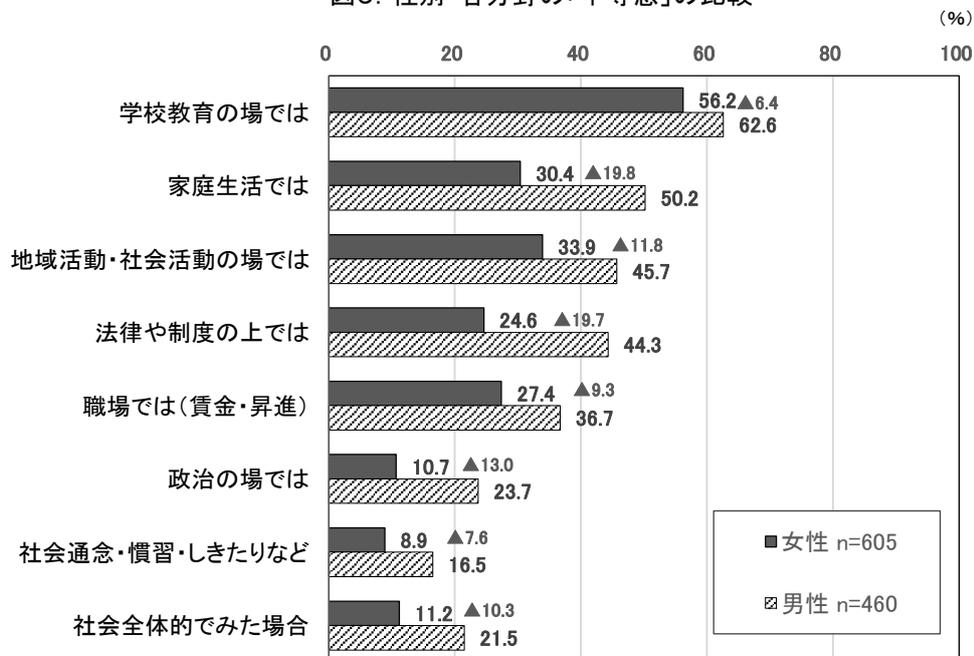
しかし、平成 27 年に沖縄県が実施した『男女共同参画社会づくりに関する県民意識調査』結果（以下、「県調査結果」という。）と比較すると、微増ではあるが平等感^①は全体的に改善傾向がみられる。

図4. 各分野の「平等感」:今回調査と県調査結果(平成27年)との比較



男女の地位の平等感について、性別でみると、全分野で女性の平等感^①は男性に比べて低く、男女で意識の違いが見られる。特に「家庭生活」と「法律や制度上」で平等感の開きが大きい。

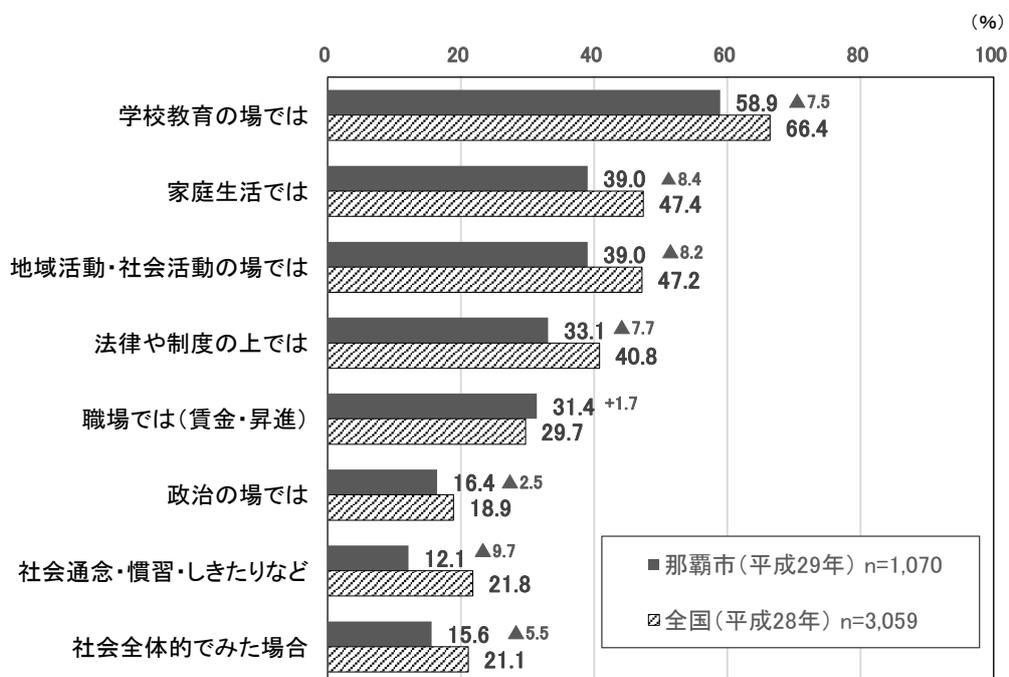
図5. 性別・各分野の「平等感」の比較



これを、内閣府が実施した『平成 28 年度男女共同参画社会に関する世論調査』（以下、「全国調査」という。）と比較すると、ほとんどの分野で全国調査に比べて那覇市の平等感はやや低い。

平等感の差が最も大きいのは、「社会通念・慣習・しきたりなど」で全国調査に比べて 9.7 ポイント低く、次に「家庭生活」が 8.4 ポイント低い。

図6. 各分野の「平等感」の那覇市と全国調査との比較



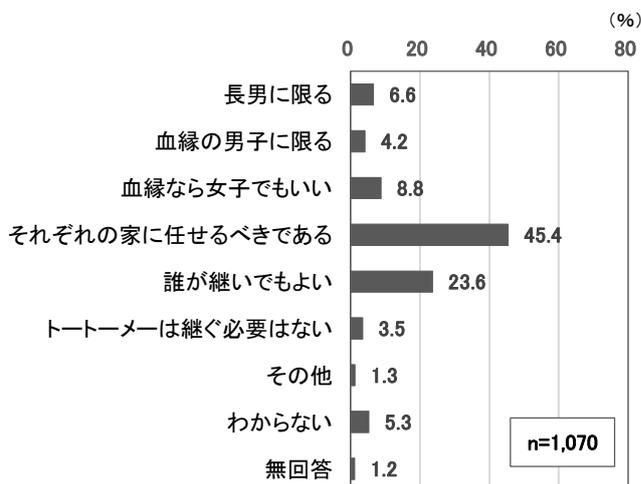
問2. 「トートーメー（位牌）は長男が継ぐべきだ」という考えがあります。あなたのお考えに近いものは何ですか（○は1つだけ）

トートーメー（位牌）を継ぐべき人について自身の考え方でみると、「それぞれの家に任せるべき」が45.4%で最も多く、次に「誰が継いでもよい」が23.6%で続き、「長男に限る」は6.6%に留まる。

単位：人（%）

No.	位牌を継ぐべきと考える人	件数	構成比
1	長男に限る	71	6.6
2	血縁の男子に限る	45	4.2
3	血縁なら女子でもいい	94	8.8
4	それぞれの家に任せるべきである	486	45.4
5	誰が継いでもよい	253	23.6
6	トートーメーは継ぐ必要はない	37	3.5
7	その他	14	1.3
8	わからない	57	5.3
	無回答	13	1.2
	合計	1,070	99.9

図7. 位牌を継ぐべきと考える人(自身の考え)



これを、性別でみると、男性では「長男に限る」(7.8%)、「血縁の男子に限る」(6.1%)を合わせると13.9%が位牌を継ぐべき人は男子に限るとしているのに対し、女性では8.4%に留まり、男性では長男および男子が継ぐべきとする割合が高い。

また、「それぞれの家に任せるべき」については男性で39.3%に対し、女性は50.1%で女性の方が高い。

図8. 性別・位牌を継ぐべきと考える人(自身の考え)

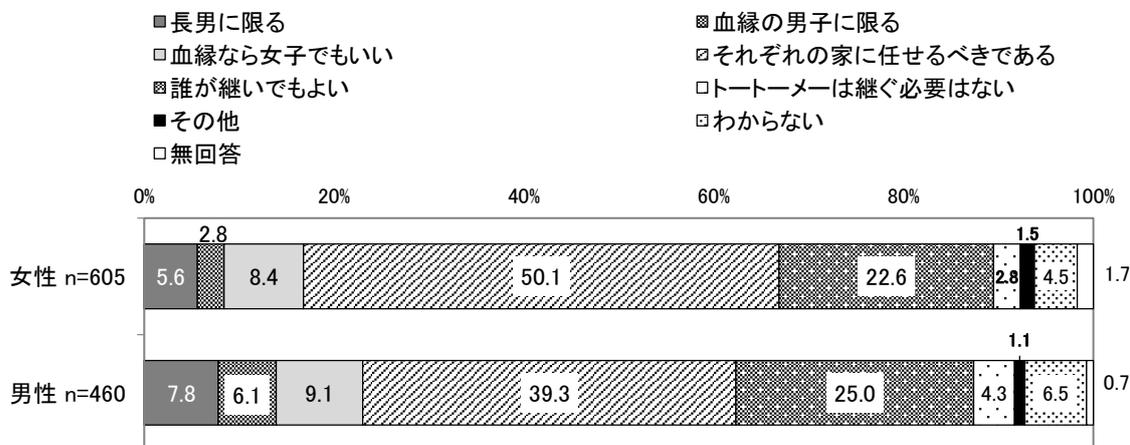
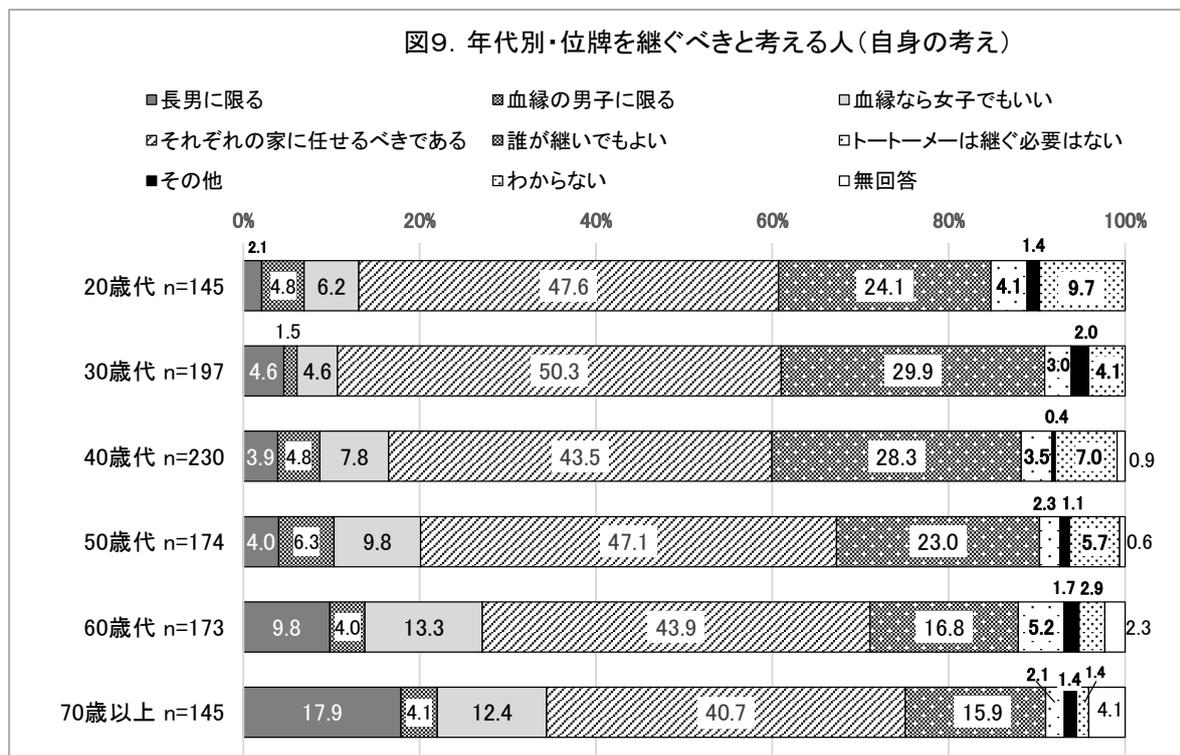


図9. 年代別・位牌を継ぐべきと考える人(自身の考え)



問2-1. あなた自身や親族では、実際にどのようにトートーメーが継がれていますか (○は1つだけ)

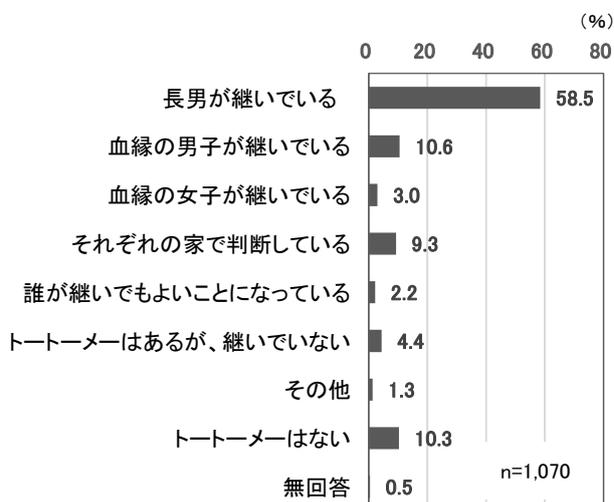
「トートーメー (位牌)」が実際にどのように継がれているかをみると、「長男が継いでいる」が 58.5%で最も多く、次に「血縁の男子が継いでいる」が 10.6%で続き、男子が継いでいるのは、全体の約7割を占める。

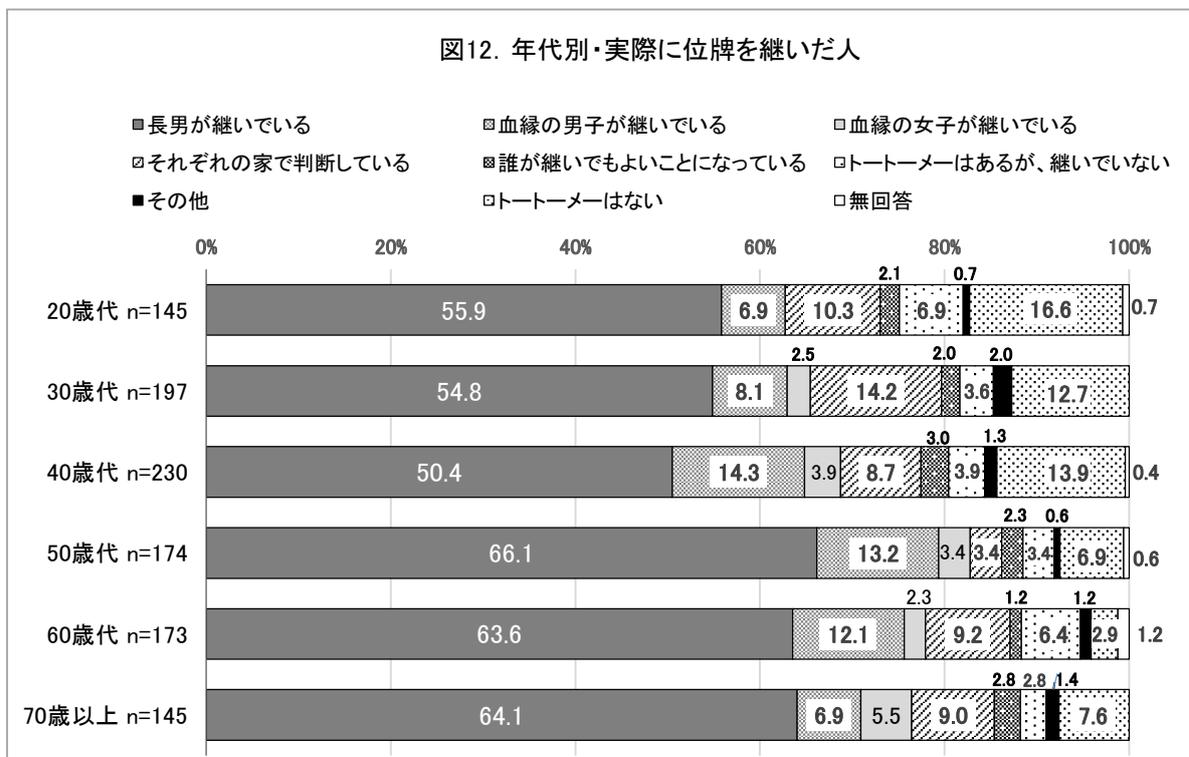
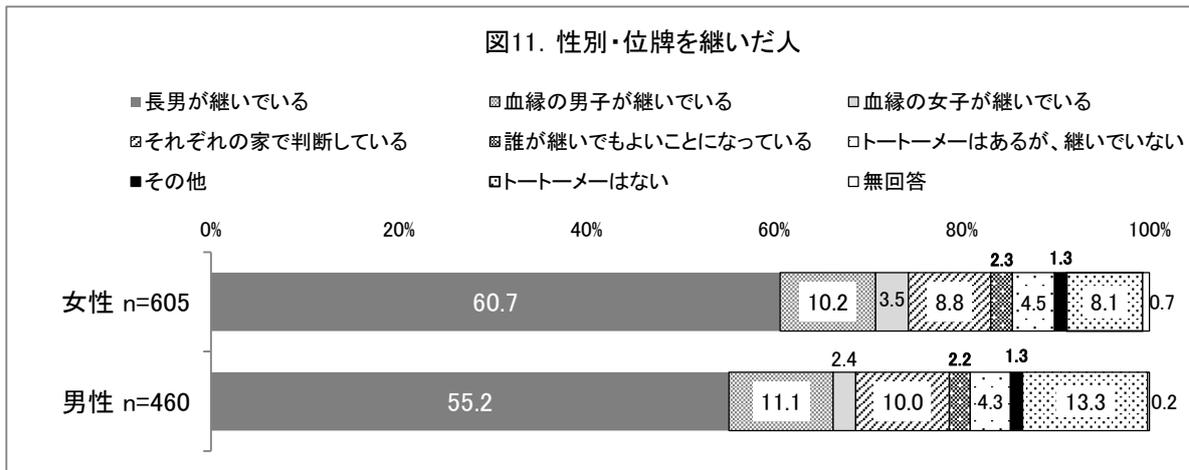
前述の自身の考え方では、「長男に限る」が 6.6%、「血縁の男子に限る」が 4.2%で男子に限るとしたのは全体の 10.8%であり、意識と実際の位牌の継がれ方に大きな乖離が見られる。

単位: 人 (%)

No.	実際に位牌を継いだ人	件数	構成比
1	長男が継いでいる	626	58.5
2	血縁の男子が継いでいる	113	10.6
3	血縁の女子が継いでいる	32	3.0
4	それぞれの家で判断している	99	9.3
5	誰が継いでもよいことになっている	24	2.2
6	トートーメーはあるが、継いでいない	47	4.4
7	その他	14	1.3
8	トートーメーはない	110	10.3
	無回答	5	0.5
	合計	1,070	100.1

図10. 位牌を継いだ人





これを平成27年の県調査結果と比較すると、「自身が考える『長男に限る』の割合」と「実際に長男が継承している」の割合はともに低下しており、「トートーメーの継承」についても、男性・長男優遇の要因の一つとなっている慣習やしきたりが、徐々に見直されつつある。

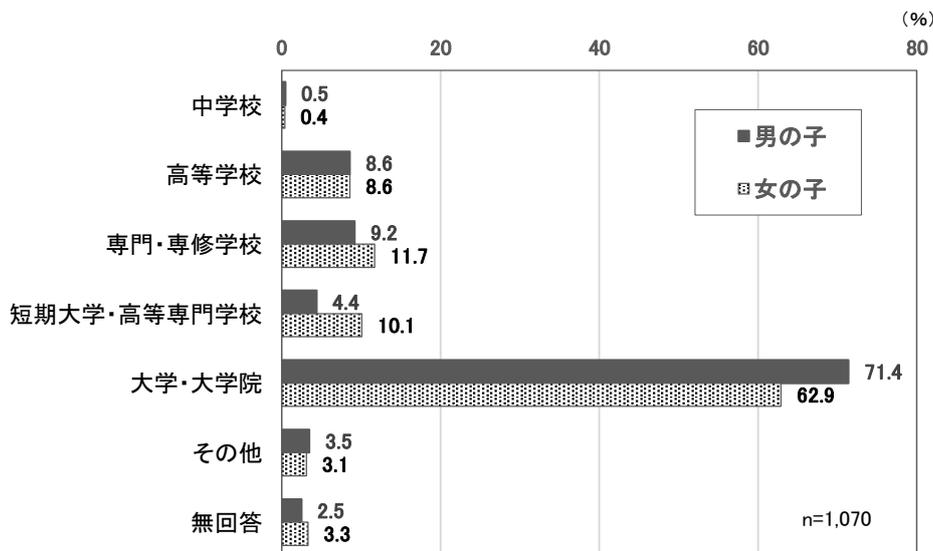
県調査結果と那覇市調査の比較	沖縄県調査H27年 n=651	那覇市調査H29年 n=1,070
自身が考える「長男に限る」の割合	10.4%	6.6%
実際に長男が継承している割合	66.4%	58.5%

問3. 【子どもがいる・いないに関わらず、全員にお聞きします】

男の子・女の子に受けさせたい教育程度はどれですか。それぞれ1つずつ選んでください。

子どもに受けさせたい教育程度は、男の子で「大学・大学院」が71.4%に対し、女の子は62.9%と、8.5ポイントの差はあるものの、「県調査結果」では男の子が74.2%、女の子が65.0%と9.2ポイントの差があり、若干ではあるが差が縮まっている。

図13. 男の子・女の子に受けさせたい教育程度



男の子・女の子に受けさせたい教育程度

上段/件数 下段/構成比(%)

		中学校	高等学校	専門・専修学校	短期大学・高等専門学校	大学・大学院	その他	無回答	合計
		男の子	件数	5	92	98	47	764	37
	構成比	0.5	8.6	9.2	4.4	71.4	3.5	2.5	100.1
女の子	件数	4	92	125	108	673	33	35	1,070
	構成比	0.4	8.6	11.7	10.1	62.9	3.1	3.3	100.1

これを性別でみると、「大学・大学院」の教育程度を受けさせたいとするのは、男の子の場合、男性の70.7%に対し、女性は72.2%で女性の方がやや高い。女の子については、男性が63.9%、女性では62.3%で、ほぼ同率となっている。

図14. 性別・男の子に受けさせたい教育程度

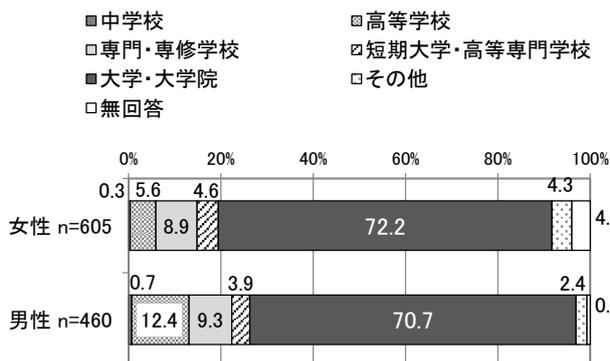


図15. 性別・女の子に受けさせたい教育程度

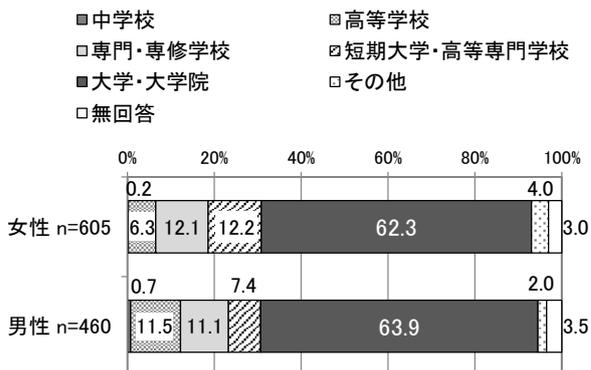


図16. 年代別・男の子の教育程度

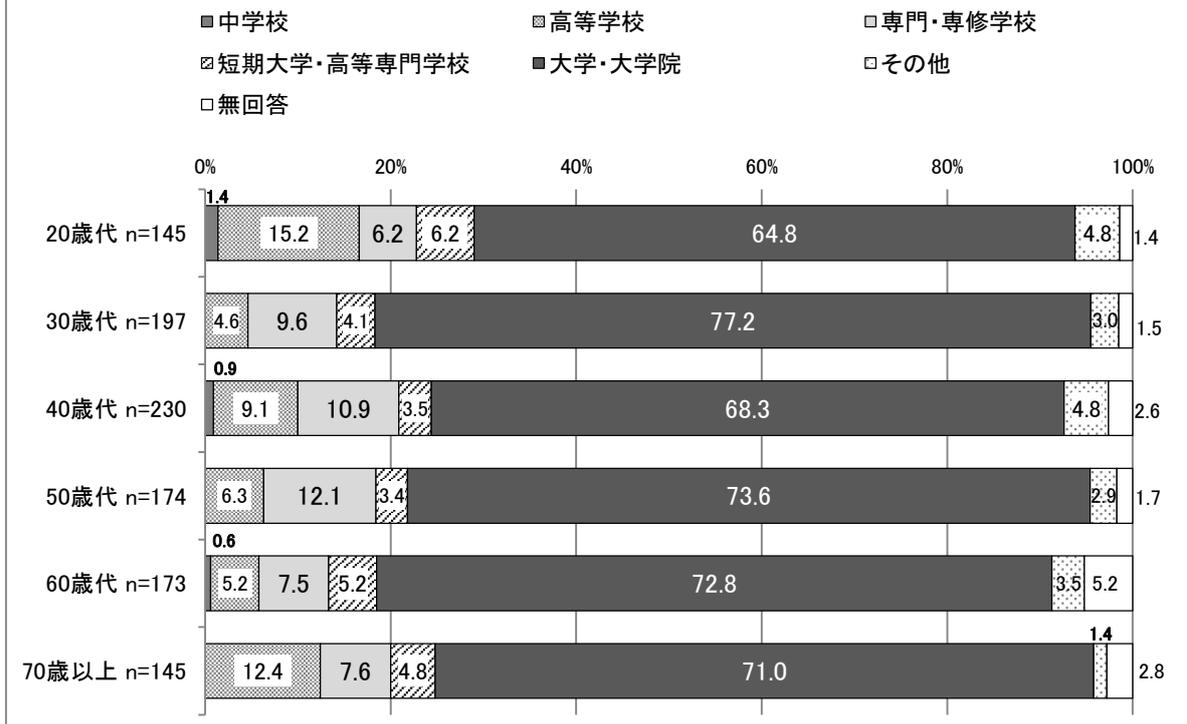
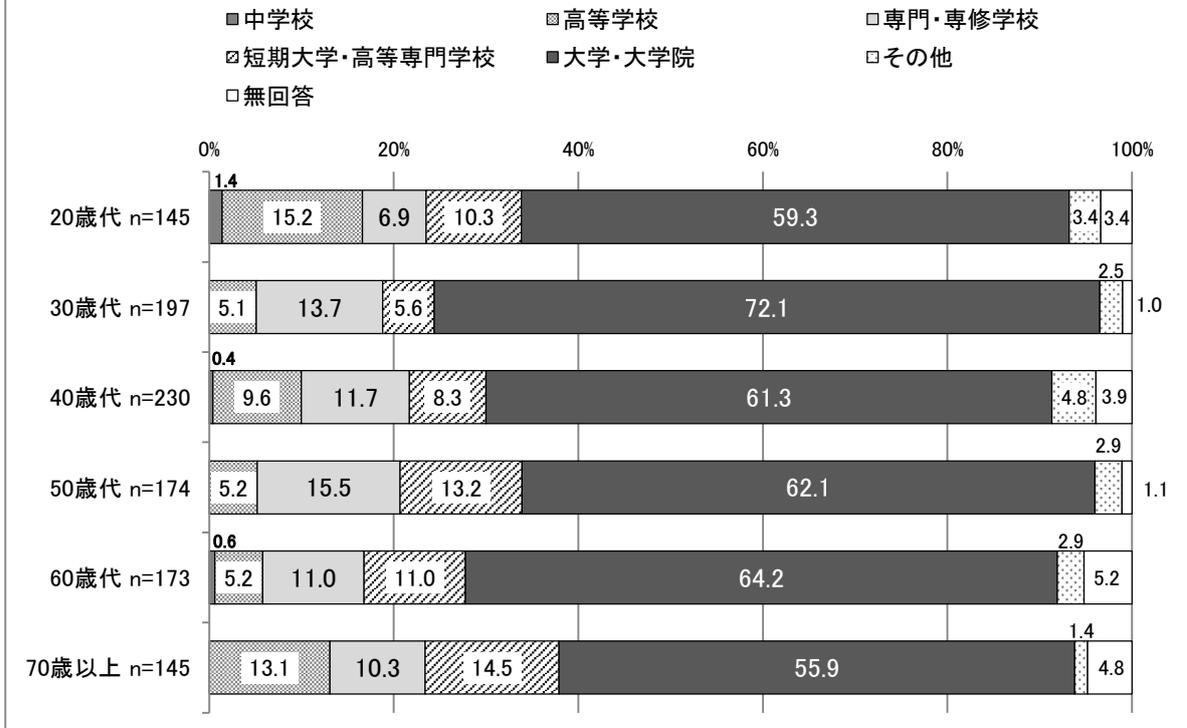


図17. 年代別・女の子の教育程度



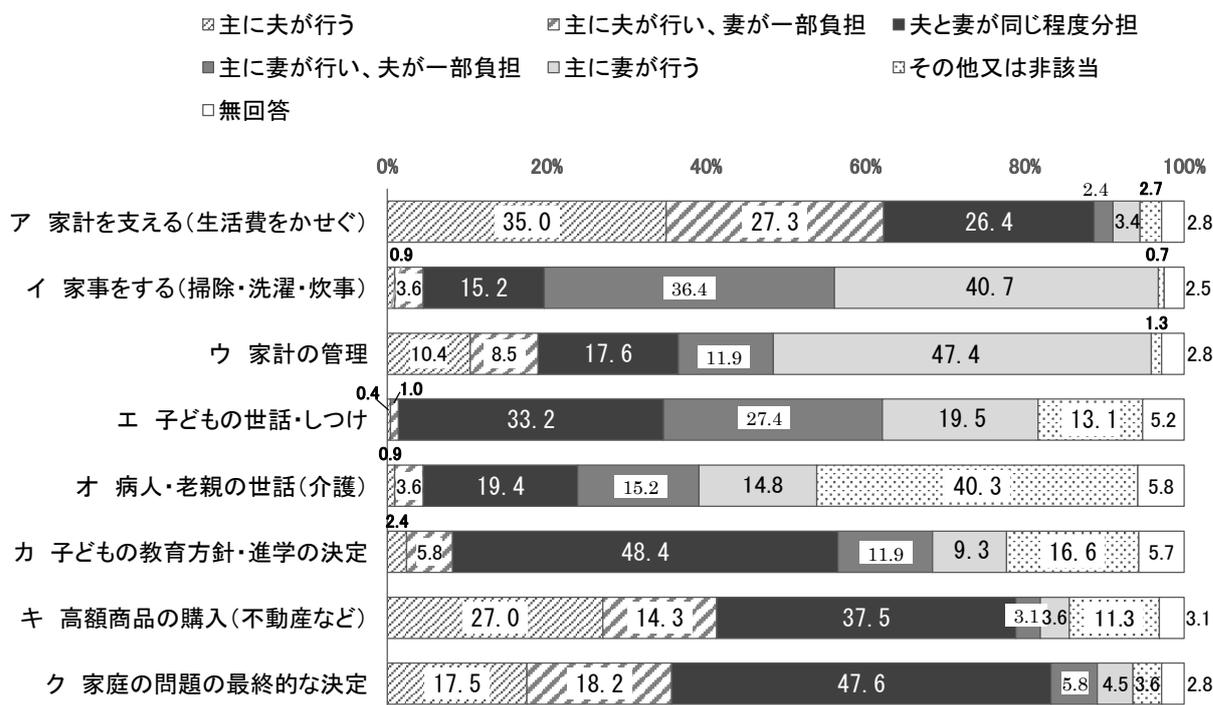
【現在、配偶者（パートナー）のいる方にお聞きします】

問4. あなたの家庭では、ア～クの事柄について、主にどなたが行っていますか。
ア～クについて、それぞれあてはまるものを1つずつ選んでください。

家庭生活における夫と妻の役割についてみると、「夫と妻が同じ程度分担」は『子どもの教育方針・進学の設定』が48.4%で最も高く、次に『家庭の問題の最終的な決定』が47.6%で続く。一方、『家事をする（掃除・洗濯・炊事）』は15.2%と最も低く、主に妻が行う割合が77.1%と高い。

なお、「夫と妻が同じ程度分担」とする割合は各項目で「県調査結果」と比べて高くなっており、家庭生活における男女の平等感は改善傾向がみられる。

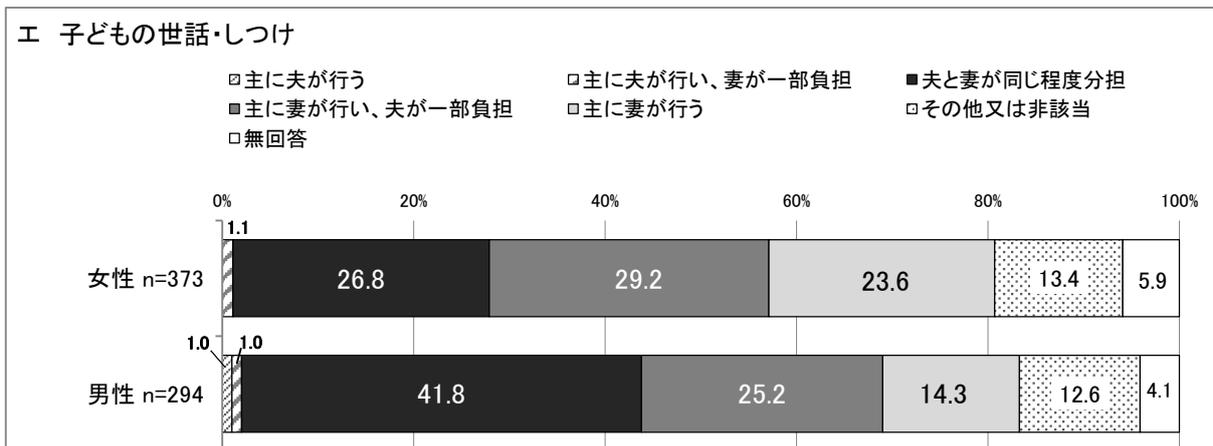
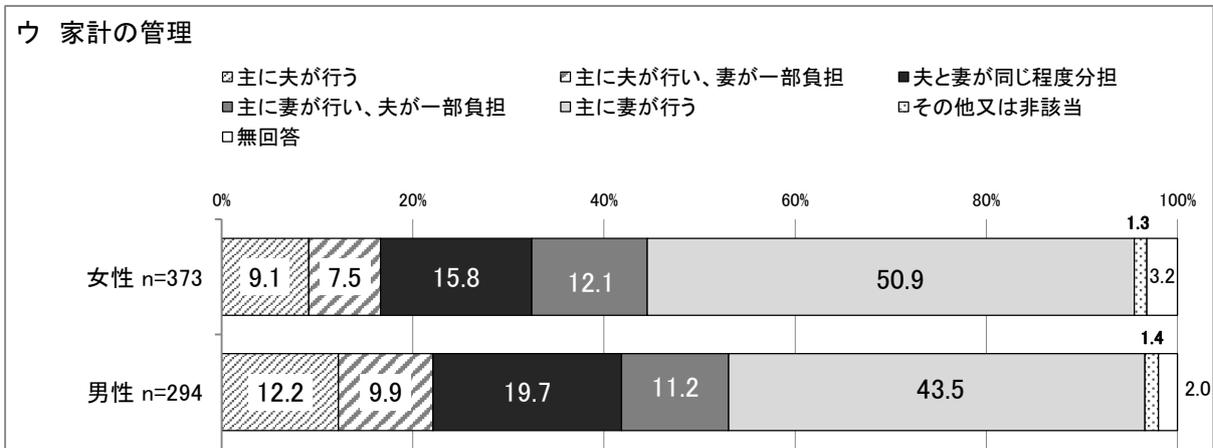
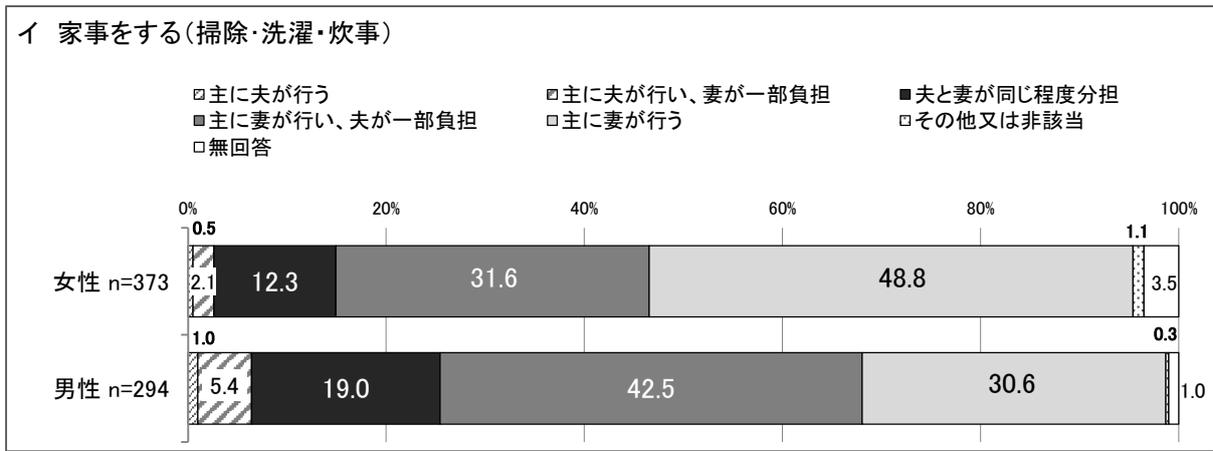
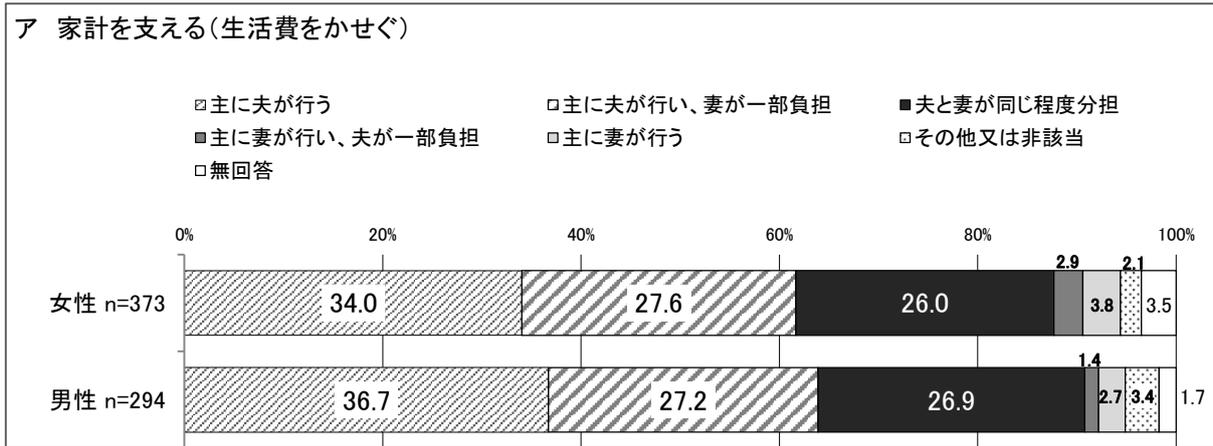
図18. 家庭の事柄について、主に誰がやっているか



上段/件数 下段/構成比(%)

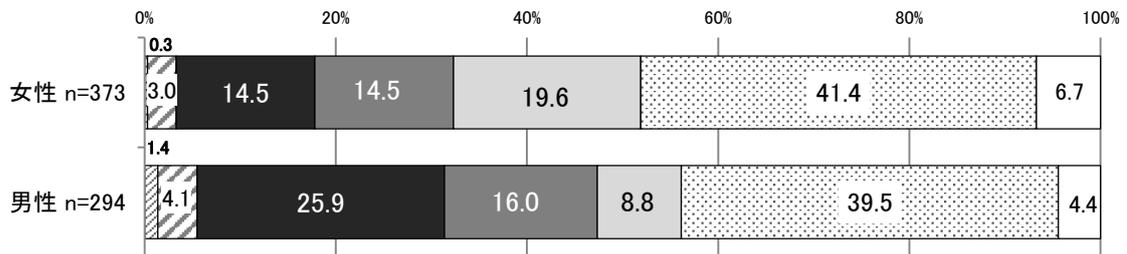
	主に夫が行う	主に夫が行い、妻が一部負担	夫と妻が同じ程度分担	主に妻が行い、夫が一部負担	主に妻が行う	その他又は非該当	無回答
ア 家計を支える(生活費をかせぐ)	235	183	177	16	23	18	19
	35.0	27.3	26.4	2.4	3.4	2.7	2.8
イ 家事をする(掃除・洗濯・炊事)	6	24	102	244	273	5	17
	0.9	3.6	15.2	36.4	40.7	0.7	2.5
ウ 家計の管理	70	57	118	80	318	9	19
	10.4	8.5	17.6	11.9	47.4	1.3	2.8
エ 子どもの世話・しつけ	3	7	223	184	131	88	35
	0.4	1.0	33.2	27.4	19.5	13.1	5.2
オ 病人・老親の世話(介護)	6	24	130	102	99	270	39
	0.9	3.6	19.4	15.2	14.8	40.3	5.8
カ 子どもの教育方針・進学の設定	16	39	324	80	62	111	38
	2.4	5.8	48.4	11.9	9.3	16.6	5.7
キ 高額商品の購入(不動産など)	181	96	251	21	24	76	21
	27.0	14.3	37.5	3.1	3.6	11.3	3.1
ク 家庭の問題の最終的な決定	117	122	319	39	30	24	19
	17.5	18.2	47.6	5.8	4.5	3.6	2.8

図 19. 性別・家庭の事柄について、主に誰がやっているか



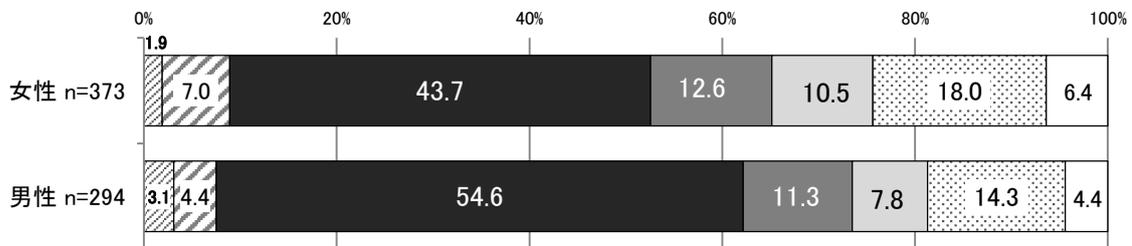
オ 病人・老親の世話(介護)

- 主に夫が行う
- 主に妻が行い、夫が一部負担
- 夫と妻が同じ程度分担
- 主に妻が行う
- 主に夫が行い、妻が一部負担
- その他又は非該当
- 無回答



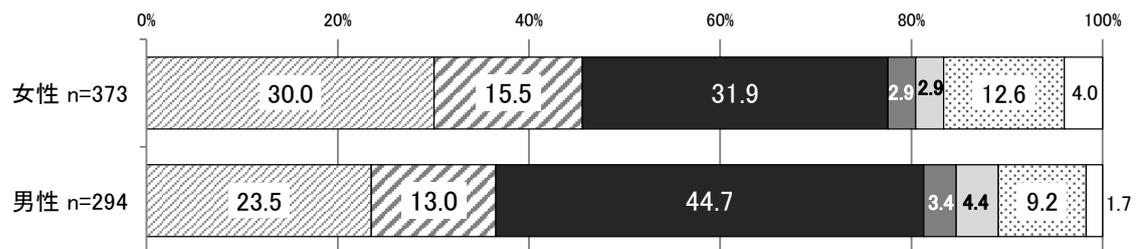
カ 子どもの教育方針・進学決定

- 主に夫が行う
- 主に妻が行い、夫が一部負担
- 夫と妻が同じ程度分担
- 主に妻が行う
- 主に夫が行い、妻が一部負担
- その他又は非該当
- 無回答



キ 高額商品の購入(不動産など)

- 主に夫が行う
- 主に妻が行い、夫が一部負担
- 夫と妻が同じ程度分担
- 主に妻が行う
- 主に夫が行い、妻が一部負担
- その他又は非該当
- 無回答



ク 家庭の問題の最終的な決定

- 主に夫が行う
- 主に妻が行い、夫が一部負担
- 夫と妻が同じ程度分担
- 主に妻が行う
- 主に夫が行い、妻が一部負担
- その他又は非該当
- 無回答

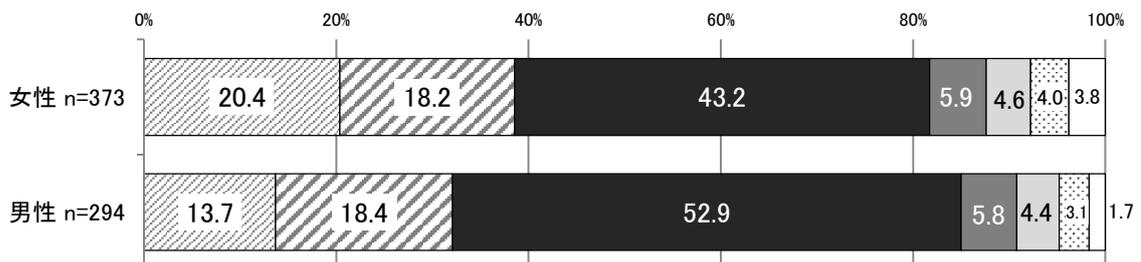
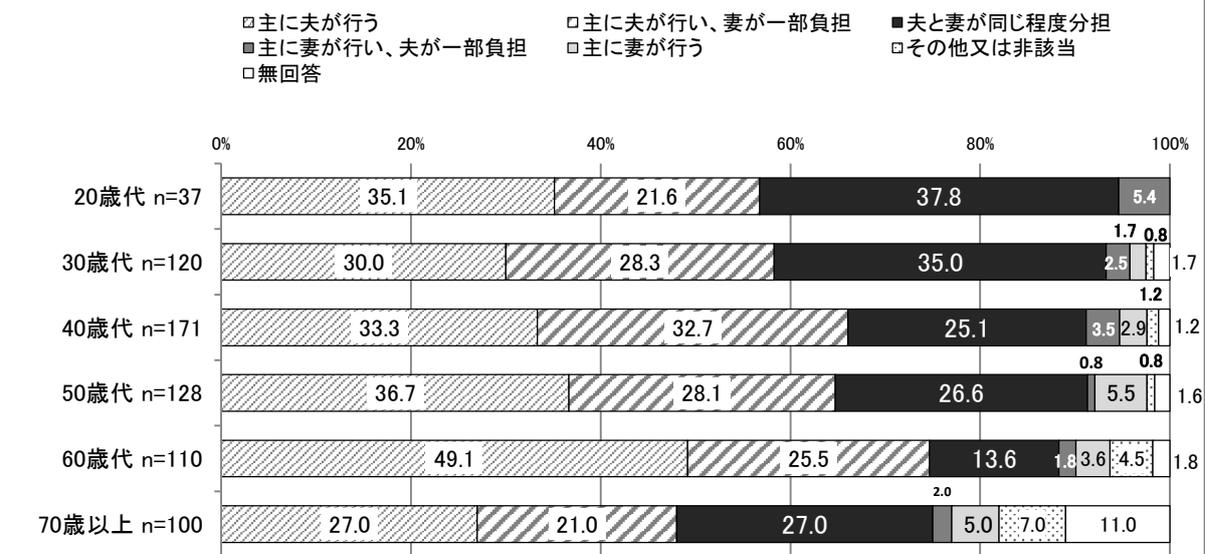
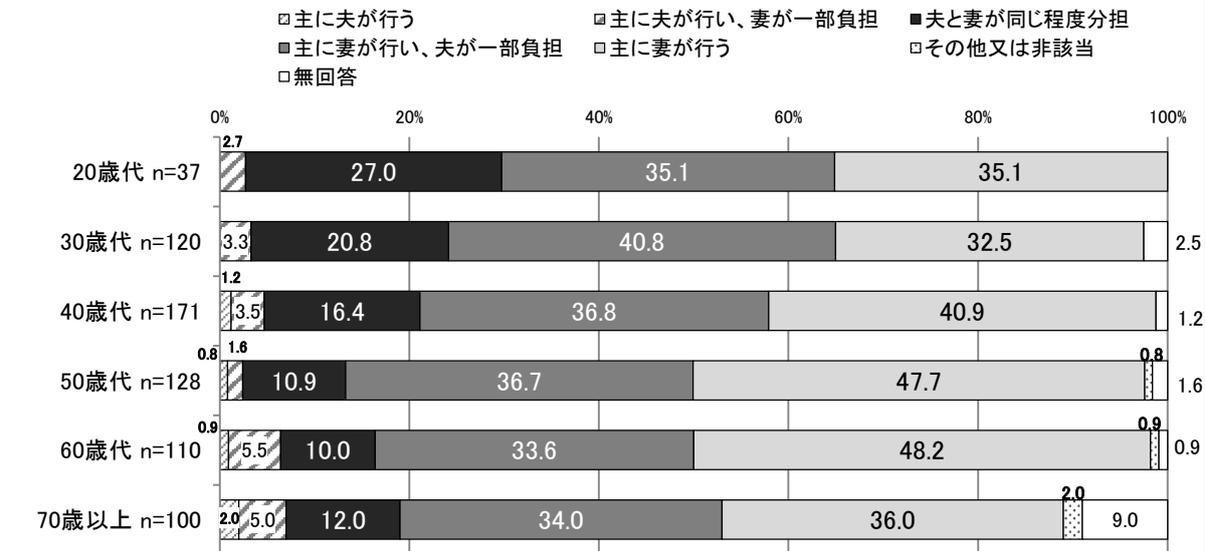


図 20.年代別・家庭の事柄について、主に誰がやっているか

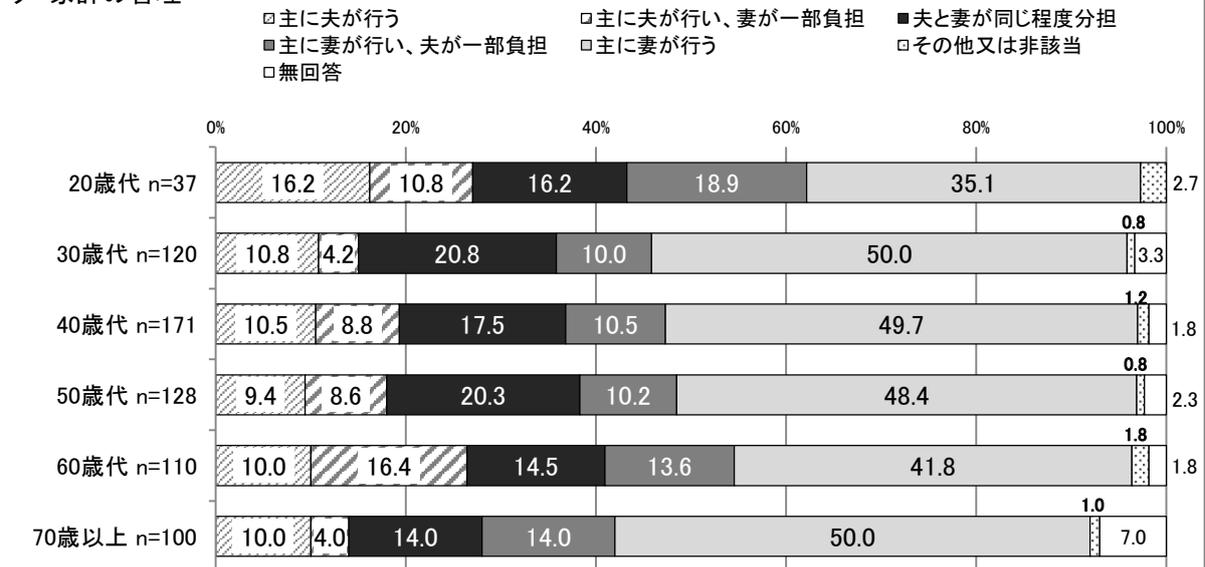
ア 家計を支える(生活費をかせぐ)



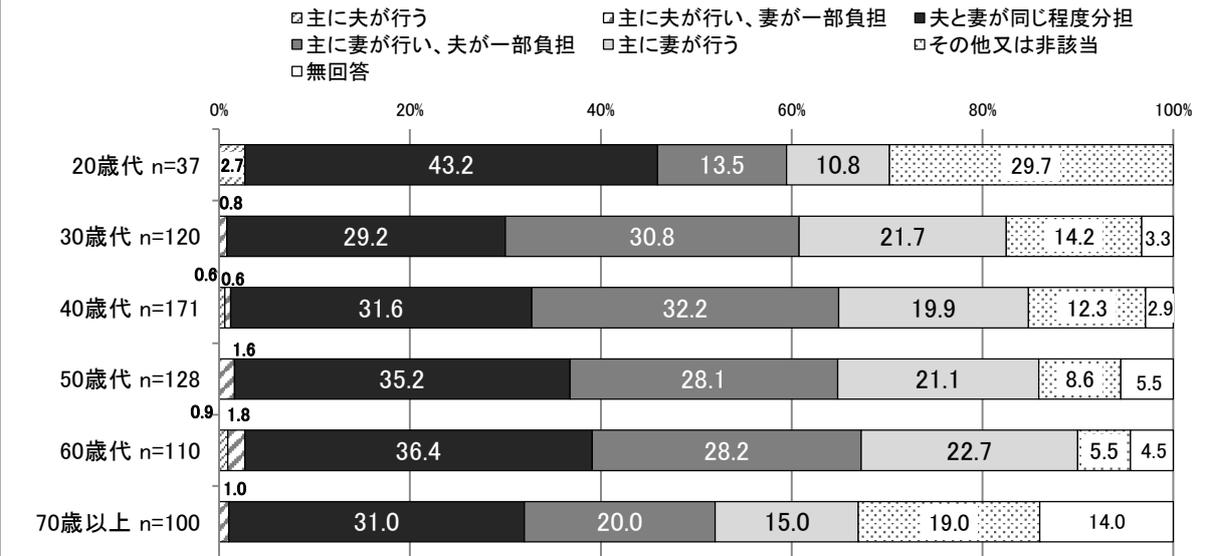
イ 家事をする(掃除・洗濯・炊事)



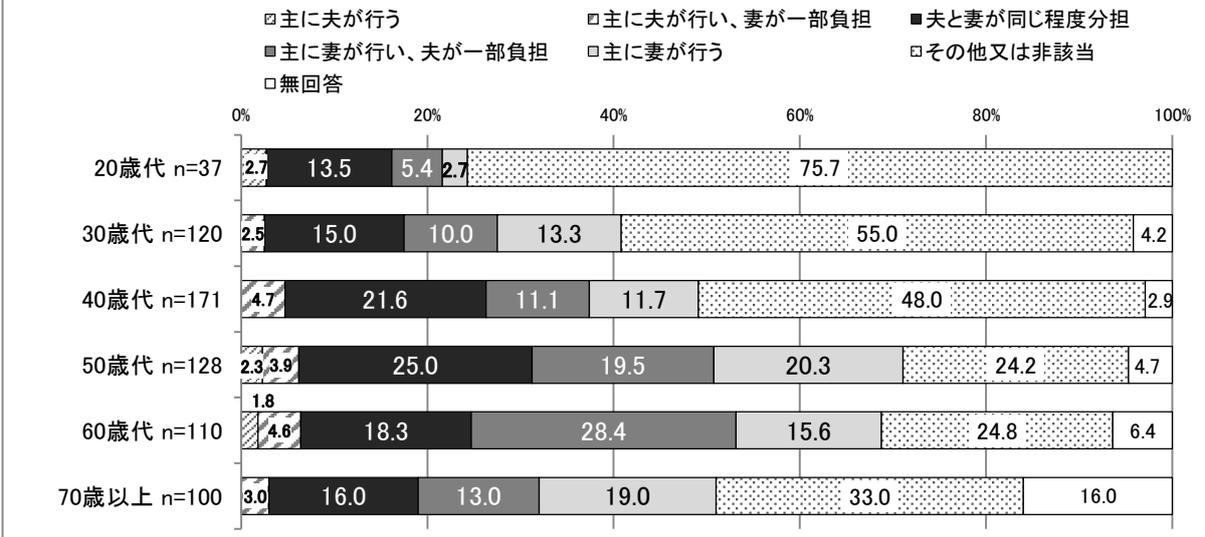
ウ 家計の管理



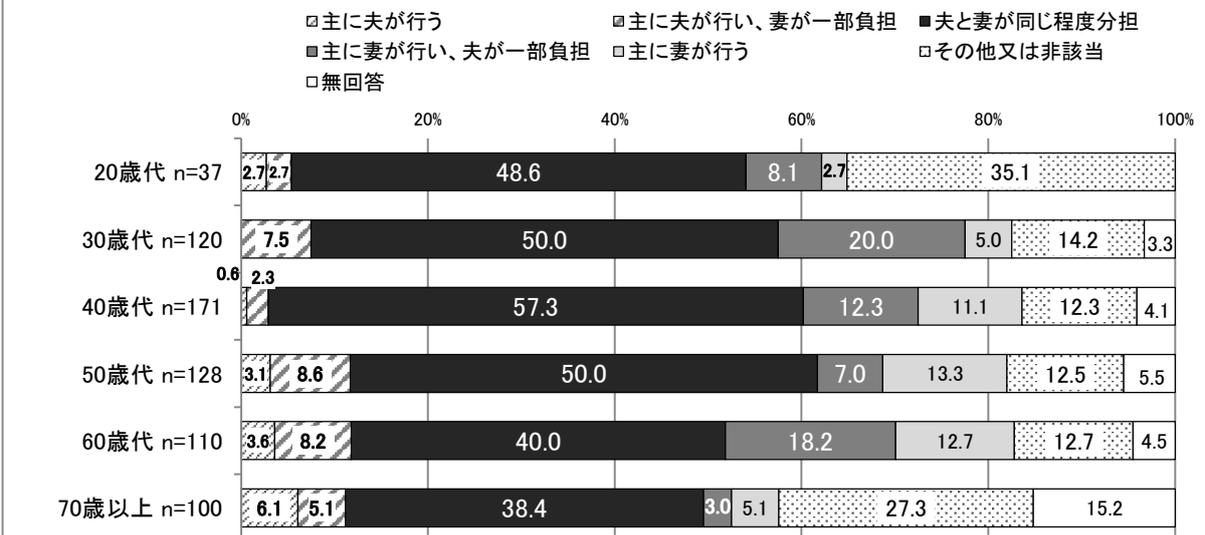
エ 子どもの世話・しつけ



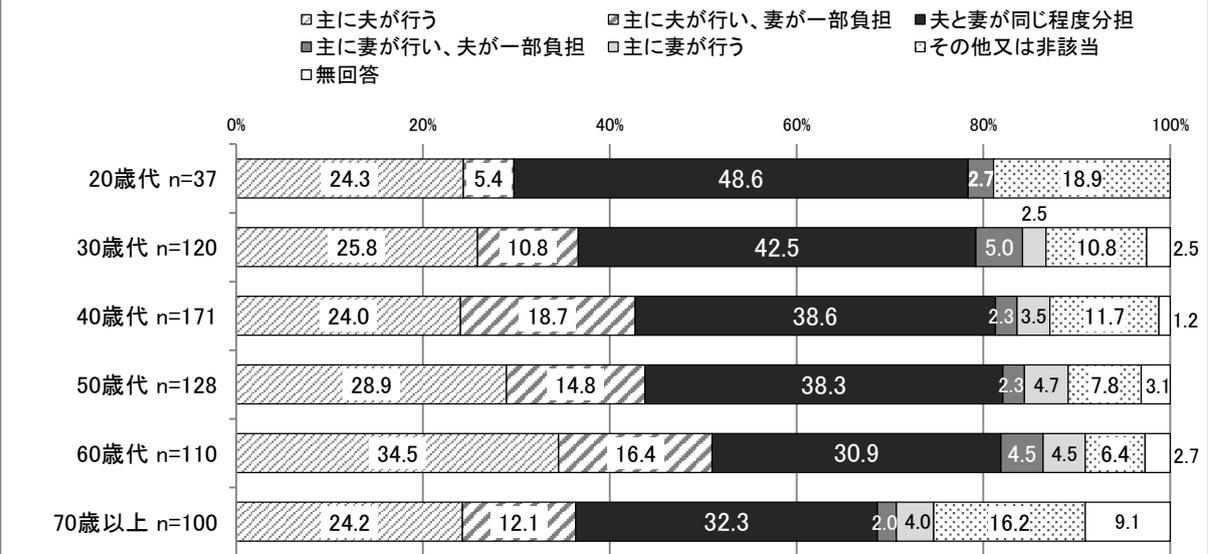
オ 病人・老親の世話(介護)



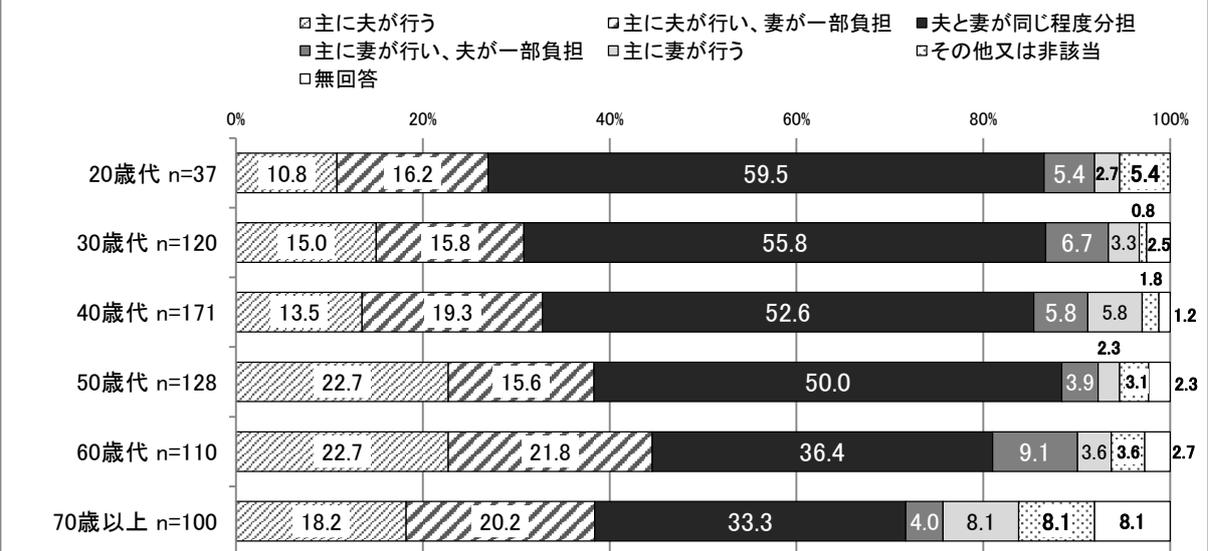
カ 子どもの教育方針・進学の方針



キ 高額商品の購入(不動産など)



ク 家庭の問題の最終的な決定



問4-(2) あなたは、問4のア～クの事柄について、配偶者（パートナー）に、もっとやってもらいたいことは何ですか。ア～クの中から3つまで選び、記入してください。

家庭生活において、配偶者（パートナー）にやってもらいたいことを性別で見ると、女性では、『家事をする（掃除・洗濯・炊事）』が50.1%で最も高く、以下『子どもの世話・しつけ』31.4%、『家計を支える（生活費をかせぐ）』24.9%となっている。

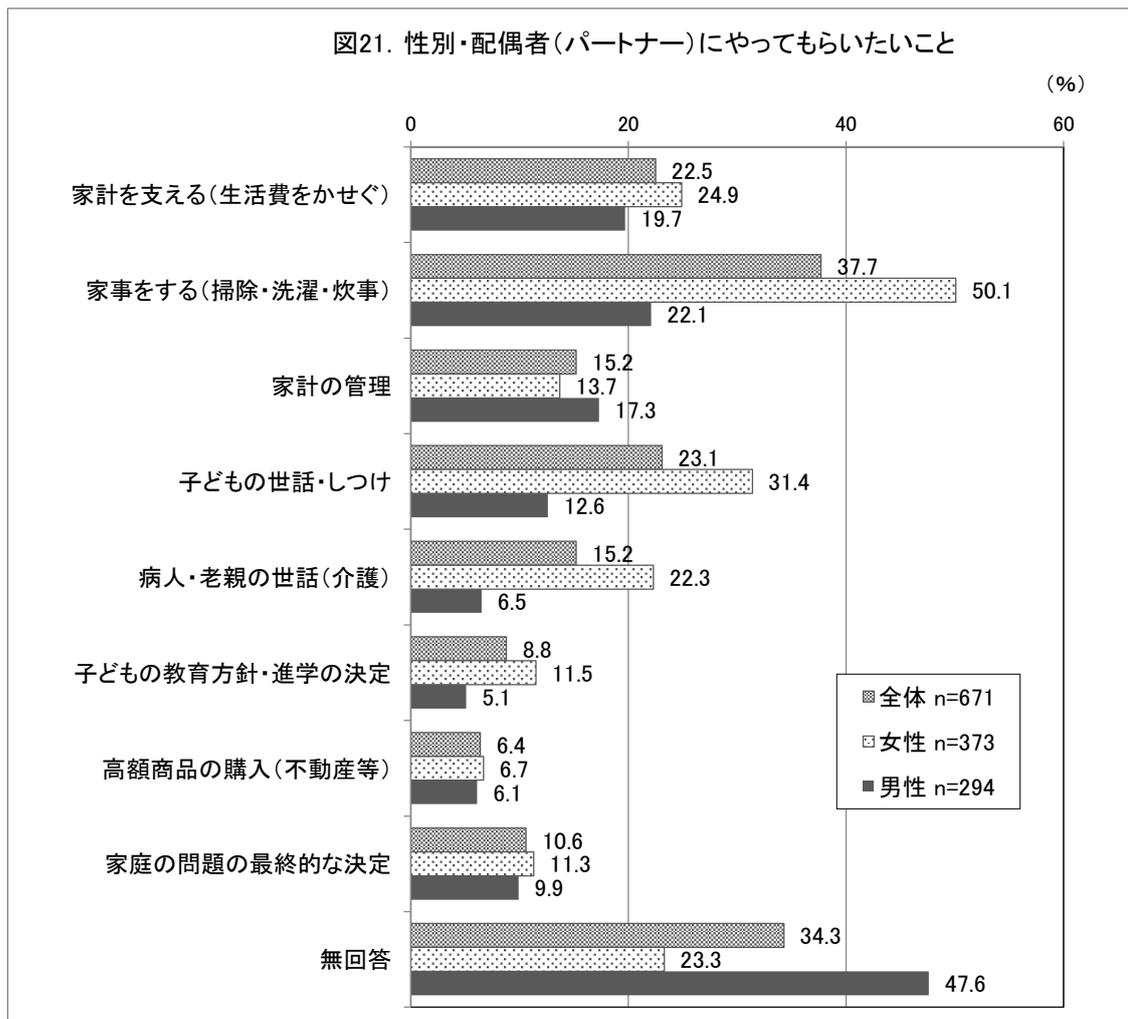
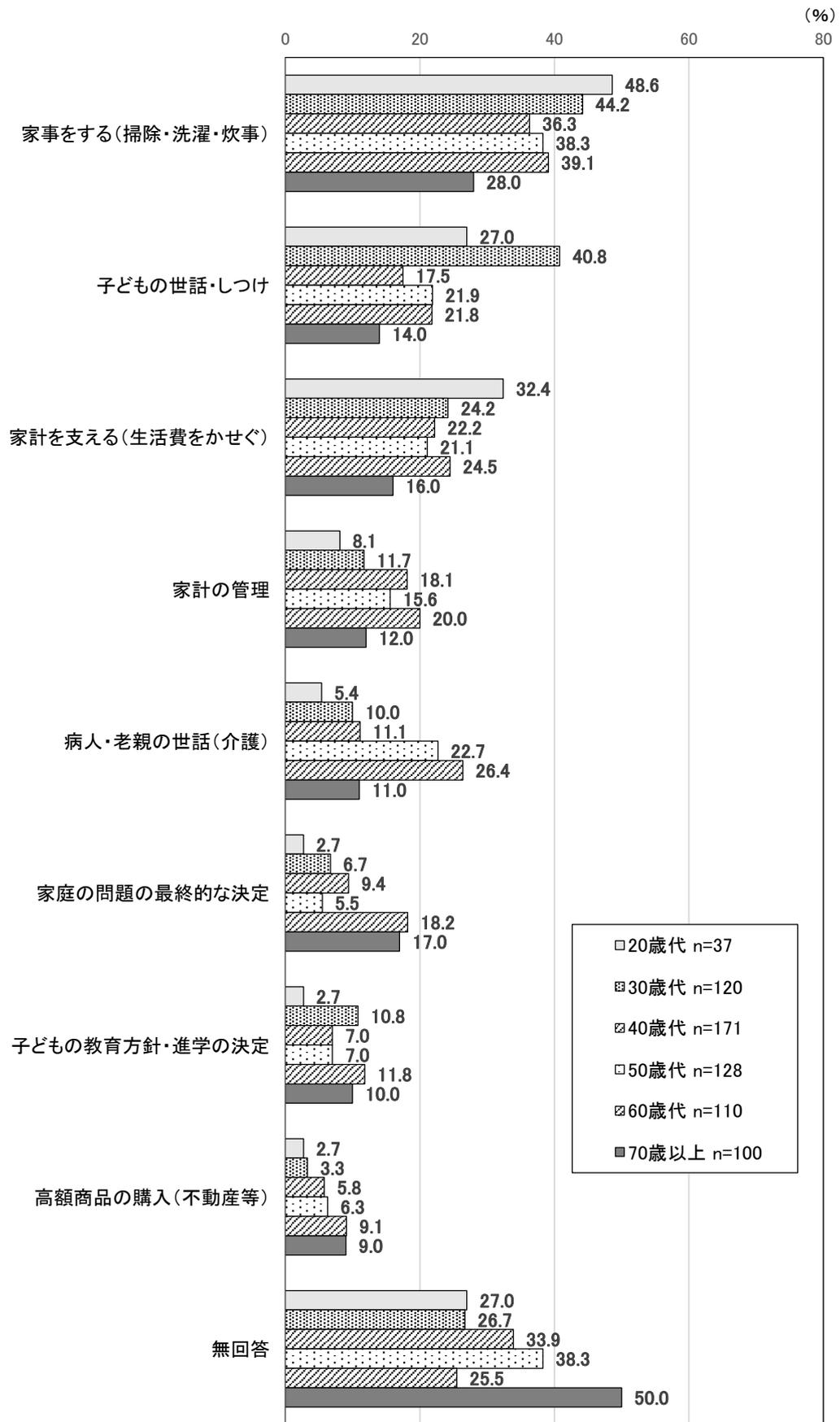


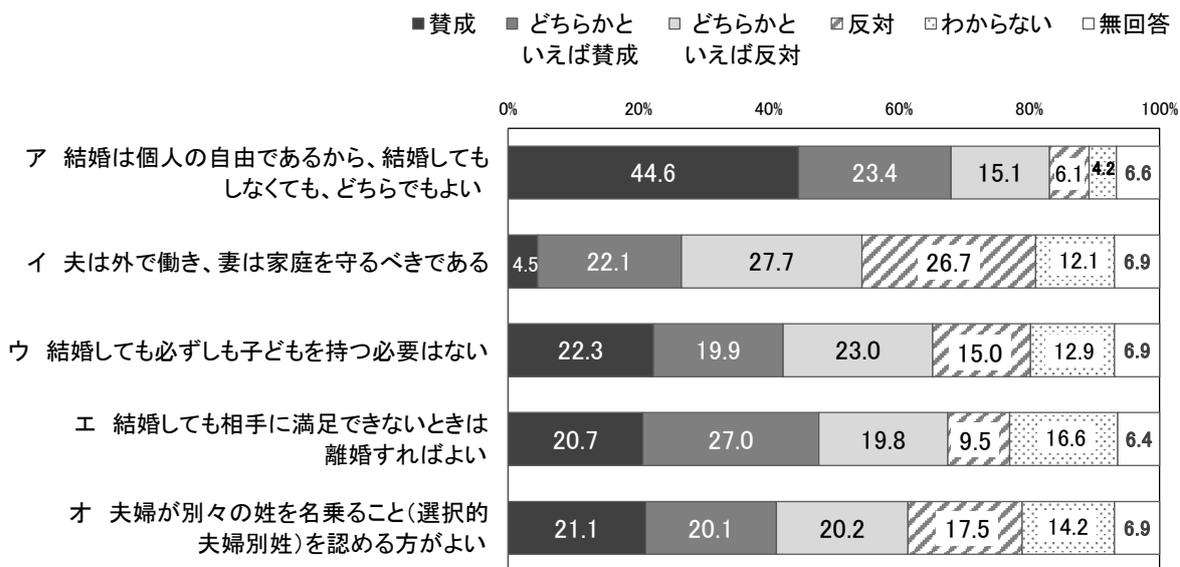
図22. 年代別・配偶者(パートナー)にやってもらいたいこと



問5 結婚や家庭生活に関するア～オの事項について、あなたのお考えに近いものを1つずつ選んでください。

結婚や家庭生活については、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい」への賛成割合（賛成+どちらかといえば賛成）が68.0%で特に高く、以下「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」47.7%、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」42.2%と続く。

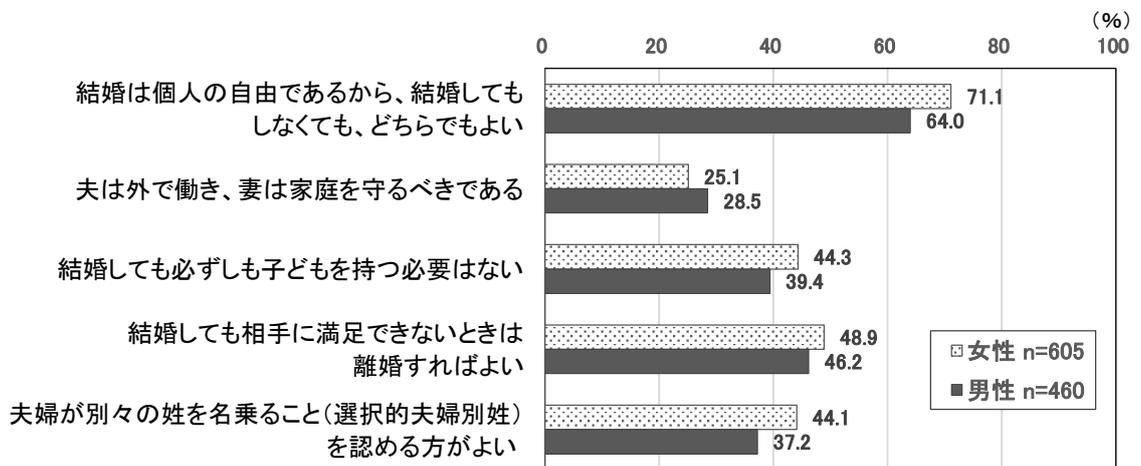
図23. 結婚や家庭生活について、自身の考えに近いもの



	上段/件数 下段/構成比(%)					
	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
ア 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい	477	250	162	65	45	71
	44.6	23.4	15.1	6.1	4.2	6.6
イ 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである	48	236	296	286	130	74
	4.5	22.1	27.7	26.7	12.1	6.9
ウ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	239	213	246	160	138	74
	22.3	19.9	23.0	15.0	12.9	6.9
エ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	221	289	212	102	178	68
	20.7	27.0	19.8	9.5	16.6	6.4
オ 夫婦が別々の姓を名乗ること(選択的夫婦別姓)を認める方がよい	226	215	216	187	152	74
	21.1	20.1	20.2	17.5	14.2	6.9

結婚や家庭生活に関する考え方を性別で見ると、全体的に女性で賛成割合が高い。特に「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい」は女性が7.1ポイント高い。

図24. 性別・結婚や家庭生活に関する考え方について賛成(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)の割合



これを県調査結果と比べると、「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくても、どちらでもよい」への賛成割合が、2年前に比べて13.5ポイント増加し、同じく「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」で10.5ポイント増加、「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」は13.1%増加と僅か2年で大幅に増加しており、婚姻率の低下や少子化傾向が意識面でも表れている。

また、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」については、賛成割合が5.1ポイント減少し、一方、反対の割合は54.4%と3ポイント増加しており、女性の自立意識が高まっていると想定される。

なお、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」について、全国調査では賛成が那覇市に比べて13.9ポイント高く、違いがみられる。

図25. 結婚や家庭生活に関する考え方について賛成(「賛成」+「どちらかといえば賛成」)の割合
今回調査と県調査結果(平成27年)との比較

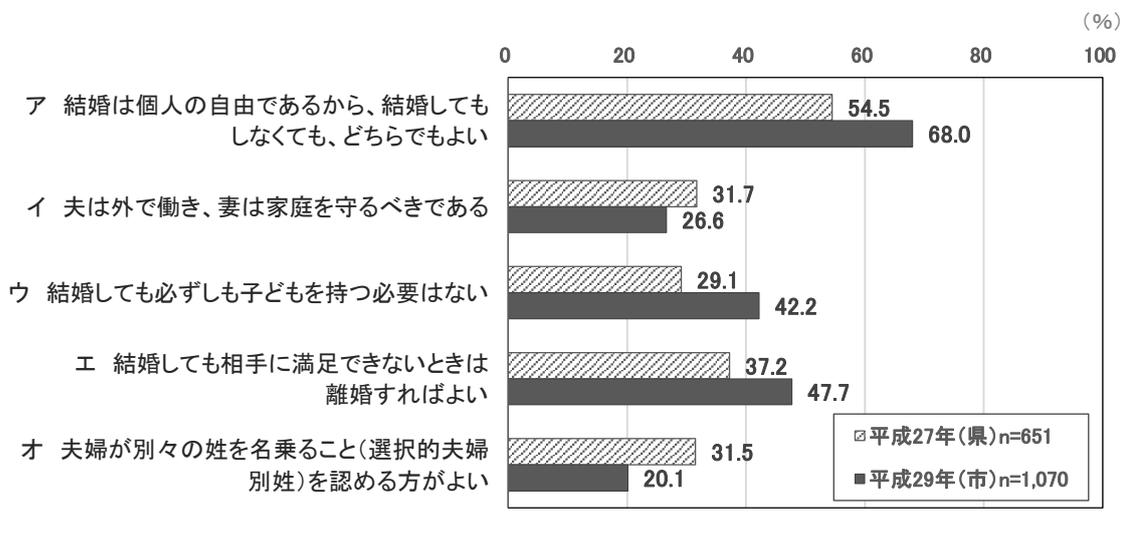


図 26. 性別・結婚や家庭生活についての考え方

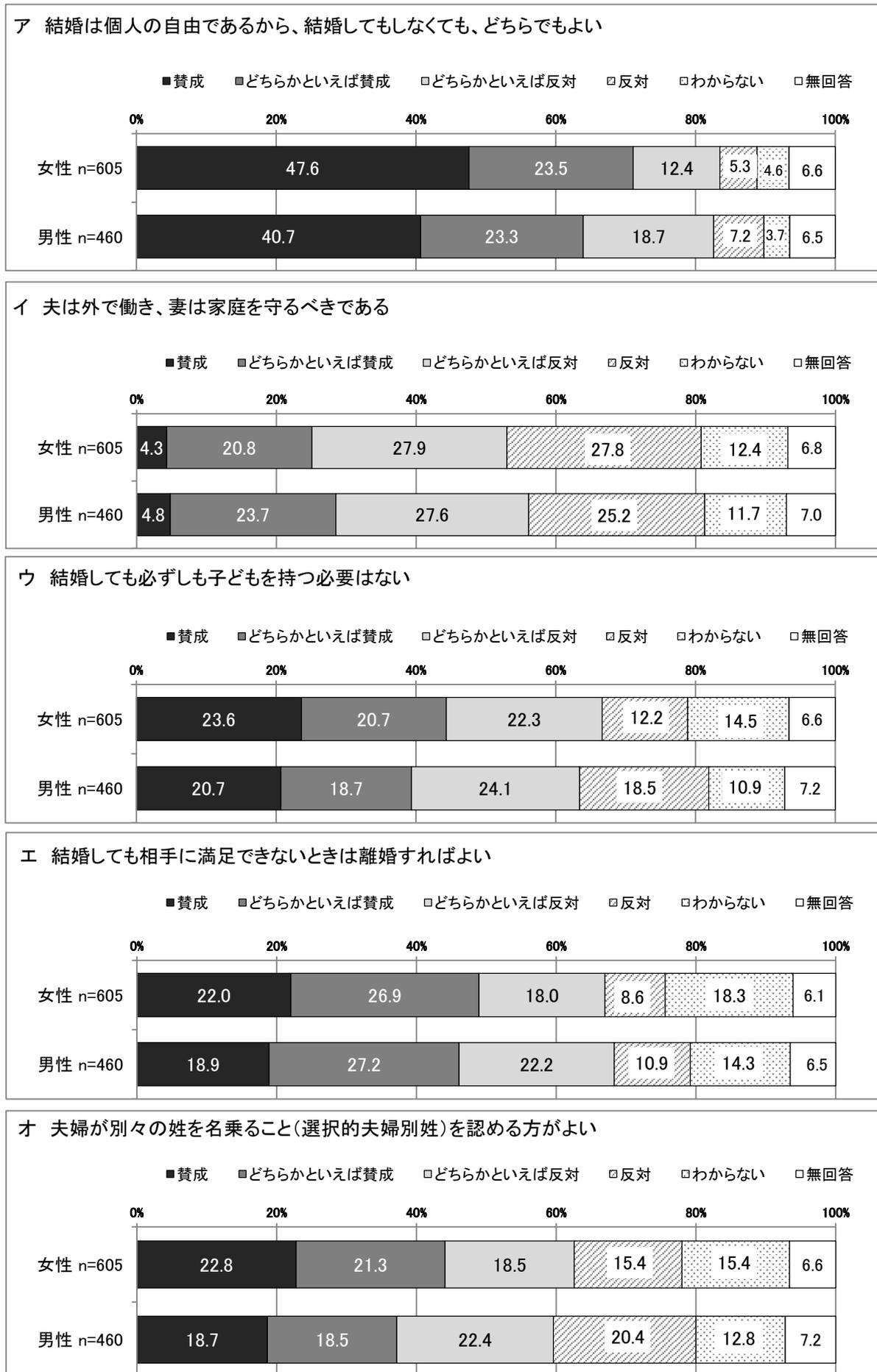
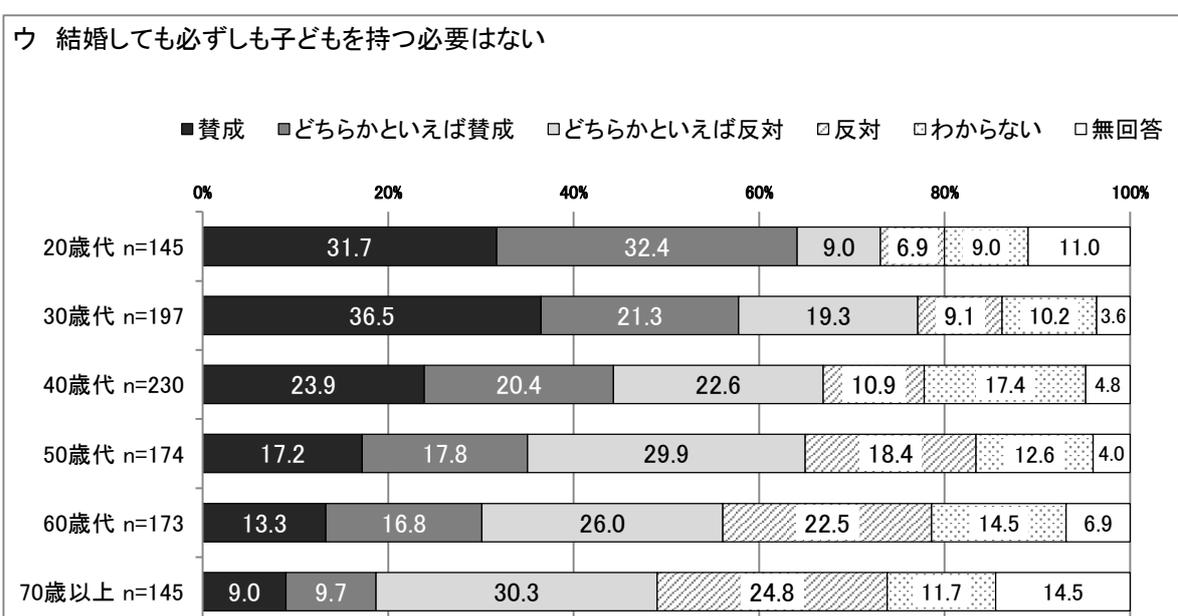
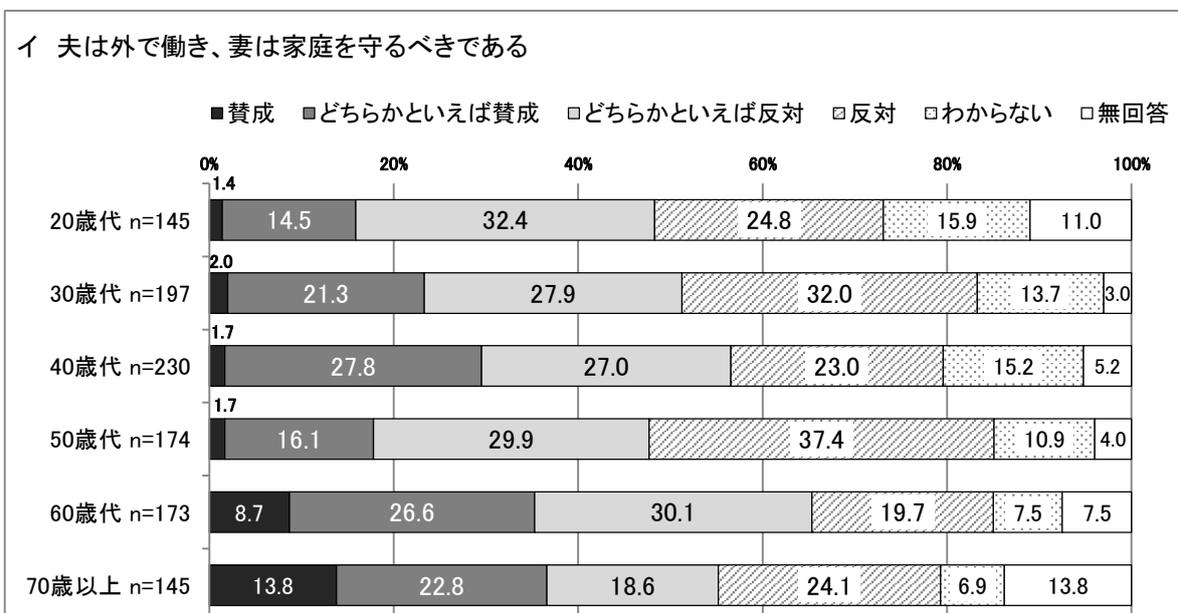
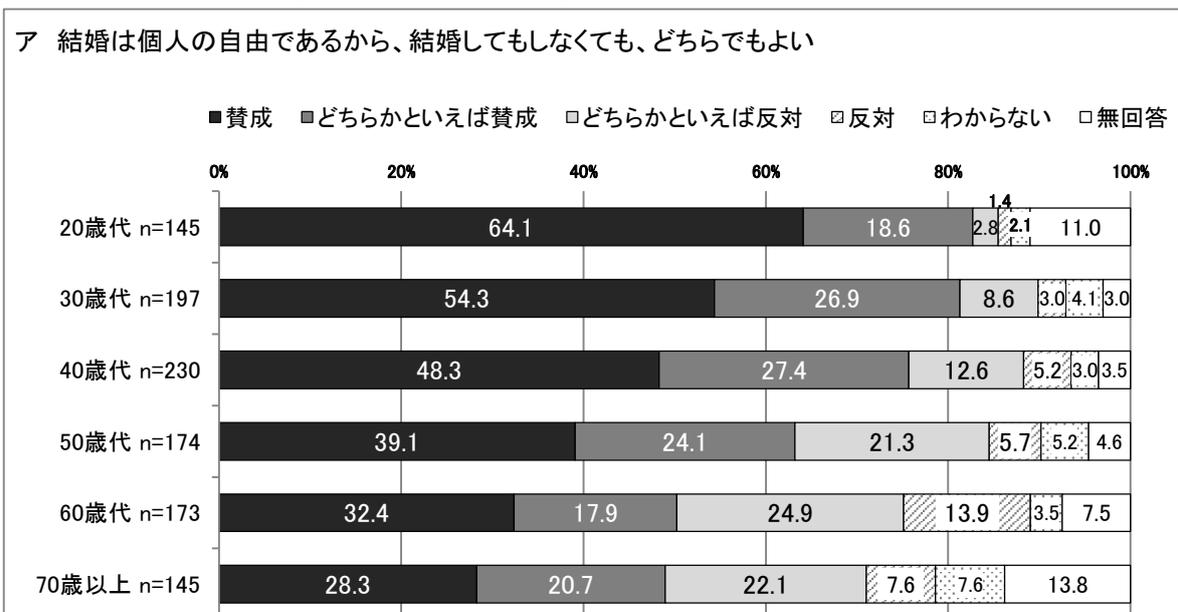
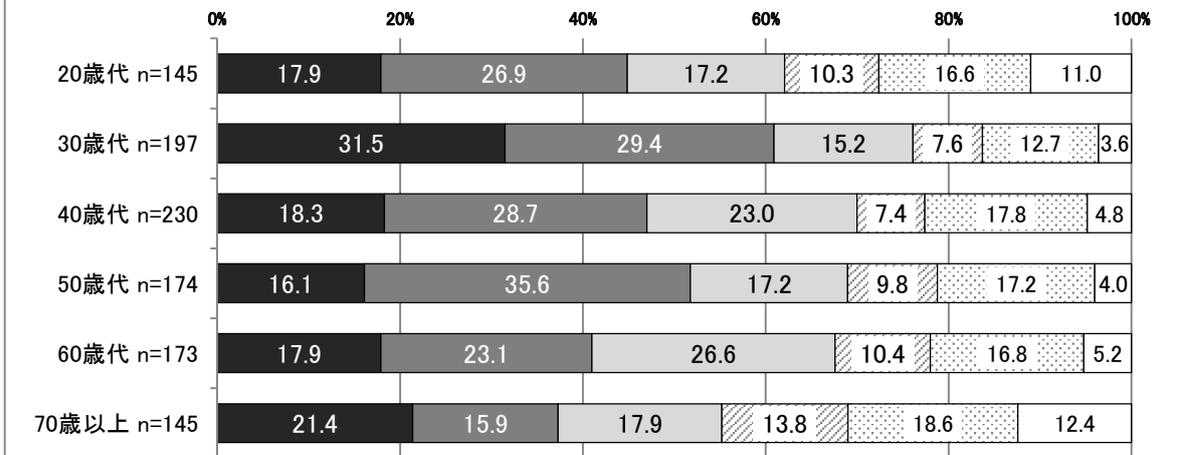


図 27. 年代別・結婚や家庭生活についての考え方



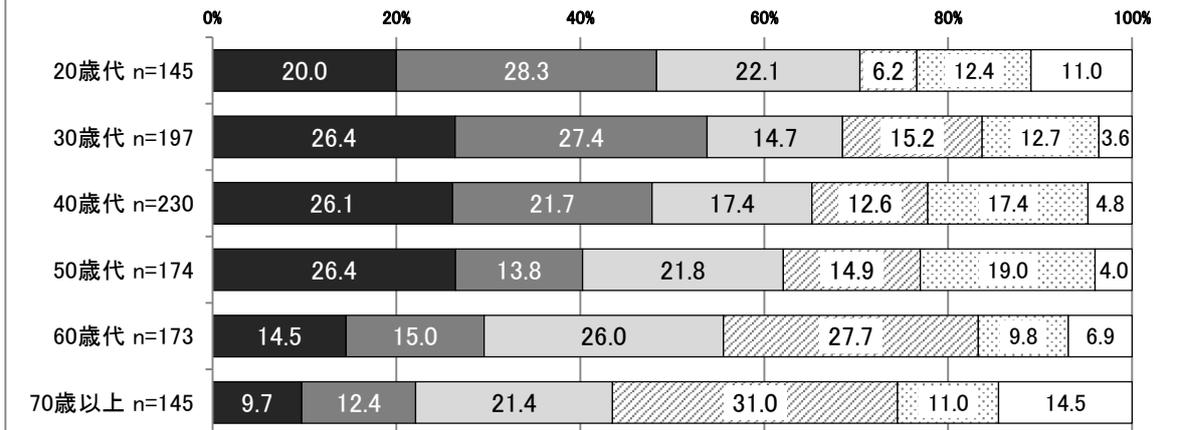
エ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

■賛成 ■どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対 □反対 □わからない □無回答



オ 夫婦が別々の姓を名乗ること(選択的夫婦別姓)を認める方がよい

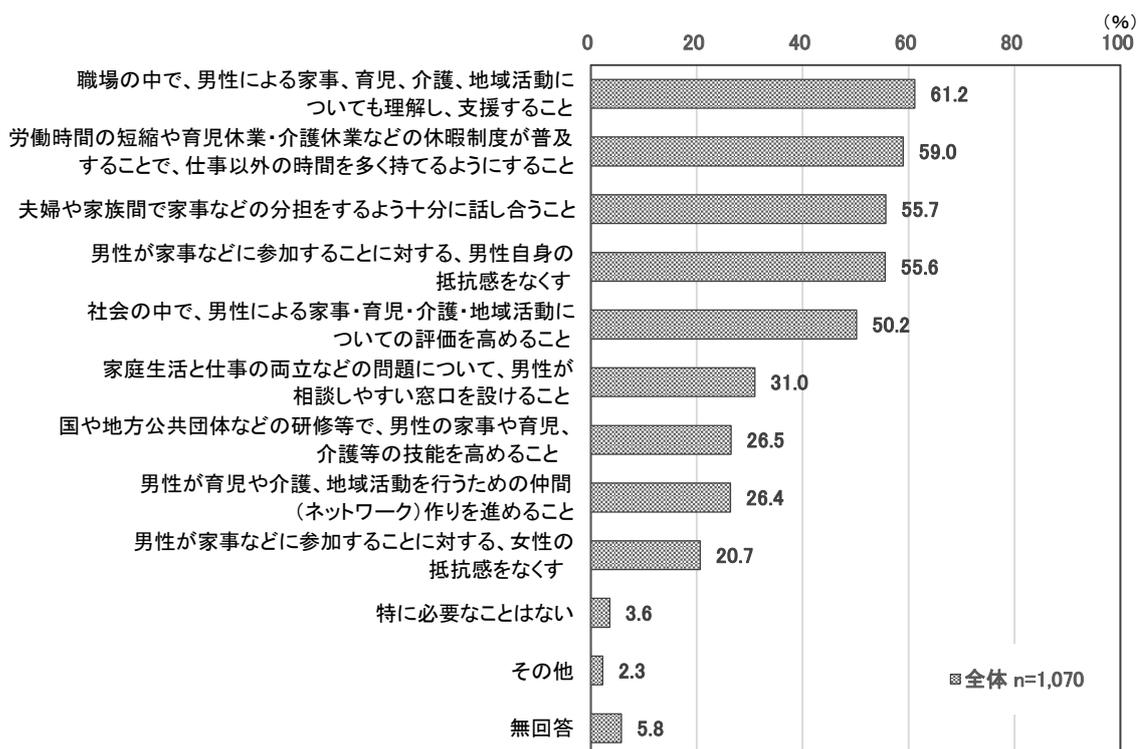
■賛成 ■どちらかといえば賛成 □どちらかといえば反対 □反対 □わからない □無回答



問6 あなたは、今後、男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか（〇はいくつでも）

今後、男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて全体でみると、「職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても理解し、支援すること」が61.2%で最も高く、以下「労働時間の短縮や育児休業・介護休業などの休暇制度が普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」59.0%、「夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと」55.7%と続く。

図28. 男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

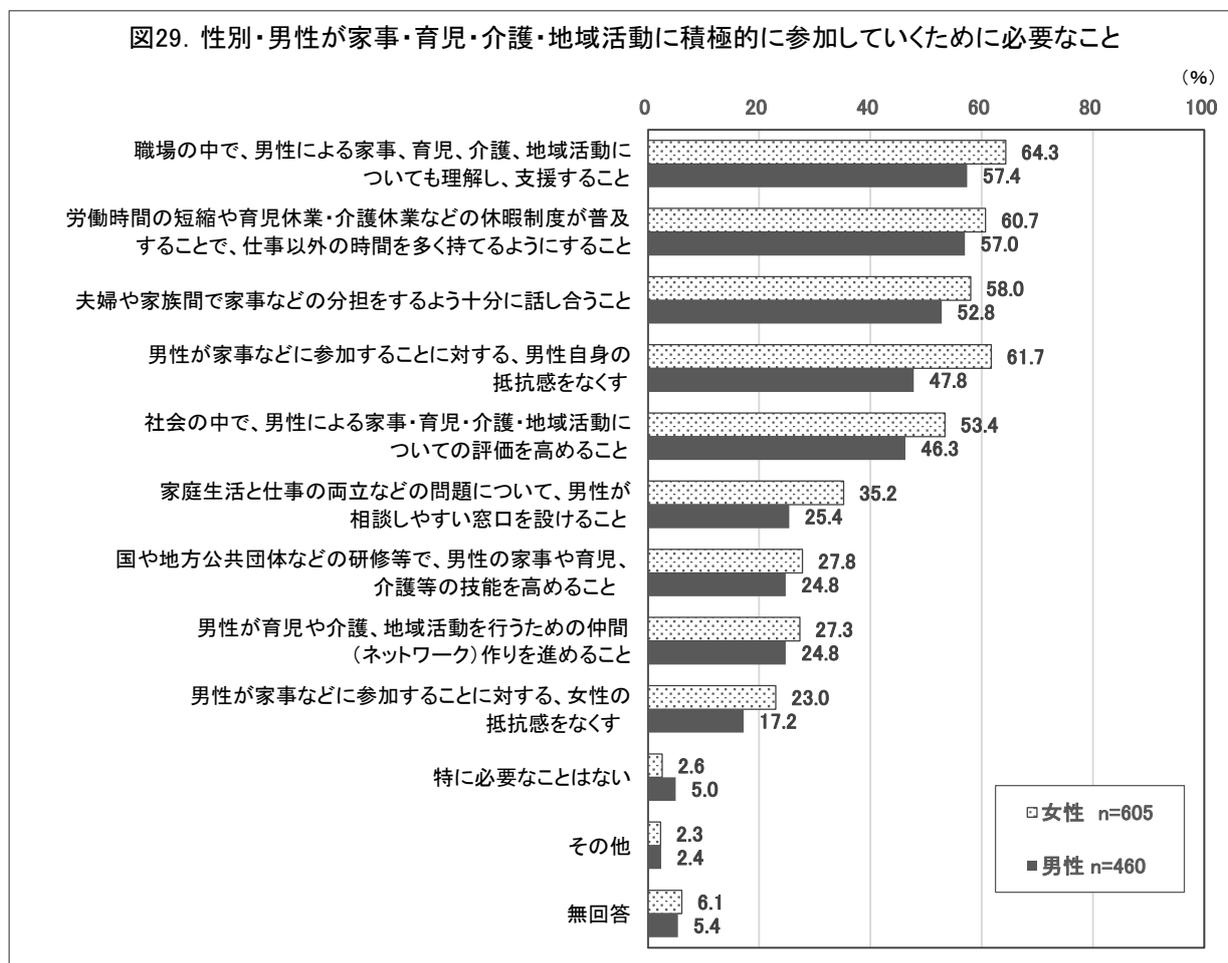


単位：人（%）

No.	家事・育児・介護・地域活動への男性の積極的参加に必要なこと	全体 n=1,070	
		件数	回答割合
1	職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても理解し、支援すること	655	61.2
2	労働時間の短縮や育児休業・介護休業などの休暇制度が普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	631	59.0
3	夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと	596	55.7
4	男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくす	595	55.6
5	社会の中で、男性による家事・育児・介護・地域活動についての評価を高めること	537	50.2
6	家庭生活と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	332	31.0
7	国や地方公共団体などの研修等で、男性の家事や育児、介護等の技能を高めること	284	26.5
8	男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りを進めること	282	26.4
9	男性が家事などに参加することに対する、女性の抵抗感をなくす	221	20.7
10	特に必要なことはない	39	3.6
11	その他	25	2.3
	無回答	62	5.8

今後、男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要なことについて性別でみると、全項目で女性の回答率が男性より高く、女性の関心が高いと言える。

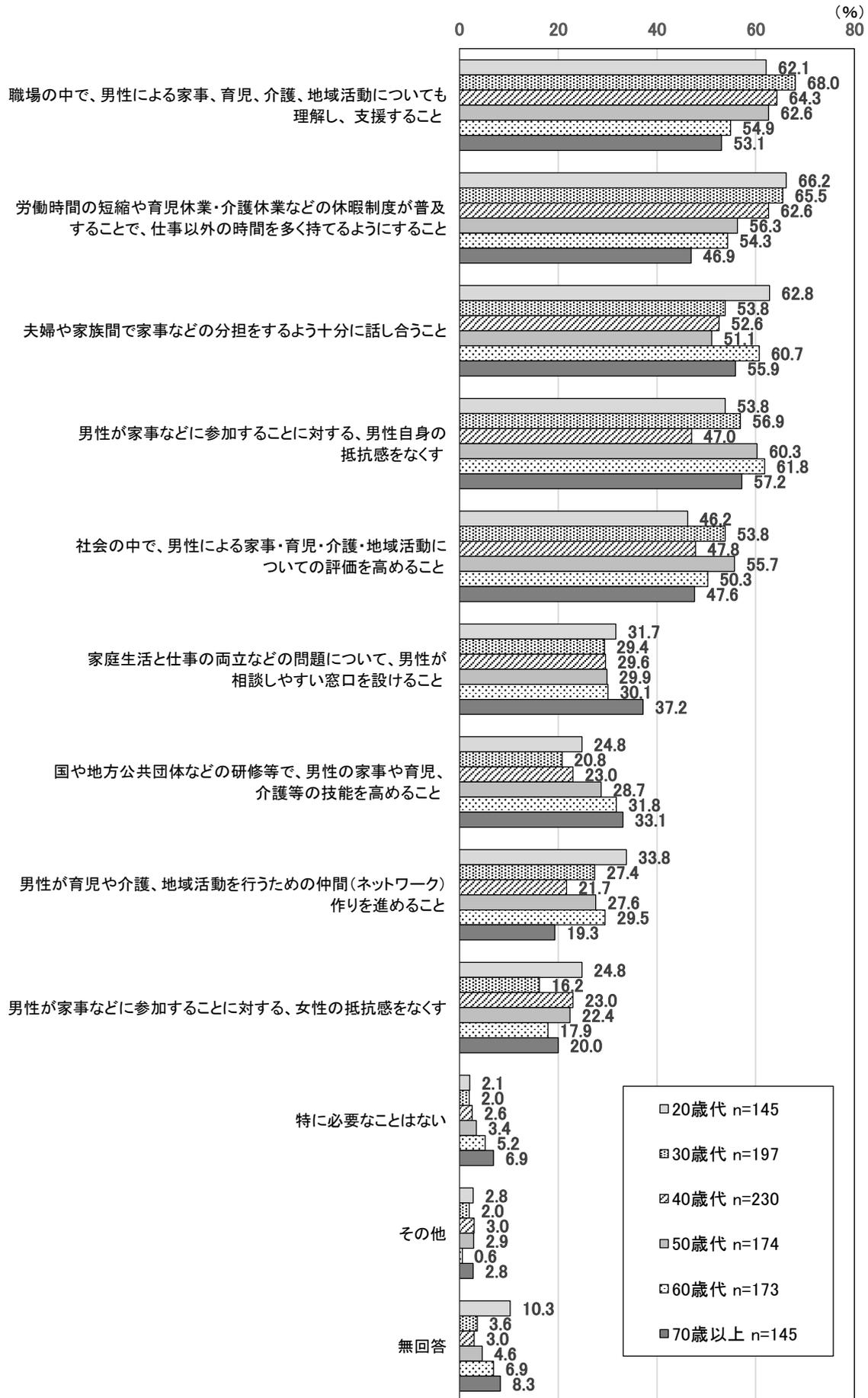
その中で特に「男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくす」については、女性の回答率が男性より13.9%ポイント多く、最も高い。



単位：人（%）

No.	家事・育児・介護・地域活動への男性の積極的参加に必要なこと	女性 n=605		男性 n=460	
		件数	回答割合	件数	回答割合
1	職場の中で、男性による家事、育児、介護、地域活動についても理解し、支援すること	389	64.3	264	57.4
2	労働時間の短縮や育児休業・介護休業などの休暇制度が普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること	367	60.7	262	57.0
3	夫婦や家族間で家事などの分担をするよう十分に話し合うこと	351	58.0	243	52.8
4	男性が家事などに参加することに対する、男性自身の抵抗感をなくす	373	61.7	220	47.8
5	社会の中で、男性による家事・育児・介護・地域活動についての評価を高めること	323	53.4	213	46.3
6	家庭生活と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	213	35.2	117	25.4
7	国や地方公共団体などの研修等で、男性の家事や育児、介護等の技能を高めること	168	27.8	114	24.8
8	男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）作りを進めること	165	27.3	114	24.8
9	男性が家事などに参加することに対する、女性の抵抗感をなくす	139	23.0	79	17.2
10	特に必要なことはない	16	2.6	23	5.0
11	その他	14	2.3	11	2.4
	無回答	37	6.1	25	5.4

図30. 年代別・男性が家事・育児・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要なこと



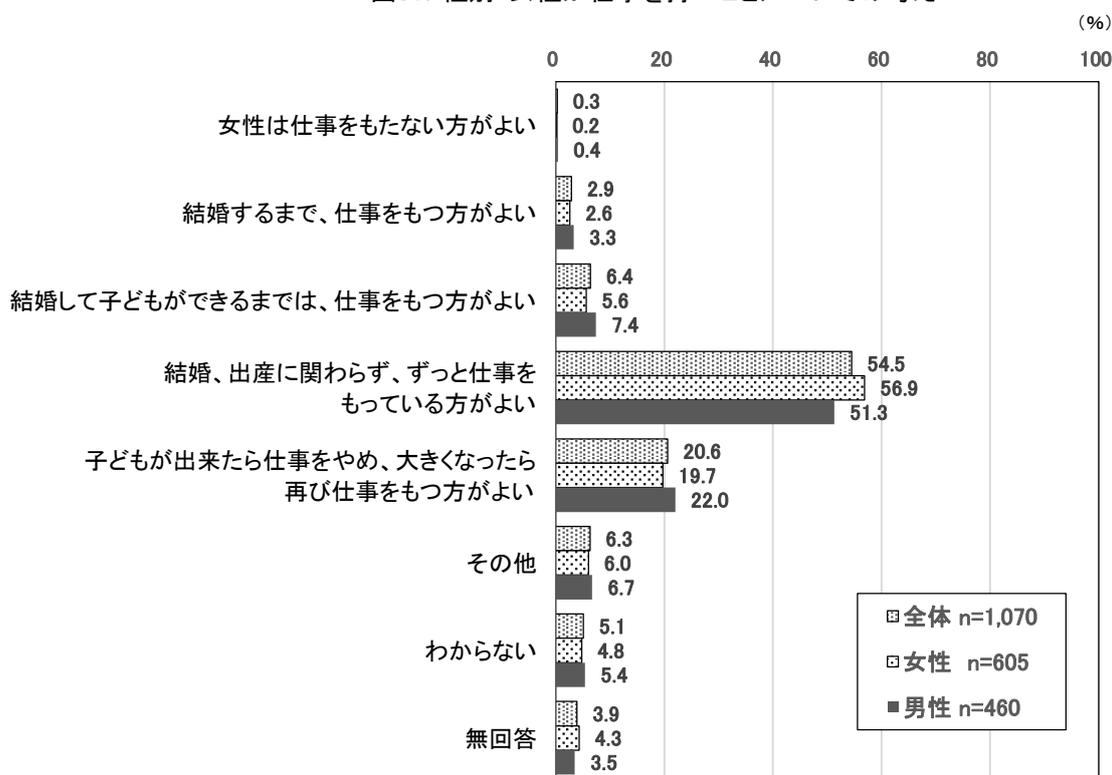
(3) 仕事について

問7 一般的に、女性が仕事を持つことについて、どうお考えですか（〇は1つだけ）

女性が仕事を持つことについての考えについて全体で見ると、「結婚、出産に関わらず、ずっと仕事をもっている方がよい」が54.5%で特に高く、次に「子どもが出来たら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」が20.6%と続き、全体の75.1%が女性は継続して仕事をする方がよいとしている。

なお、性別で見ると「結婚、出産に関わらず、ずっと仕事をもっている方がよい」は、男性が51.3%に対し、女性で56.9%と、男性より5.6ポイント高い。

図31. 性別・女性が仕事を持つことについての考え

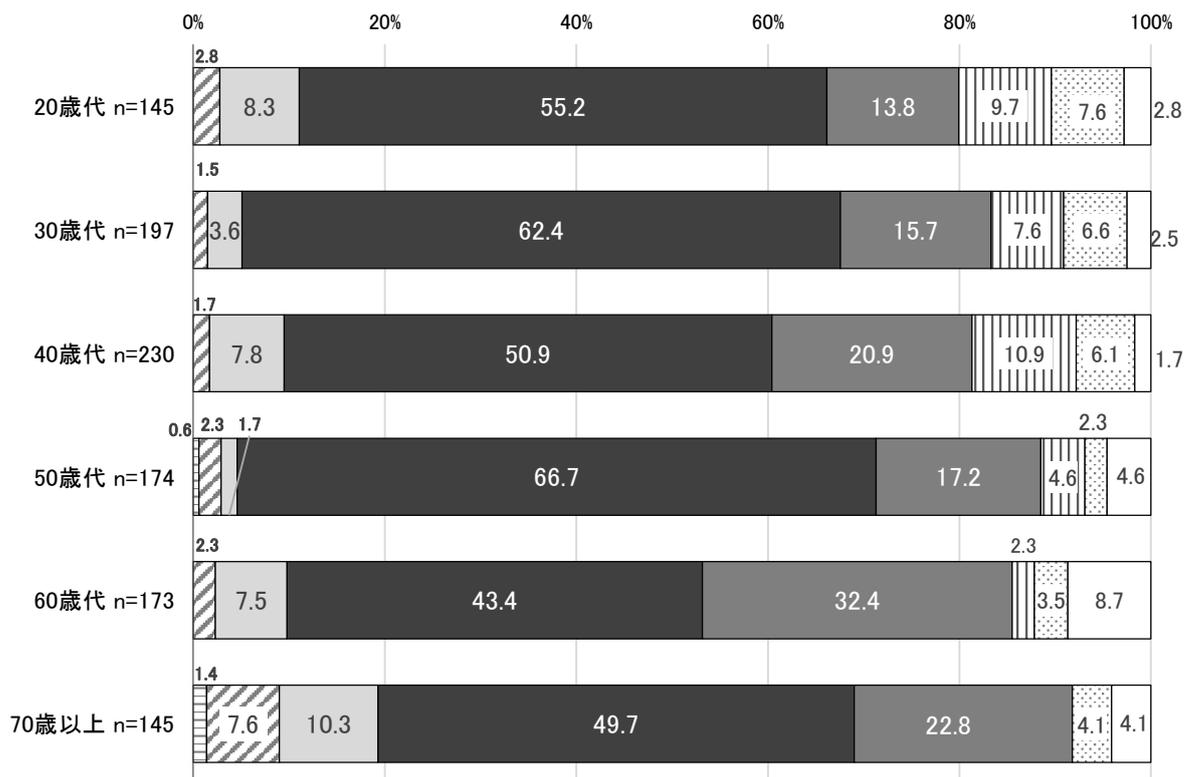


単位：人（%）

No.	女性が仕事を持つことについて	全体 n=1,070		女性 n=605		男性 n=460	
		件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比
1	女性は仕事をもたない方がよい	3	0.3	1	0.2	2	0.4
2	結婚するまで、仕事をもつ方がよい	31	2.9	16	2.6	15	3.3
3	結婚して子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい	69	6.4	34	5.6	34	7.4
4	結婚、出産に関わらず、ずっと仕事をもっている方がよい	583	54.5	344	56.9	236	51.3
5	子どもが出来たら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい	220	20.6	119	19.7	101	22.0
6	その他	67	6.3	36	6.0	31	6.7
7	わからない	55	5.1	29	4.8	25	5.4
	無回答	42	3.9	26	4.3	16	3.5

図32. 年代別・女性が仕事を持つことについて

- 女性は仕事をもたない方がよい
- 結婚するまで、仕事をもつ方がよい
- 結婚して子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 結婚、出産に関わらず、ずっと仕事をもっている方がよい
- 子どもが出来たら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

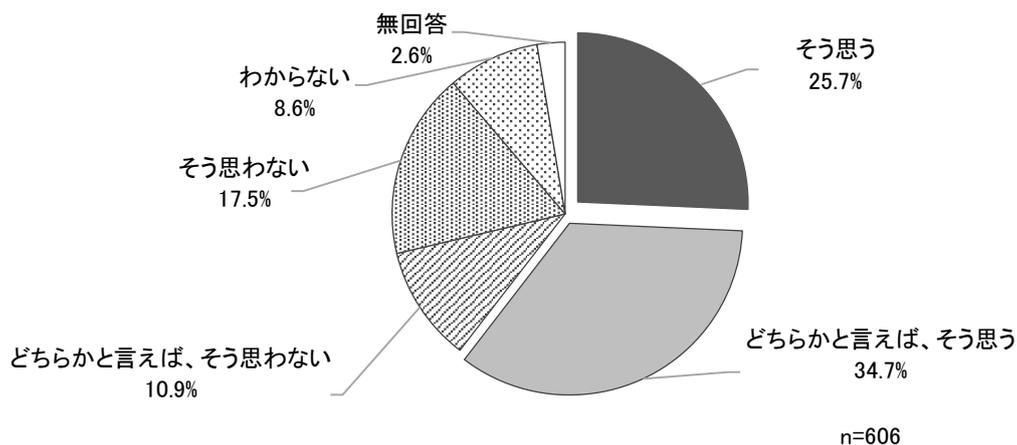


【女性の方にお聞きします】

問8 就職するにあたり、男性に比べてハンディがあると思いませんか(○は1つだけ)

就職するにあたり、男性に比べてハンディがあると思うかについては、「そう思う」(25.7%)と、「どちらかと言えば、そう思う」(34.7%)を合わせると、60.4%を占める。

図33. 就職するにあたり、男性に比べてハンディがあると思うかについて



単位：人(%)

No.	就職するにあたりハンディの有無	件数	構成比
1	そう思う	156	25.7
2	どちらかと言えば、そう思う	210	34.7
3	どちらかと言えば、そう思わない	66	10.9
4	そう思わない	106	17.5
5	わからない	52	8.6
	無回答	16	2.6
	合計	606	100.0

これを年代別でみると、40歳代でハンディがあると思う(「そう思う」+「どちらかと言えば、そう思う」)割合が72.3%で最も高く、次に30歳代の66.4%、50歳代の65.7%と続く。

図34. 年代別・就職するにあたり、男性に比べてハンディがあると思う割合

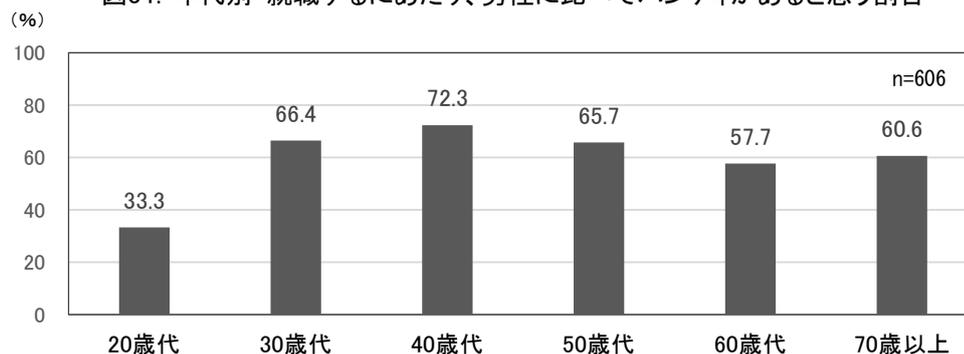
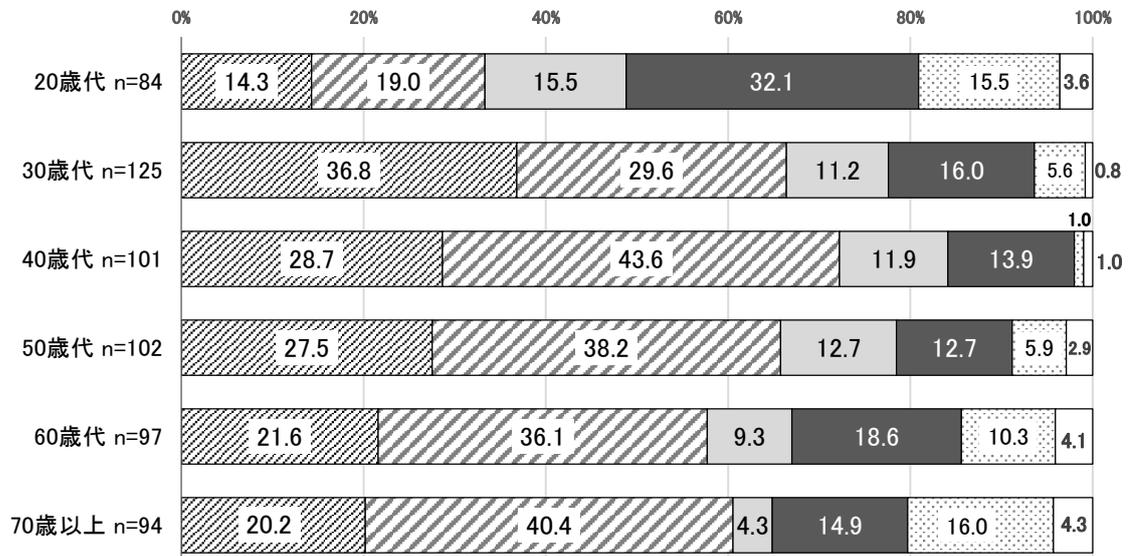


図35. 年代別・就職するにあたり女性はハンディがあると思う割合

□ そう思う □ どちらかと言えば、そう思う □ どちらかと言えば、そう思わない □ そう思わない □ わからない □ 無回答



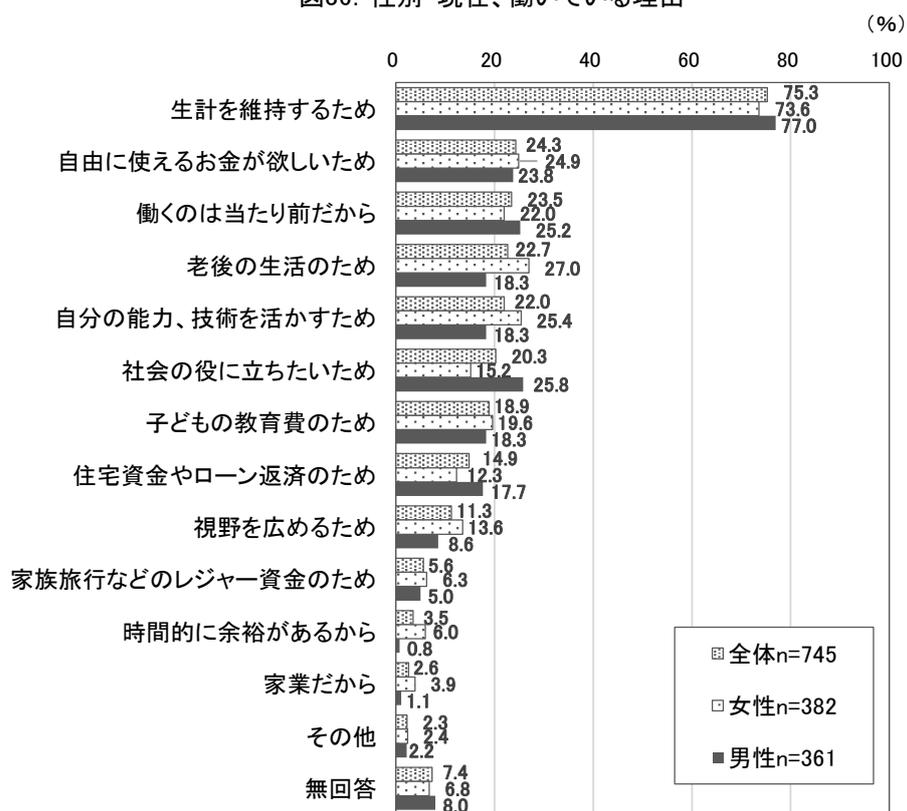
【現在、働いている方にお聞きします（そうでない方は問15へ）】

問9 あなたが働いているのは何のためですか。（○は3つまで）

現在、働いている理由について全体でみると、「生計を維持するため」が75.3%で特に高く、以下「自由に使えるお金が欲しいため」24.3%、「働くのは当たり前だから」23.5%、「老後の生活のため」22.7%と続く。

これを性別でみると、極端な差はみられない。その中で、女性で「老後の生活のため」と「自分の能力、技術を活かすため」が男性に比べて高く、男性では「社会の役に立ちたいため」が女性に比べて10.6ポイント高く、やや違いがみられる。

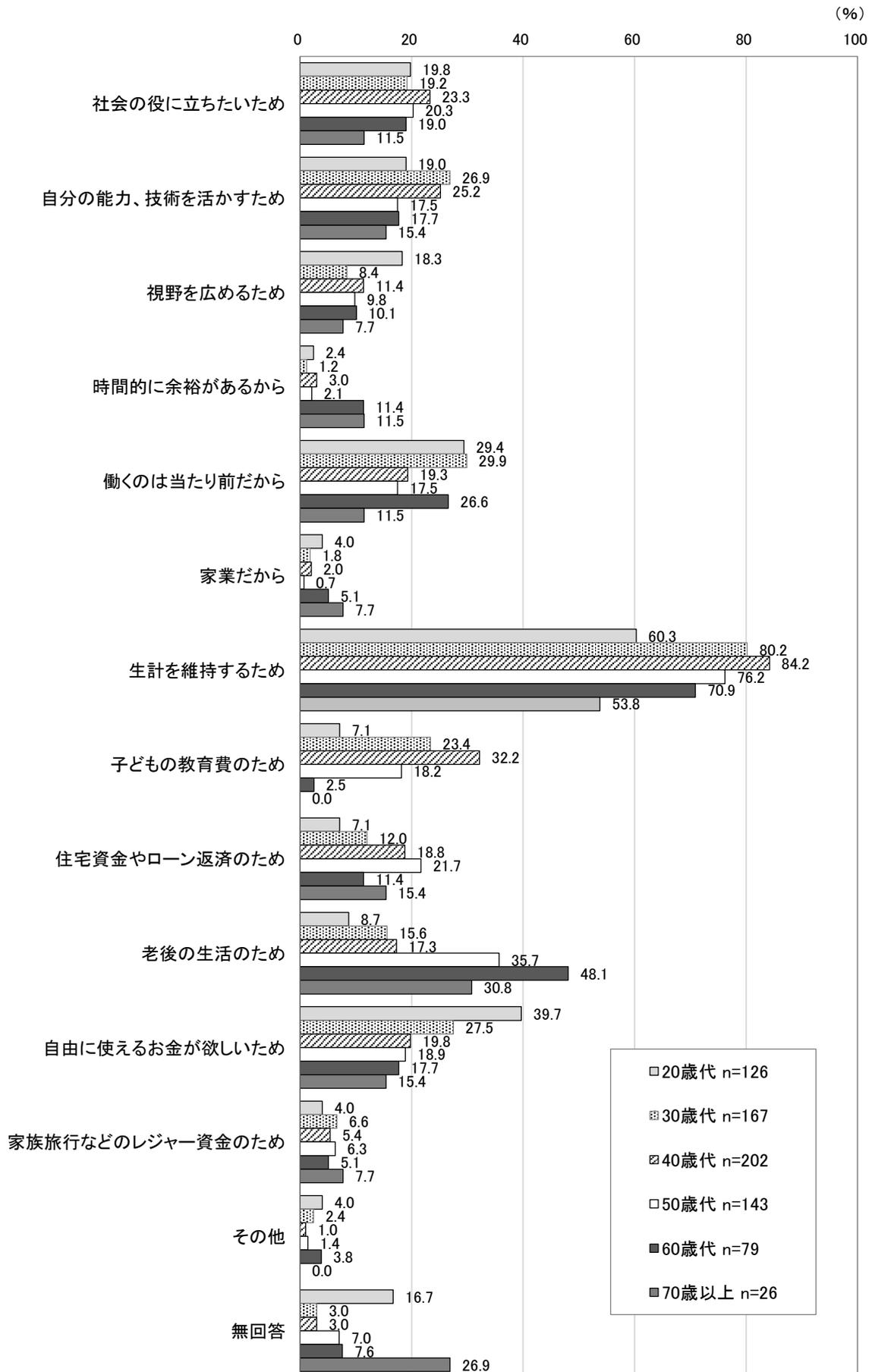
図36. 性別・現在、働いている理由



単位：人（%）

No.	働いている理由	全体 n=745		女性 n=382		男性 n=361	
		件数	回答割合	件数	回答割合	件数	回答割合
1	生計を維持するため	561	75.3	281	73.6	278	77.0
2	自由に使えるお金が欲しいため	181	24.3	95	24.9	86	23.8
3	働くのは当たり前だから	175	23.5	84	22.0	91	25.2
4	老後の生活のため	169	22.7	103	27.0	66	18.3
5	自分の能力、技術を活かすため	164	22.0	97	25.4	66	18.3
6	社会の役に立ちたいため	151	20.3	58	15.2	93	25.8
7	子どもの教育費のため	141	18.9	75	19.6	66	18.3
8	住宅資金やローン返済のため	111	14.9	47	12.3	64	17.7
9	視野を広めるため	84	11.3	52	13.6	31	8.6
10	家族旅行などのレジャー資金のため	42	5.6	24	6.3	18	5.0
11	時間的に余裕があるから	26	3.5	23	6.0	3	0.8
12	家業だから	19	2.6	15	3.9	4	1.1
13	その他	17	2.3	9	2.4	8	2.2
	無回答	55	7.4	26	6.8	29	8.0

図37. 年代別・現在、働いている理由

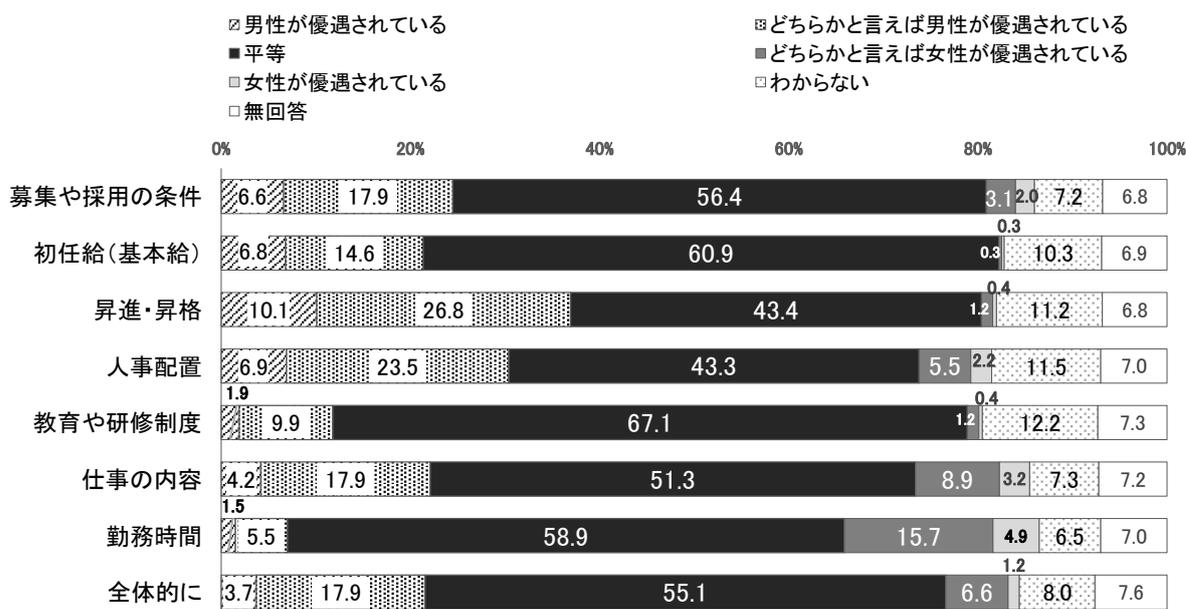


問 10 あなたの職場では、次にあげるア～クについて、性別によって差があると思いますか。あなたのお考えに近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

職場において、性別による差があるかを『全体的に』で見ると、「平等」の割合は55.1%となっている。これを項目別で見ると、「平等」の割合が高いのは『教育や研修制度』の67.1%で、以下『初任給（基本給）』の60.9%、『勤務時間』58.9%の順となっている。

逆に「平等」の割合が最も低いのは『人事配置』の43.3%で、次にほぼ同率で「昇進・昇格」の43.4%となっており、待遇面での不平等感が高い。

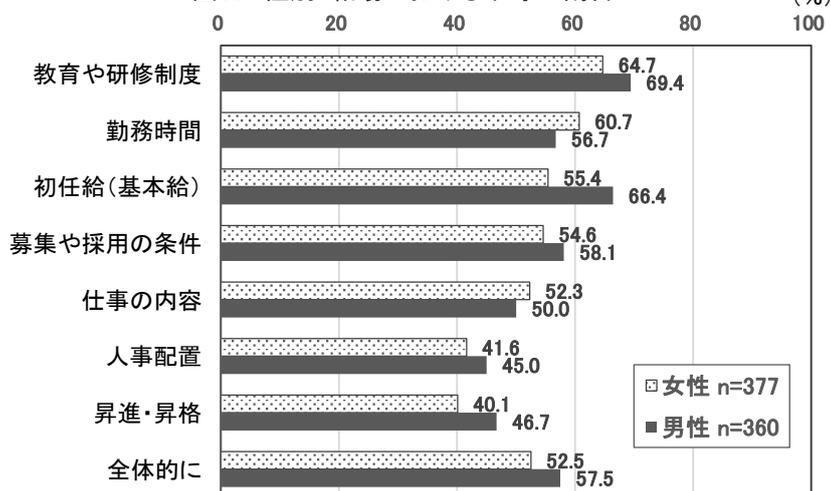
図38. 職場における性別による差の有無について



職場における平等感を性別で見ると、全体的に男性に比べて女性の「平等」の割合が低い。「平等」とする割合で性別による差が大きいのは『初任給（基本給）』で男性の平等とする割合が66.4%に対し、女性では11.0ポイント低い55.4%となっている。

逆に、女性が男性に比べて「平等」の割合が高いのは『勤務時間』と『仕事の内容』となっている。

図39. 性別・職場における平等の割合



これを「平成 27 年度県調査結果」と比べると、職場における平等感は増しており、『全体的に』では 5.1 ポイント増加している。

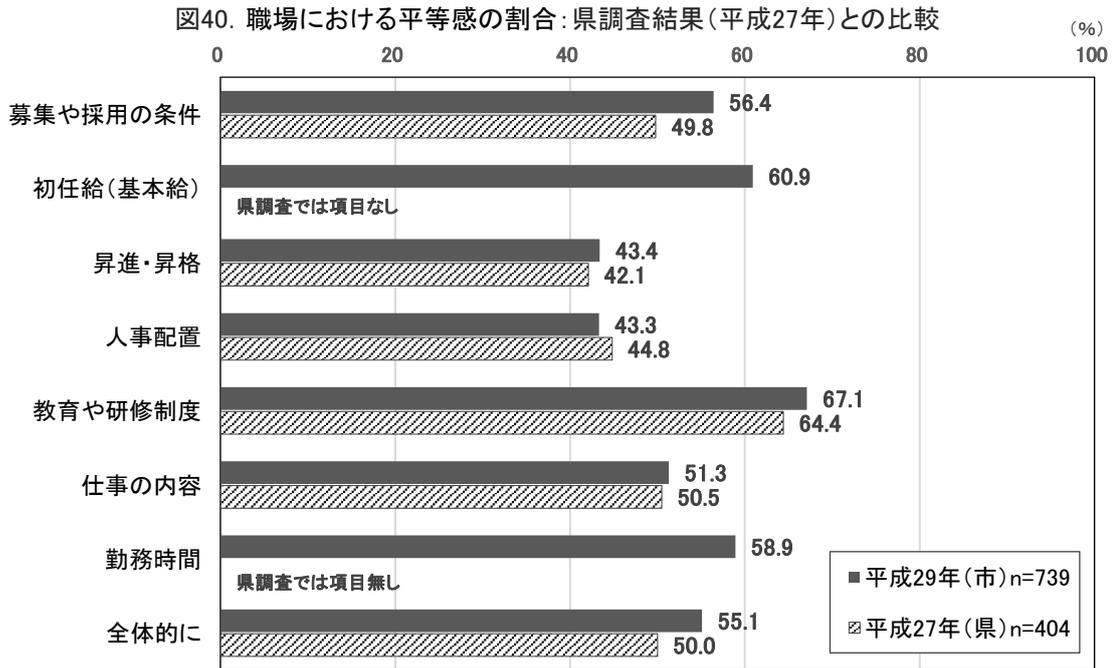
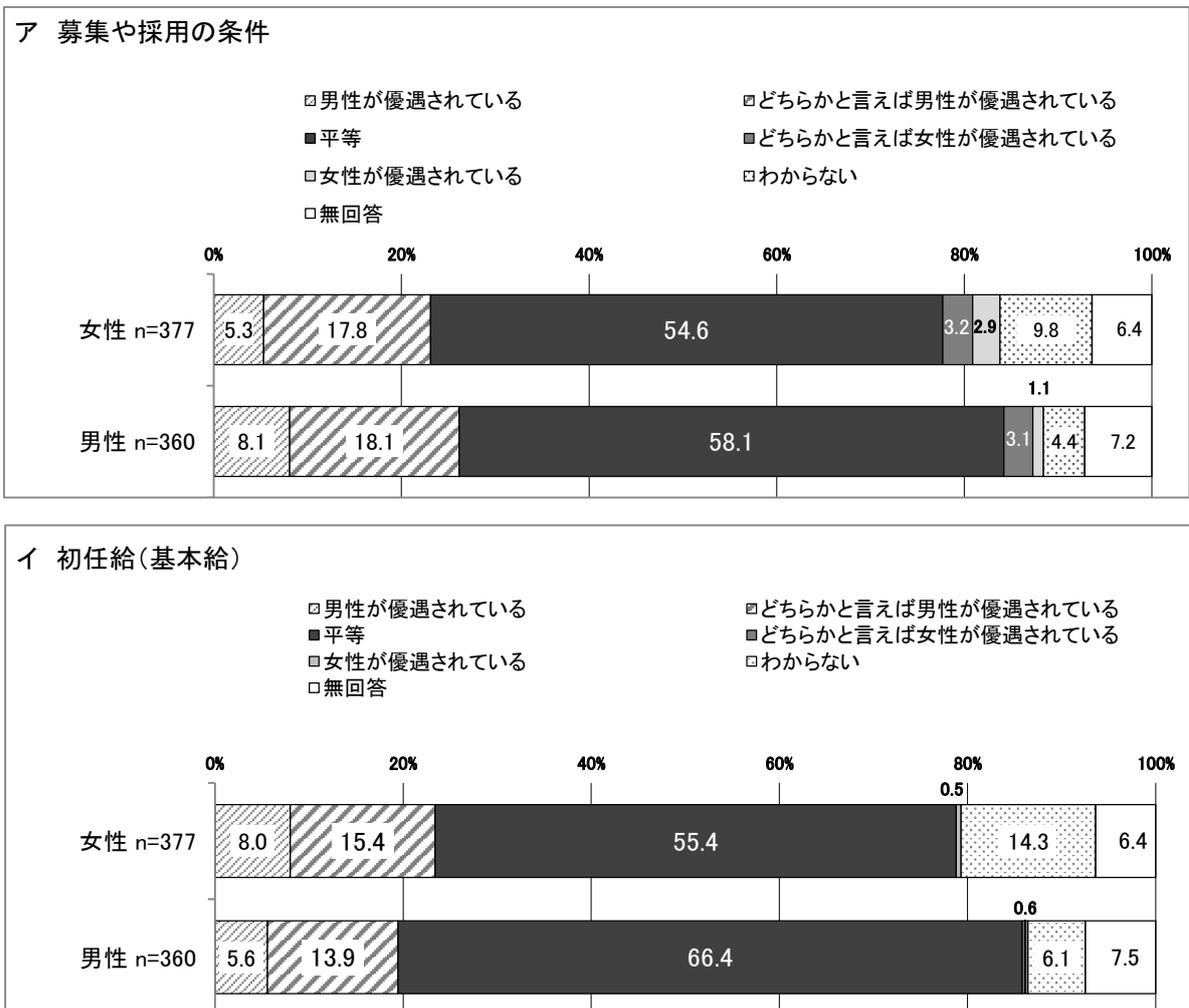
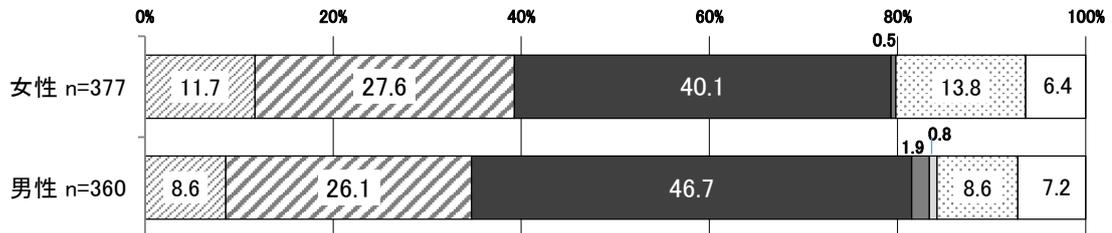


図 41. 性別・職場における平等感



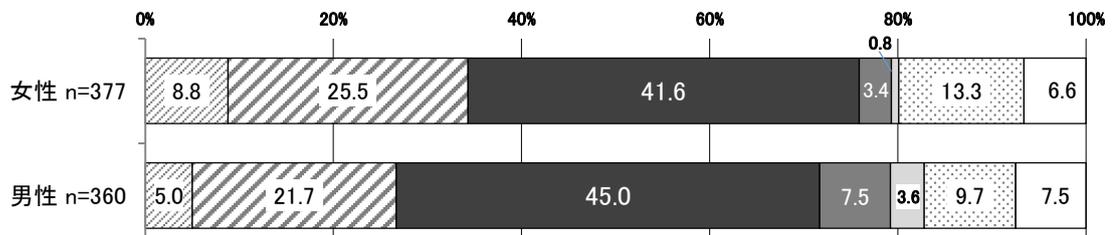
ウ 昇進・昇格

- 男性が優遇されている
- 平等
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



エ 人事配置

- 男性が優遇されている
- 平等
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



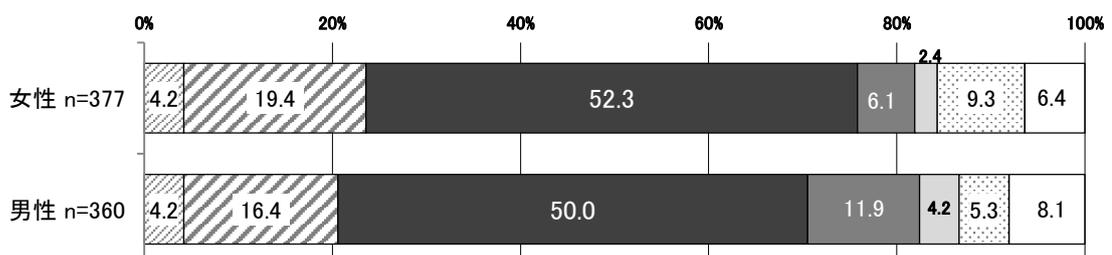
オ 教育や研修制度

- 男性が優遇されている
- 平等
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



カ 仕事の内容

- 男性が優遇されている
- 平等
- 女性が優遇されている
- 無回答
- どちらかと言えば男性が優遇されている
- どちらかと言えば女性が優遇されている
- わからない



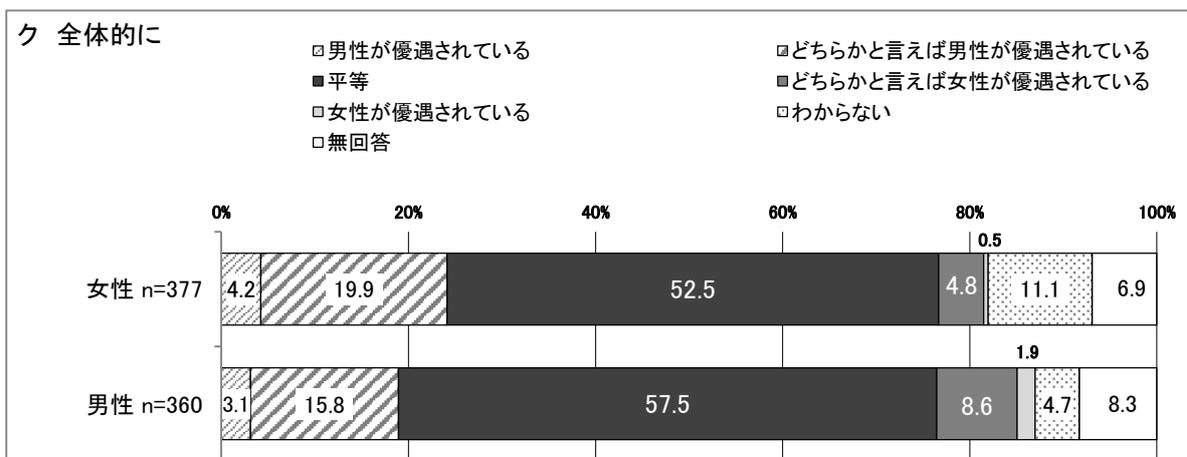
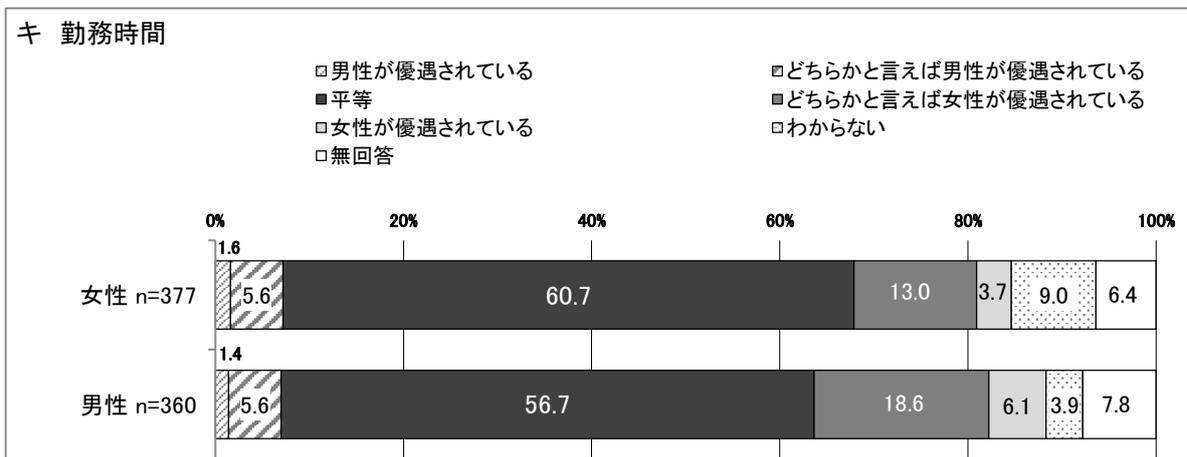
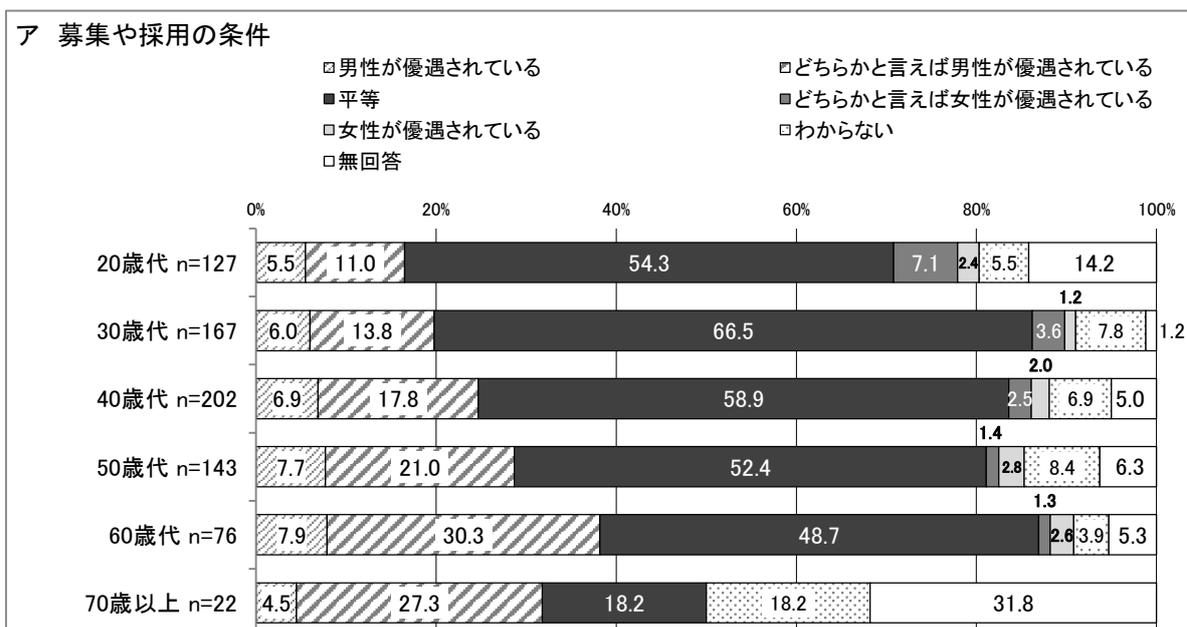
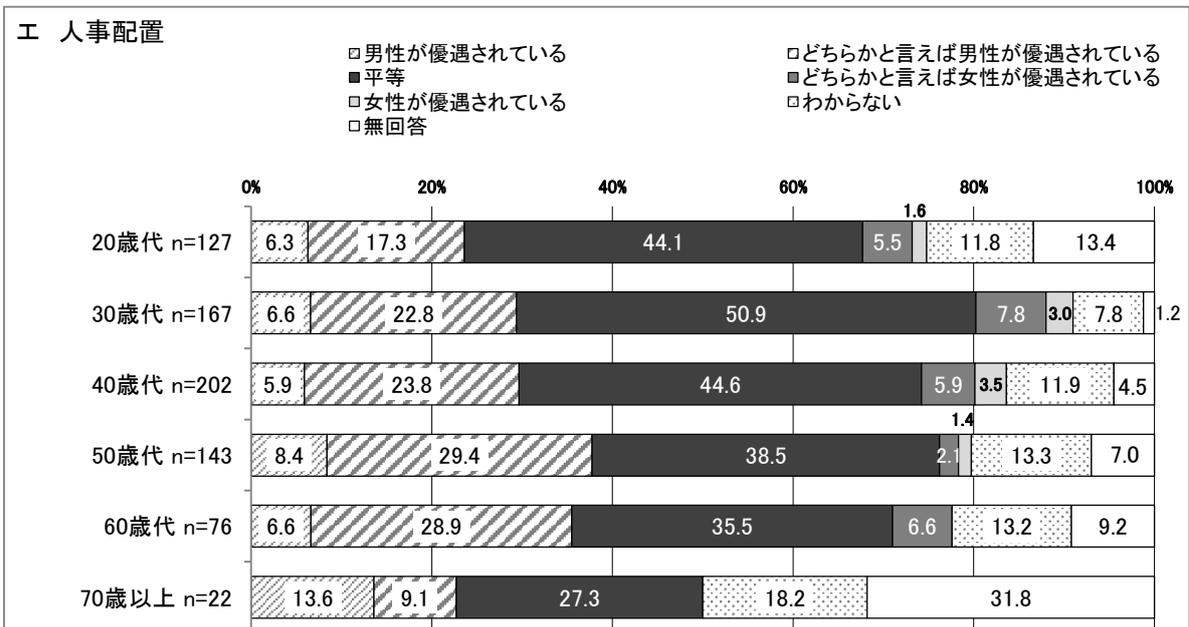
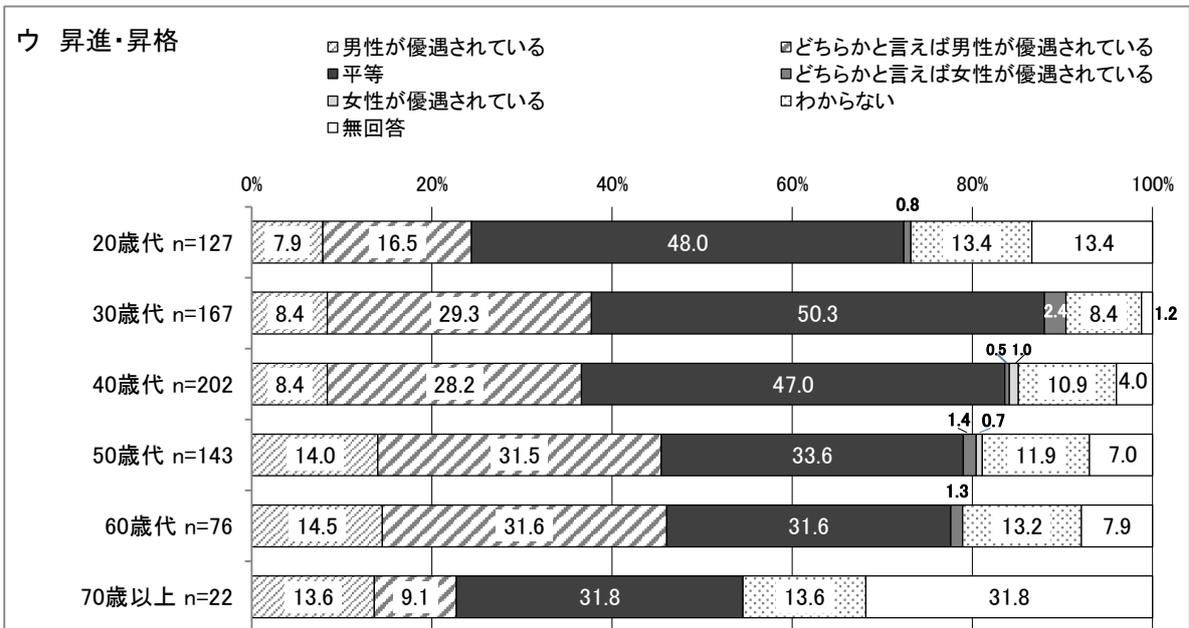
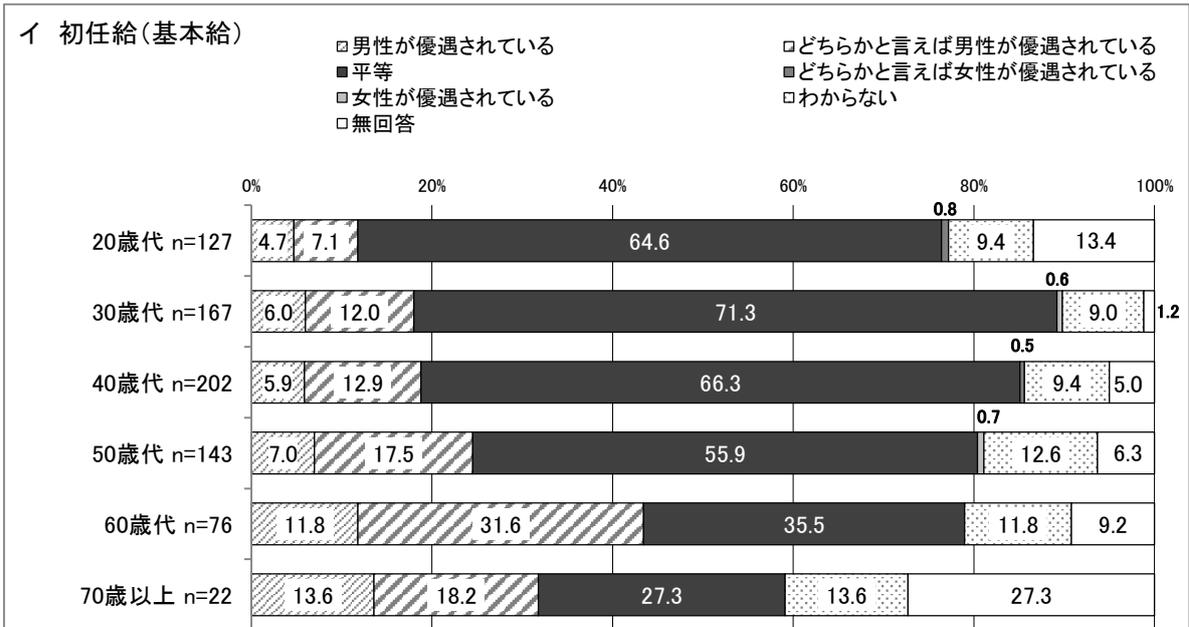
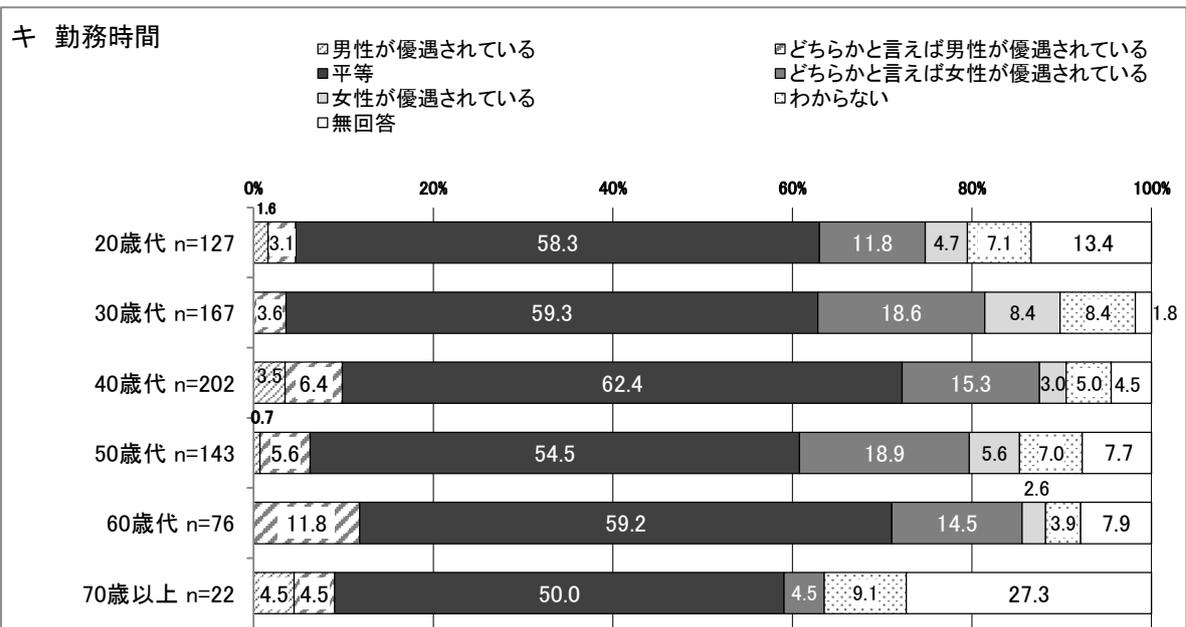
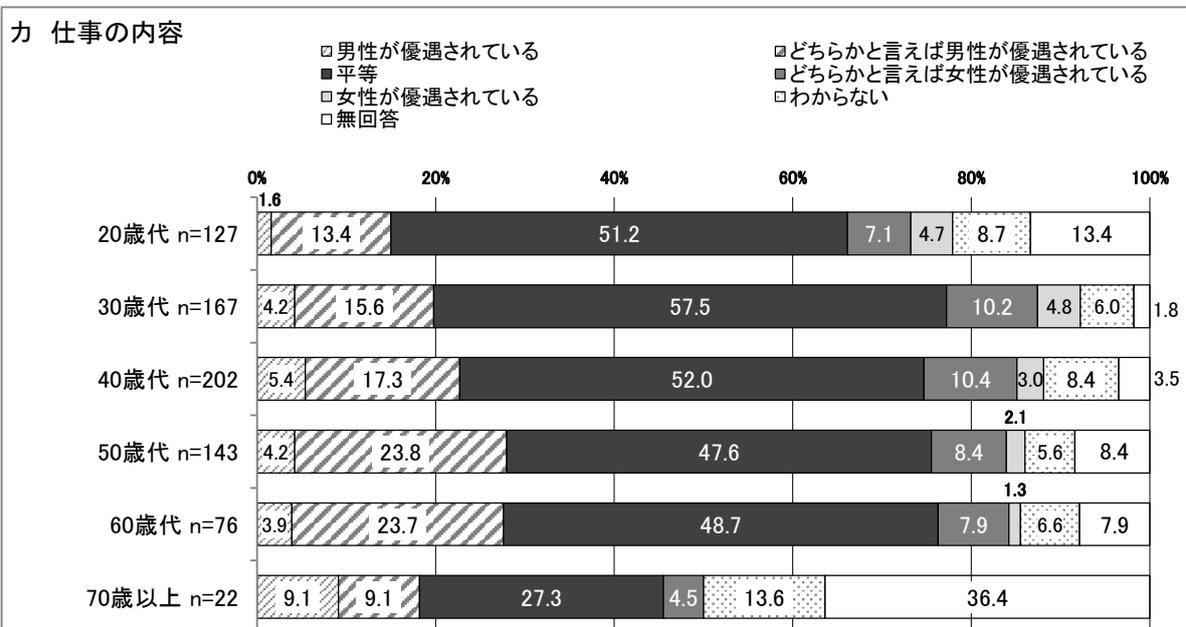
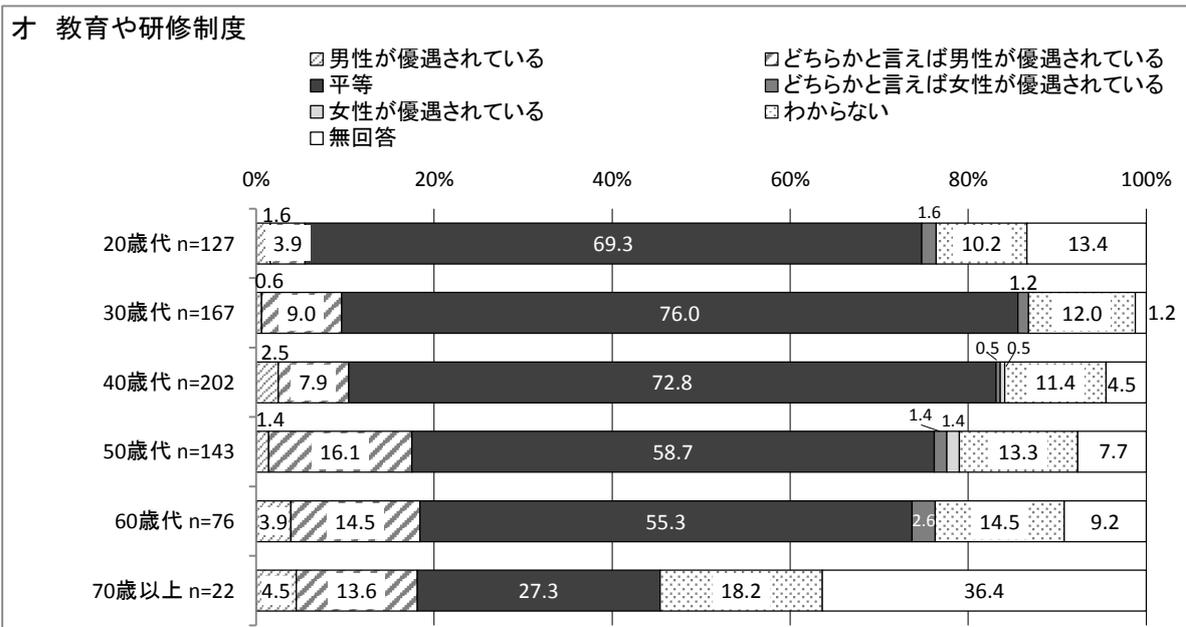
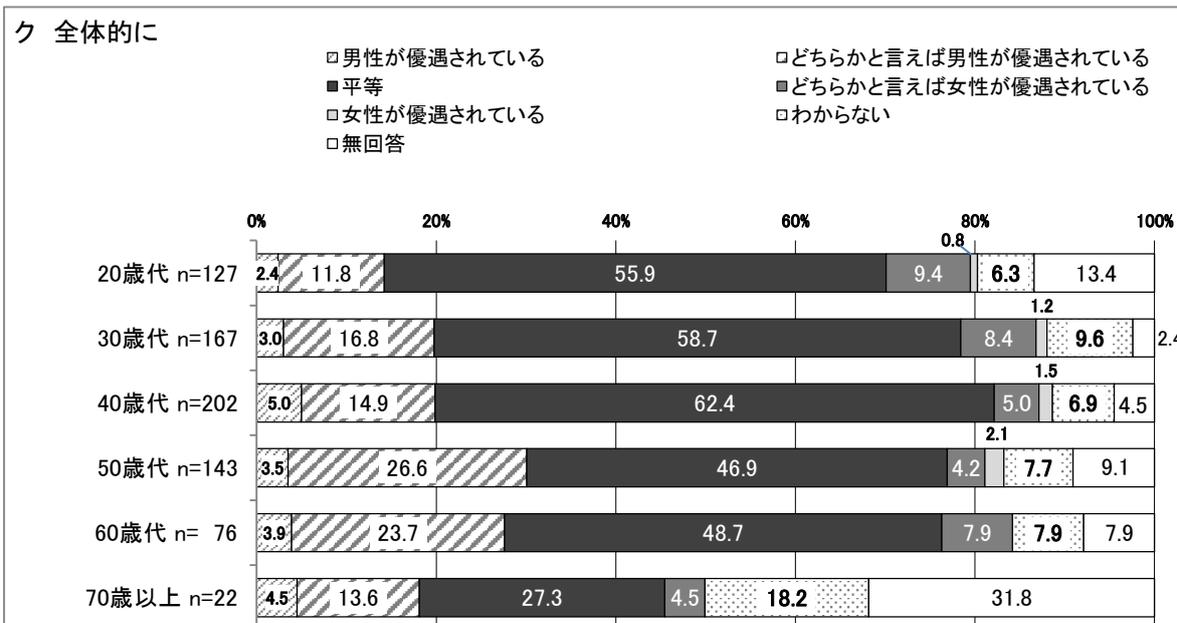


図 42. 年代別・職場における平等感





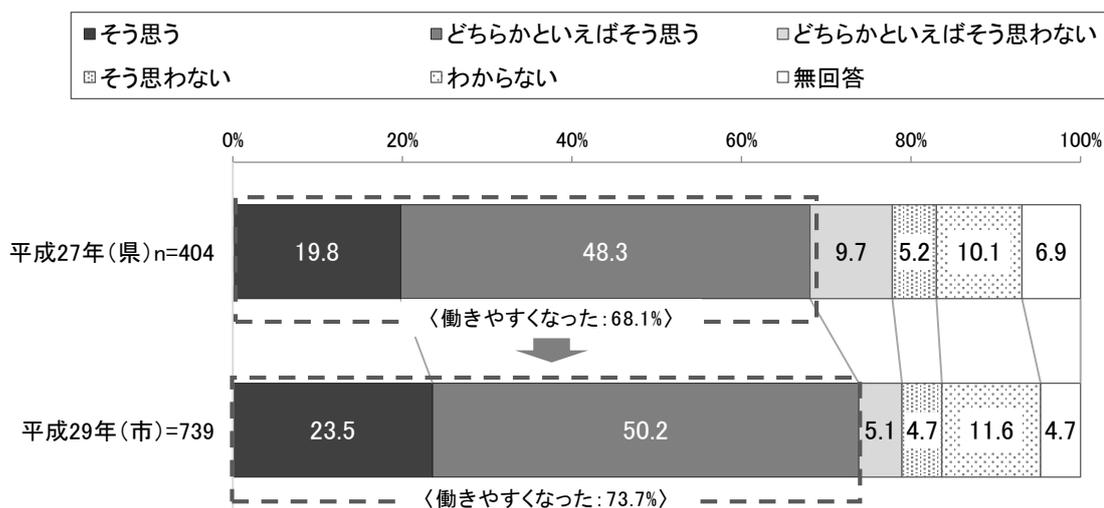




問 11 あなたご自身の経験に照らして、以前に比べて女性が働きやすくなっていると思いますか。(○は1つだけ)

「以前に比べて女性が働きやすくなったか」についてみると、「そう思う」(23.5%)と「どちらかと言えば、そう思う」(50.2%)を合わせると73.7%となり、平成27年度県調査結果に比べて5.6ポイント増加しており、職場環境の改善が徐々に図られているものと思われる。

図43. 自身の経験に照らして、以前に比べて女性が働きやすくなっていると思うか



これを性別で見ると、男性では「そう思う」(29.7%)と「どちらかと言えば、そう思う」(47.8%)を合わせると77.5%が女性が働きやすくなったとしているのに対し、女性では「そう思う」(17.5%)と「どちらかと言えば、そう思う」(52.5%)を合わせると70.0%で7.5ポイント低く、実感に差がみられる。

図44. 性別・自身の経験に照らして、以前に比べて女性が働きやすくなっていると思うか

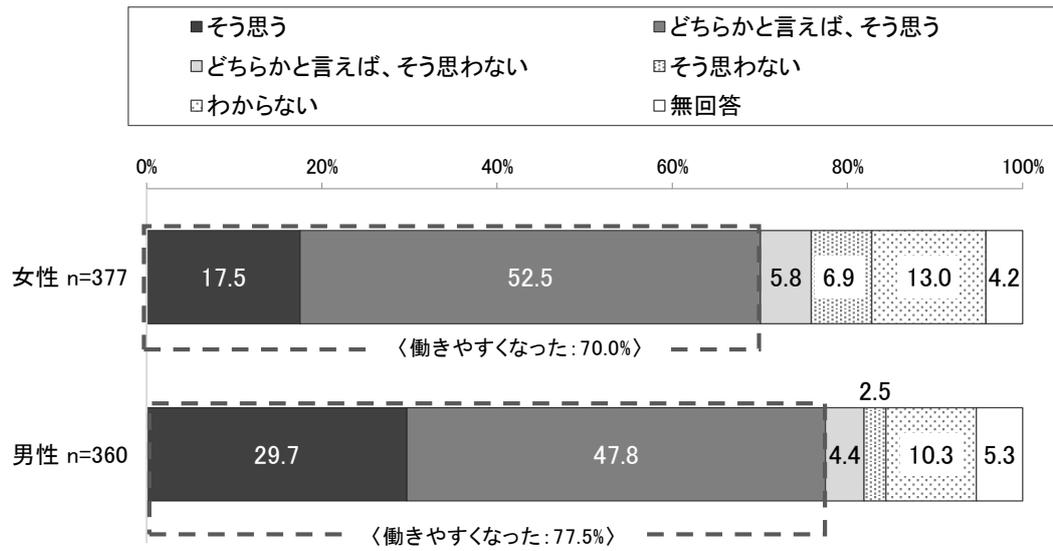
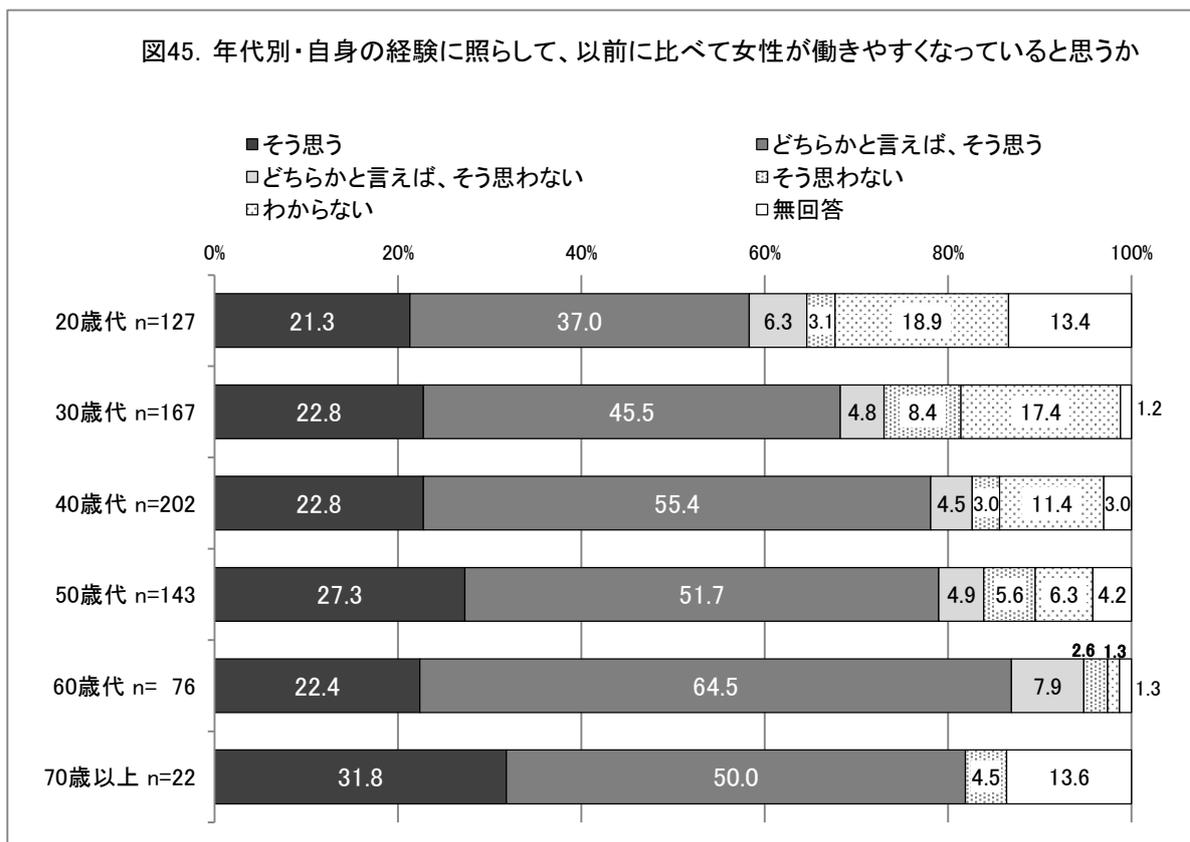


図45. 年代別・自身の経験に照らして、以前に比べて女性が働きやすくなっていると思うか

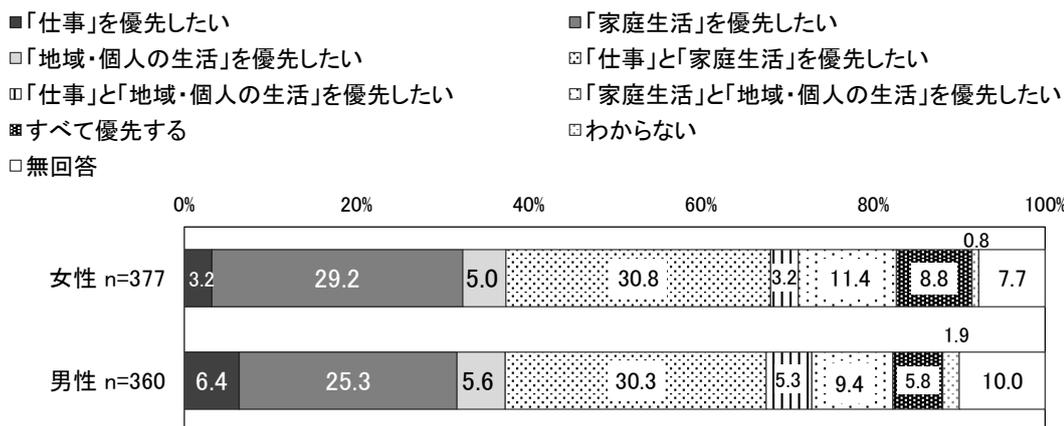


問 12 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。あなたの希望と現実(現状)に最も近いものをそれぞれ1つお答えください。

生活の中で優先したいことの希望について、性別で見ると、男女ともに「仕事と家庭生活を優先したい」がほぼ同率で最も高く、次に「家庭生活を優先したい」が続く、全体的に家庭生活を優先したいとする希望が多い。

性別での違いをみると、男性で「仕事を優先したい」が女性に比べて3.2ポイント高く、女性では「家庭生活を優先したい」が男性に比べて3.9ポイント高い。

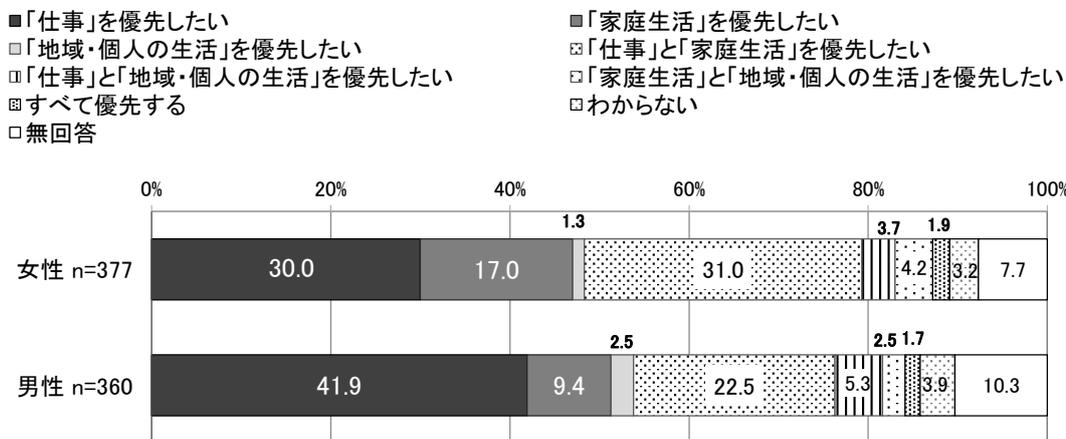
図46. 性別・「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で優先したいこと(希望)



生活の中で優先したいことの現実を性別で見ると、男性では「仕事を優先したい」が41.9%で最も高く、希望と大幅な違いがみられる。

女性では「仕事と家庭生活を優先したい」が最も高く、希望とほぼ同じ比率となっているが、次に「仕事を優先したい」が30.0%で続き、女性でも大幅な違いがみられる。これにより、「家庭生活を優先したい」は女性で29.2%から17.0%に低下し、男性では25.3%から9.4%に低下しており、希望と現実で違いがみられる。

図47. 性別・「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で優先したいこと(現実)



これを全体でみると、生活の中で優先したいことは、前述のように希望と現実で違いがみられ、「仕事を優先したい」については自身の希望では、4.7%に留まっているのに対し、現実では36.0%で最も高く、大きく異なっている。

また、「家庭生活を優先したい」は希望で27.3%を占めているが、現実では13.3%で約半分に留まっており、理想と現実のギャップがみられる。

図48. 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で優先したいこと

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- ▨「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- ▩「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい
- ▧すべて優先する
- 無回答
- 「家庭生活」を優先したい
- ▨「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- ▩「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい
- ▧わからない

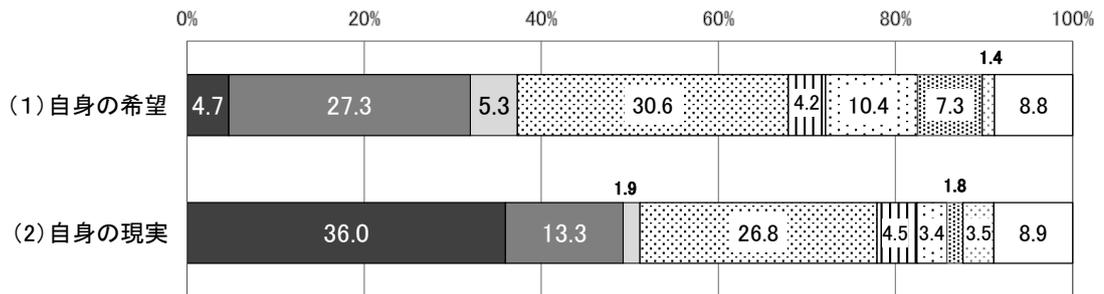
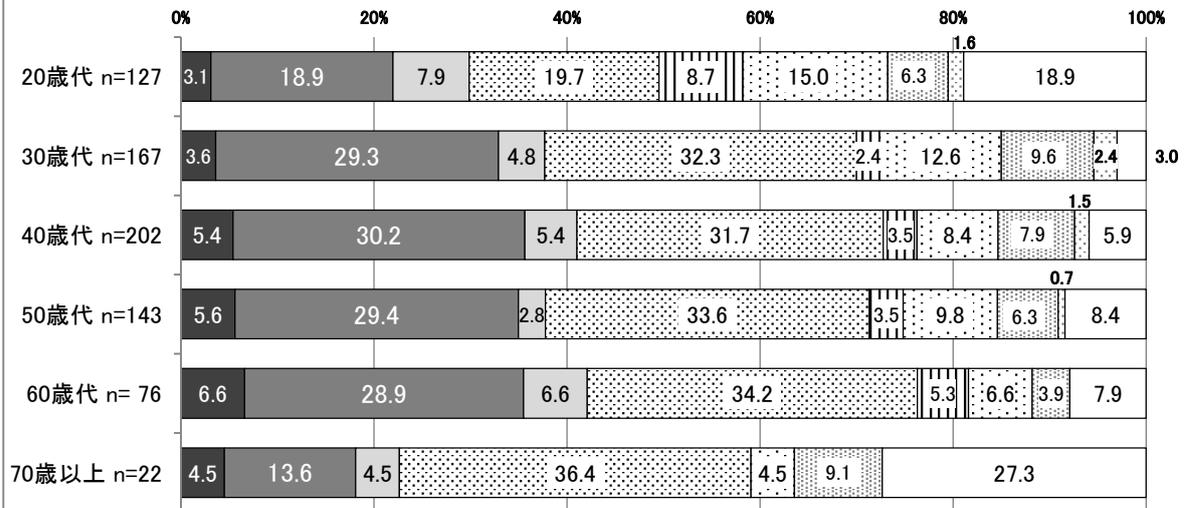


図49. 年代別・「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で優先したいこと

- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- ▨「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- ▩「仕事」と「地域・個人の生活」を優先したい
- ▧すべて優先する
- 無回答
- 「家庭生活」を優先したい
- ▨「仕事」と「家庭生活」を優先したい
- ▩「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先したい
- ▧わからない



【女性の方で、現在働いていない方(学生除く)への質問です(それ以外の方は、問16へ)】

問 13 あなたは、今後、働きたいとお考えですか (○は1つだけ)

現在、無職の方で「働きたい」と回答したのは、13.4%で、「働きたくない」が6.5%となっている。

単位：人 (%)

No.	今後の就労意向	件数	構成比
1	働きたい	31	13.4
2	働きたくない	15	6.5
3	どちらとも言えない	14	6.1
4	その他	7	3.0
	無回答	164	71.0
	合計	231	100.0

図50. 今後の就労意向

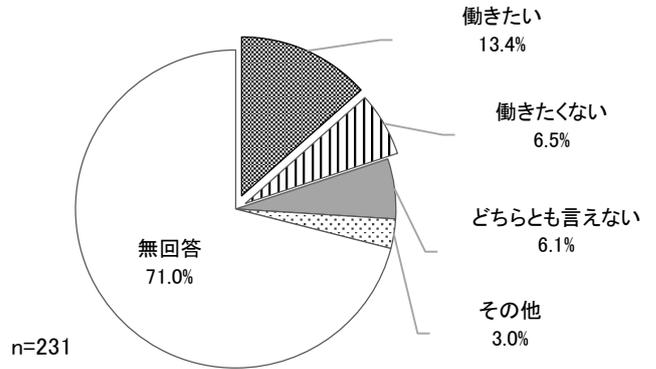
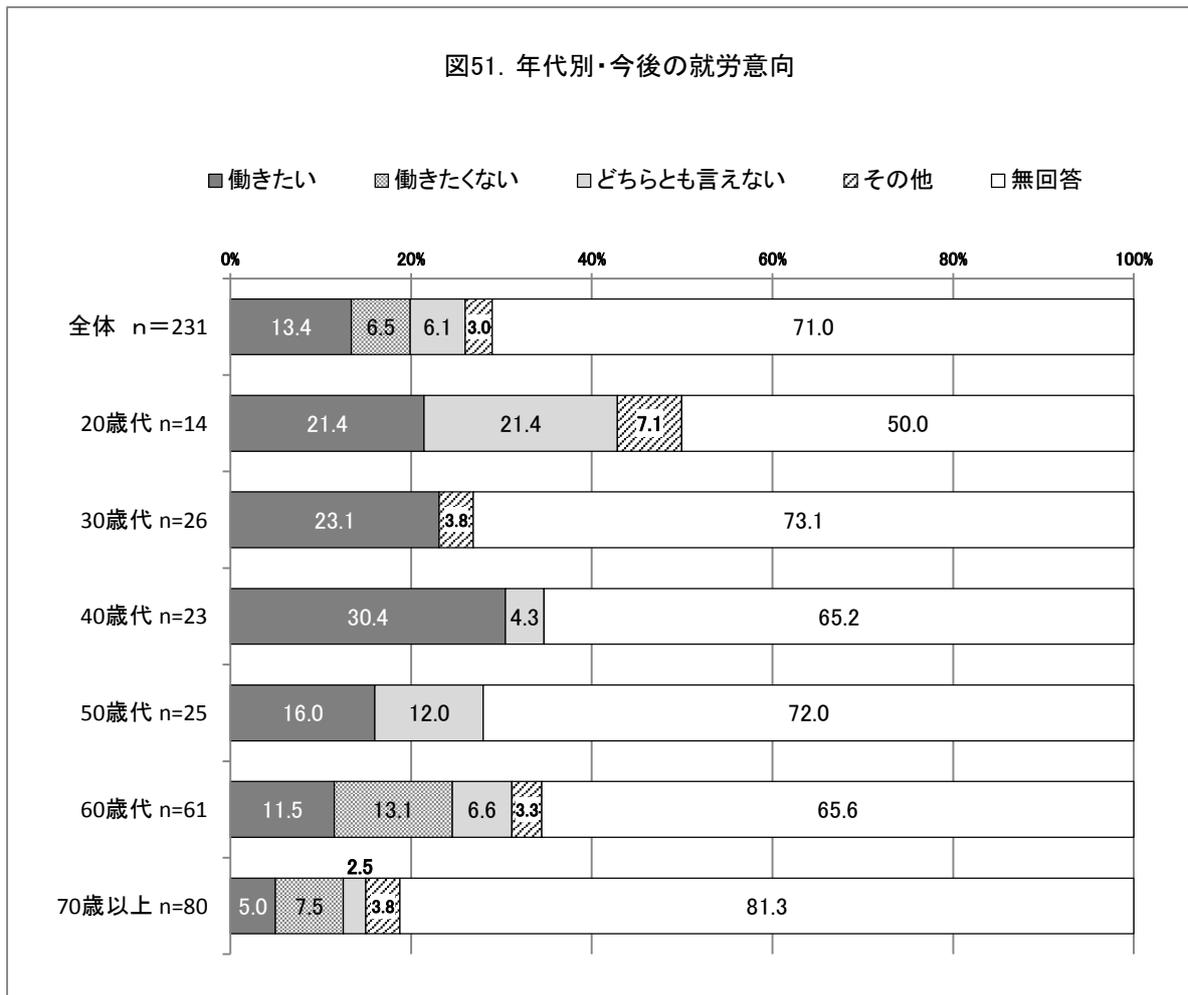


図51. 年代別・今後の就労意向



【問 13 で、「1. 働きたい」と回答した方にお聞きします】

問 13-1 働きたいが、現在働いていない理由は何ですか（〇はいくつでも）

働きたいが、現在働いていない理由で最も多いのは「仕事内容、勤務場所、勤務時間など、条件に合う働き口が見つからないため」の45.2%で、以下「仕事に必要な能力があるか不安なため」(29.0%)、「仕事と家庭の両立をうまくやっていく自信がないため」(25.8%)が続く。

図52. 働きたいが、現在働いていない理由

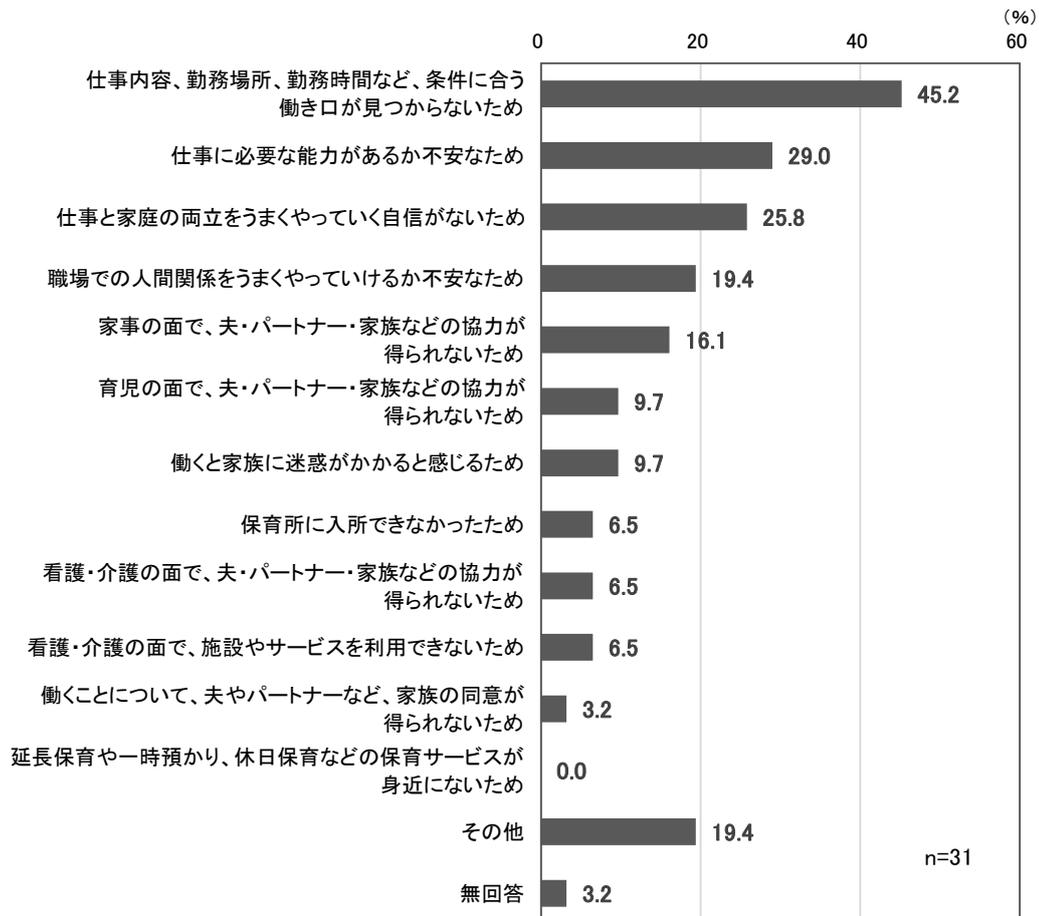
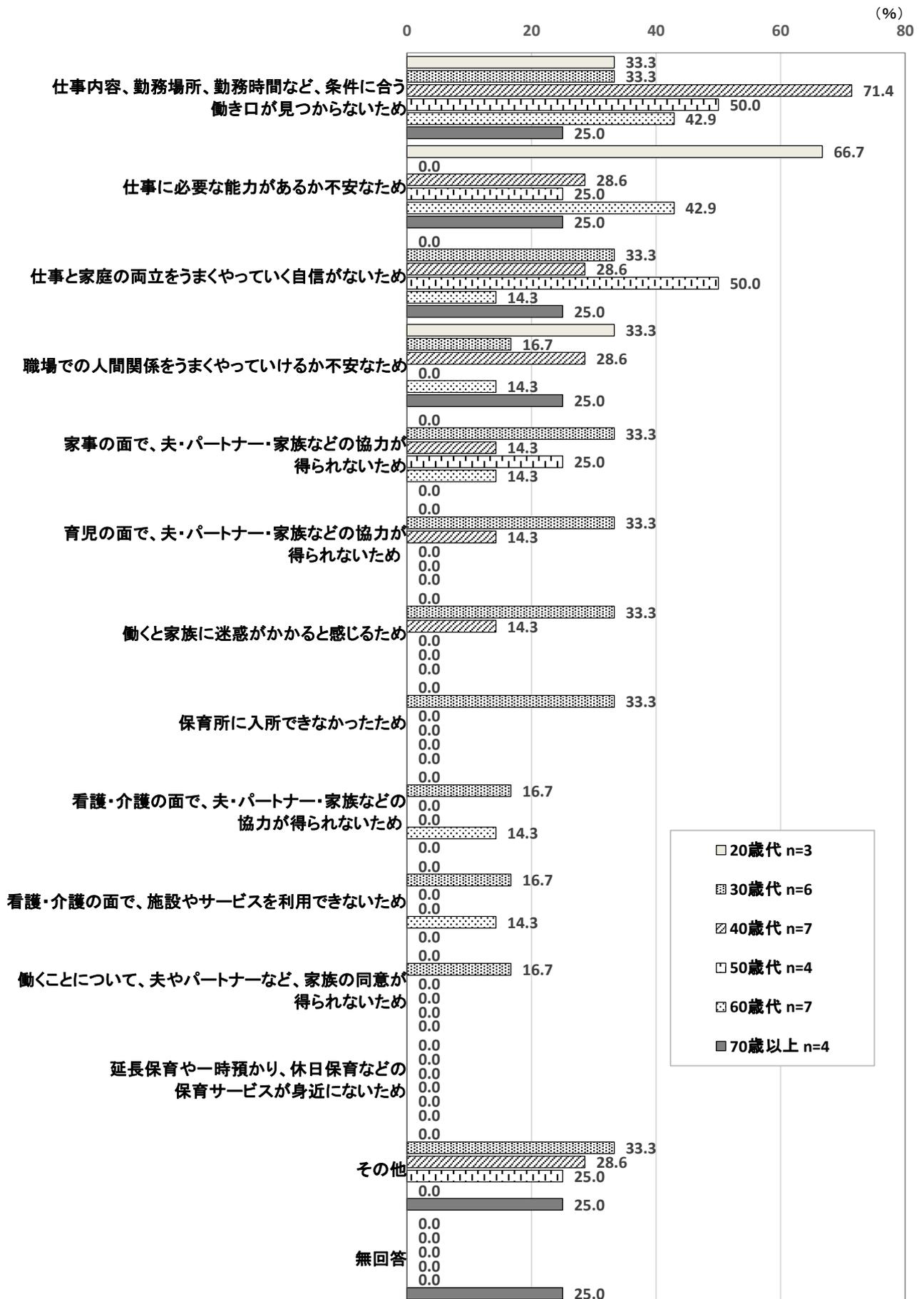


図53. 年代別・働きたいが、現在働いていない理由



【全員にお聞きします】

問 14 女性が仕事を続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか（〇は3つまで）

女性が仕事を続けるために必要だと思うことについて性別でみると、男女ともに「労働時間の短縮や休日を増やすなど、就業時間に柔軟性を持たせ、働きやすくする」が最も高く、次に「育児・介護のための休業制度や諸手当を充実させる」が続く。男性に比べ、女性の回答割合が高いのは、「家事・育児・介護は女性がになうものという社会の意識を変える」の14.7%で、男性の1.4倍となっている。

図54. 性別・女性が仕事を続けるために必要なこと

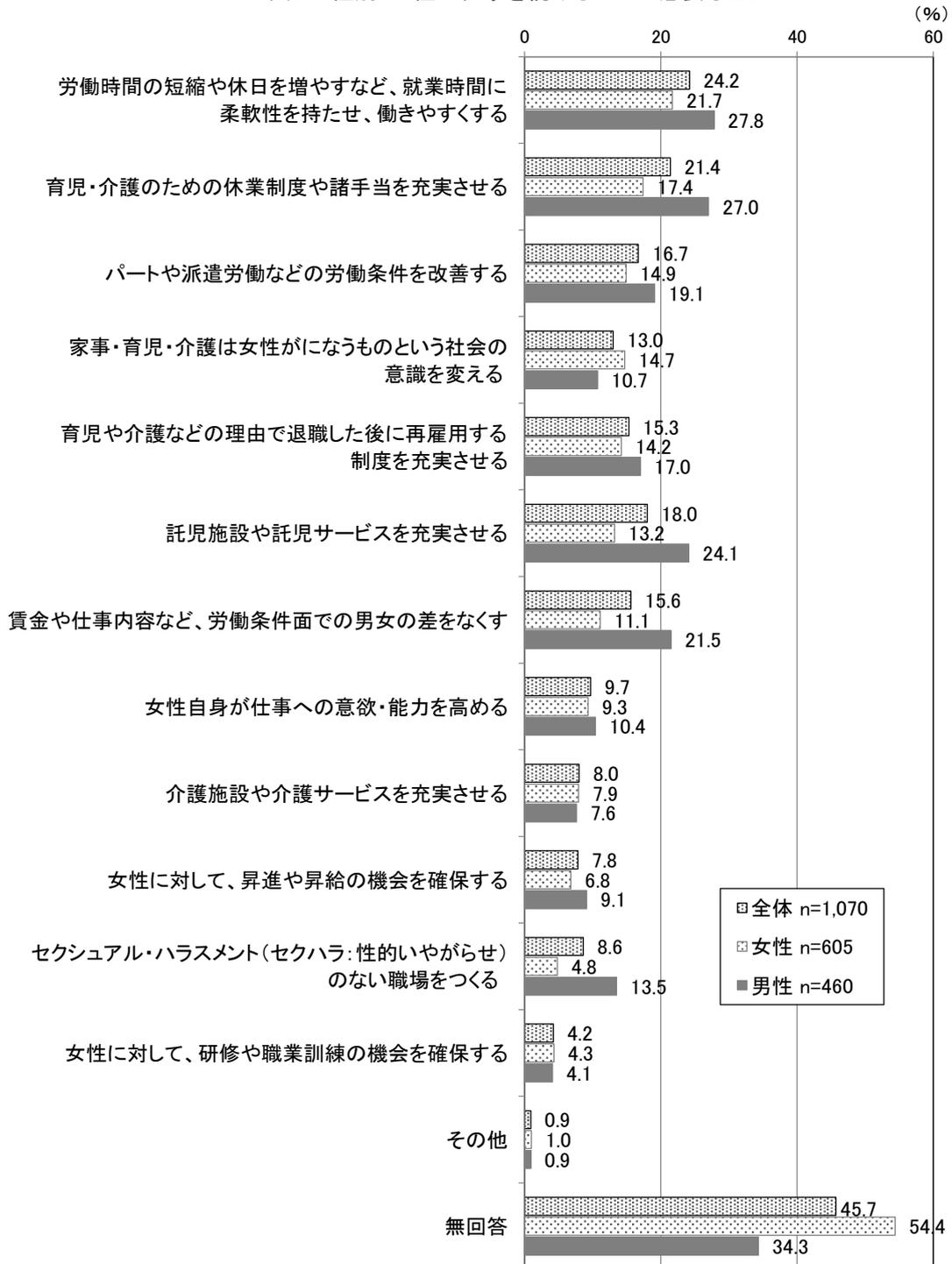
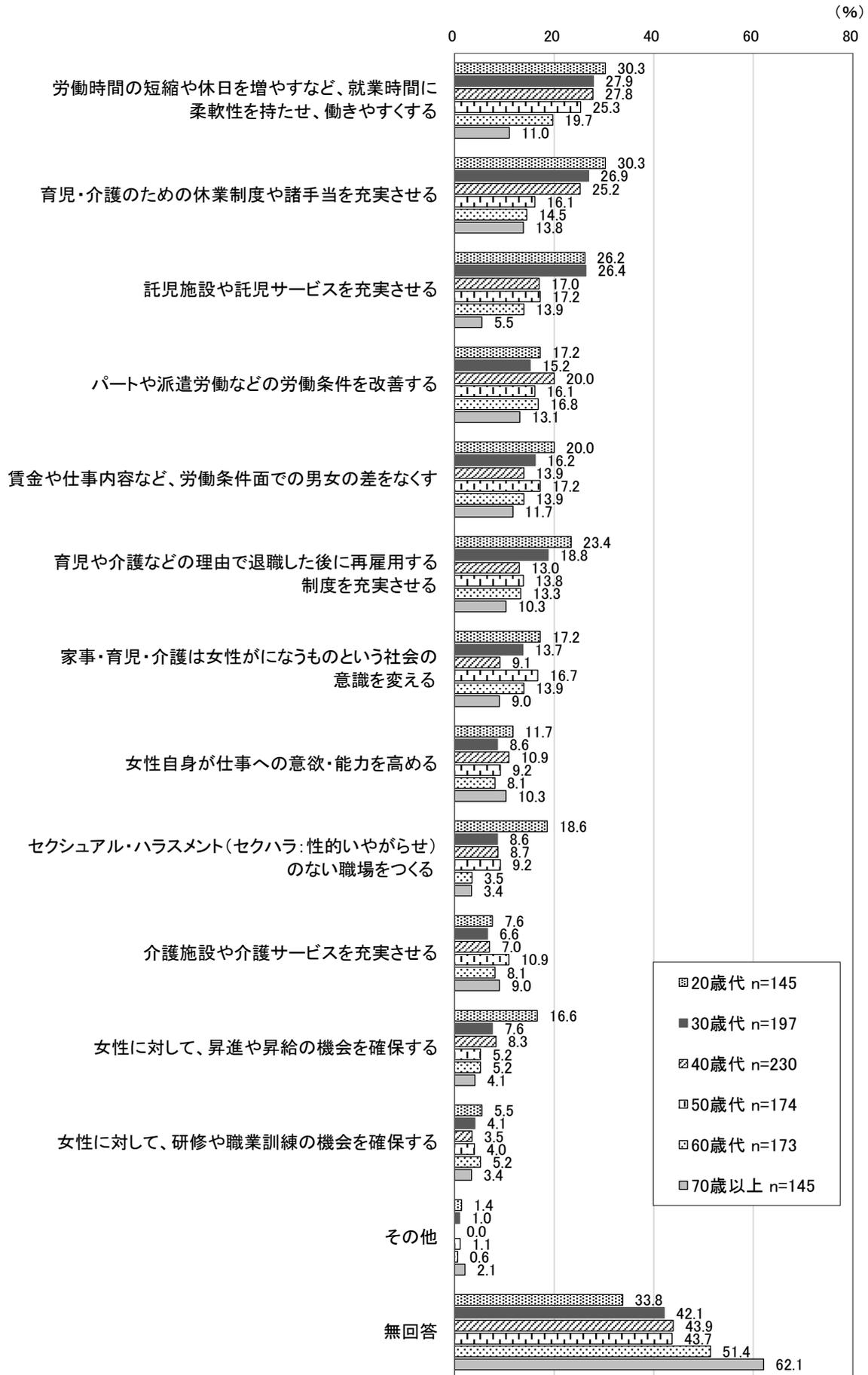


図55. 年代別・女性が仕事を続けるために必要なこと



問 15 出産・子育て・介護などの理由で仕事を辞めた女性が再就職するには、どのようなことが必要だと思いますか（〇は3つまで）

質問に対し、回答のあった766人の集計結果をみると、性別による極端な差はみられない。最も多いのが「育児・介護などの理由で退職した後でも、希望すれば元の職場に復帰できる制度の普及」で、以下「労働時間の短縮やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度の導入」、「夫・パートナーなど、家族の理解や家事・育児・介護などへの協力」と続く。

性別で見ると、女性で「労働時間の短縮やフレックスタイム制など、柔軟な勤務制度の導入」と「育児や介護のための施設やサービスの充実」の割合が高い。

図56. 性別・出産・子育て・介護などの理由で仕事を辞めた女性が再就職するのに必要なこと

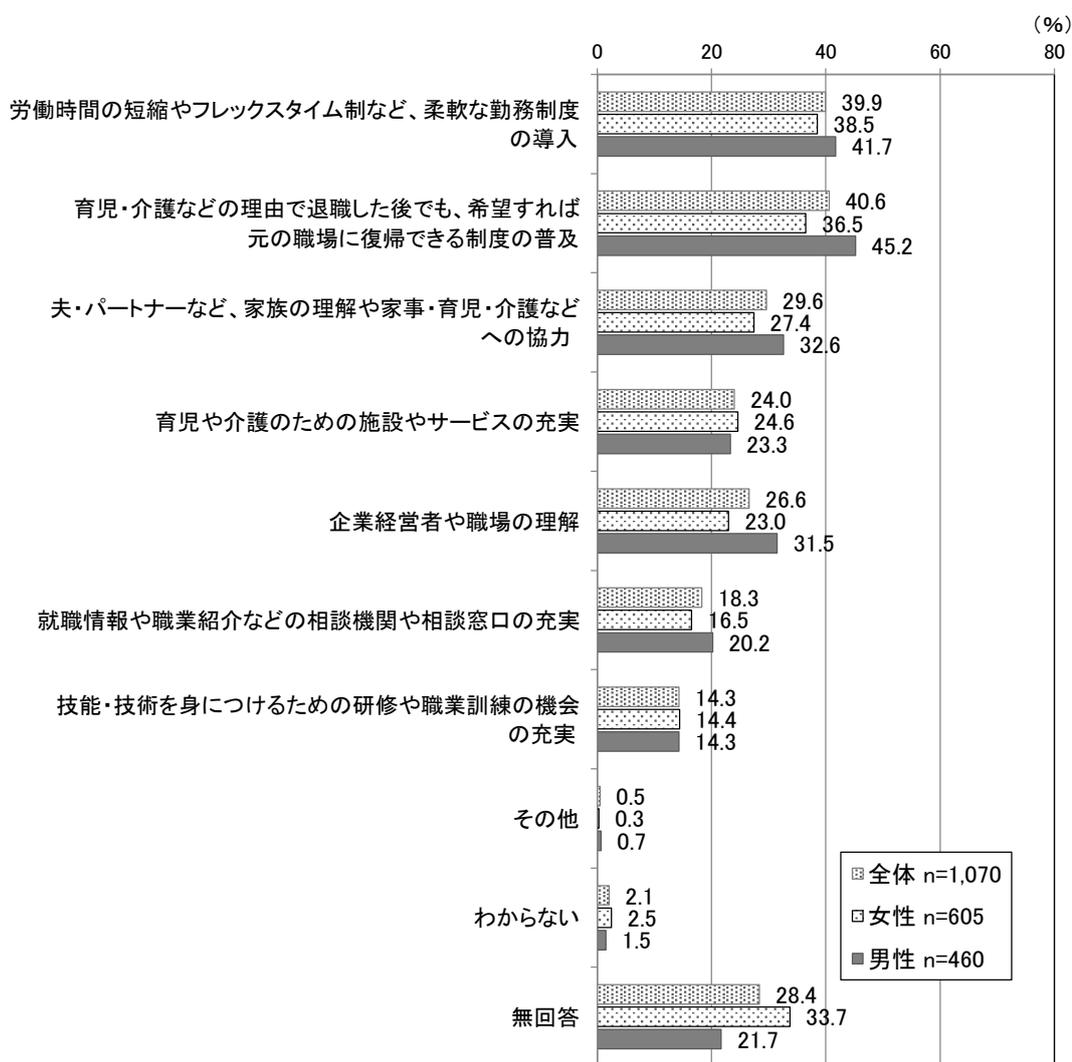
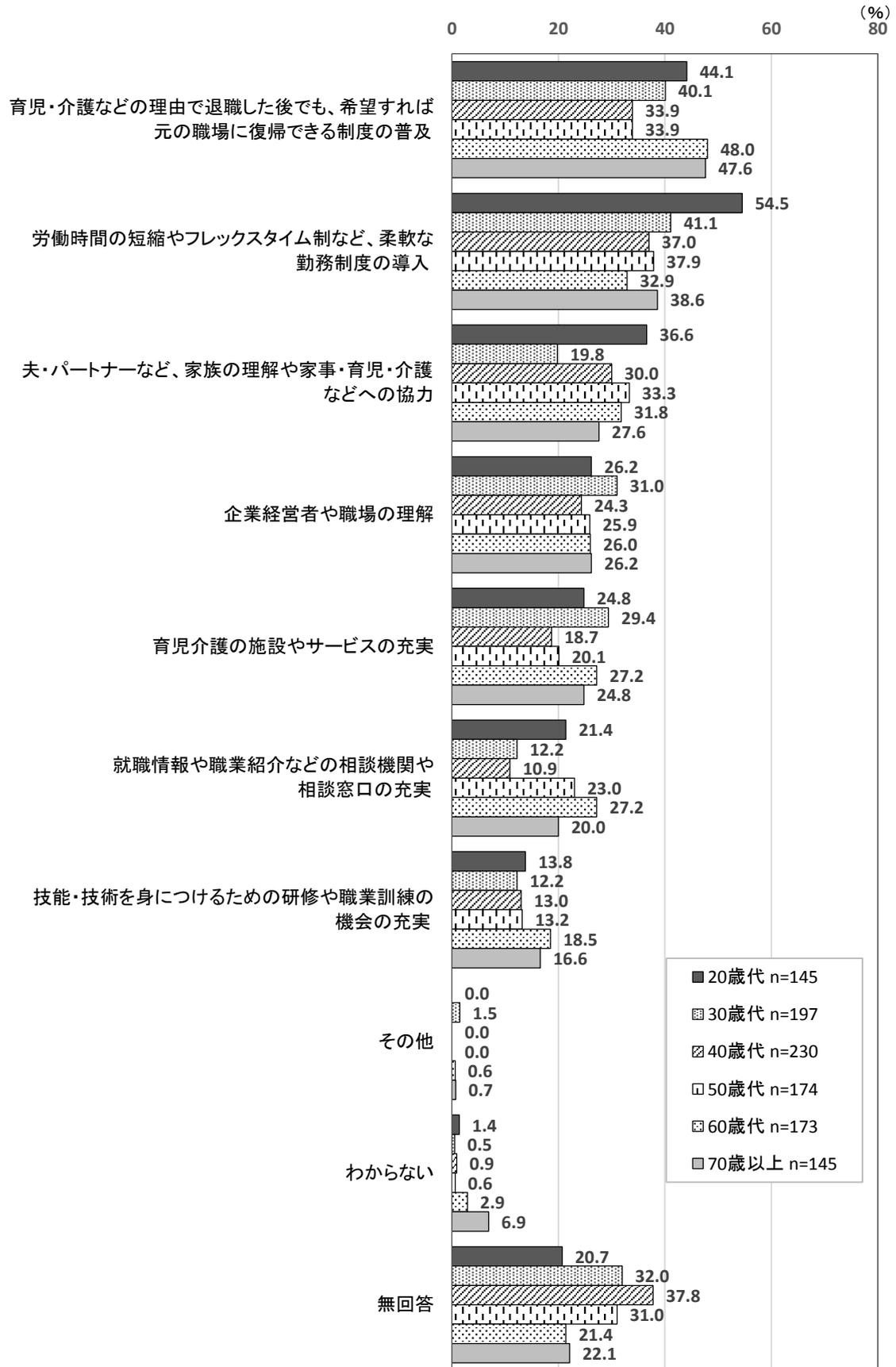


図57. 年代別・出産・子育て・介護などの理由で仕事を辞めた女性が再就職するのに必要なこと



(4) 老後の生活について

問 16 あなたは、老後をどのように暮らしたいですか（○は1つだけ）

老後にどのように暮らしたいかの回答で、最も多いのは「家族や身内と暮らしたい」の37.9%で、次に「夫婦（パートナー）だけで暮らしたい」の27.1%と続く。

これを性別でみると、女性で「家族や身内と別に生活するが、近所に住みたい」が男性に比べて高い。

図58. 老後をどのように暮らしたいかについて

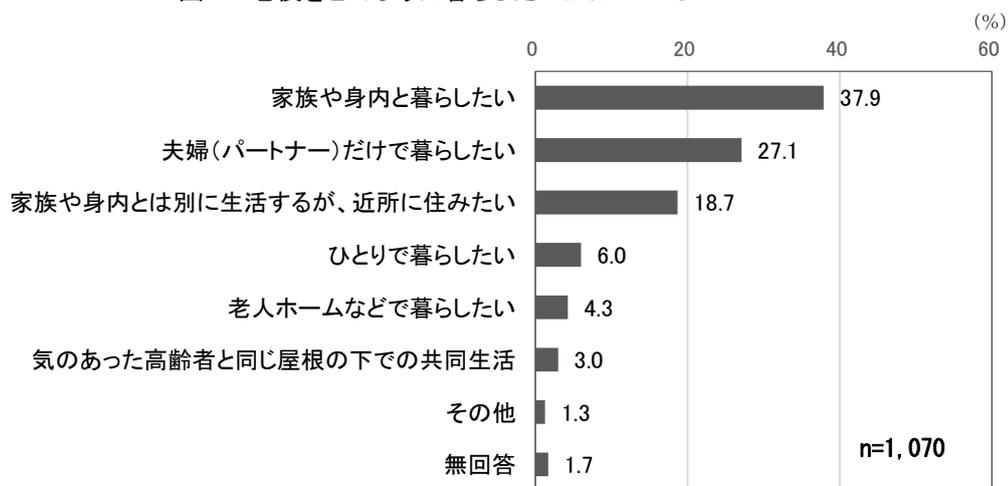


図59. 性別・老後をどのように暮らしたいかについて

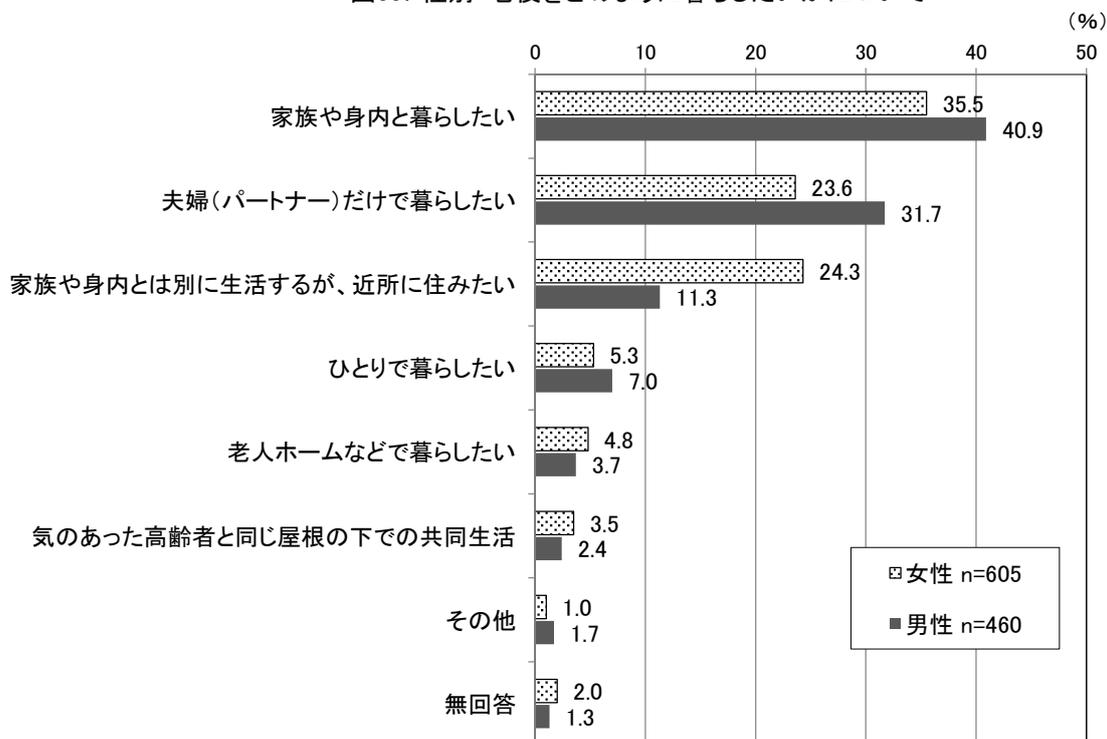
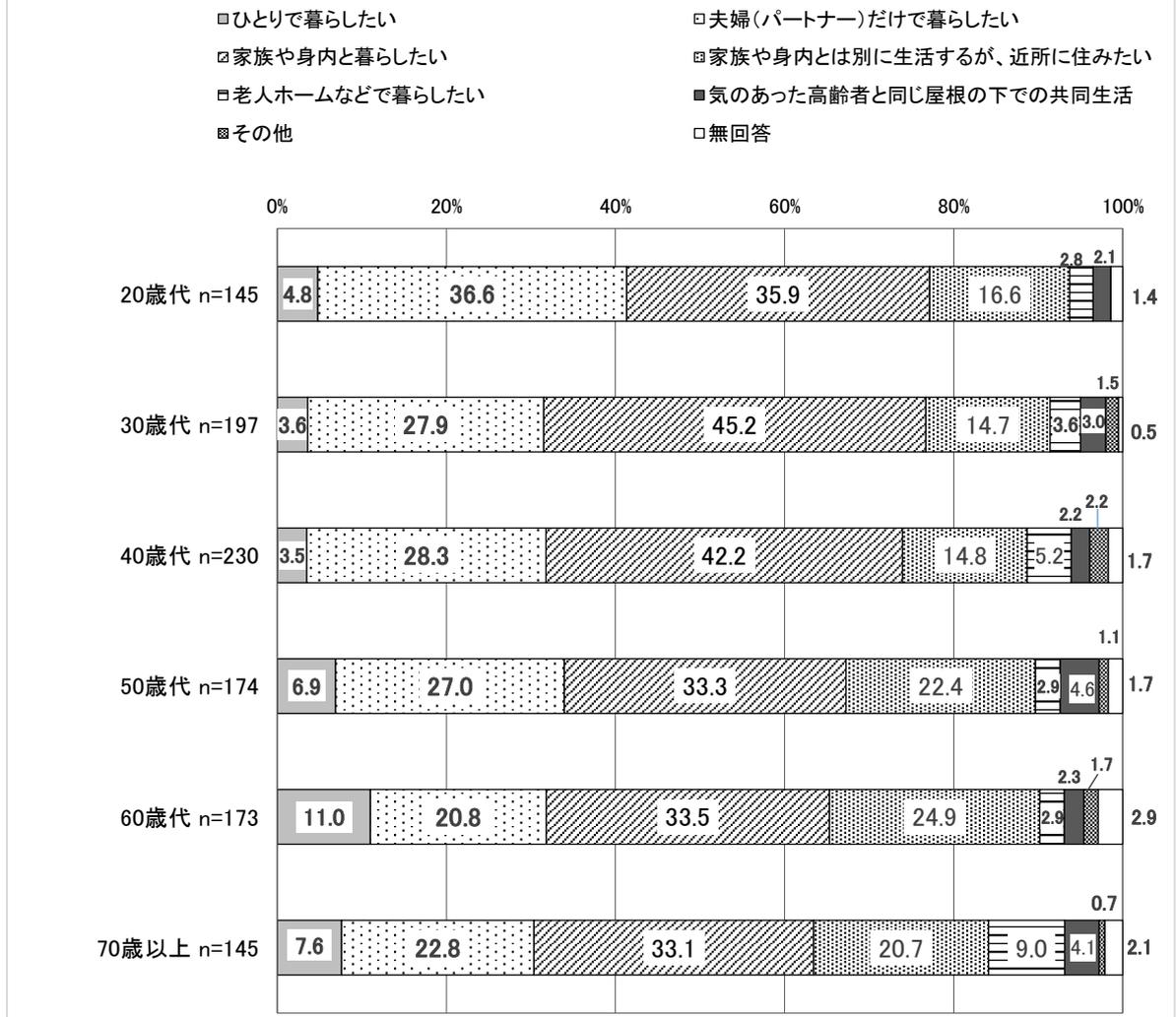


図60. 年代別・老後をどのように暮らしたいかについて



問 17 あなたの老後の不安や悩みは何ですか（○は3つまで）

老後の不安や悩みについては「健康のこと」（67.5%）と「生活費のこと」（67.2%）がほぼ同率で特に高い。以下「配偶者（パートナー）に先立たれること」（31.9%）、「安心して住み続ける住宅がないこと」（17.9%）が続く。

性別で見ると、女性は「生活費のこと」（71.1%）が最も高く、次に「健康のこと」（67.3%）となっており、男性と順位に違いがみられる。

図61. 老後の不安や悩みについて

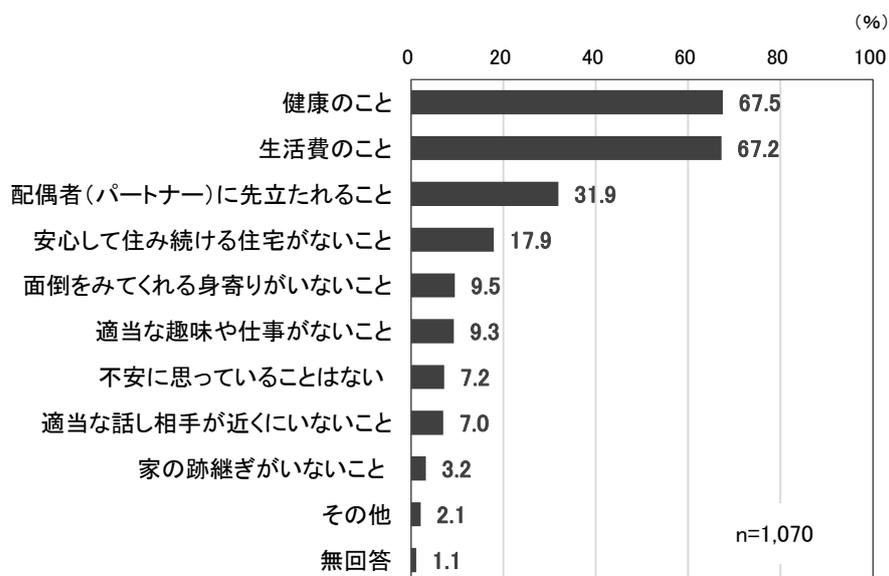


図62. 性別・老後の不安や悩みについて

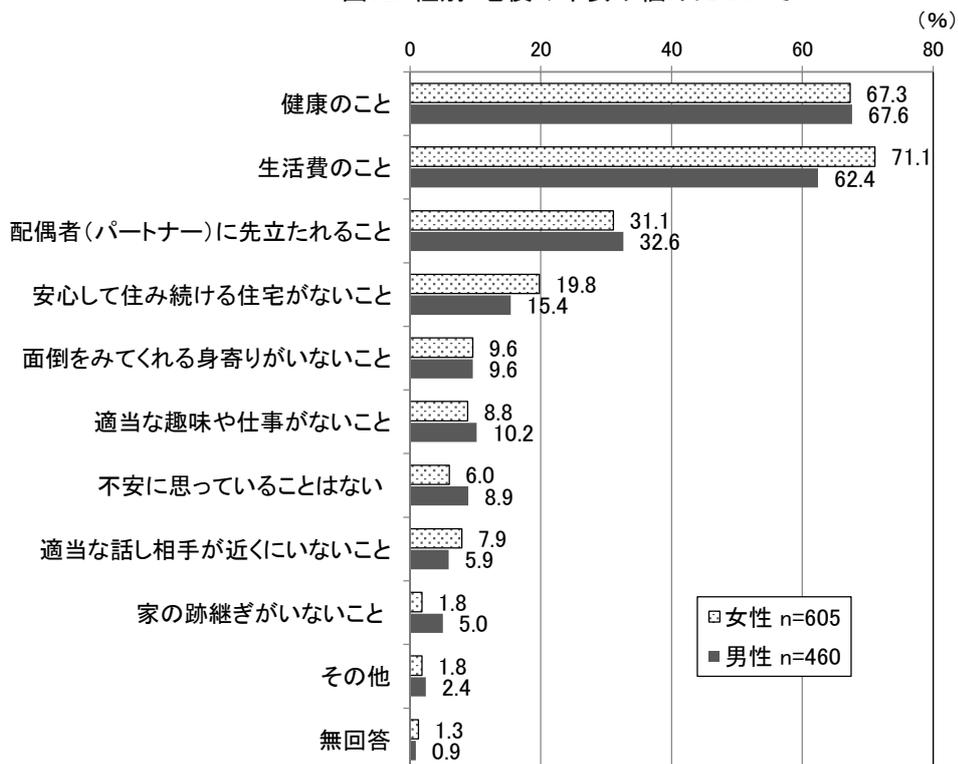
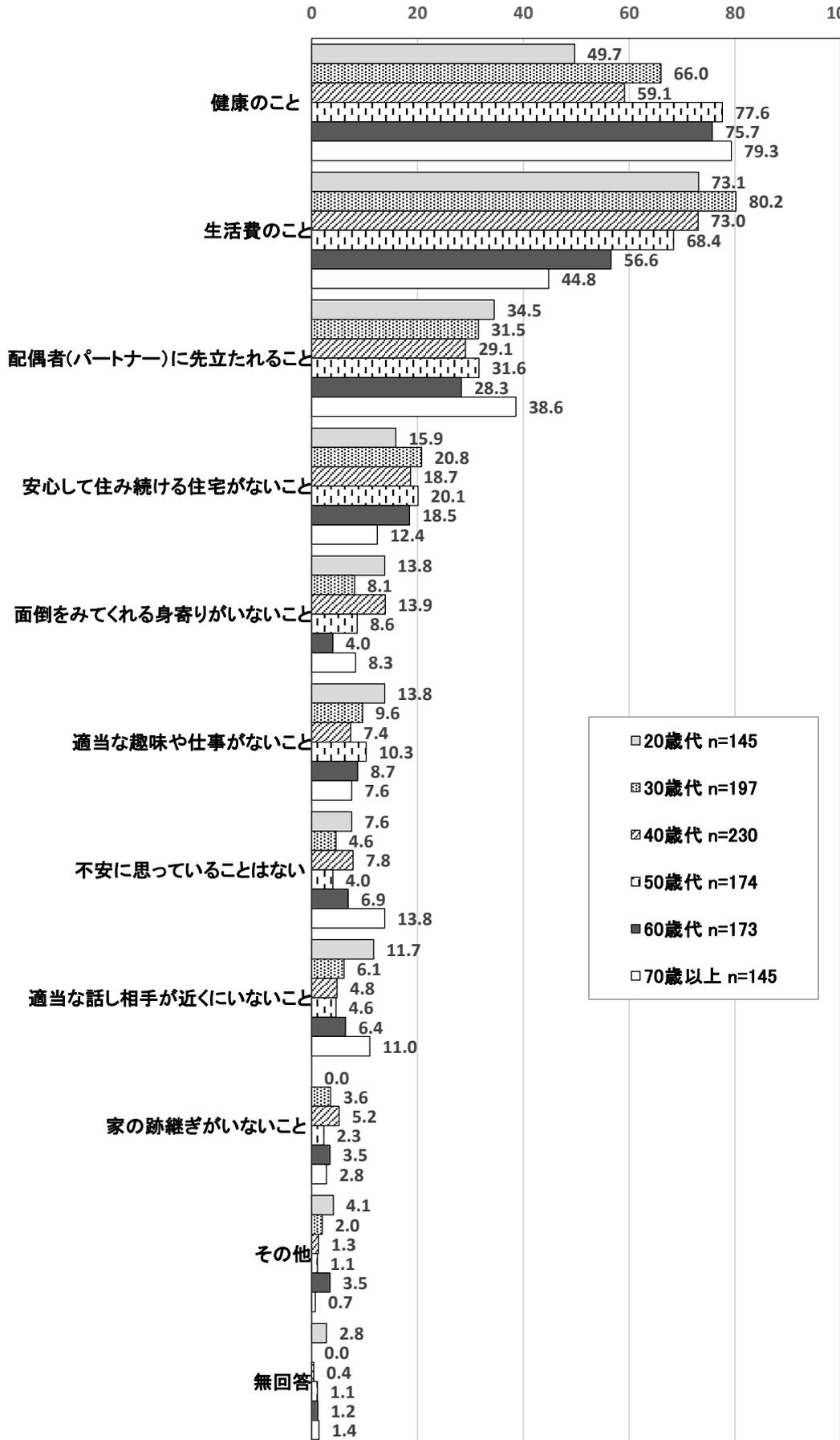


図63. 年代別・老後の不安や悩みについて

(%)
100



問 18 あなたは、高齢者の介護支援について、どのようにお考えですか(○は1つだけ)

高齢者の介護支援についての考えを全体でみると、「家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある」が53.2%で特に高い。

2位は「基本的には家族が行うことではあるが、社会がある程度支援する必要がある」(24.3%)、3位に、「家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである」(18.6%)が続き、社会が支援する必要があるとの回答は全体の96.1%を占める。

これを、性別でみると、女性96.5%、男性95.4%と大差なく、回答者のほとんどは、介護支援について、社会の支援が必要だとしている。

図64. 性別・高齢者の介護支援についての考え

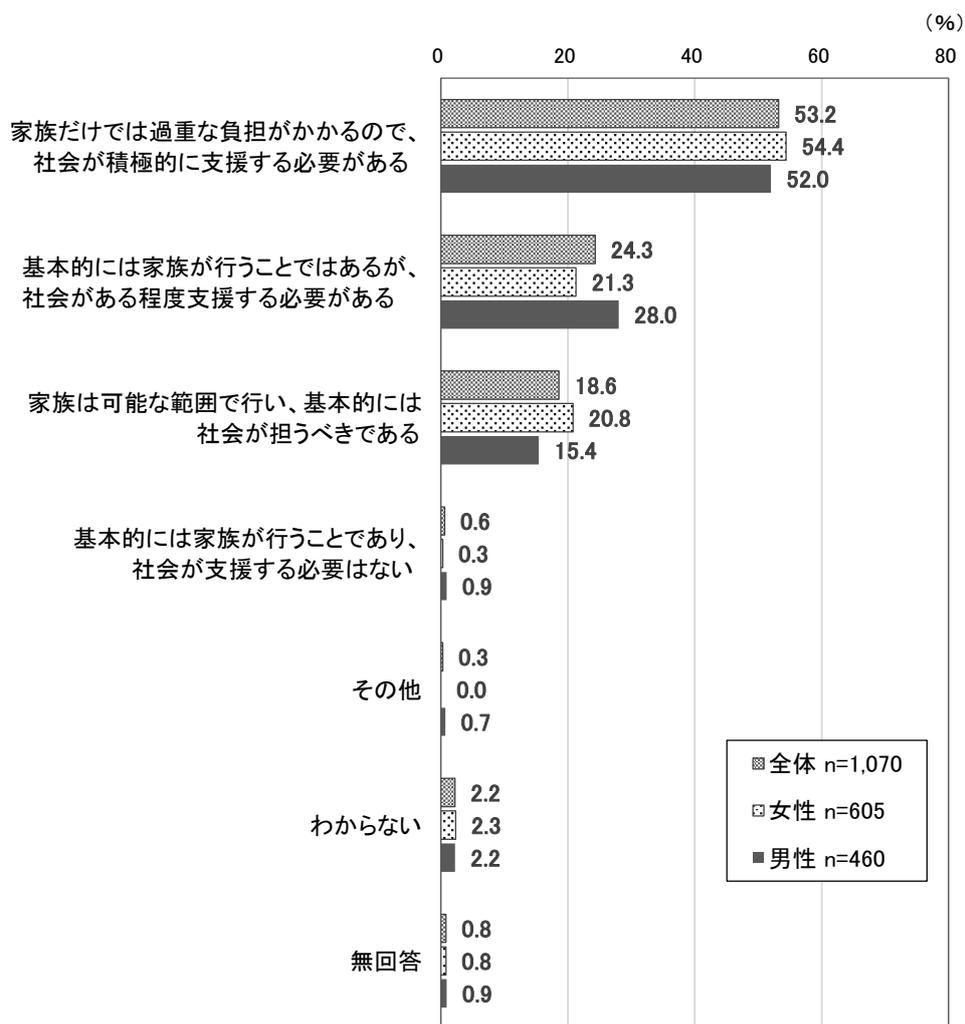
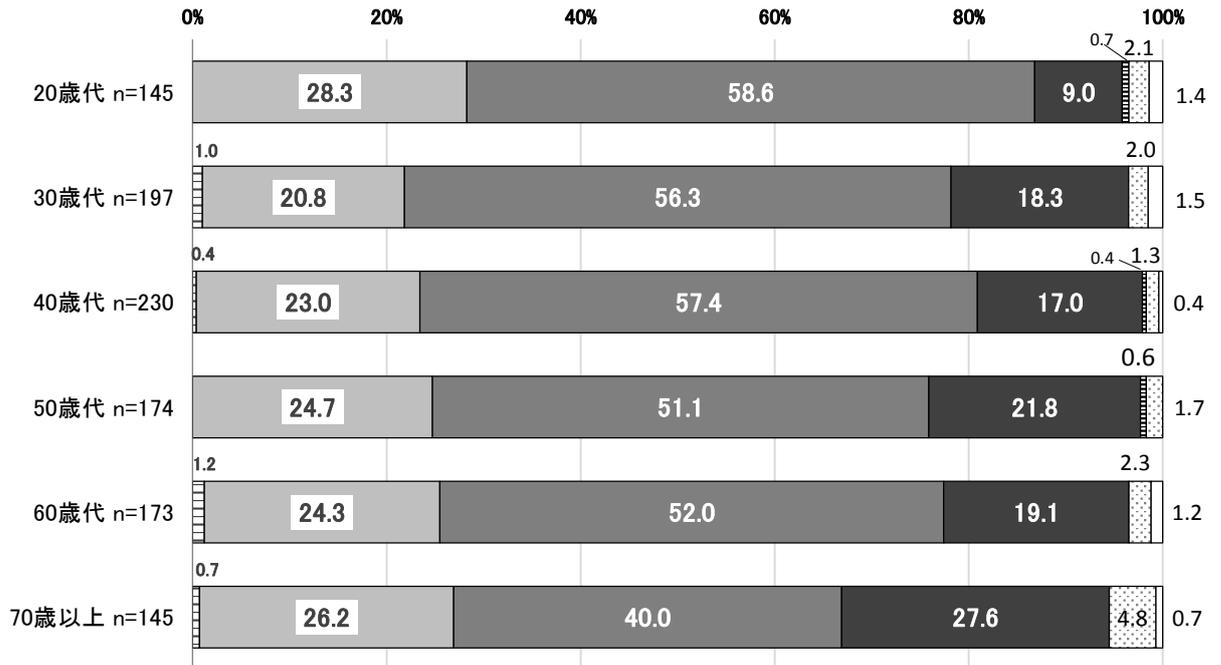


図65. 年代別・高齢者の介護支援についての考え方

- 基本的には家族が行うことであり、社会が支援する必要はない
- 家族だけでは過重な負担がかかるので、社会が積極的に支援する必要がある
- ▨ その他
- 無回答
- 基本的には家族が行うことではあるが、社会がある程度支援する必要がある
- 家族は可能な範囲で行い、基本的には社会が担うべきである
- わからない



問 19 現在、ご家族に介護が必要な方がおられる場合、主に誰が介護していますか(○は1つ)

家族の要介護者を主に介護している人を全体で見ると、当事者である「あなた自身」が7.0%で最も多く、次に「配偶者・パートナー」(6.7%)となっている。

これを性別で見ると、「あなた自身」では女性が8.4%に対し、男性が5.2%、次に「配偶者・パートナー」では女性が4.8%に対し、男性では8.7%となっており、女性(妻)が介護を行っている割合が高い。

そのほかにも、主に介護している人を全体で見ると、「男の子ども」が1.5%に対し、「女の子ども」は2倍強の3.8%となっており、ここでも女性が家族の介護を行っている割合が高いことが分かる。

図66. 性別・家族の要介護者を主に介護している人

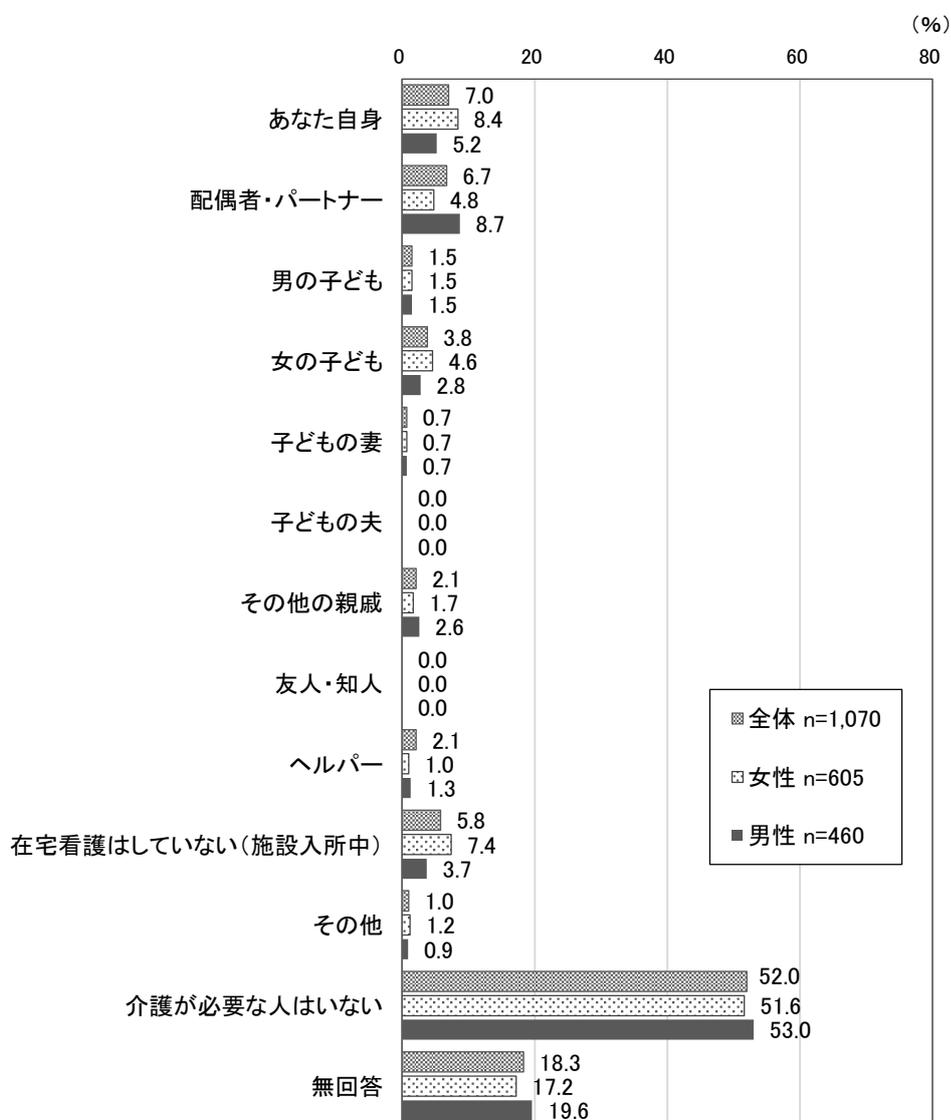
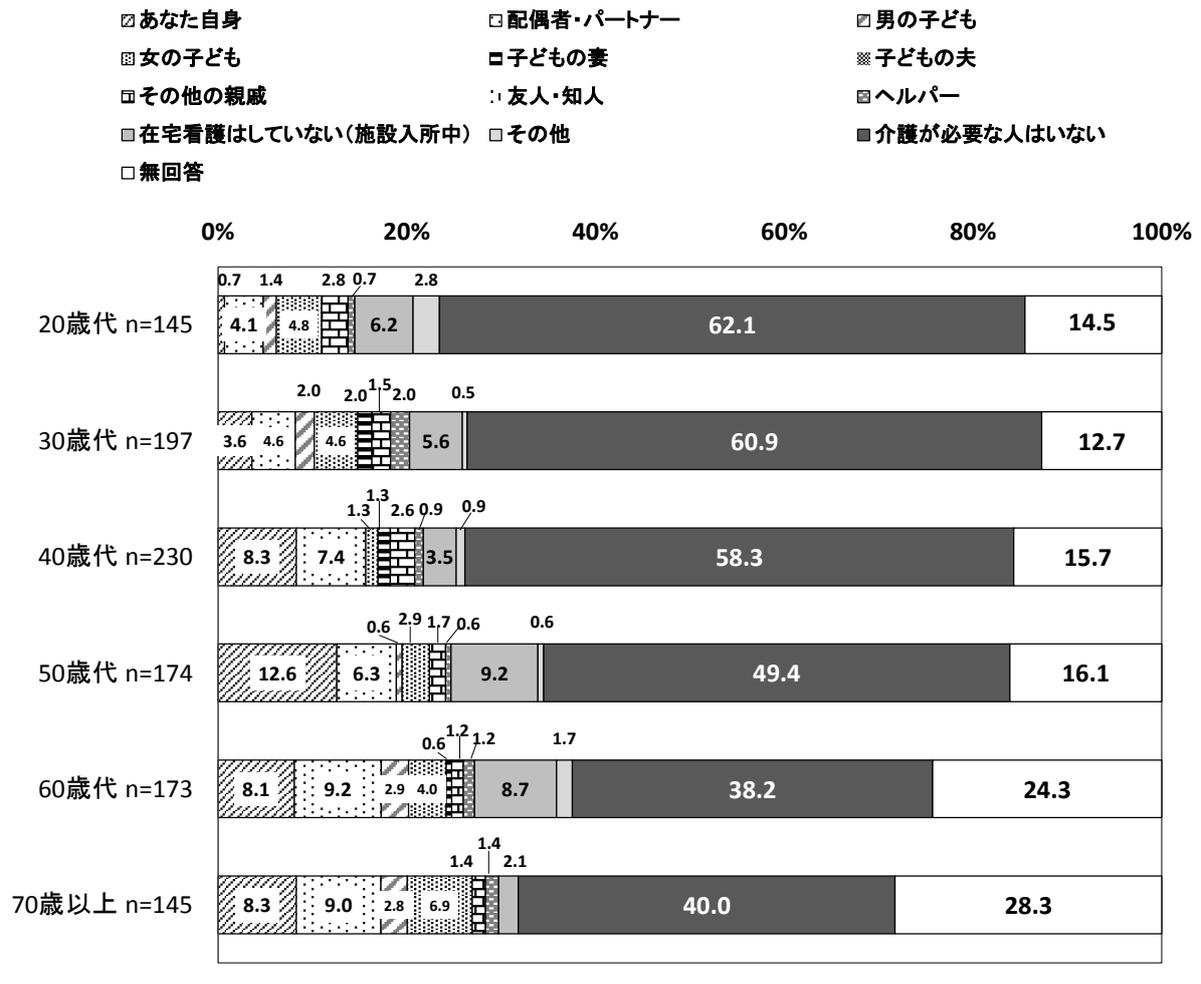


図67. 年代別・家族の要介護者を主に介護している人



問 20 あなた自身、介護が必要となったとき、誰に介護されたいですか(○は1つだけ)

自身の介護が必要となったときに誰に介護されたいかをみると、「老人ホームなどの施設介護」が 35.0%で最も高く、以下「配偶者・パートナー」(27.9%)、「ホームヘルパー」(15.0%)と続き、身内よりも介護サービスの利用意向が高い。この結果から、自身の介護で身内に負担をかけたくないとする意識が垣間みられる。

これを性別で見ると、男性では「配偶者・パートナー」が 40.2%で最も高く、妻やパートナーへの依存度が高いが、女性は男性の半分以下の 18.5%となっている。「自分の娘」に対する介護の希望は、女性で 18.0%に対し、男性は 3.0%にとどまる。

図68. 自身の介護をしてほしい人

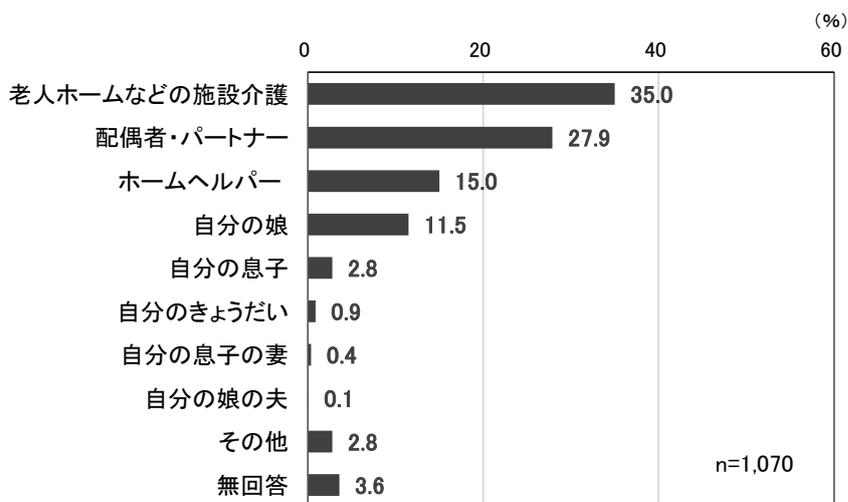


図69. 性別・自身の介護をしてほしい人

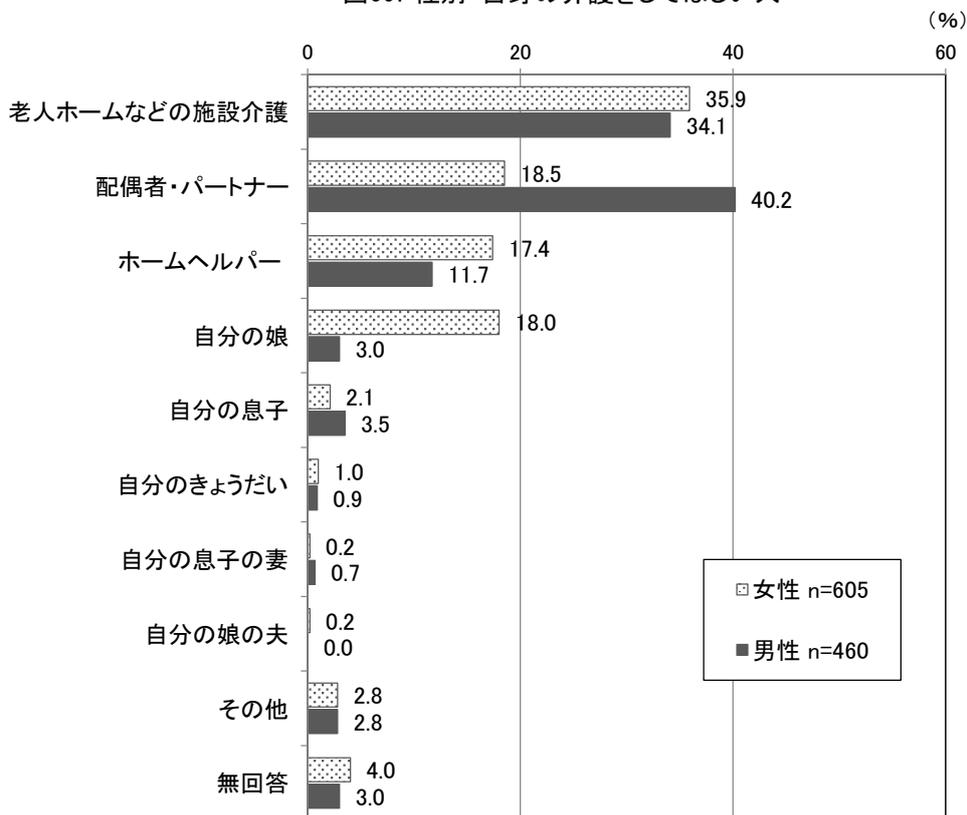
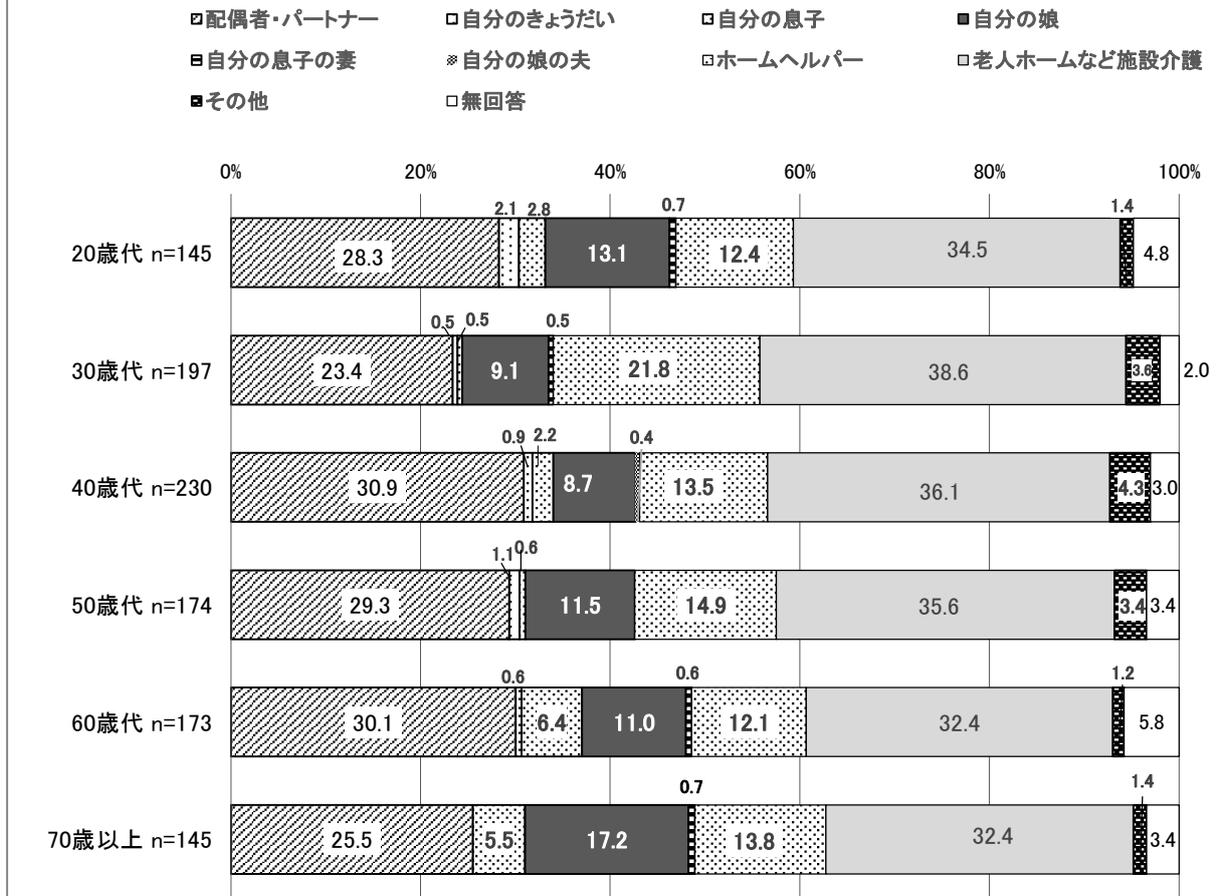


図70. 年代別・介護してもらいたい人



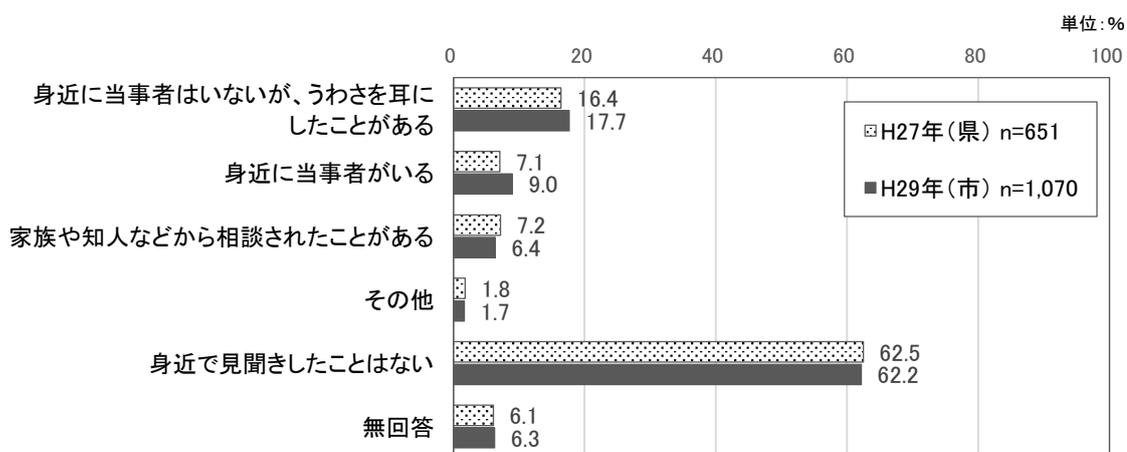
(5) 配偶者等からの暴力について

問 21 あなたは、配偶者（事実婚や別居中、元配偶者も含む）・パートナーや交際相手からの暴力について、身近で見聞きしたことがありますか（〇はいくつでも）

平成 29 年の市の調査では、「身近で見聞きしたことはない」（62.2%）が最も多く、次いで「身近に当事者はいないが、うわさを耳にしたことがある」（17.7%）、「身近に当事者がいる」（9.0%）、「家族や知人などから相談されたことがある」（6.4%）の順となっている。これによると、配偶者などからの暴力について、回答者の 2 割近くが「見聞きしたことがある」としている。

これを平成 27 年の県調査結果と比較すると、ほぼ同じ回答割合となっている。

図71. 配偶者・パートナー等からの暴力について、身近で見聞きした経験(H27年県調査結果比較)



これを性別で見ると「うわさを耳にしたことがある」をはじめ、「身近に当事者がいる」、「家族や知人などから相談された」など、女性の回答割合は男性に比べて高い。

図72. 性別 配偶者・パートナー等からの暴力について、身近で見聞きした経験

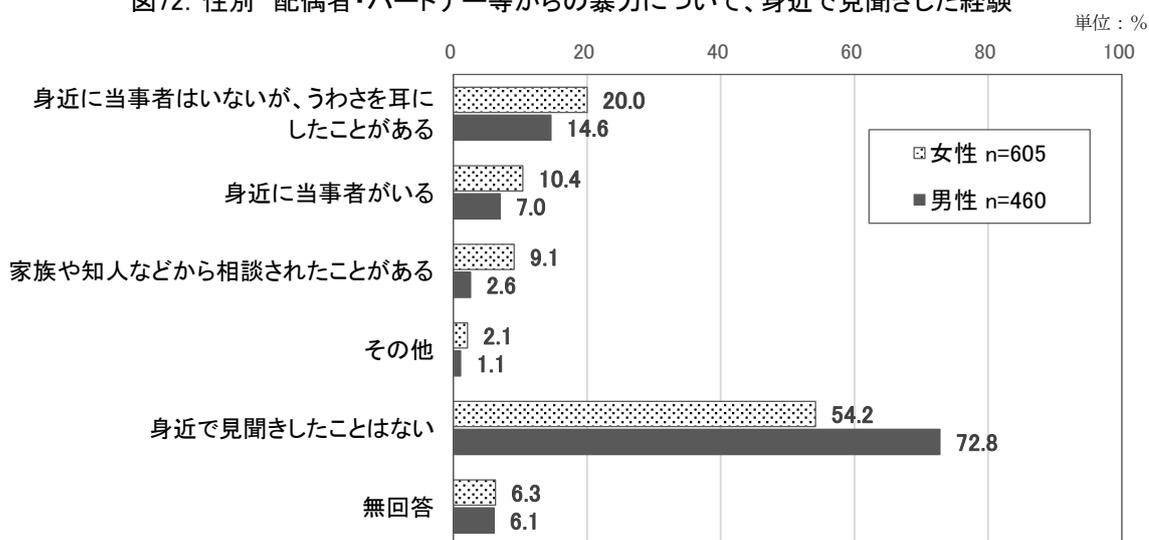
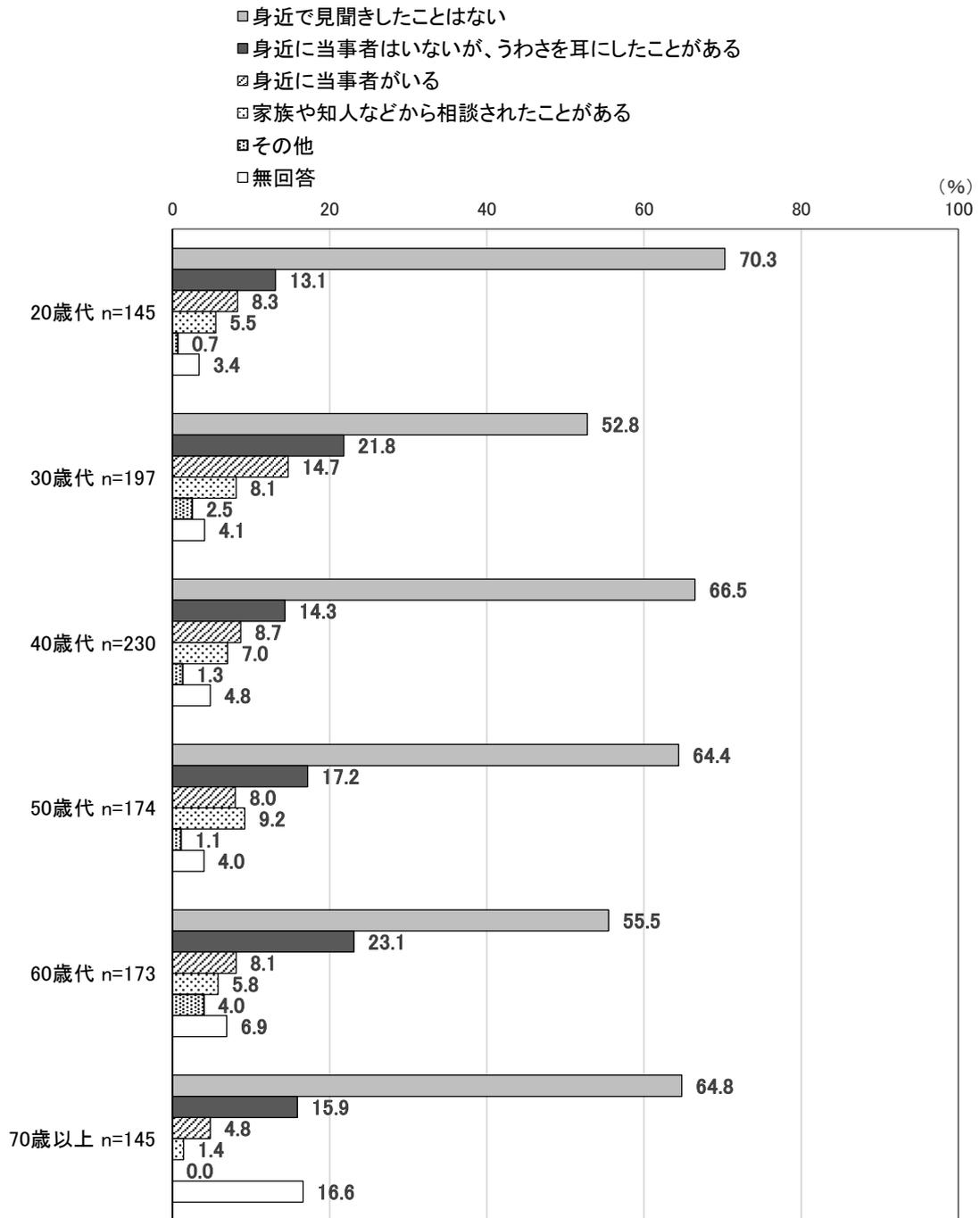


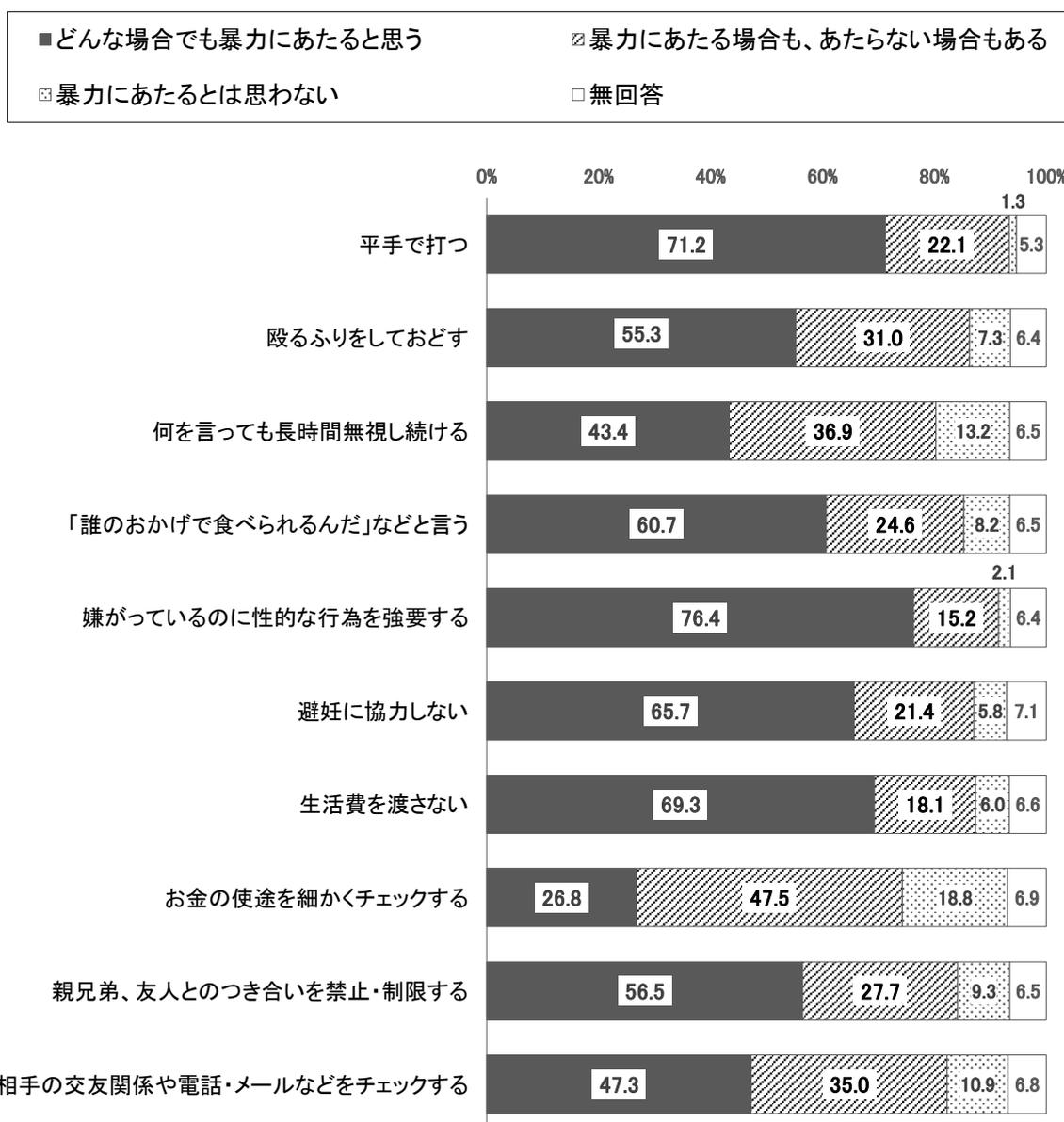
図73. 年代別 配偶者・パートナー等からの暴力について、身近で見聞きした経験



問 22 あなたは、夫婦、パートナーや恋人の間で、次にあげるア～コのようなことがあった場合、それを暴力だと思えますか。あなたのお考えに近いものを1つずつ選んでください。

夫婦やパートナーなどの間でDVとされる行為についての認識度をみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が最も高いのは『嫌がっているのに性的な行為を強要する』の76.1%で、以下『平手で打つ』(71.2%)、『生活費を渡さない』(69.3%)となっている。

図74. 夫婦、パートナーや恋人の間で次のようなことがあった場合、暴力だと思うか



夫婦やパートナーなどの間でDVとされる行為について「どんな場合でも暴力にあたると思う」について性別でみると、全体的に女性の回答割合がやや高い。

特に女性に比べて男性の回答割合が低いのは『お金の用途を細かくチェックする』、『親兄弟との付き合いを禁止・制限する』など身体的暴力以外の行為で差がみられる。

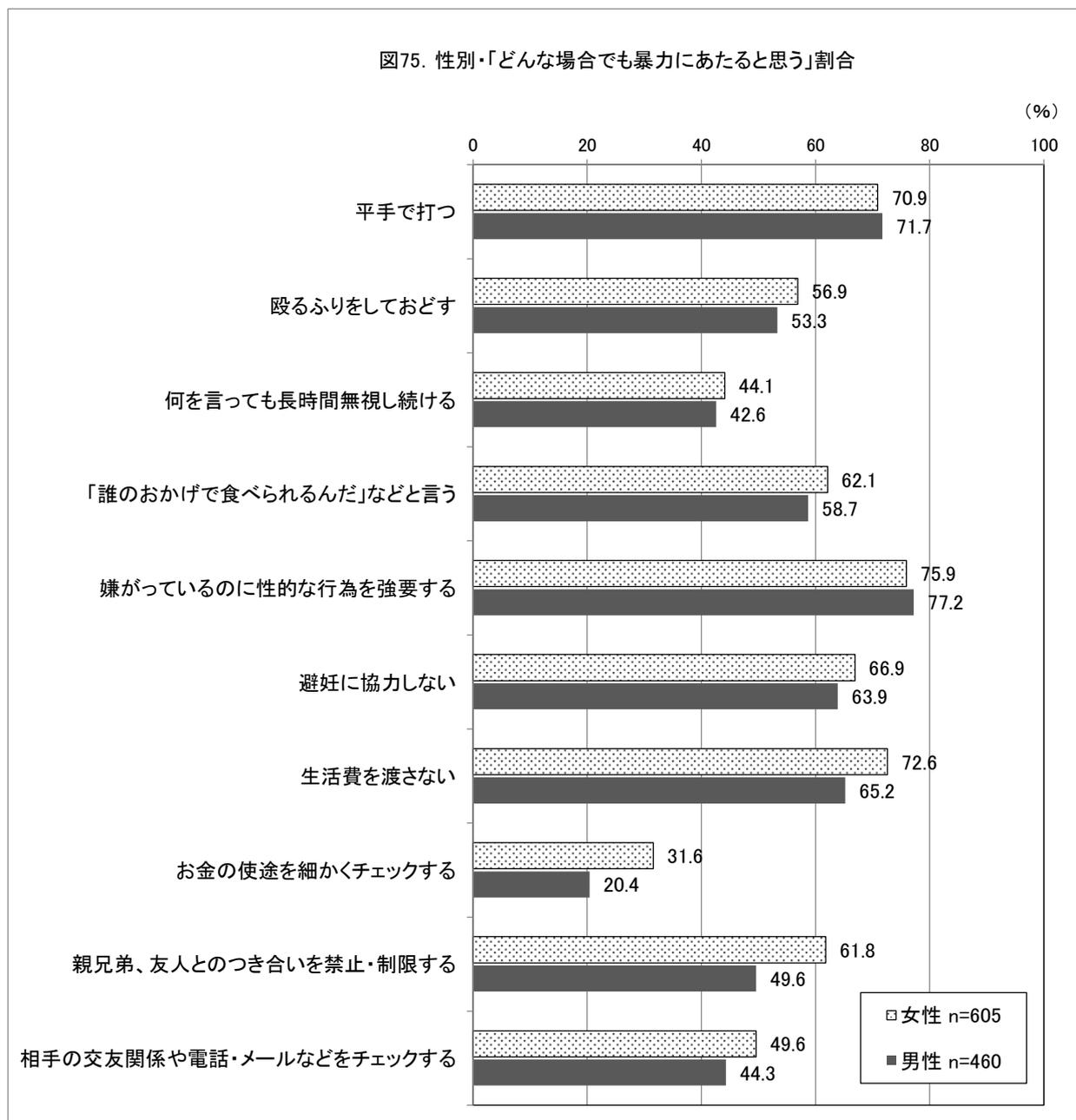
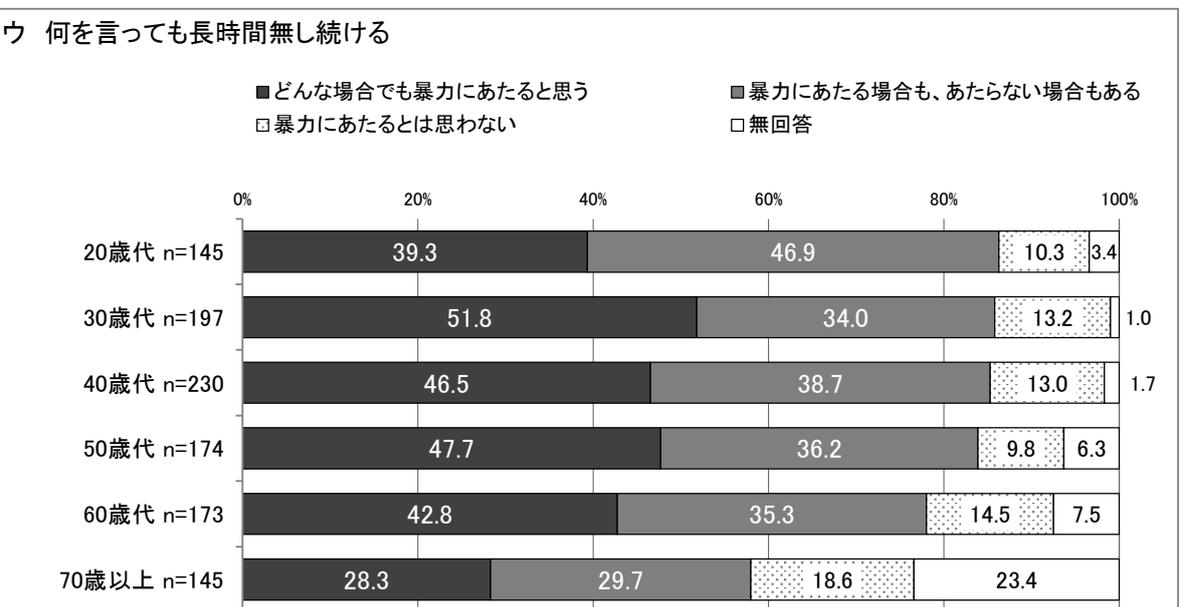
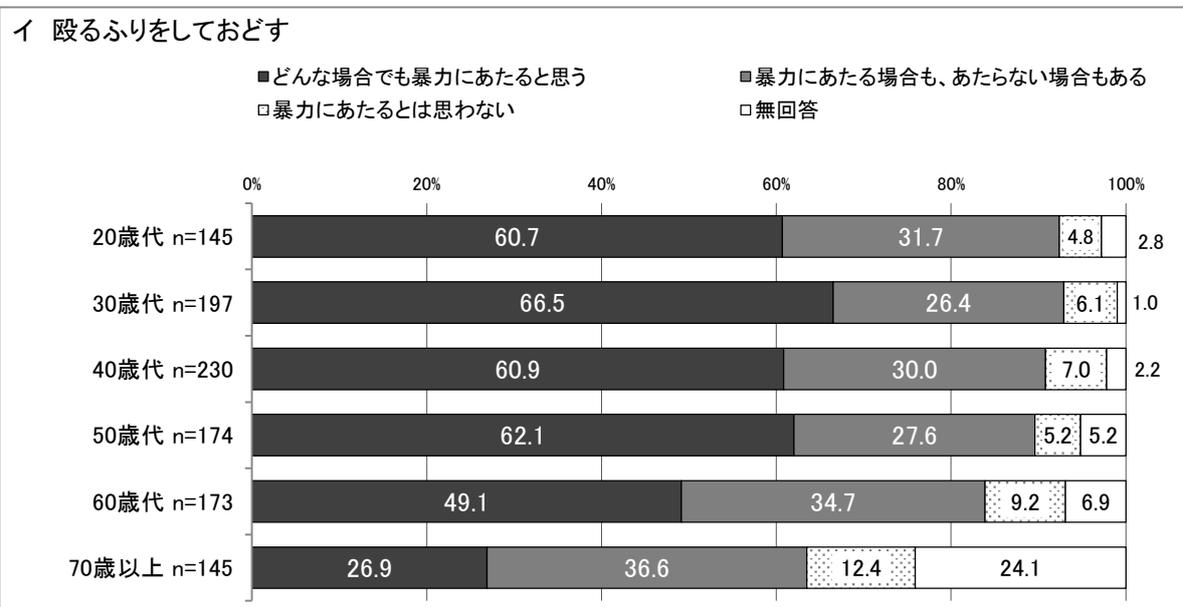
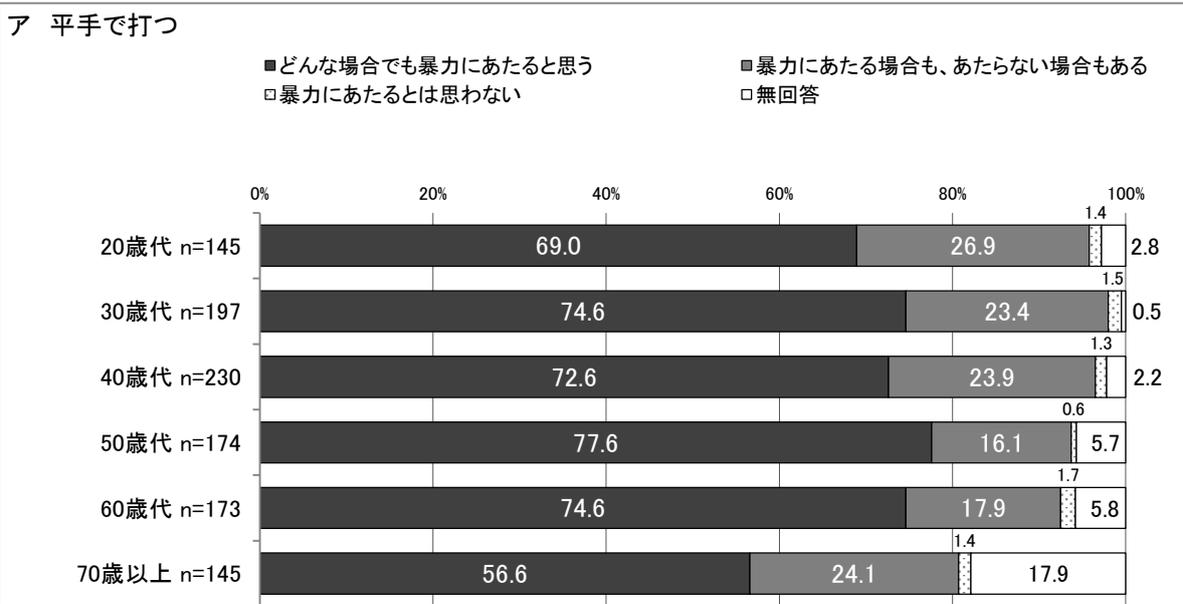
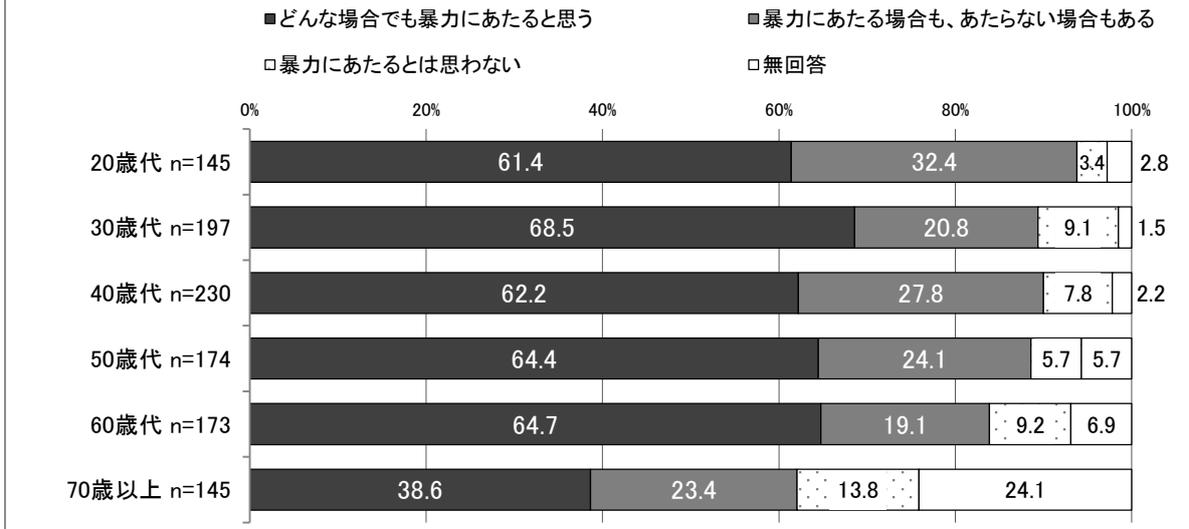


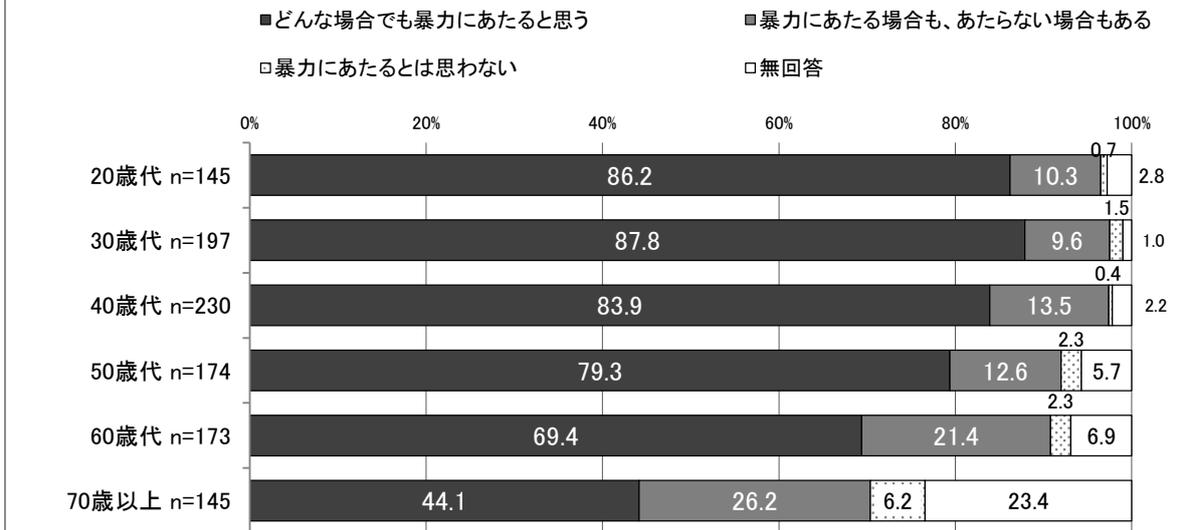
図 76. 年代別・夫婦、パートナーや恋人の間でア～クの行為を暴力と思うかについて



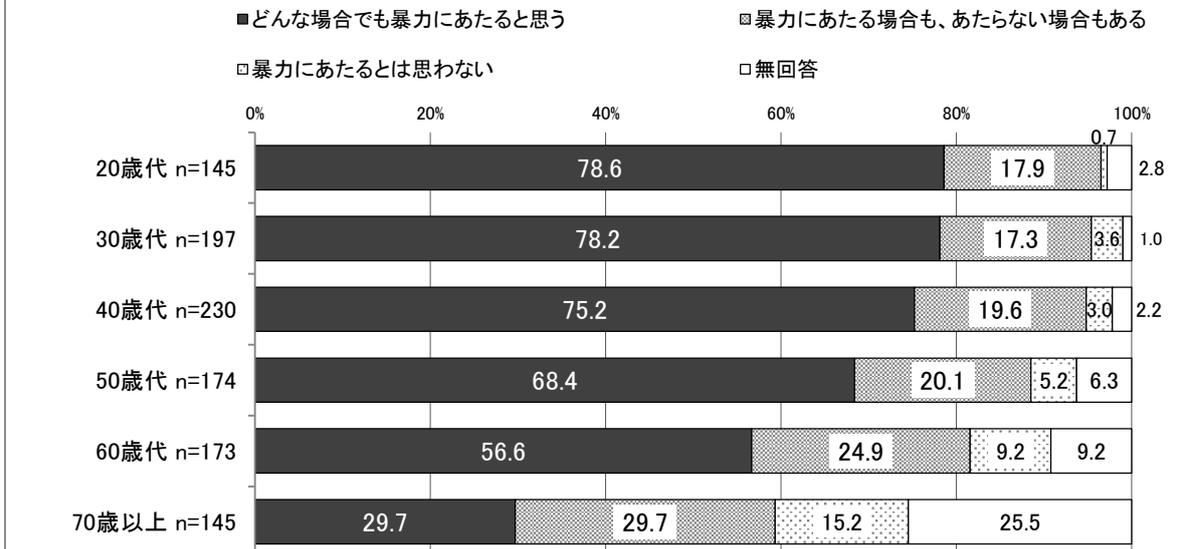
エ 「誰のおかげで食べられるんだ」と言う



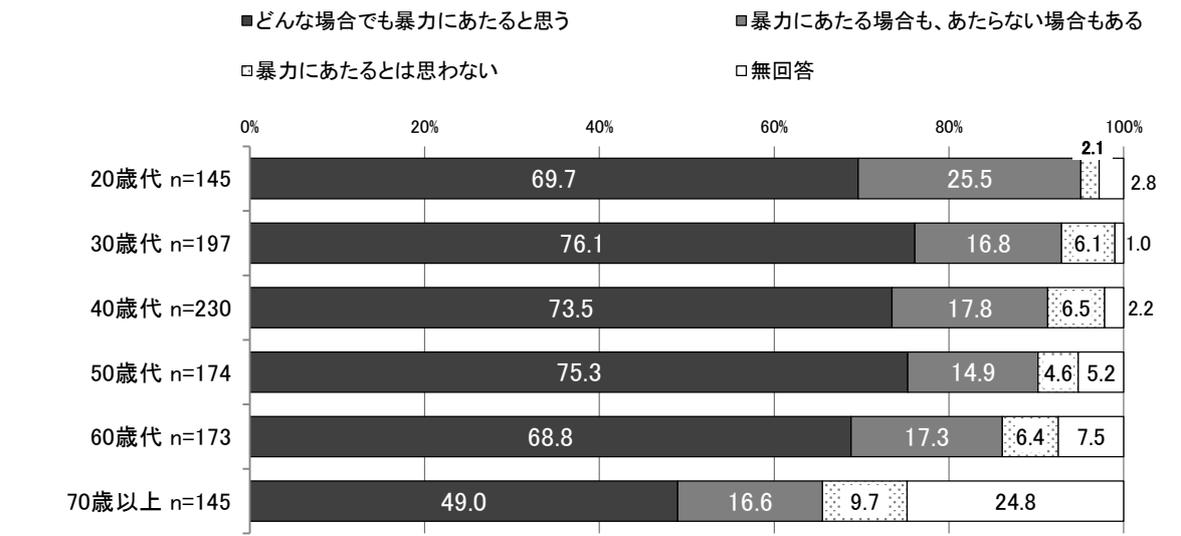
オ 嫌がっているのに性的な行為を強要する



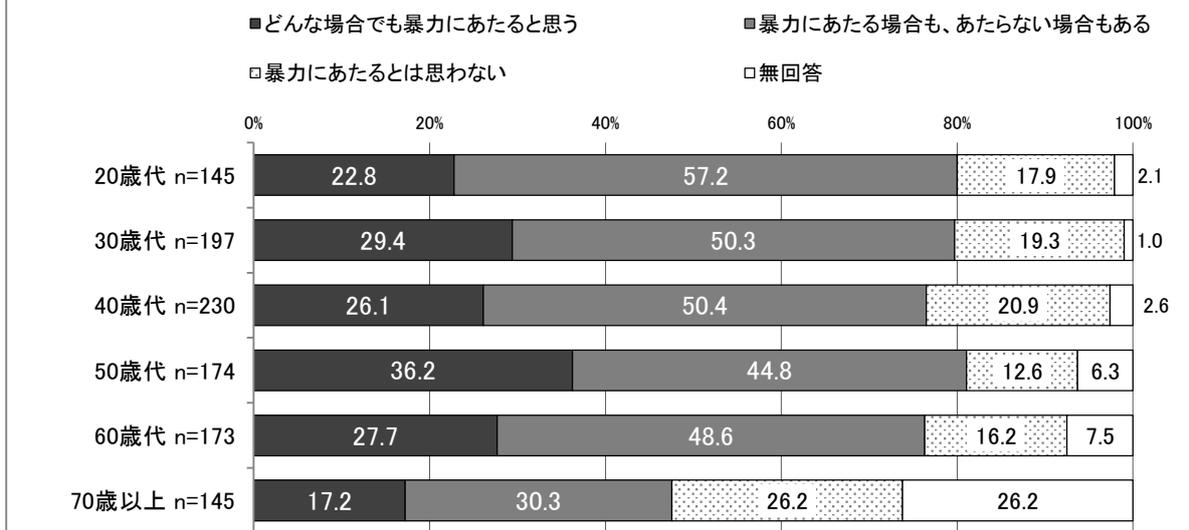
カ 避妊に協力しない



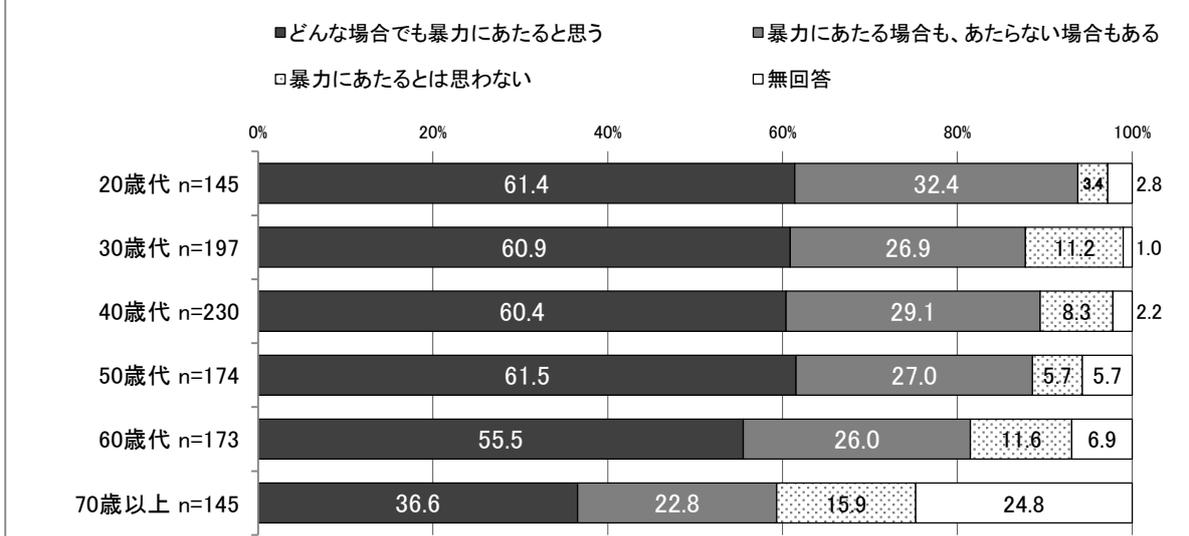
キ. 生活費を渡さない



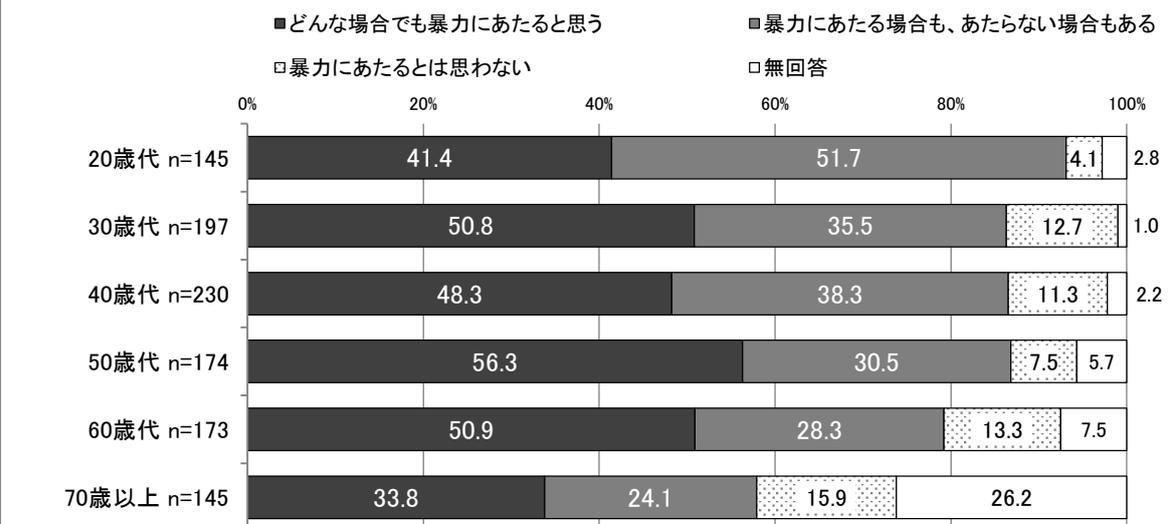
ク. お金の使途を細かくチェックする



ケ. 親兄弟、友人との付き合いを禁止・制限する



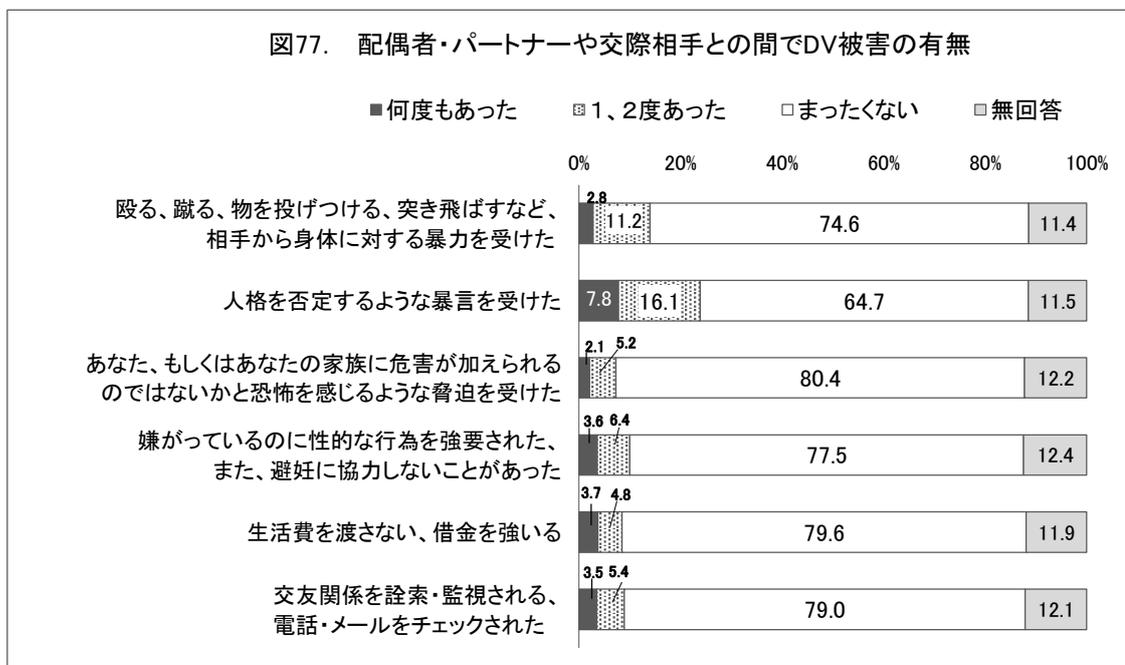
コ 相手の交友関係や電話・メールなどをチェックする



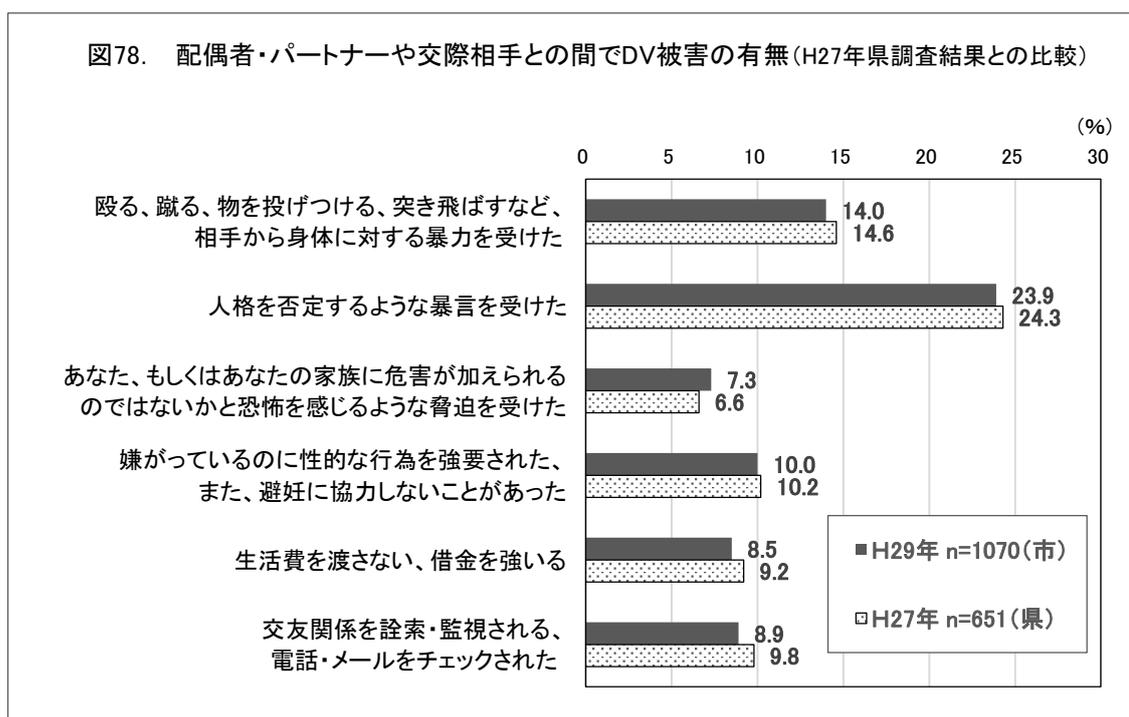
問 23 あなたの配偶者（事実婚や別居中、元配偶者も含む）・パートナーや交際相手との間で、次にあげるア～カについて、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

夫婦やパートナーなどからのDV被害のうち、「何度もあった」をみると、『人格を否定するような暴言を受けた』が7.8%で最も多く、以下『生活費を渡さない』(3.7%)、『嫌がっているのに性的な行為を強要された、また、避妊に協力しないことがあった』(3.6%)となっている。

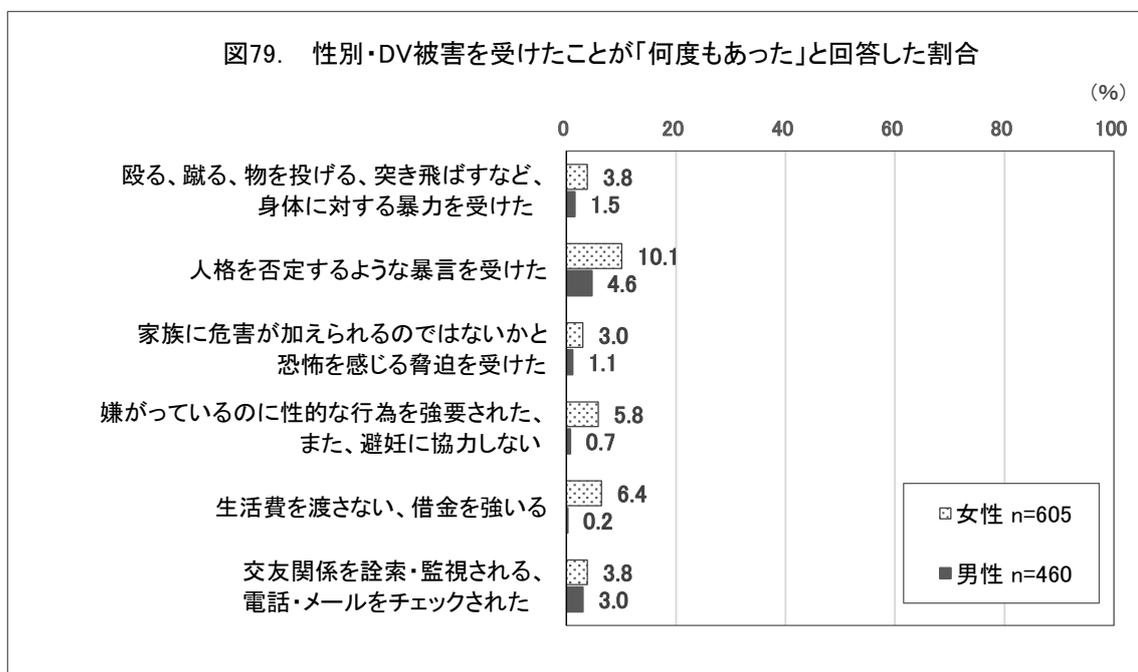
図77. 配偶者・パートナーや交際相手との間でDV被害の有無



なお、DVの被害の有無については、「平成27年県調査結果」と比較すると、ほぼ同様の回答割合となっている。



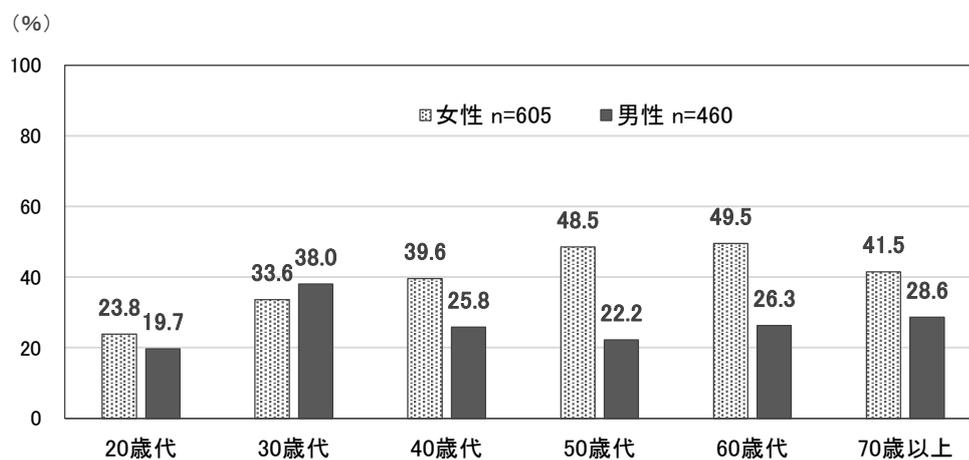
これを性別でみると、DV被害を受けたことが「何度もあった」との回答は、全項目とも女性が多い。



DV被害を受けたことがあると回答した人を性別・年代別で見ると、40歳以上で女性の割合が高く、40歳代で39.6%（男性：25.8%）、50歳代から70歳以上で41.5%～49.5%（男性：22.2%～28.6%）となっている。

一方、30歳代では男性の割合が女性よりも高く、女性の33.6%に対し、男性は38.0%となっている。

図80.（性・年代別）DV被害を受けた経験があると回答した割合



【問 23 で「1、2 度あった」・「何度もあった」と回答した方にお聞きします】

問 24 あなたは、そのことを誰か（どこか）に相談しましたか（〇はいくつでも）

DV被害についての相談の有無を性別で見ると、女性では 65.1%が相談しているのに対し、男性では 47.5%となっている。相談先は、男女ともに友人・知人や家族・親戚など身近な人への相談が主で、専門機関への相談は極めて少ない。

図81. 性別・DV被害の相談について

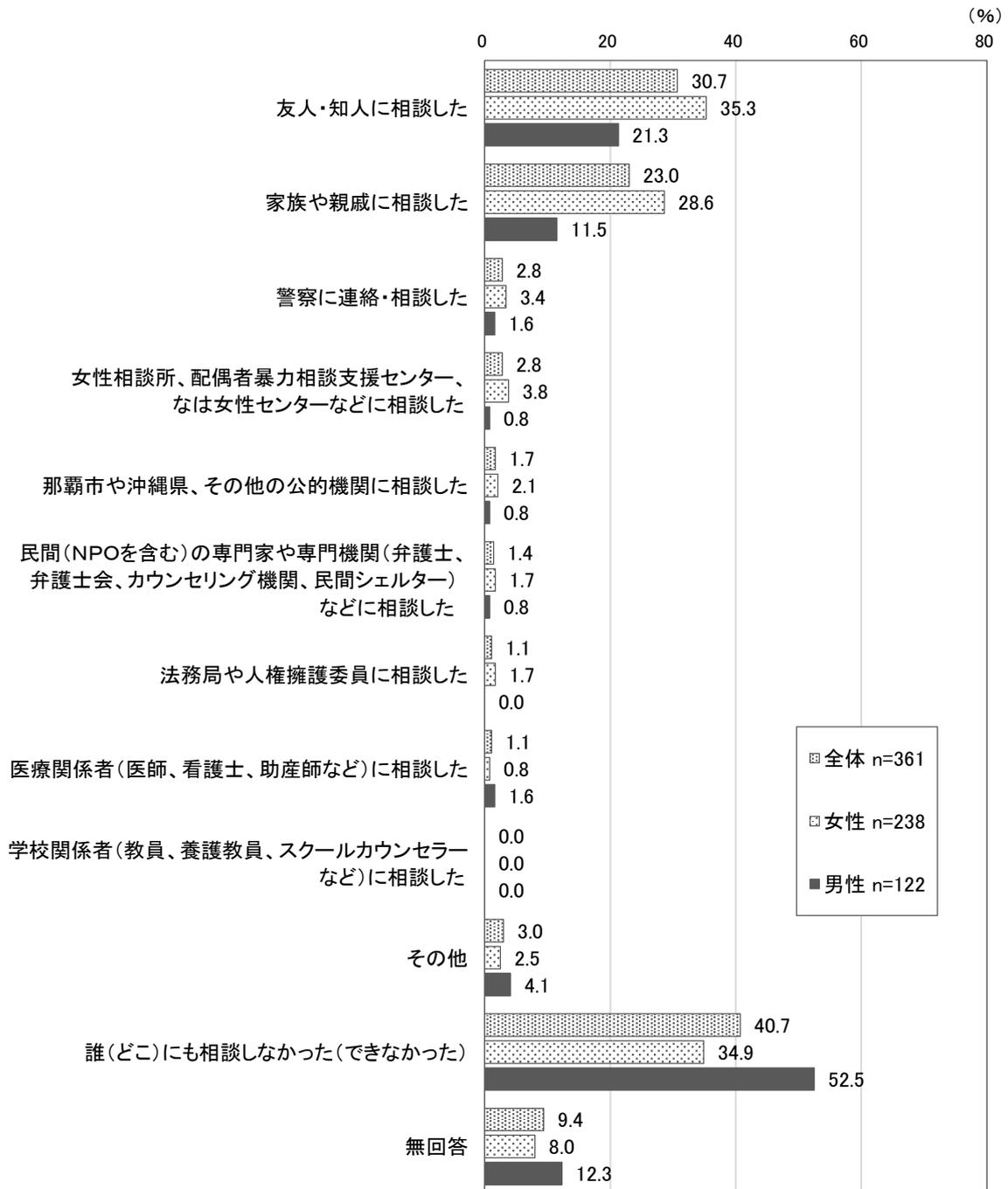
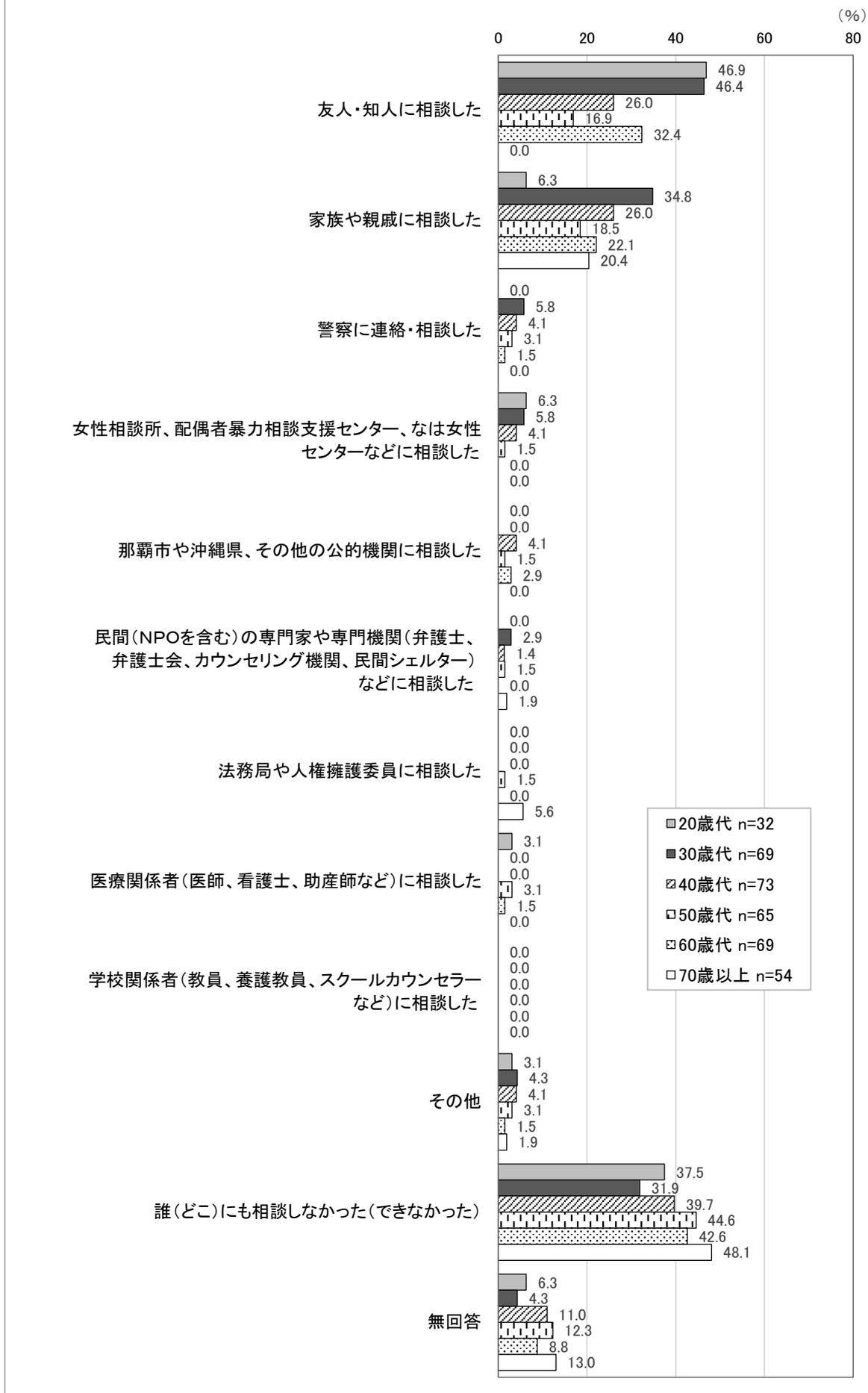


図82. 年代別・DV被害の相談について



【問 24 で「誰(どこ)にも相談しなかった(できなかった)」と回答した方にお聞きします】

問 25 誰(どこ)にも相談しなかった(できなかった)のはなぜですか(〇はいくつでも)

DV被害について相談しなかった理由をみると、男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が特に多く、男性で70.3%、女性で66.3%となっている。

以下、女性では、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたから」(21.7%)、「相談してもムダだと思ったから」(16.9%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」(15.7%)と続く。

男性では「自分にも悪いところがあったと思ったから」(28.1%)、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていたから」(17.2%)となっている。

図83. 性別・DVについて誰(どこ)にも相談しなかった(できなかった)理由

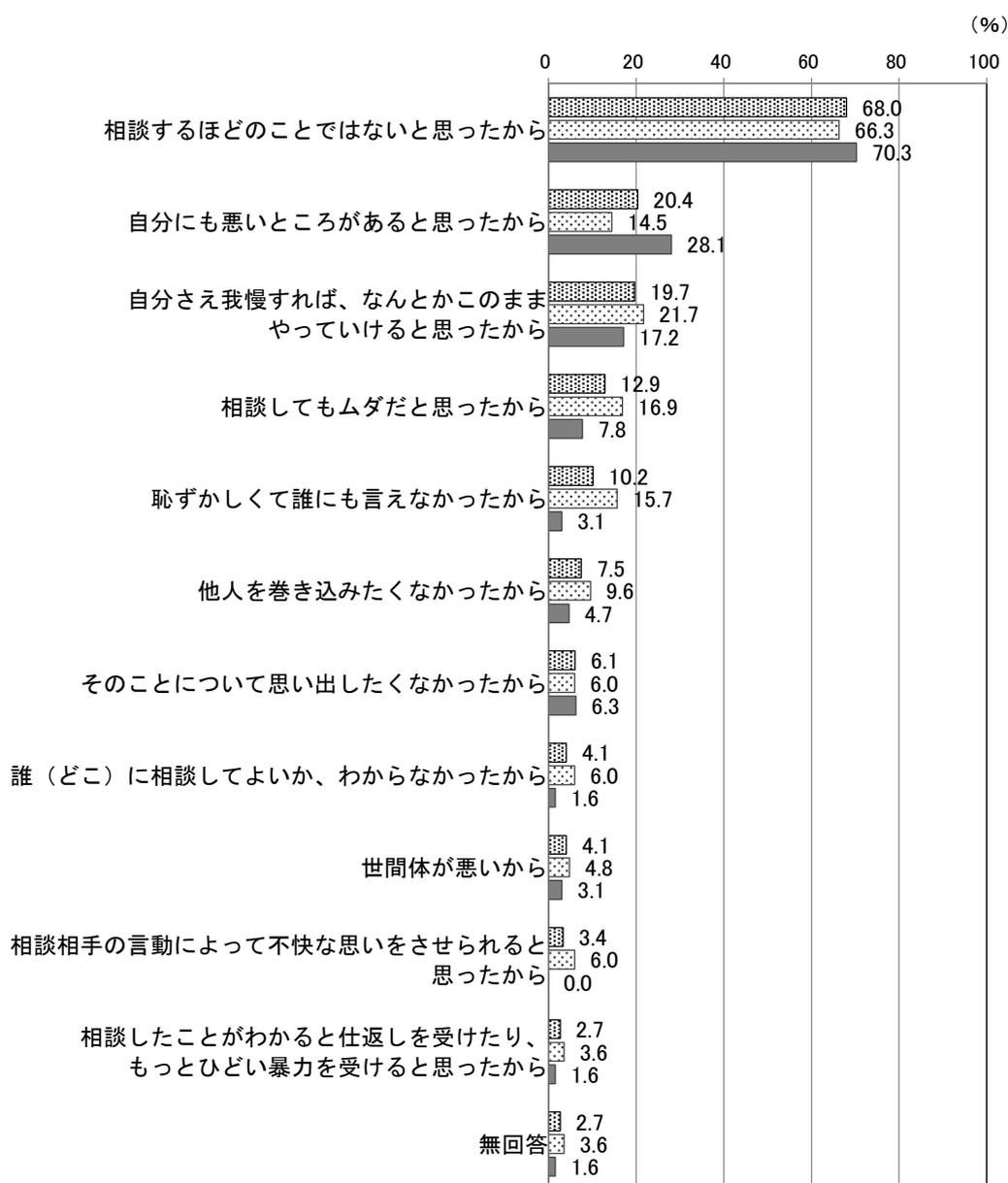
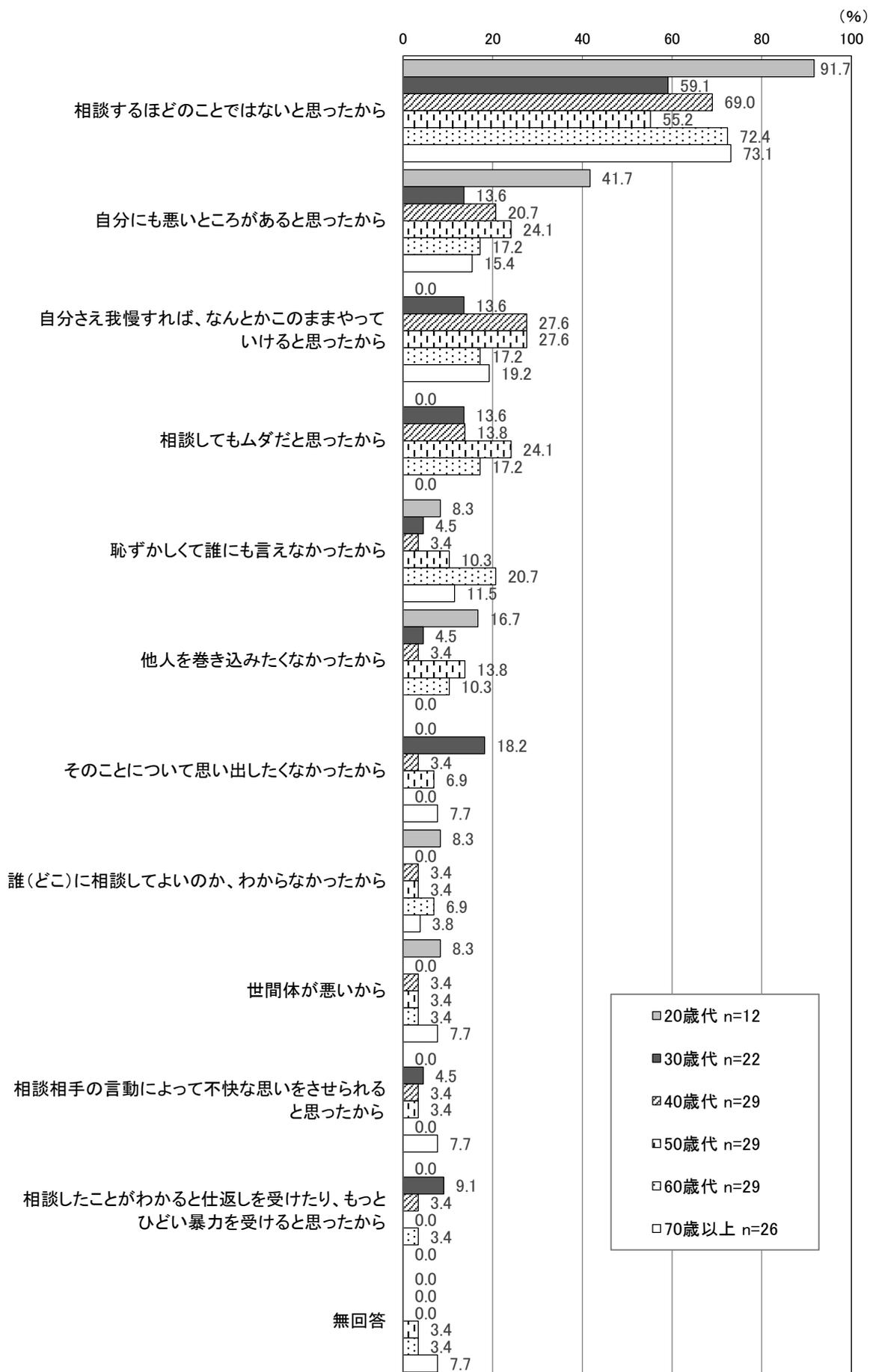


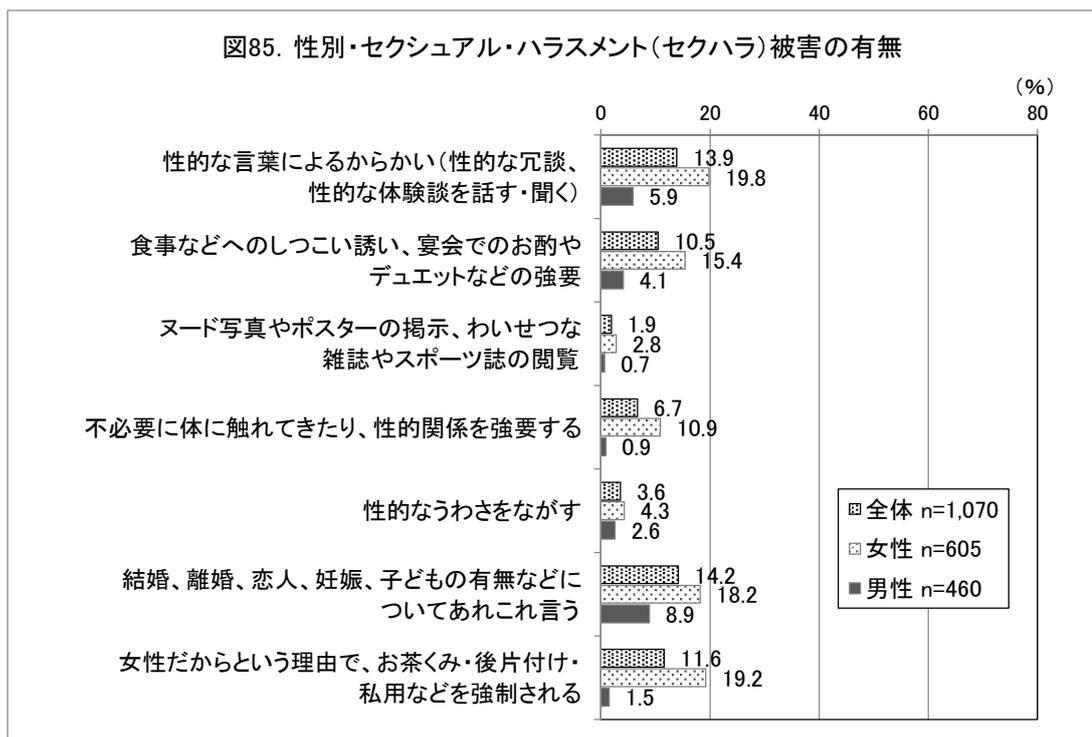
図84. 年代別・DVIについて誰にも相談しなかった(できなかった)理由



問 26 これまでに、職場や学校、地域において、次のア～キのようなセクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を受けたことがありますか（それぞれ1つずつ選んでください）

セクハラ被害の有無を性別で見ると、全体的に女性が多い。

女性で被害が特に多いのは「性的な言葉によるからかい（性的な冗談、性的な体験談を話す・聞く）」の19.8%、「女性だからという理由で、お茶くみ・後片付け・私用などを強制される」(19.2%)、「結婚、離婚、恋人、妊娠、子どもの有無などについてあれこれ言う」(18.2%)となっている。



性別・年代別でセクハラ被害の有無をみると、全世代とも女性の回答割合は男性の倍以上と多く、特に30歳代では49.6%と、ほぼ半数の女性がセクハラ被害が有ると回答している。また、男性でも30歳代で22.5%がセクハラ被害が有ると回答している。

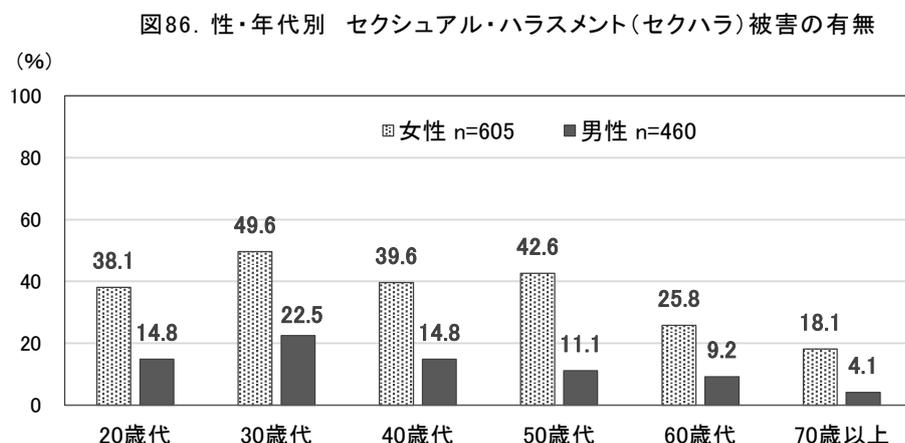
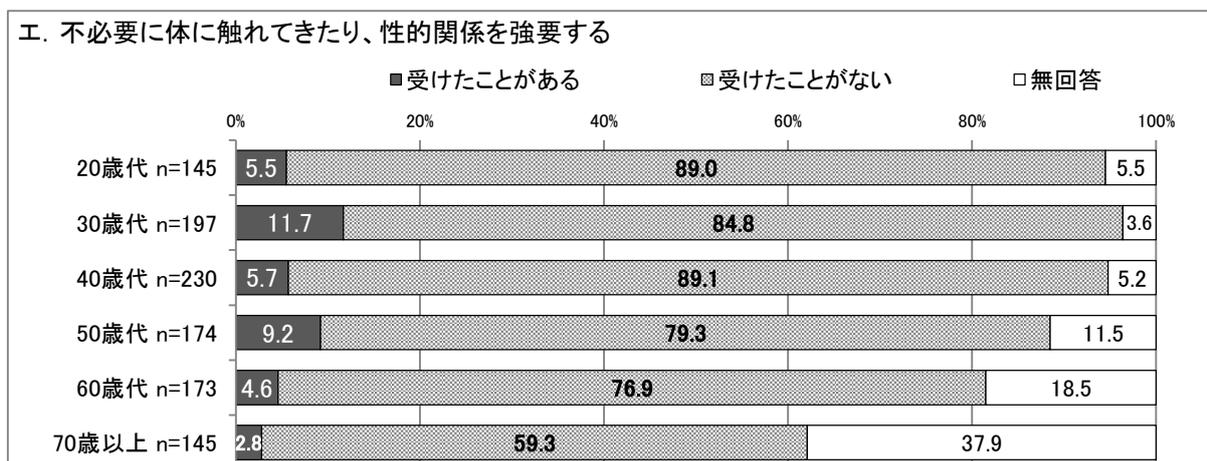
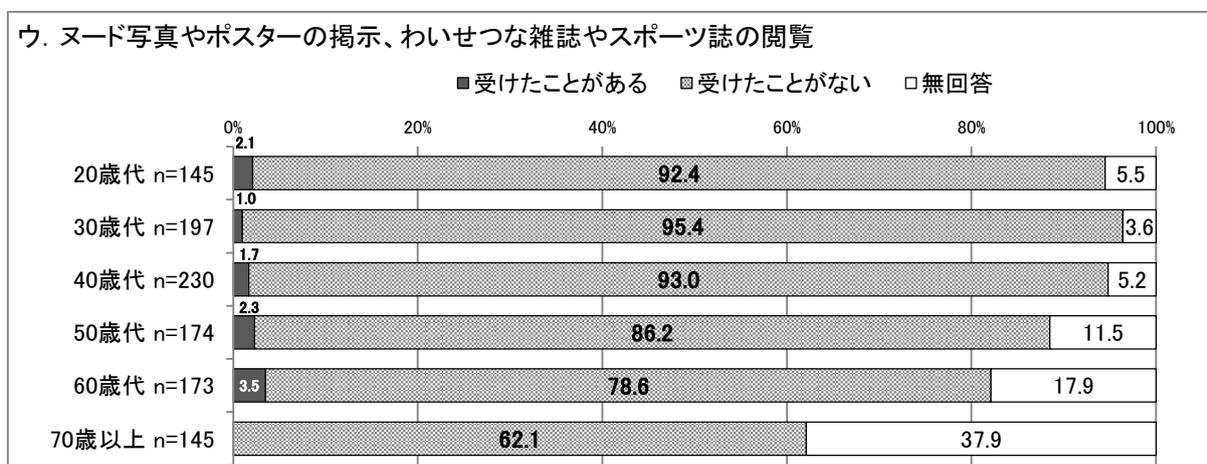
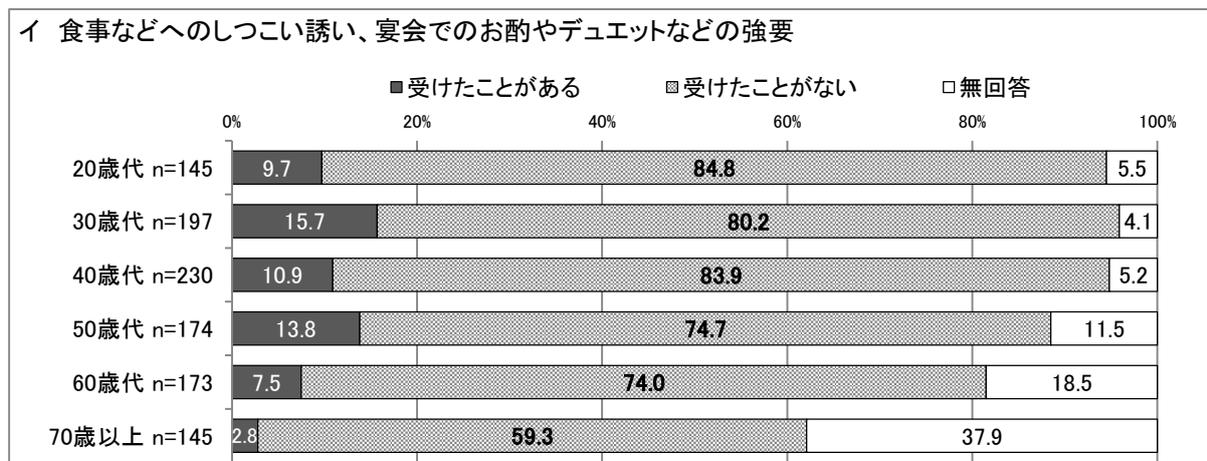
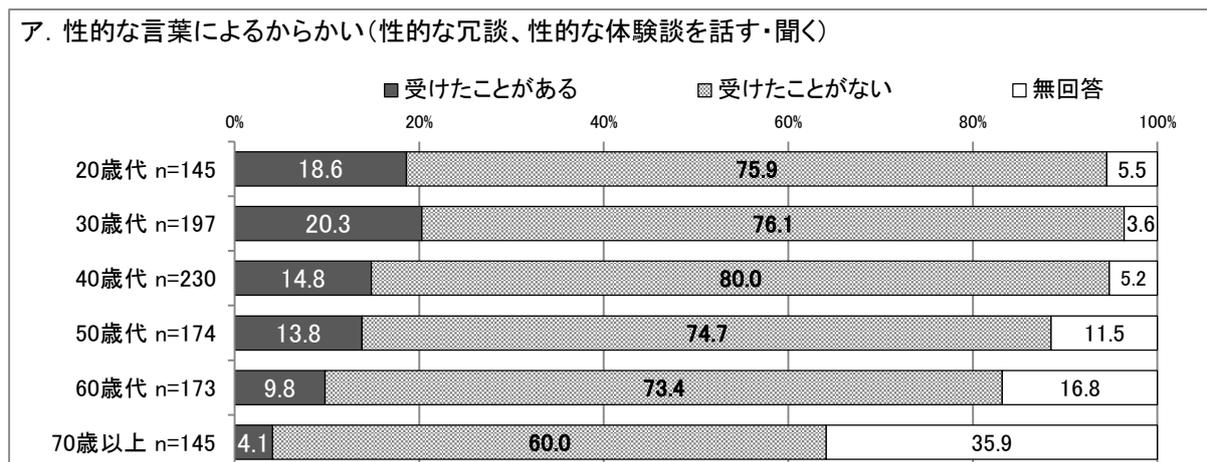
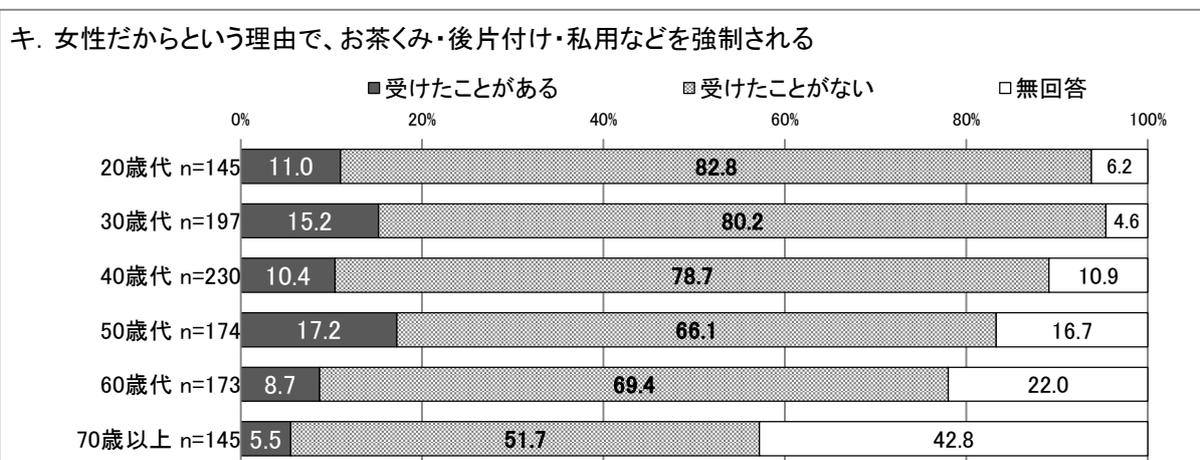
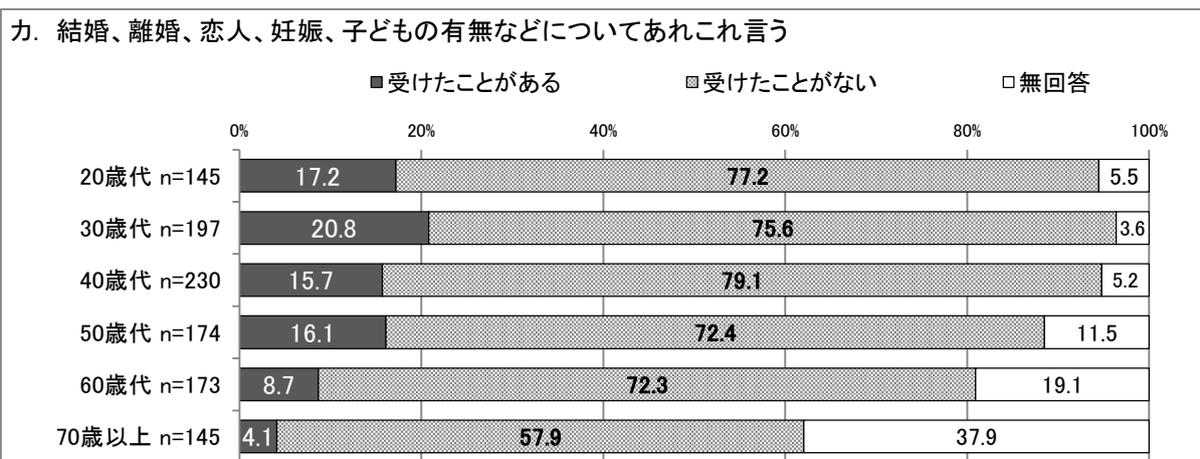
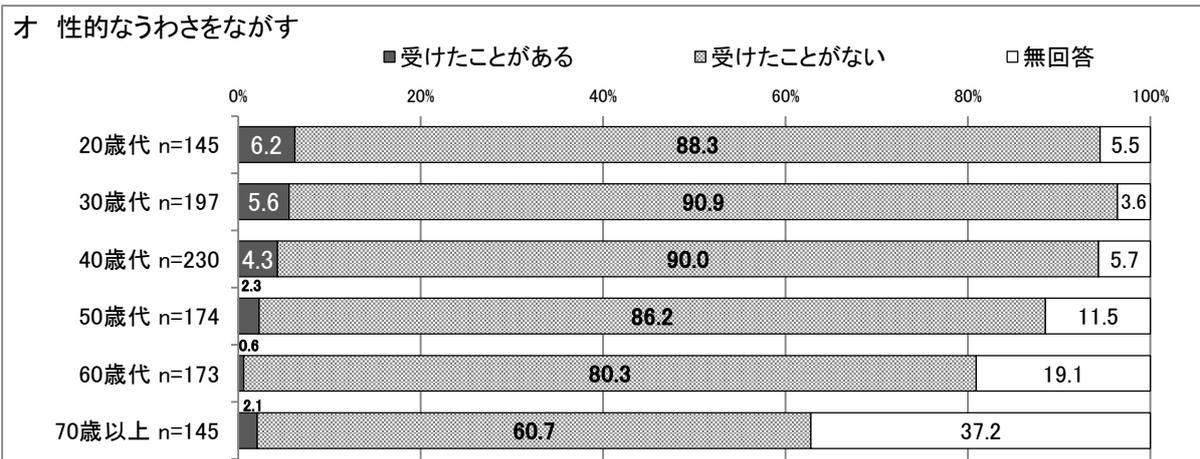


図 87. 年代別・セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)被害の有無

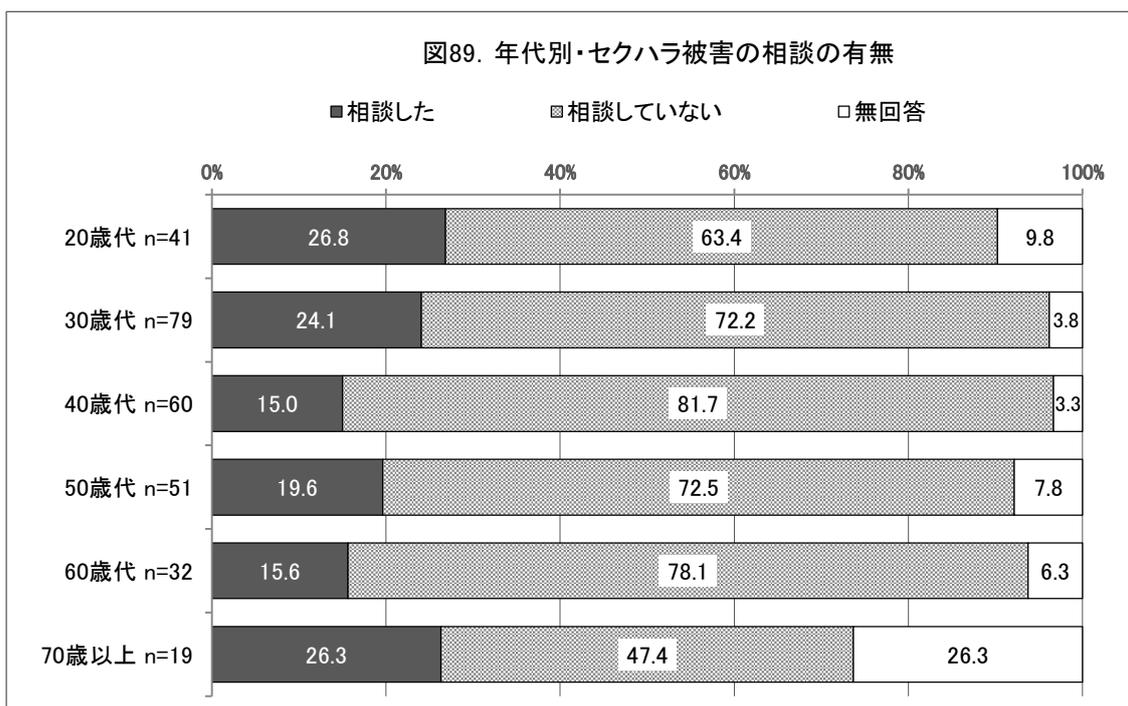
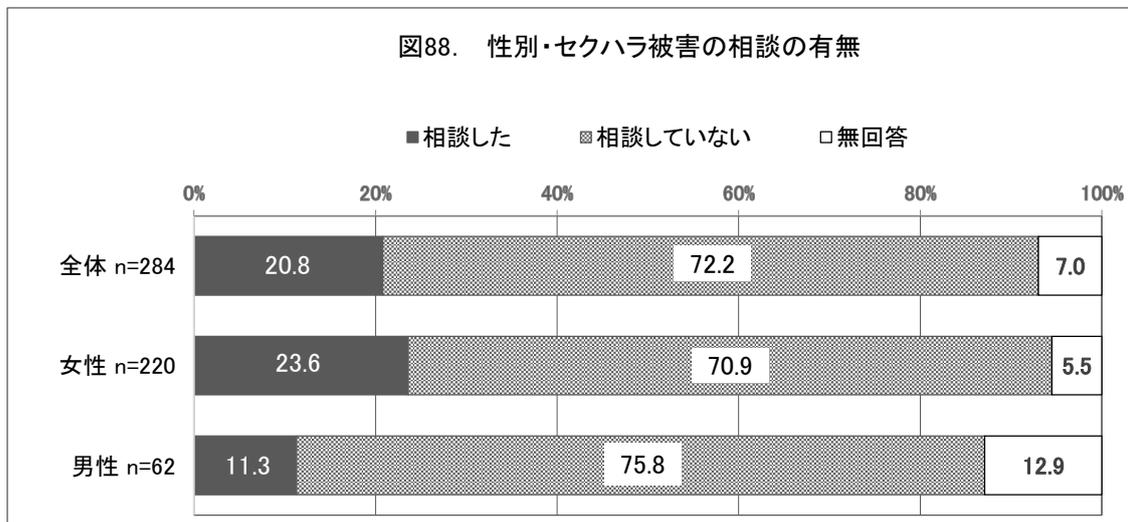




【問 26 で、セクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答した方へお聞きします】

問 26-1 あなたは誰かに相談しましたか（○は1つ）。

セクハラ被害を相談したのは、女性で 23.6%、男性では 11.3%にとどまる。



【問 26-1 で、「2. 相談していない」と回答した方へお聞きします】

問 26-2 相談しなかった理由は何ですか（〇はいくつでも）。

相談しなかった理由は、男女ともに「相談するほどの事ではないと思ったから」が約6割と最も多く、次に「相談してもムダだと思ったから」、「自分さえ我慢すれば何とかかなと思うから」が続き、DV被害の相談の状況とほぼ同様な傾向がみられる。

これを性別で見ると、女性で「相談してもムダだと思ったから」（28.2%）と「自分さえ我慢すれば何とかかなと思ったから」（19.9%）の割合が男性に比べて高く、男性では「相談できる人がいなかった」（14.9%）が女性に比べて高い。

図90. 性別・セクハラ被害を相談しなかった理由

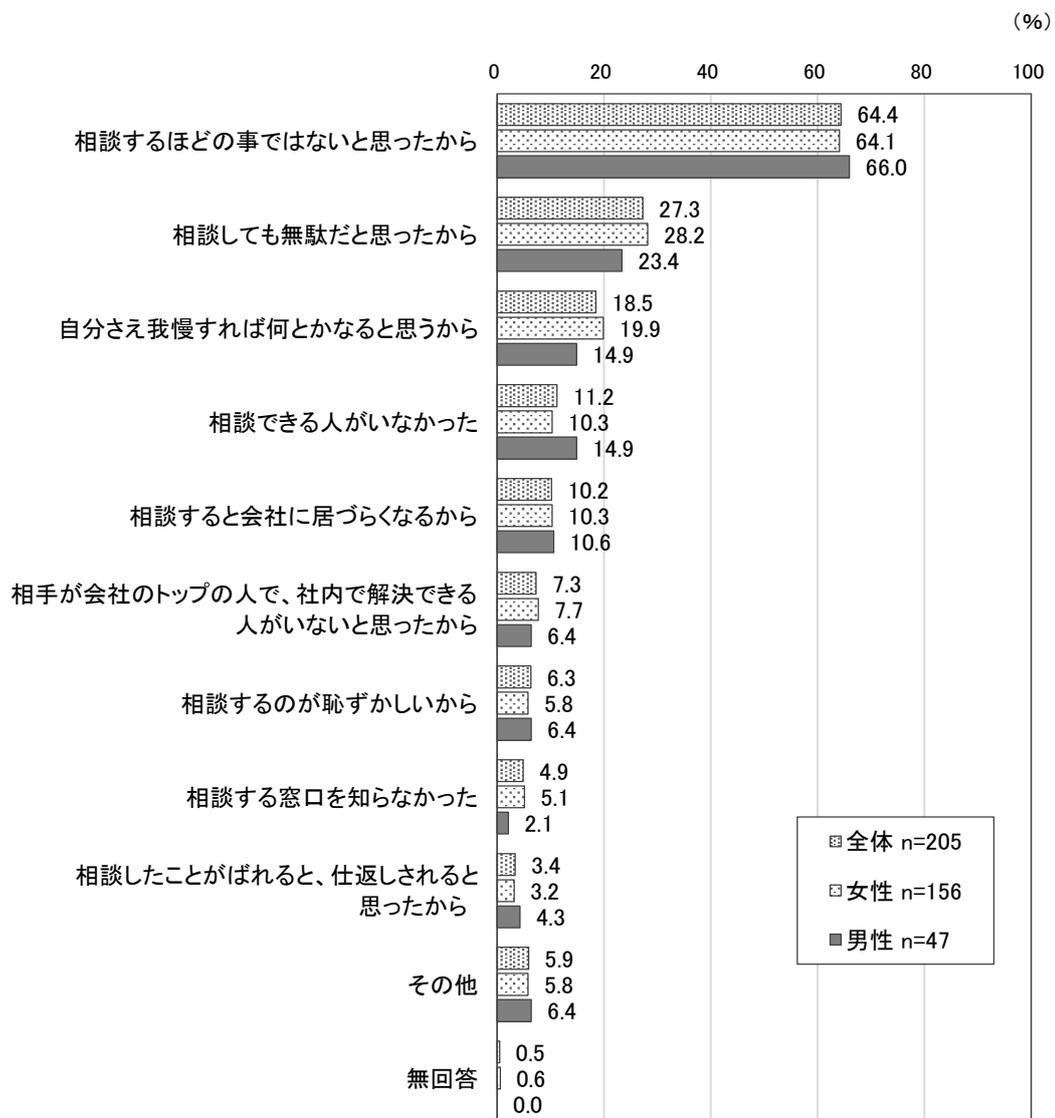
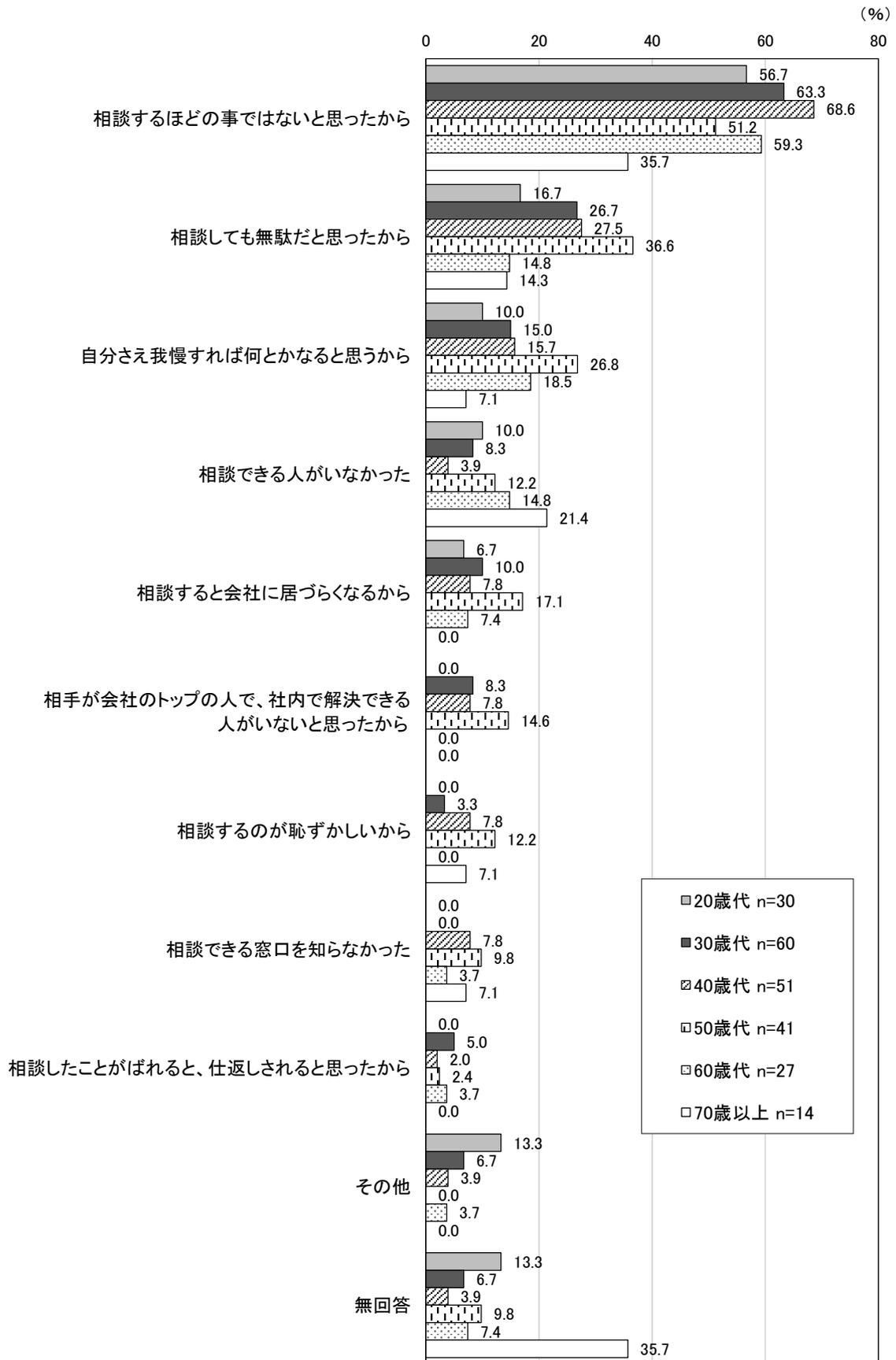


図91. 年代別・セクハラ被害を相談しなかった理由



問 27 あなたは、次にあげる相談窓口を知っていますか（〇はいくつでも）

相談窓口の認知度を全体で見ると、「沖縄県男女共同参画センター ているる相談室」（24.2%）が最も高く、次に「沖縄県警察本部警察安全相談」（17.8%）、「なは女性センター相談室『ダイヤルうない』」（16.0%）と続く。

これを性別で見ると、女性では「沖縄県男女共同参画センター ているる相談室」（28.6%）が最も高く、次に「なは女性センター相談室『ダイヤルうない』」（23.0%）と続く。

一方、男性では「沖縄県警察本部警察安全相談」（21.5%）が最も高く、次に「沖縄県男女共同参画センター ているる相談室」（18.3%）の順となっている。

なお、男女ともに約4割は、相談窓口を知らないと回答している。

図92. 性別・相談窓口の認知度

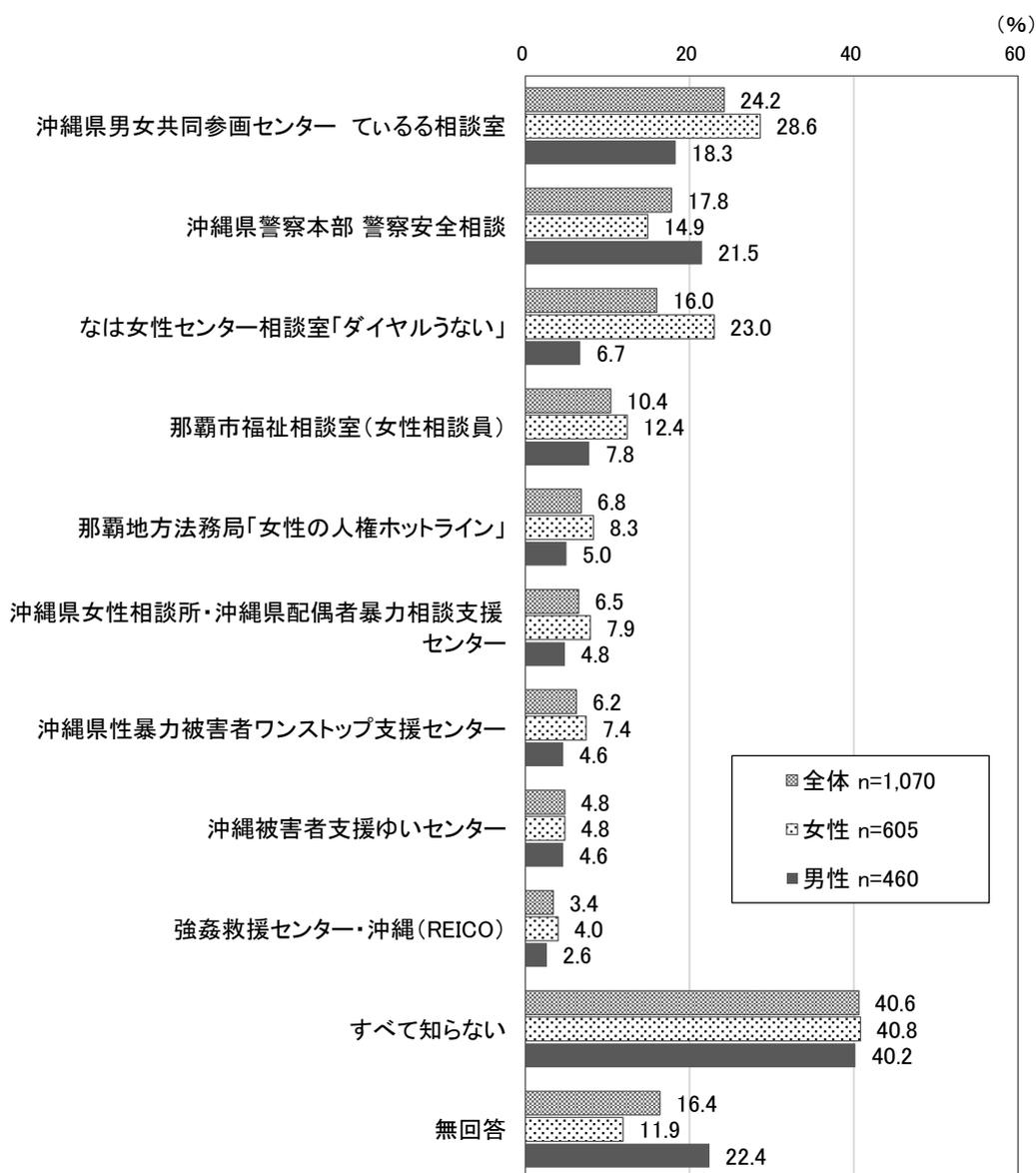
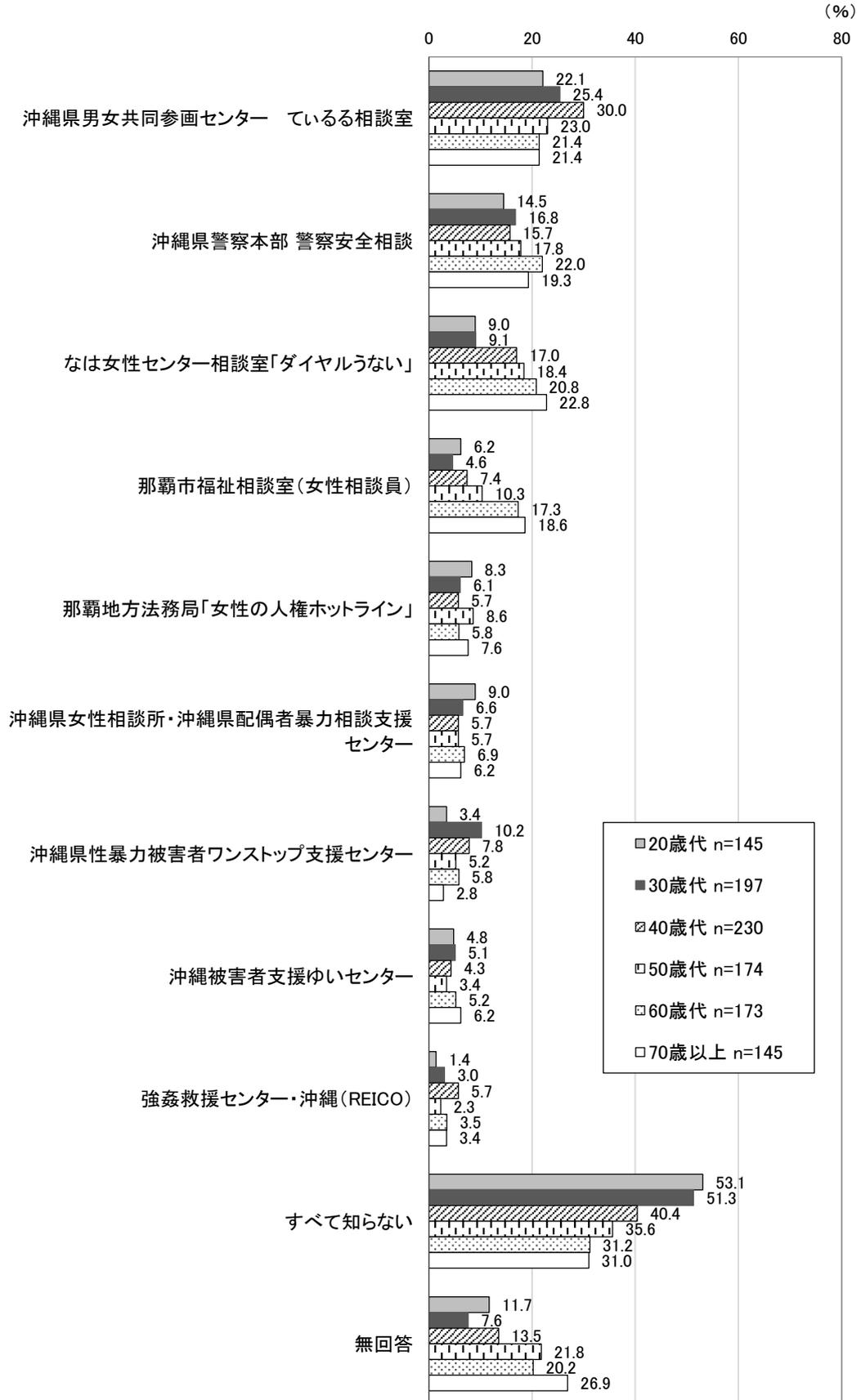


図93. 年代別・相談窓口の認知度



問 28 配偶者等からの暴力やセクシュアル・ハラスメント、性暴力など、特に女性に対する暴力を無くすために、取り組みを進める必要があるのはどのようなことですか
(〇はいくつでも)

DVやセクハラなど、特に女性に対する暴力を無くすために必要な取組について全体でみると、「被害者のための相談窓口や保護施設を充実させる」(48.2%)が最も高く、以下「法律・制度の見直しを行う」(46.0%)、「女性に対する暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」(46.0%)、「犯罪の取り締まりを強化する」(45.8%)がほぼ同率で上位の意見となっている。

これを性別でみると、全体的に男性に比べ女性の回答割合が高い。

図94. 性別・配偶者等からの暴力やセクハラなどを無くすために必要な取り組み

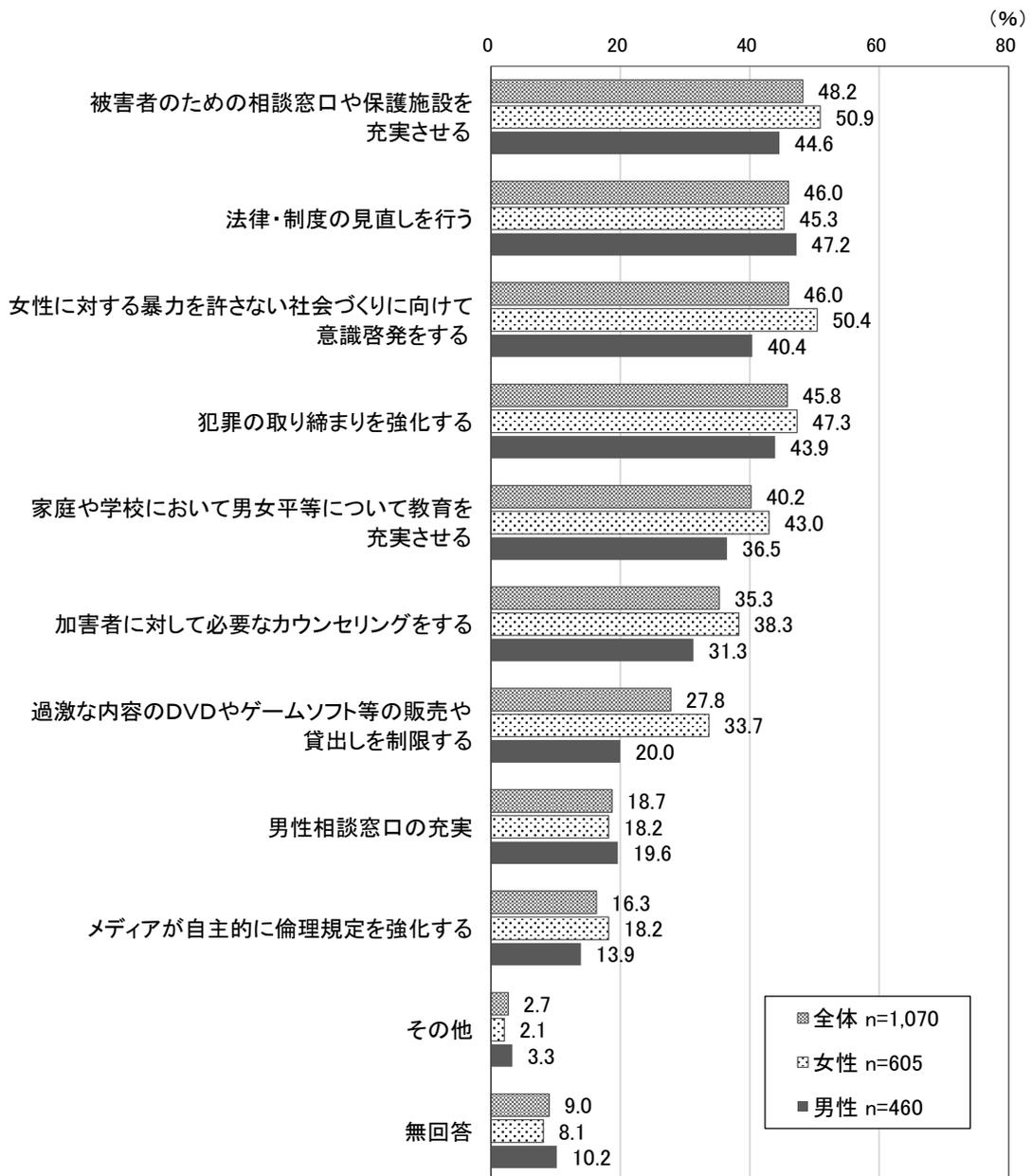
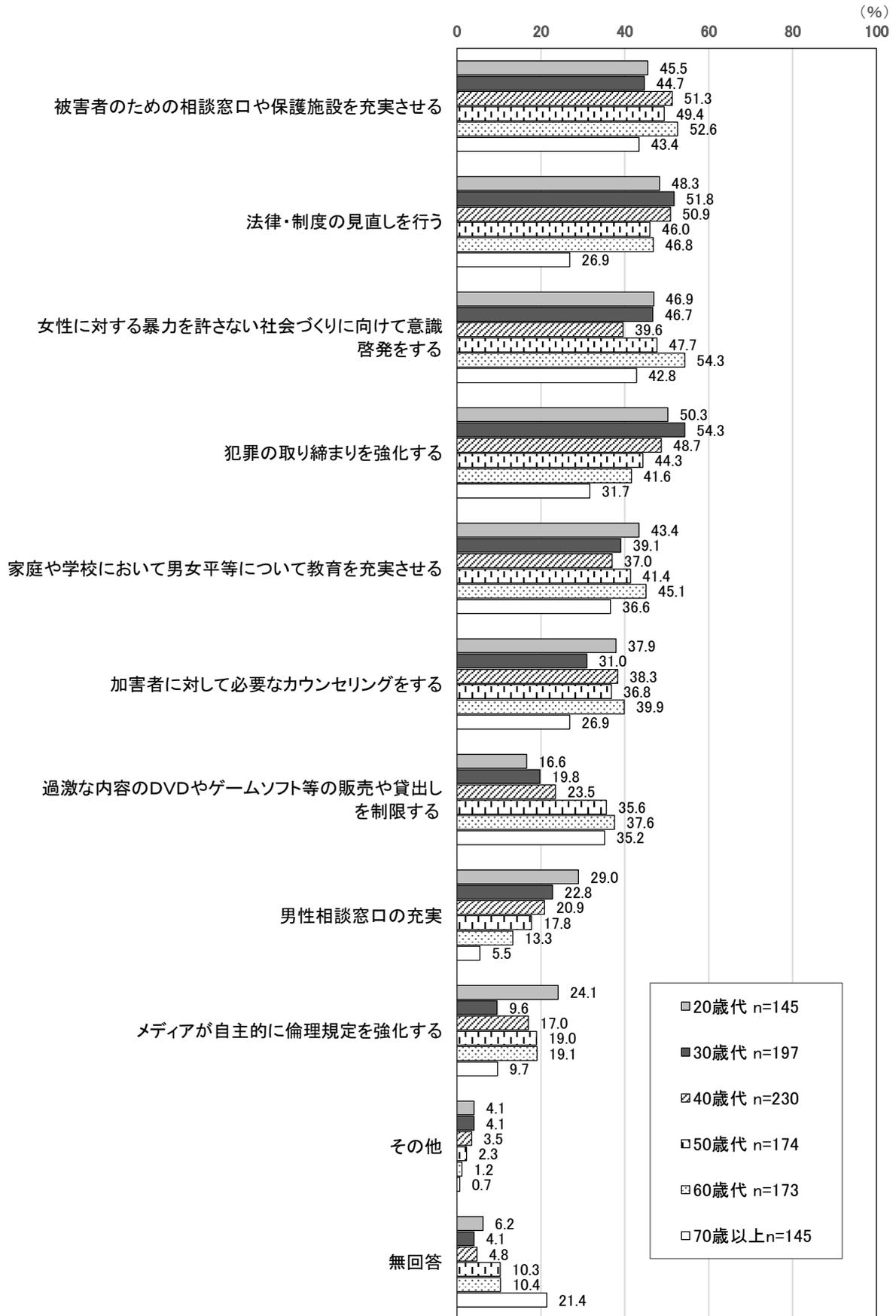


図95. 年代別・配偶者等からの暴力やセクハラなどを無くするために必要な取り組み



(6) 性の多様性について

問 29 性の多様性に関する、次のア～ケの言葉を知っていますか（○はそれぞれ1つだけ）

性の多様性に関する言葉の認知度を全体でみると、「ゲイ」や「レズビアン」については8割強と高いが、「LGBT」は4割弱、「性的指向」・「性自認」などは3割未満で、まだ低い。

なお、これを性別でみると、認知度に極端な性差はみられない。

図96. 性の多様性に関する言葉の認知度

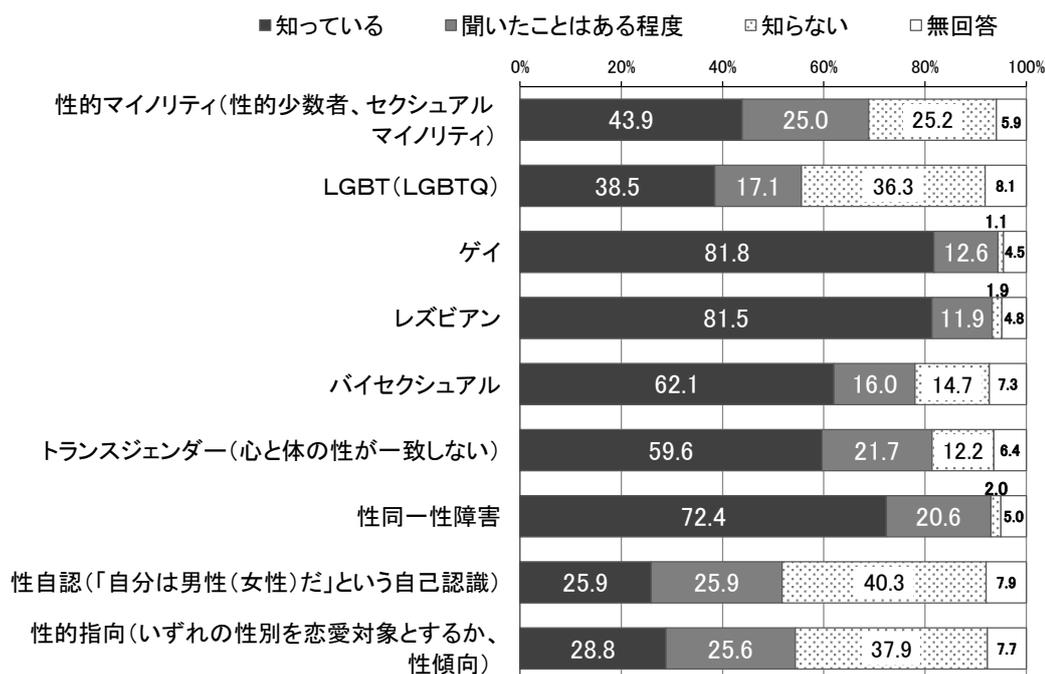


図97. 性別・性の多様性に関する言葉の認知度(「知っている」の回答割合)

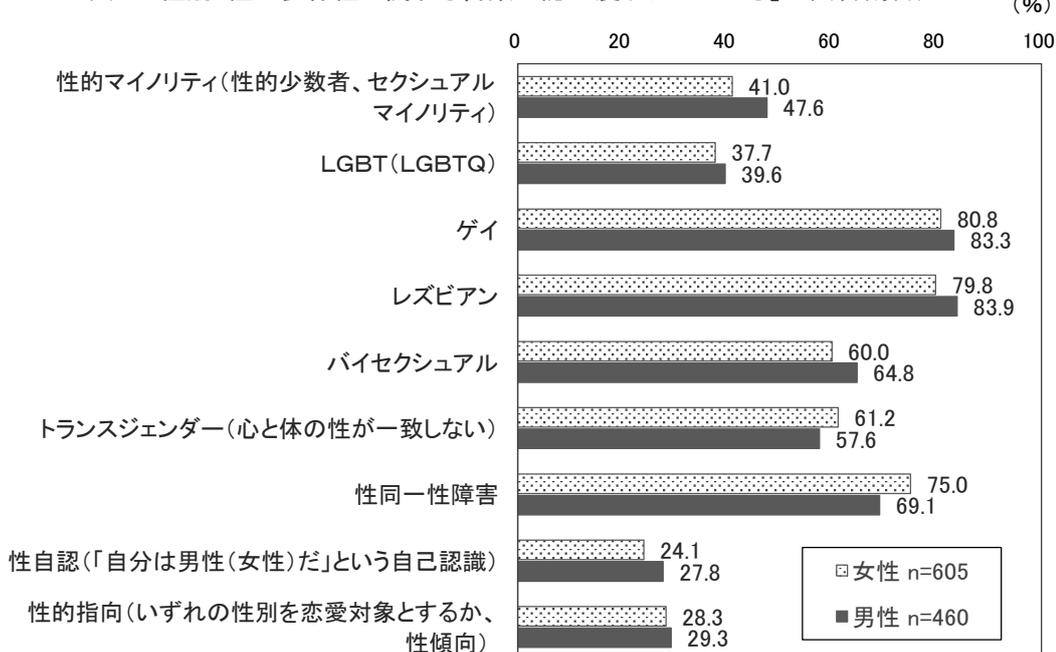
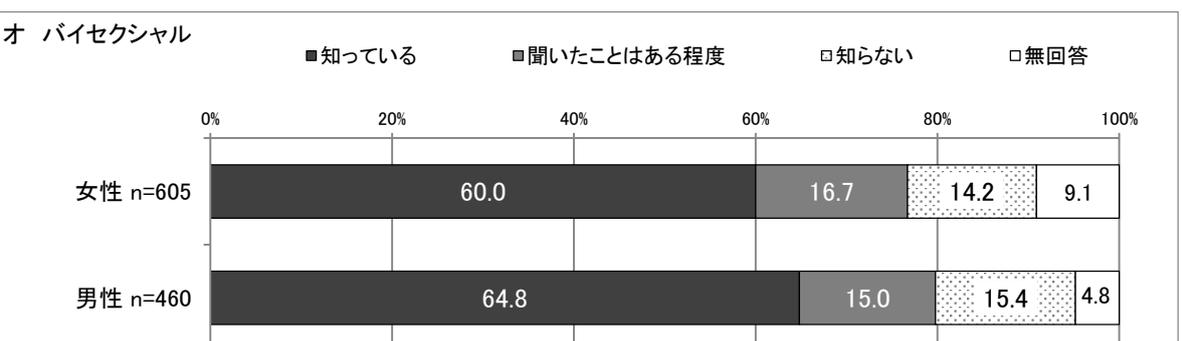
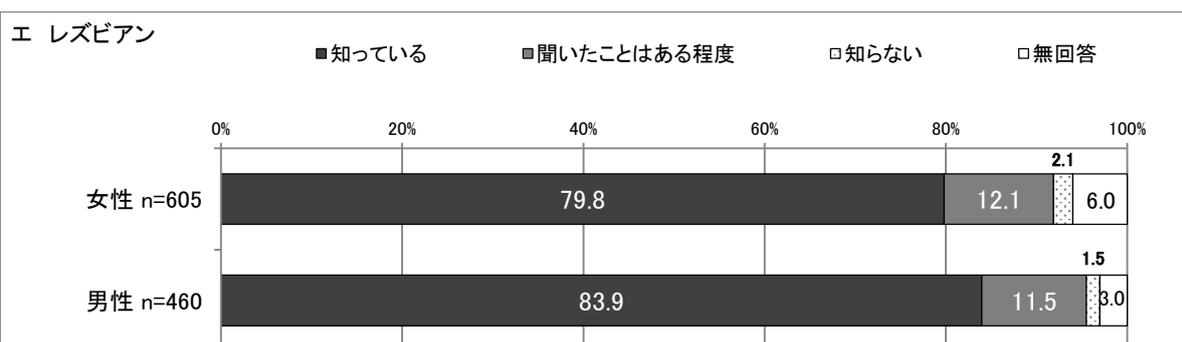
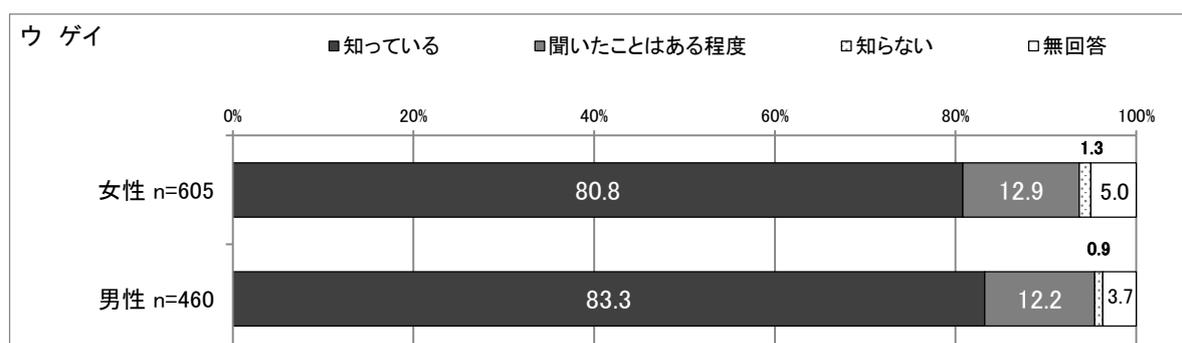
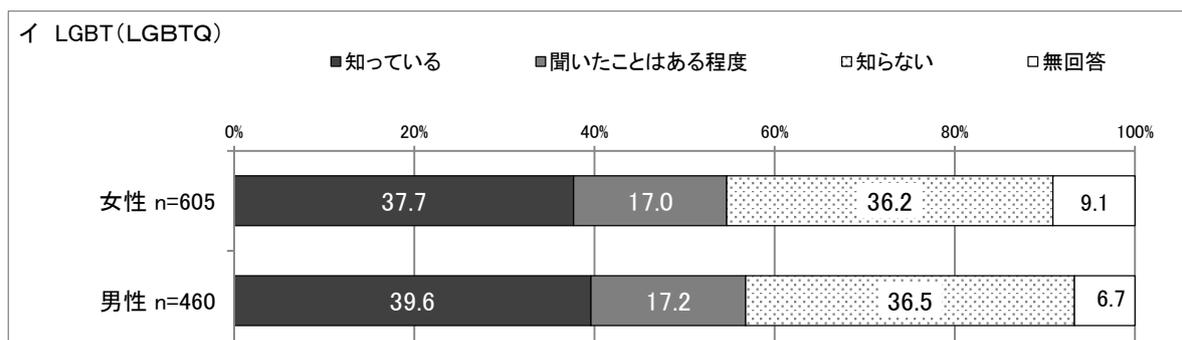
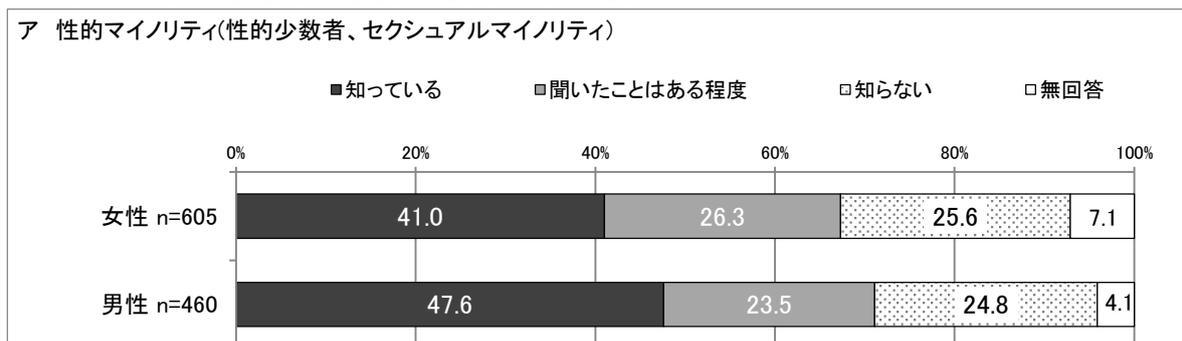
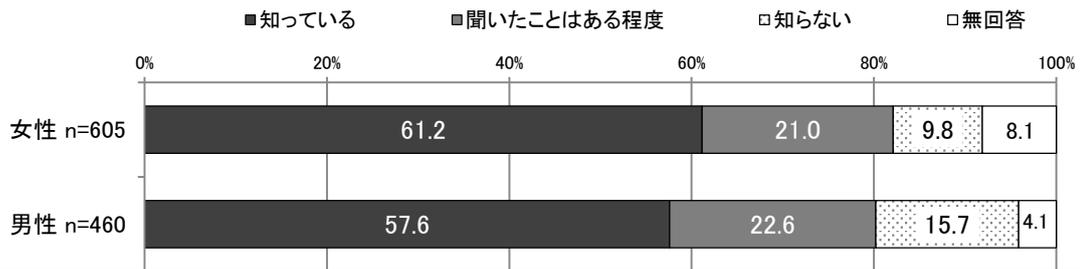


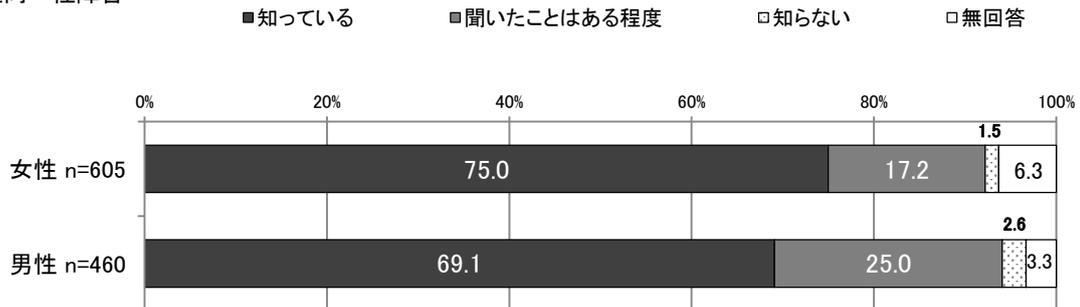
図 98. 性別・性の多様性に関する言葉の認知度



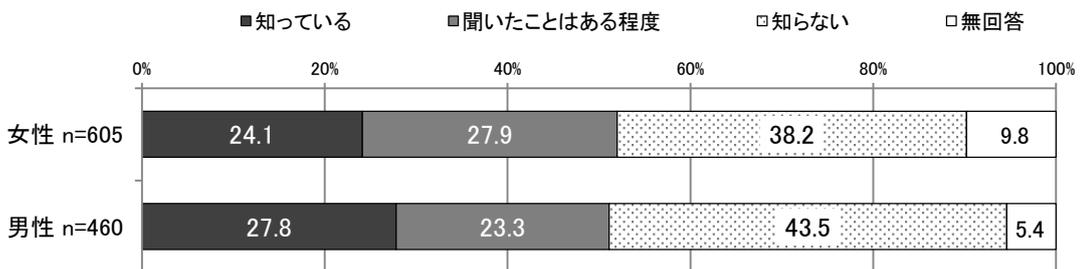
カ トランスジェンダー(心と体の性が一致しない)



キ 性同一性障害



ク 性自認(「自分は男性(女性)だ」という自己認識)



ケ 性的指向(いずれの性別を恋愛対象とするか、性傾向)

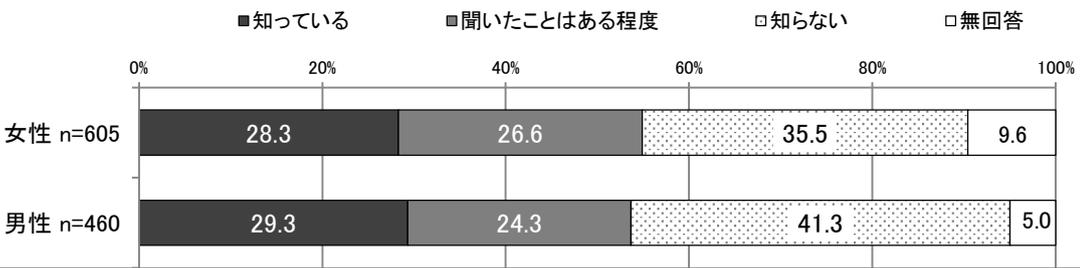
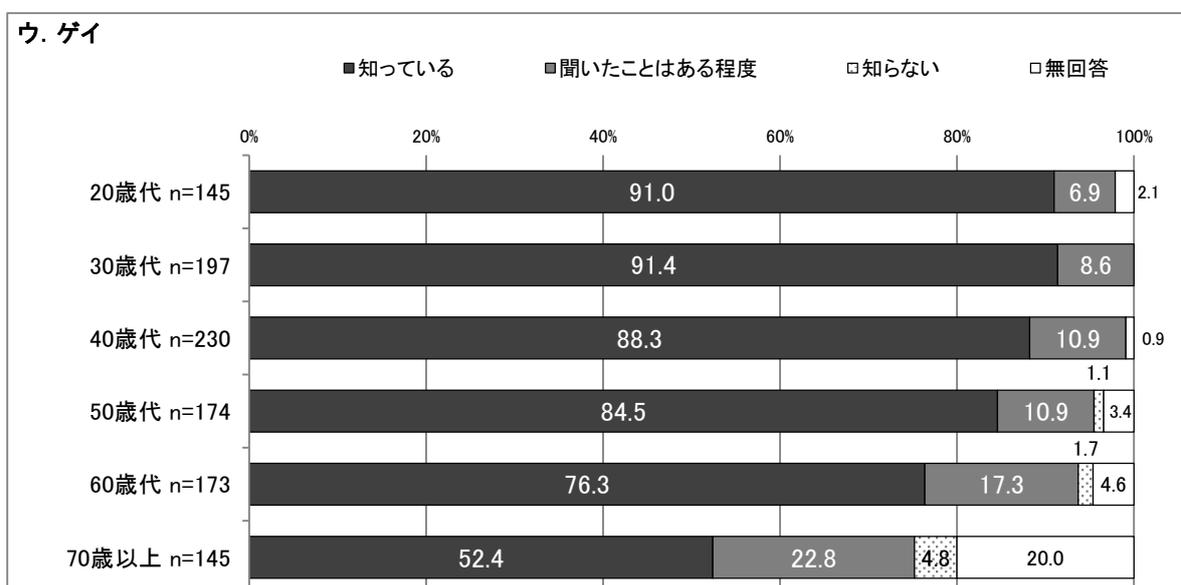
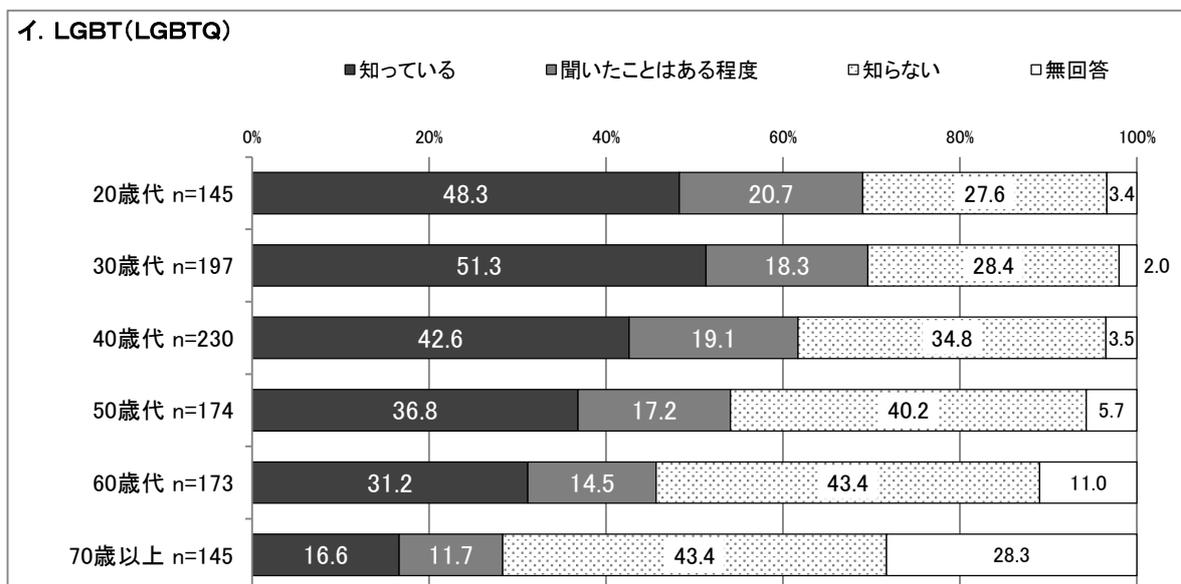
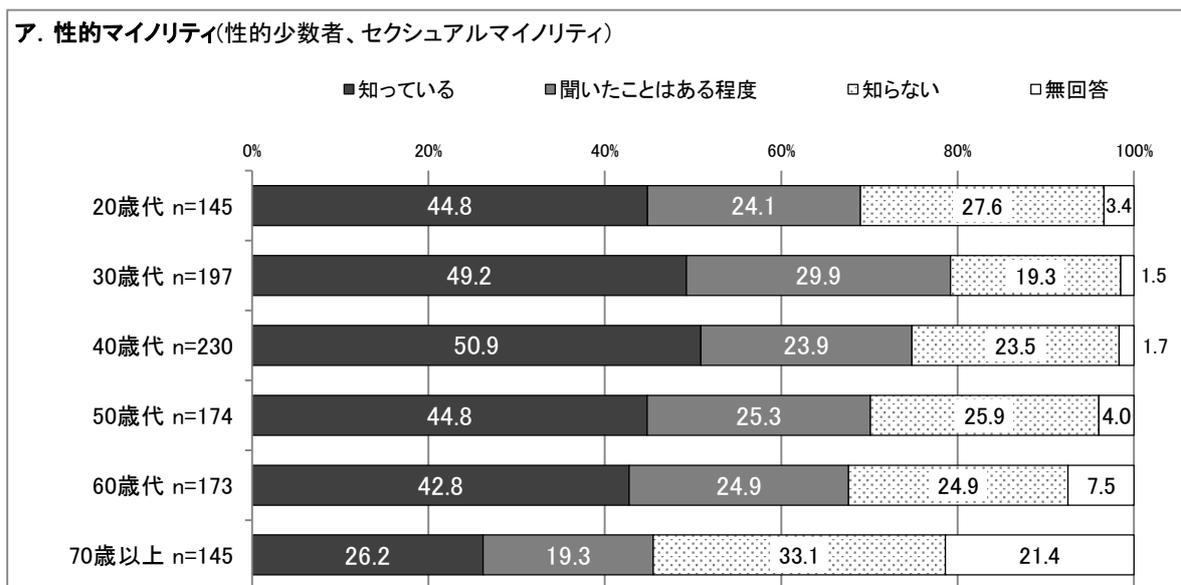
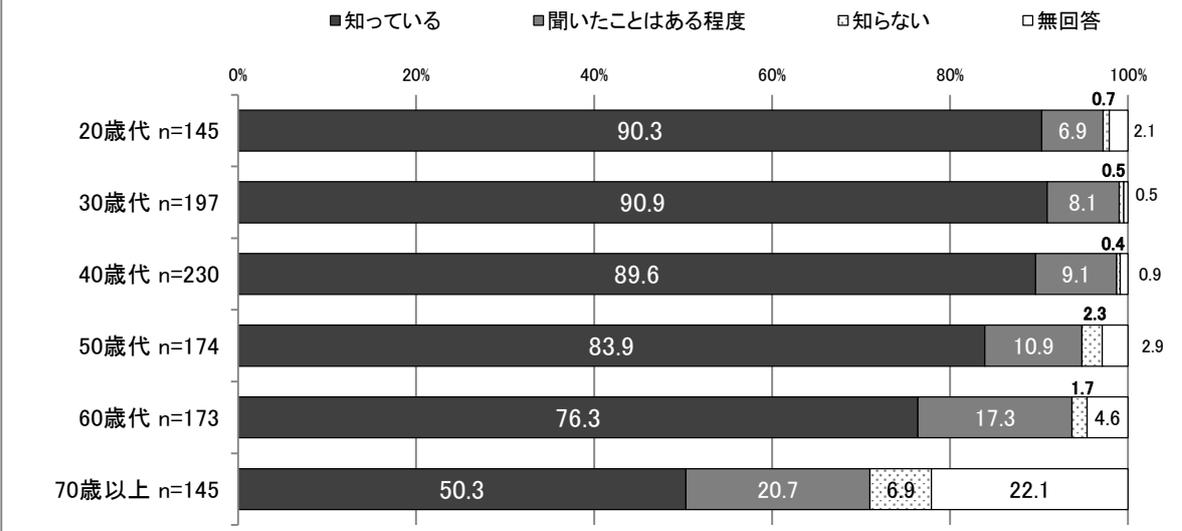


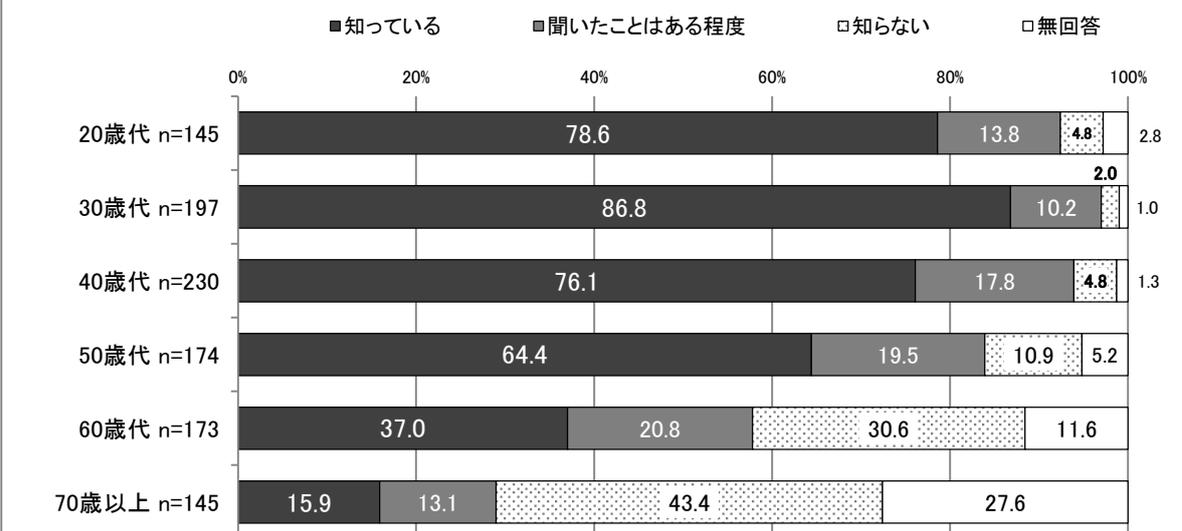
図 99. 年代別・性の多様性に関する言葉の認知度



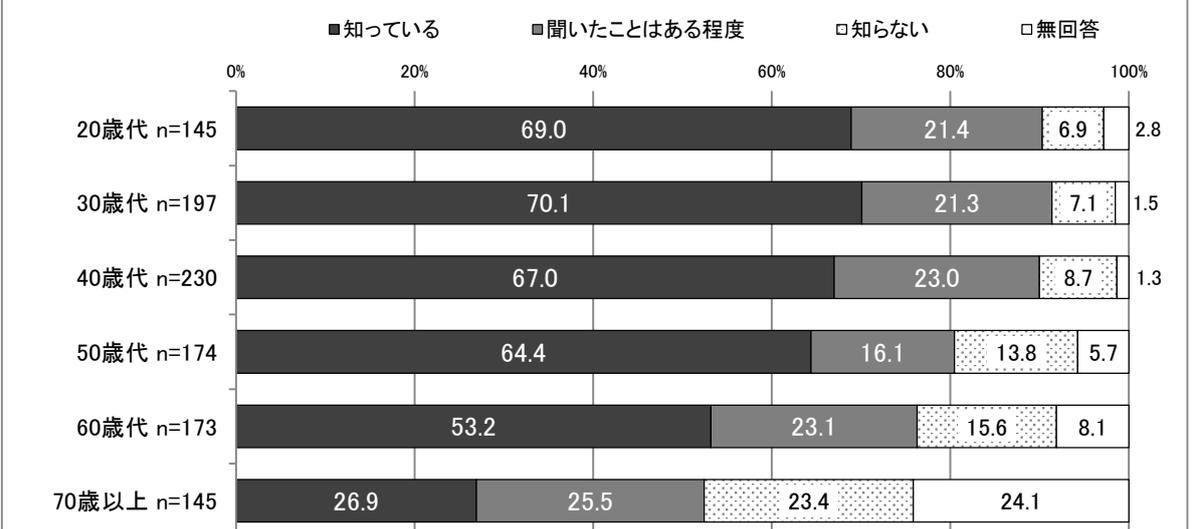
エ: レズビアン



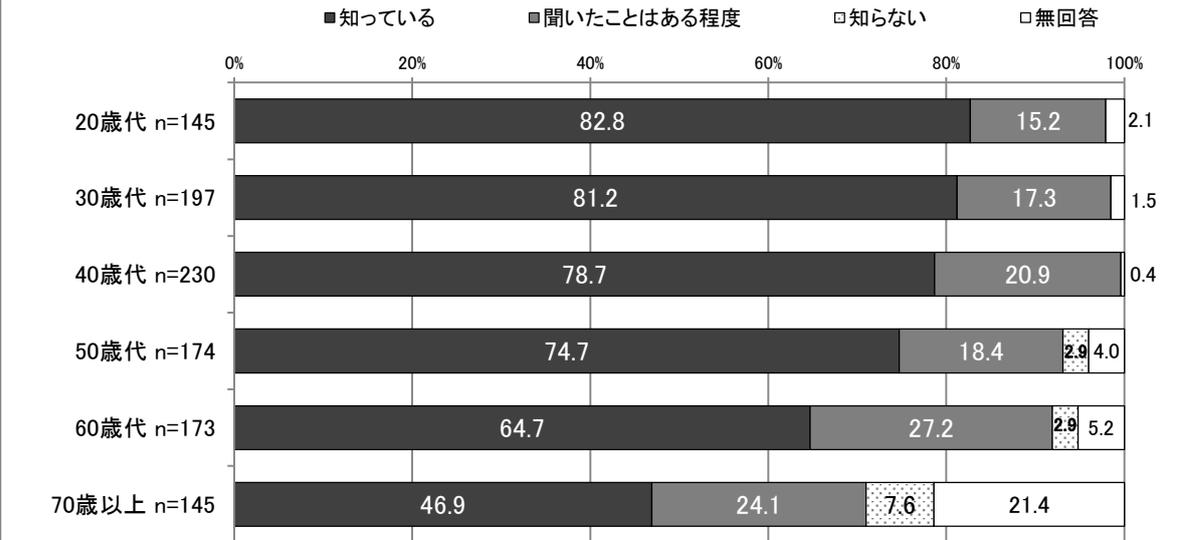
オ: バイセクシャル



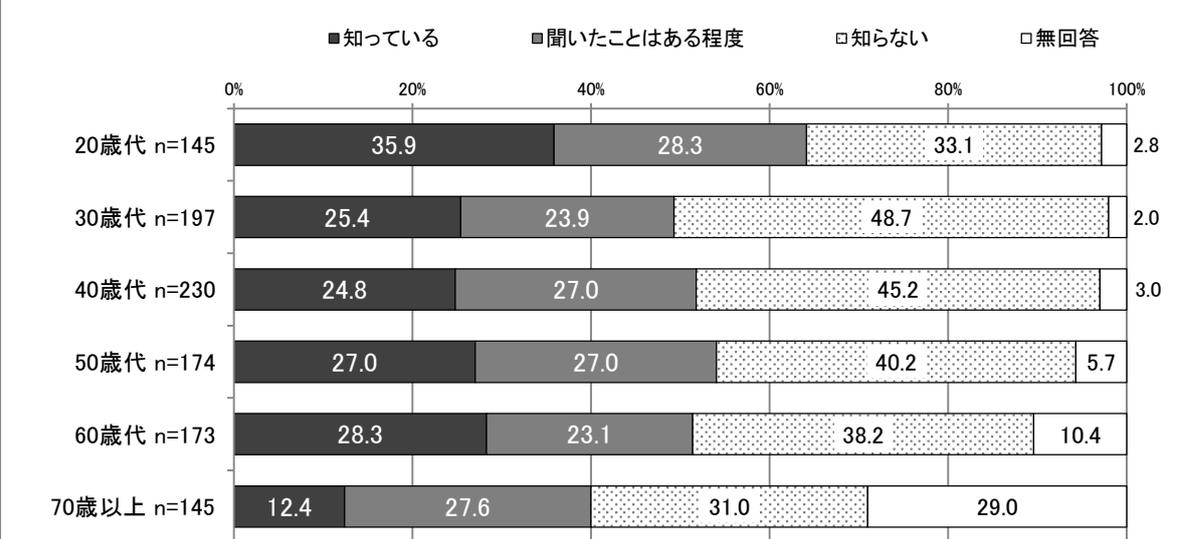
カ: トランスジェンダー(心と体の性が一致しない)



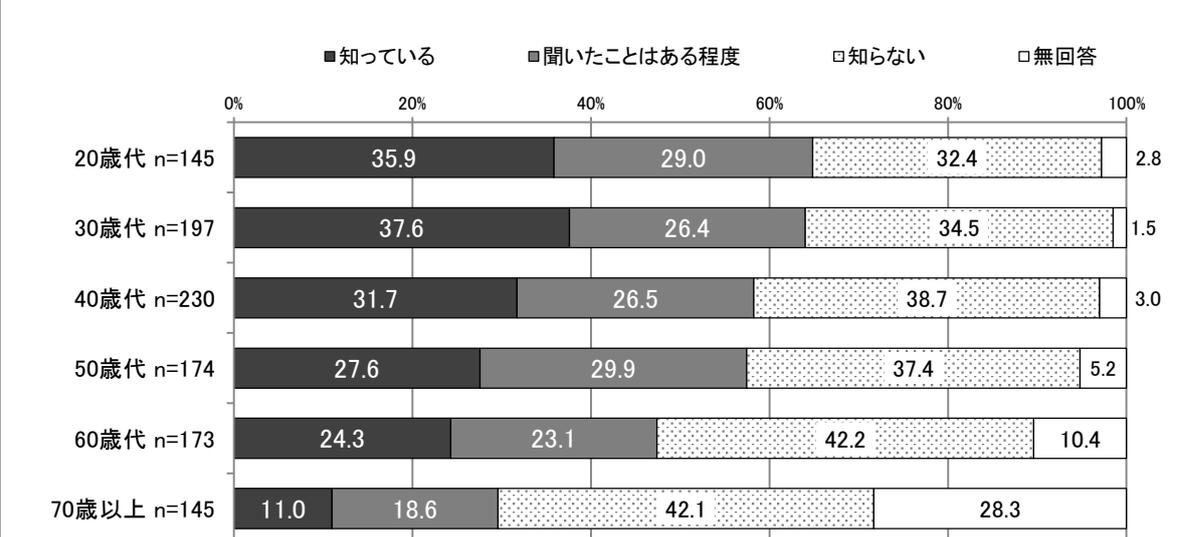
キ：性同一性障害



ク：性自認(「自分は男性(女性)だ」という自己認識)



ケ：性的指向(いずれの性別を恋愛対象とするか、性傾向)



問 30 那覇市は、LGBT（ゲイ・レズビアン・バイセクシュアル・トランスジェンダー）を含む性的マイノリティも生きやすい社会の実現を目指し、2015年7月に「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言（通称：レインボーなは宣言）を発表しました。このことを知っていましたか（○は1つだけ）。

「レインボーなは宣言」の認知度について全体で見ると、「知っている」（39.5%）、「聞いたことはあるが、くわしくは知らない」（30.7%）を合わせると回答の7割を占める。

これを性別で見ると「知っている」は男性で35.7%に対し、女性は42.3%となっている。

図100. 性別・レインボーなは宣言の認知度

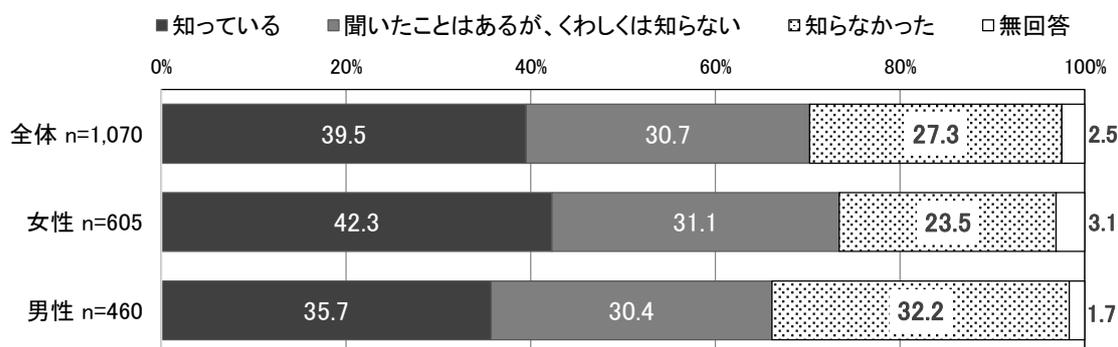
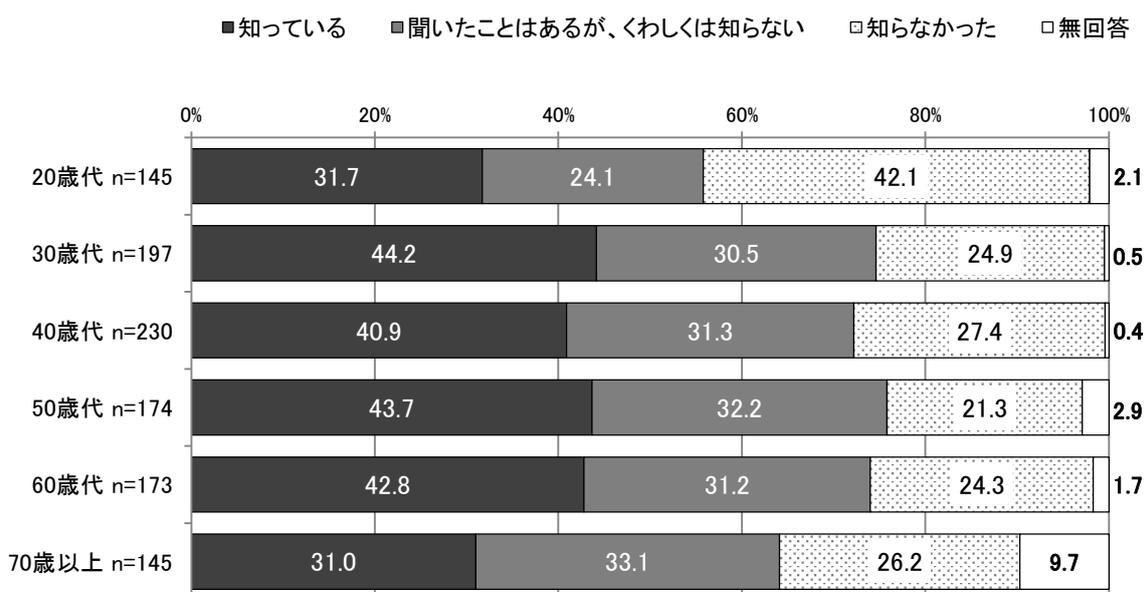


図101. 年代別・レインボーなは宣言の認知度



問 31 那覇市では、さらに歩みを進め、2016年7月に「那覇市パートナーシップ登録」制度を開始しました。このことを知っていましたか（○は1つだけ）。

「那覇市パートナーシップ登録」の認知度について全体で見ると、「知っている」との回答は41.2%で、「聞いたことはあるが、くわしくは知らない」（27.1%）を合わせると、回答は7割を占める。

これを性別で見ると「知っている」は男性で35.2%に対し、女性では45.6%となっている。

図102. 性別・那覇市パートナーシップ登録の認知度

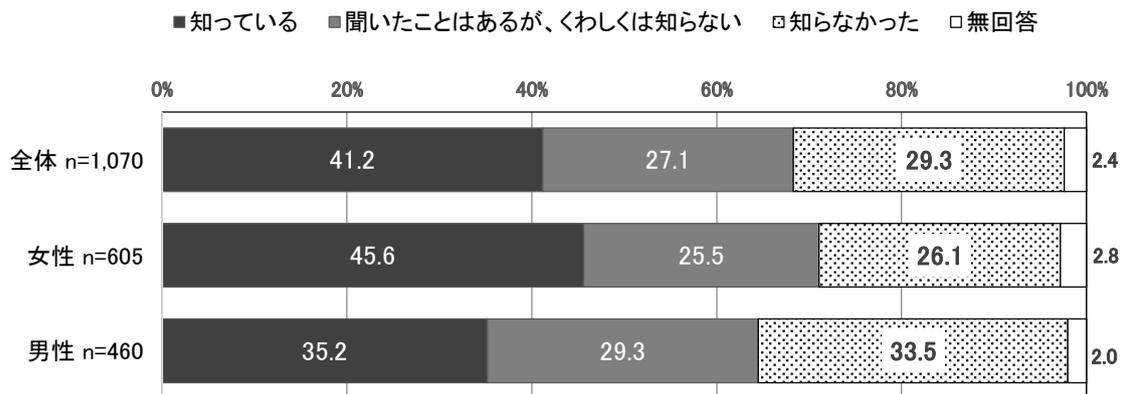
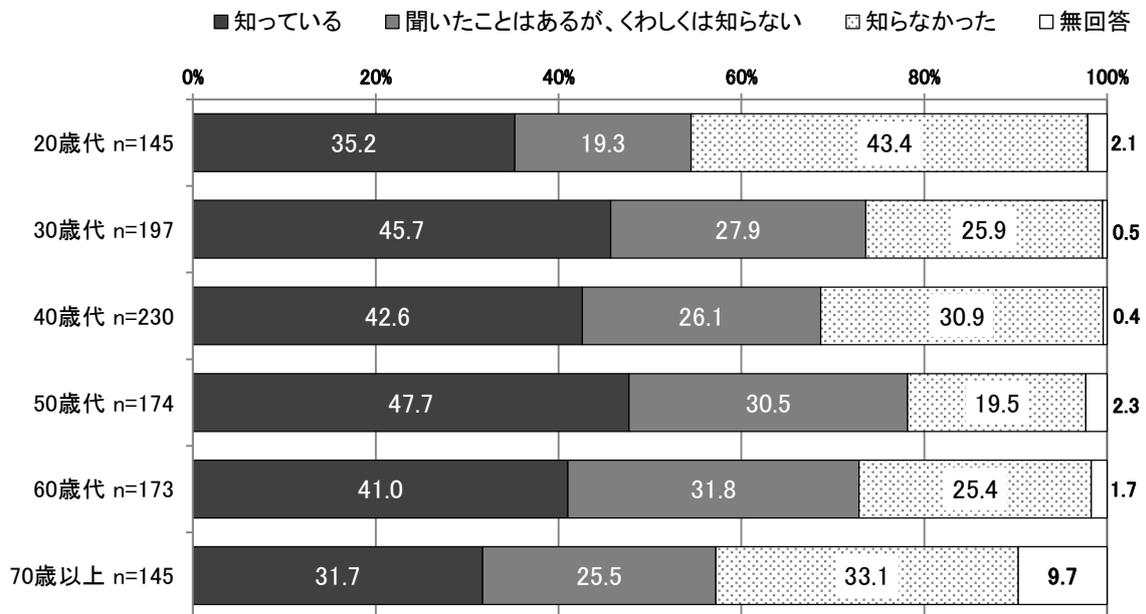


図103. 年代別・那覇市パートナーシップ登録の認知度



問 32 あなたの身近な人（家族や友人）から、性的マイノリティであると打ち明けられたらとき、受け入れられますか（○は1つだけ）

身近な人が性的マイノリティであることを打ち明けられた（カミングアウトを受けた）場合、「受け入れられる」、「驚くと思うが受け入れられる」、「時間をかければ受け入れられる」、「仕方がないので受け入れる」との回答割合が全体の75.3%を占めている。

これを性別で見ると、女性は77.6%、男性では72.9%となっている。

図104. 性別・身近な人から性的マイノリティであると打ち明けられた場合の対応

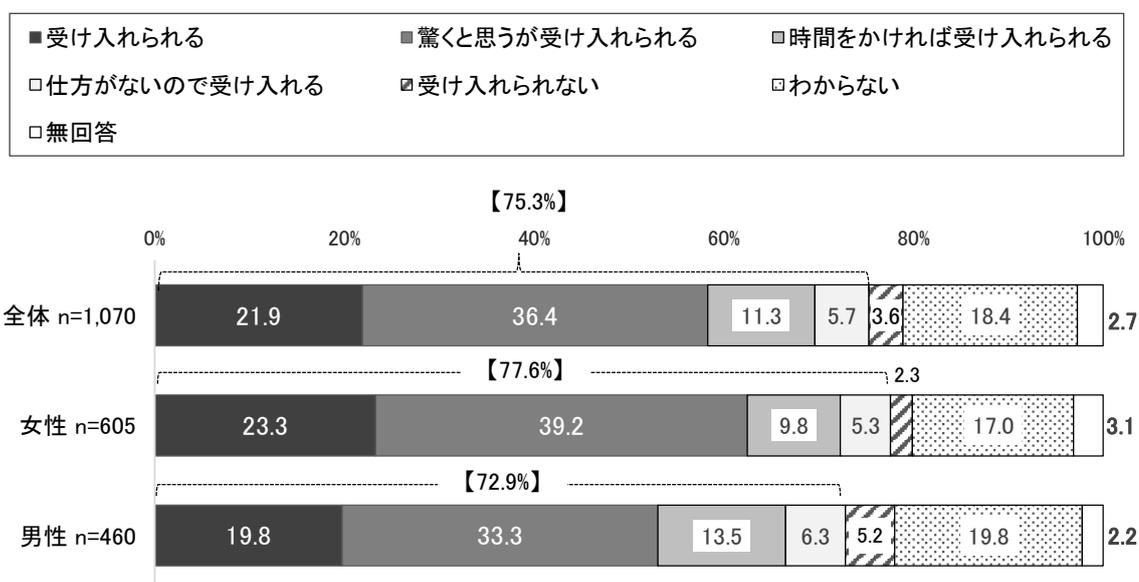
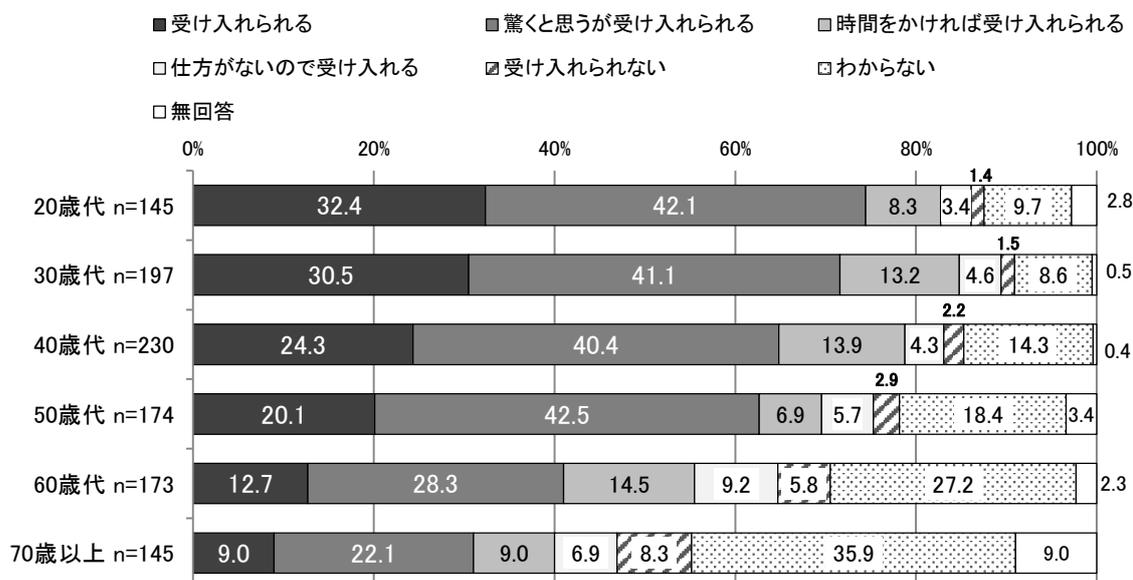


図105. 年代別・身近な人から性的マイノリティであると打ち明けられた場合の対応



問 33 LGBTを含む性的マイノリティは、人口の約何%だと思いますか(○は1つだけ)

日本国内の性的マイノリティの人口比率は「LGBT 調査 2015」によると、約8%となっているが、このことについての認知度を全体でみると、「約8% (12.5人に一人)」の正解は24.5%で約1/4である。全体の7割は1%以下と答えている。

これを性別でみると、女性の正解率がやや高い。

図106. 性別・LGBTを含む性的マイノリティの人口比率の認知度

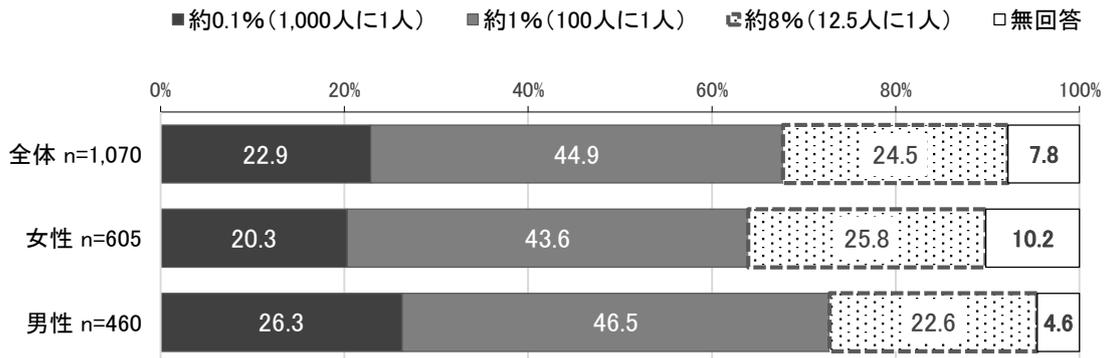
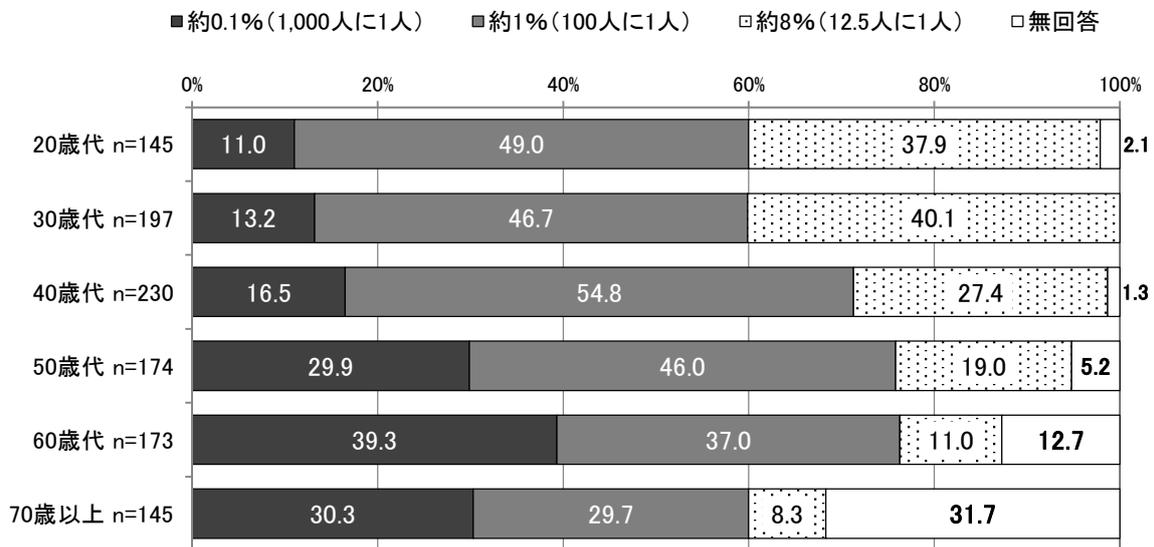


図107. 年代別・性的マイノリティの人口認知度



※日本国内のセクシャル・マイノリティ(性的少数者)は7.6% 出典:「LGBT 調査 2015」電通ダイバーシティ・ラボ

問 34 性の多様性を認め合う社会をつくるために、さらなる取り組みが必要だと思いますか（○は1つだけ）

性の多様性を認め合う社会づくりのために、さらなる取り組みの必要性について全体で見ると、約7割が必要と回答している。

これを性別で見ると、男性に比べて女性の方でさらなる取り組みが必要とする回答割合が高い。

図108. 性別・性の多様性を認め合う社会づくり

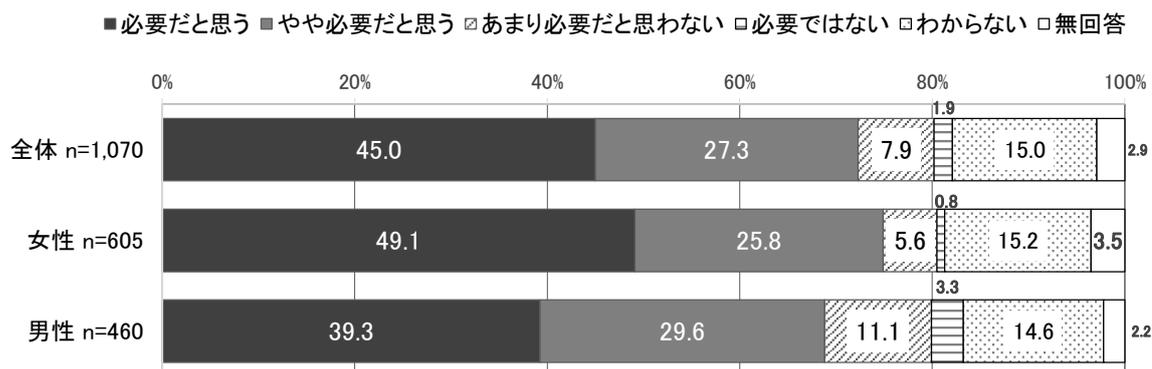
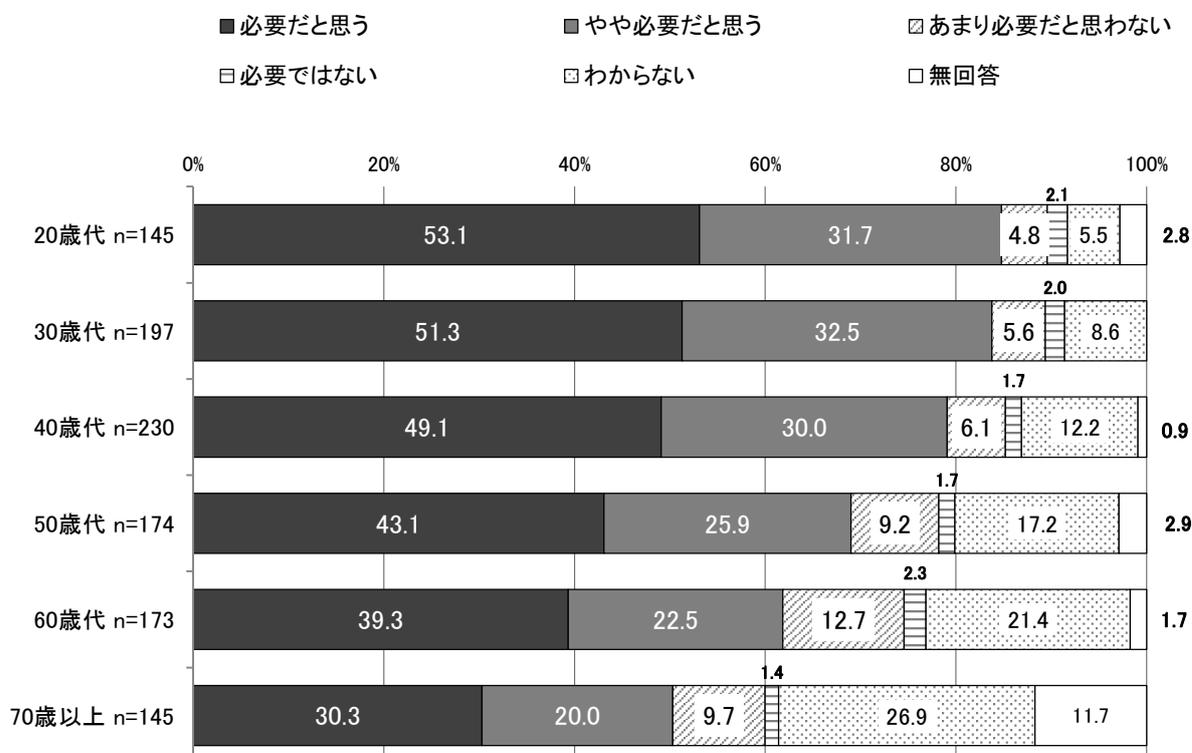


図109. 年代別・性の多様性を認め合う社会づくり



(7) 男女共同参画社会について

問 35 次にあげるア～サの言葉について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

男女共同参画社会等に関連する言葉の内容についての認知度を全体でみると、『内容もよく知っている』が最も高いのは「パワー・ハラスメント（パワハラ）」の52.3%で、以下「ドメスティック・バイオレンス（DV）」（49.1%）、「デートDV（恋人同士で起こるDV）」（31.6%）となっている

これを性別でみると、全体的に性差はないが、「デートDV（恋人同士で起こるDV）」については女性が約1割高い。

図110. 全体・男女共同参画社会等に関連する言葉の認知度

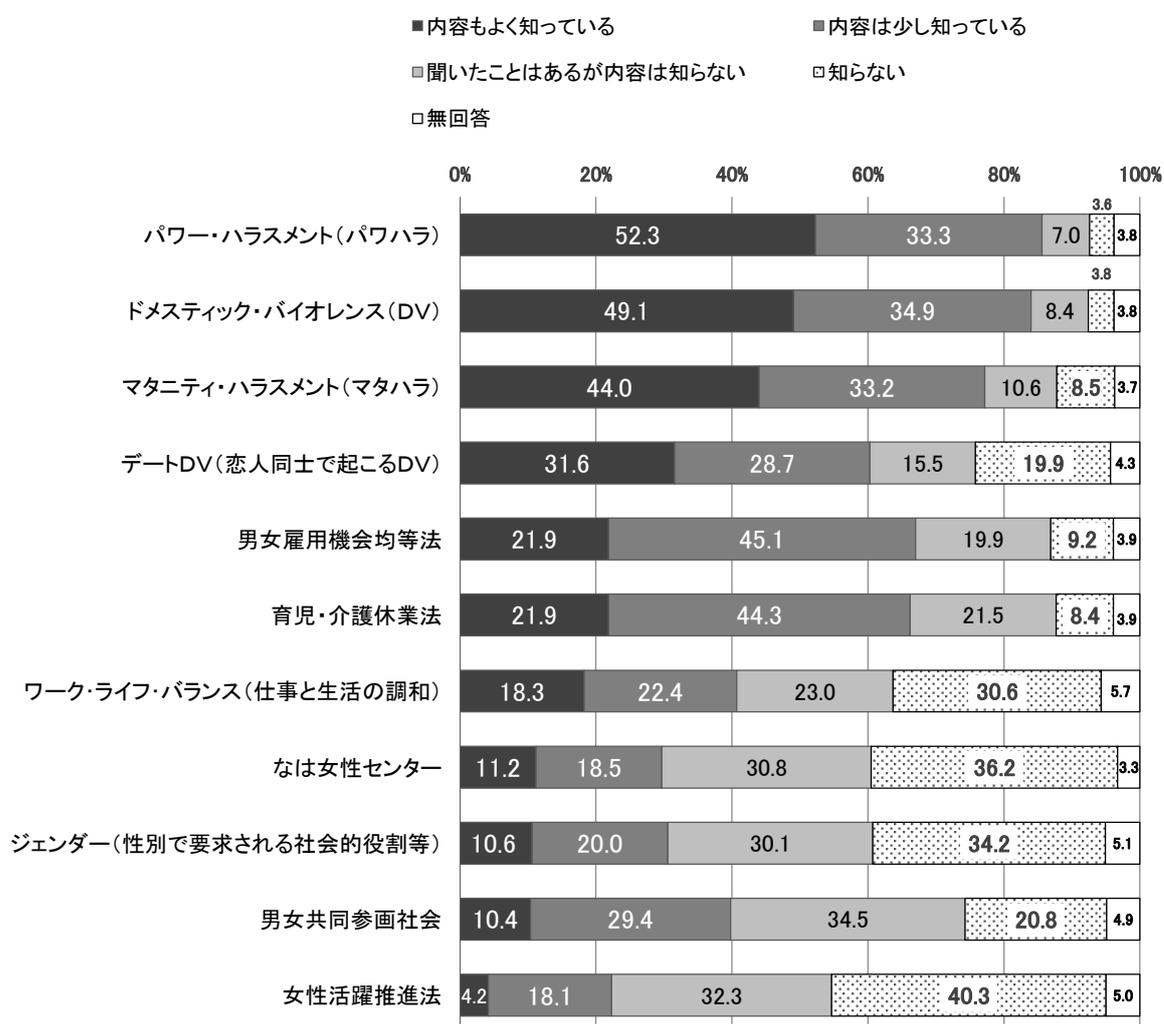
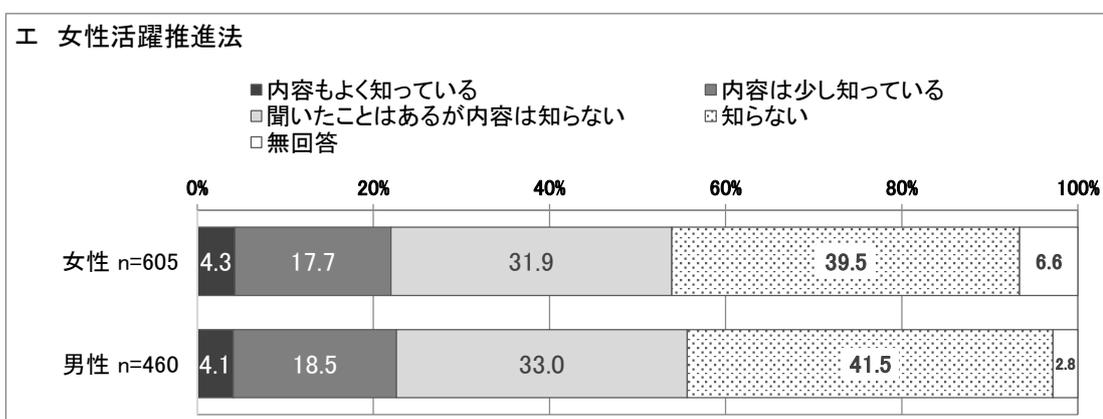
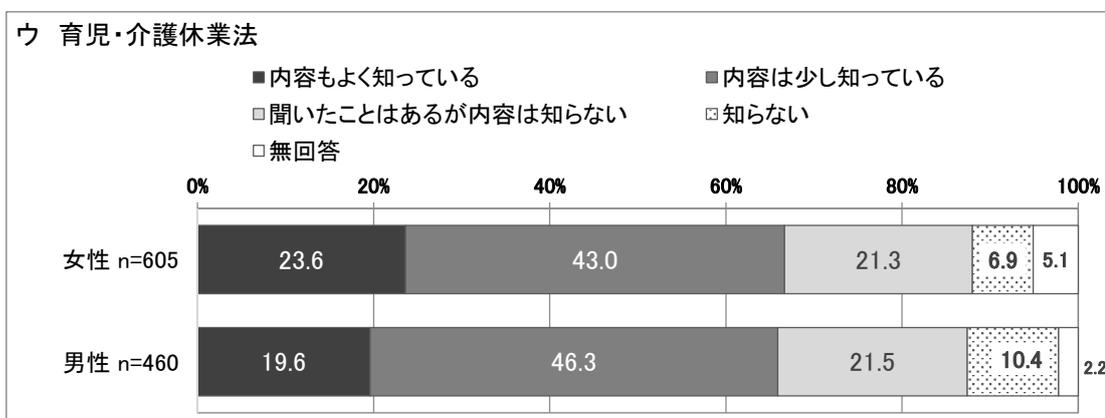
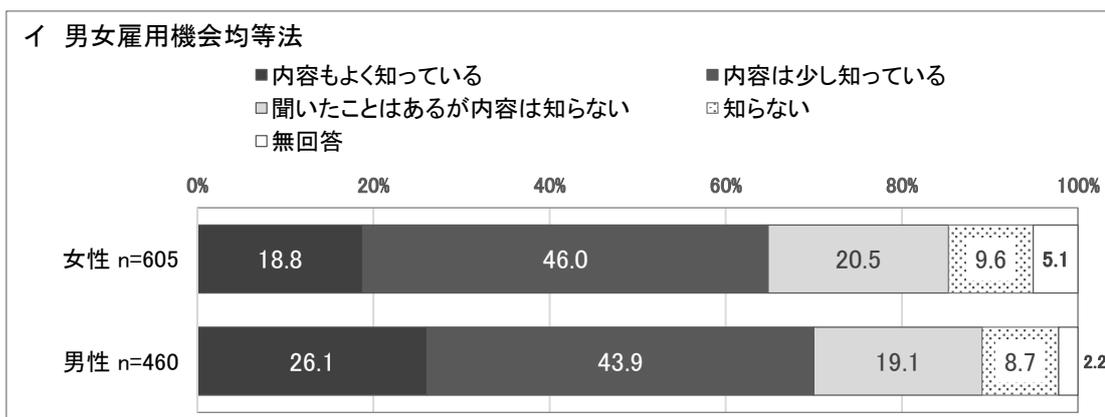
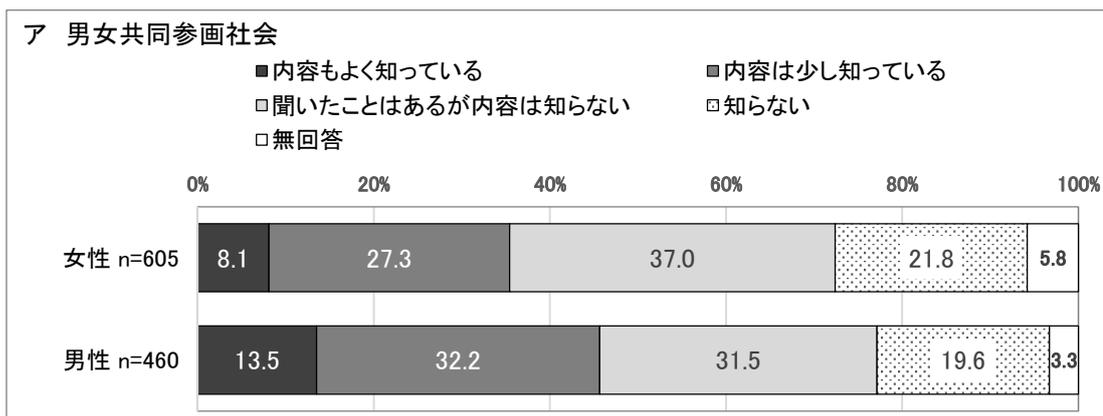
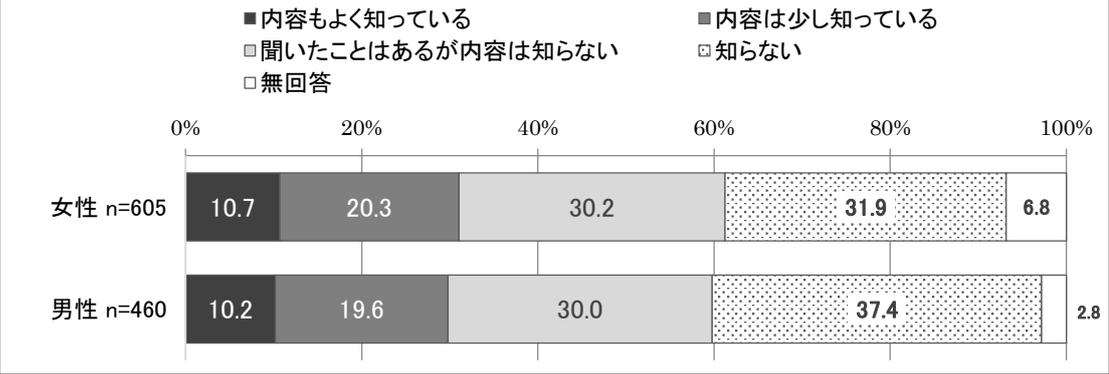


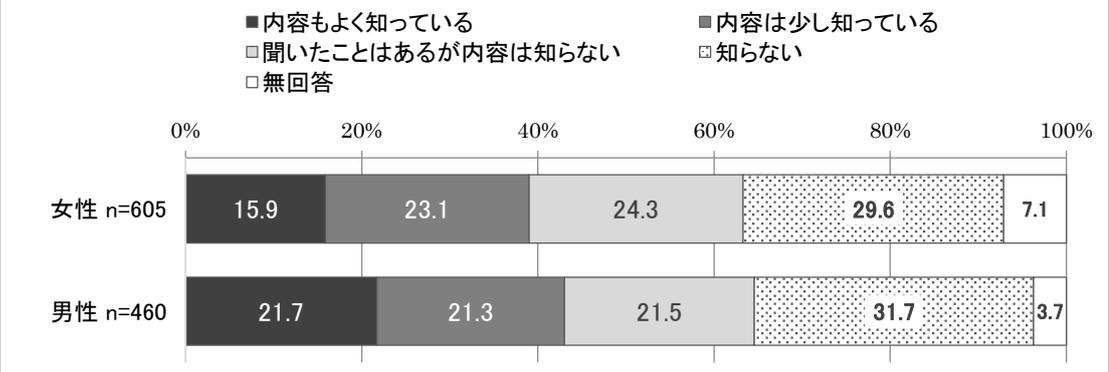
図 111. 性別・男女共同参画社会等に関連する言葉の認知度



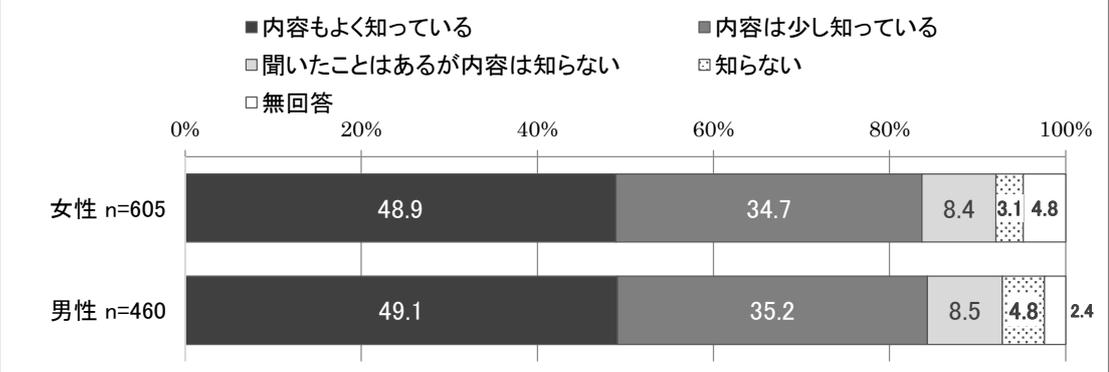
オ ジェンダー(性別で要求される社会的役割等)



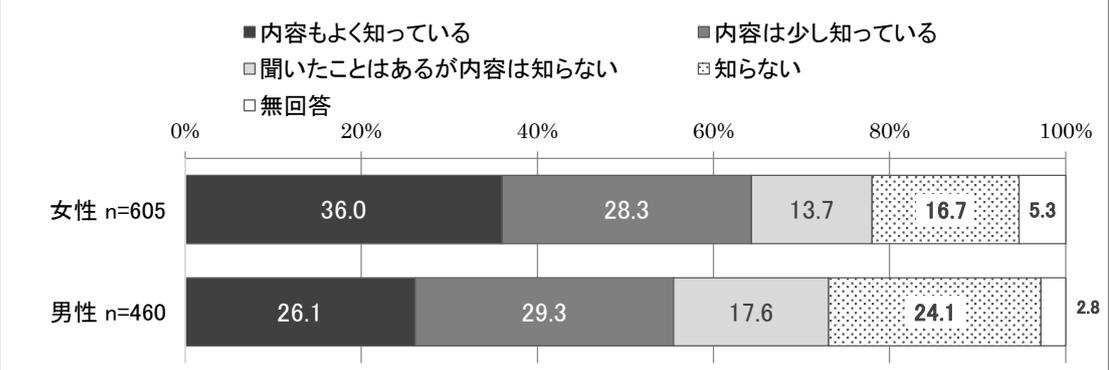
カ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



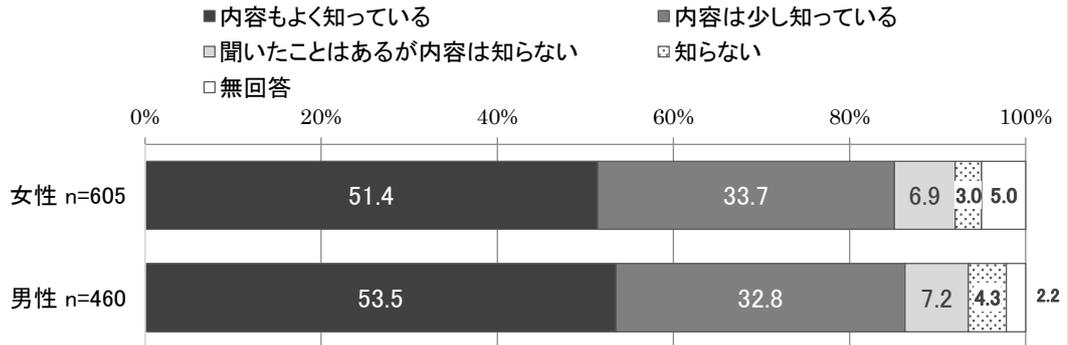
キ ドメスティック・バイオレンス(DV)



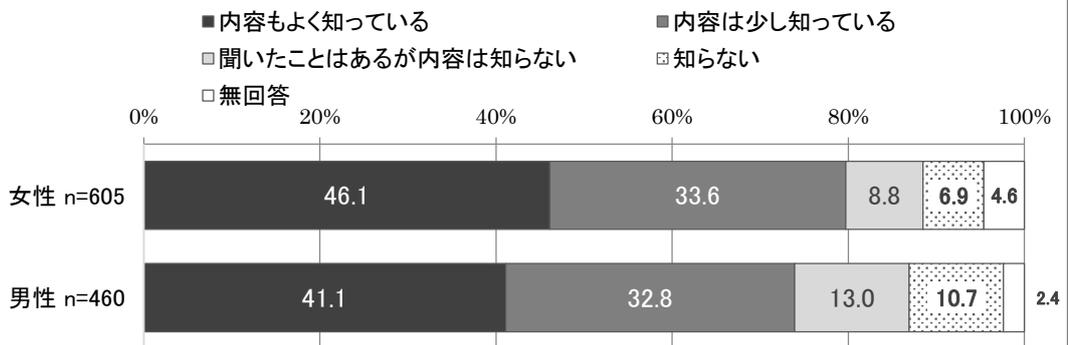
ク デートDV(恋人同士で起こるDV)



ケ パワー・ハラスメント(パワハラ)



コ マタニティ・ハラスメント(マタハラ)



サ なは女性センター

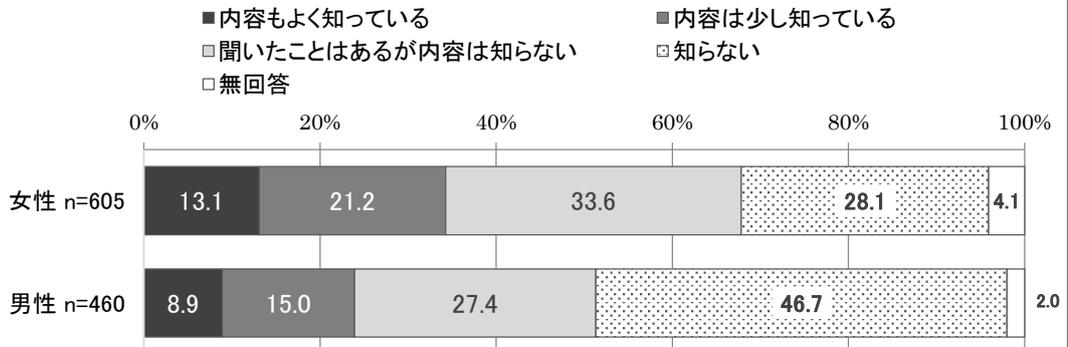
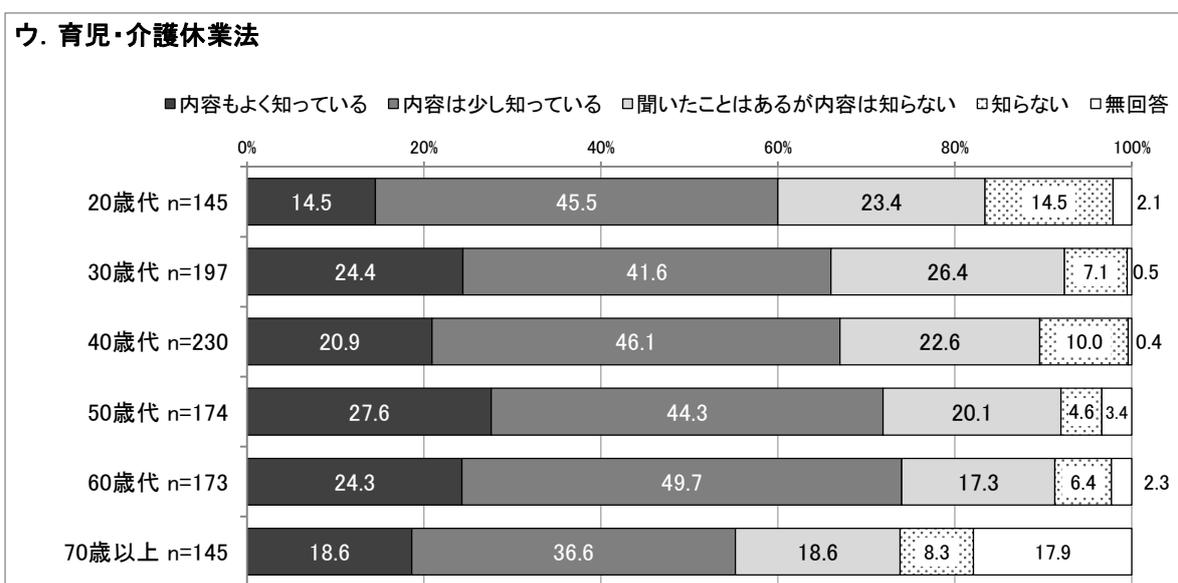
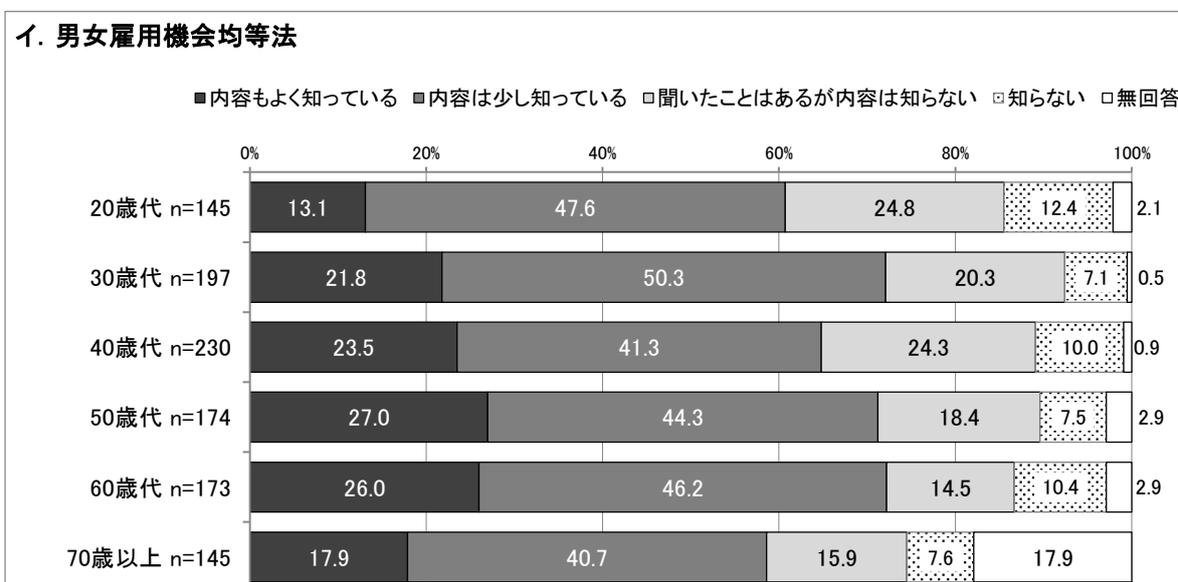
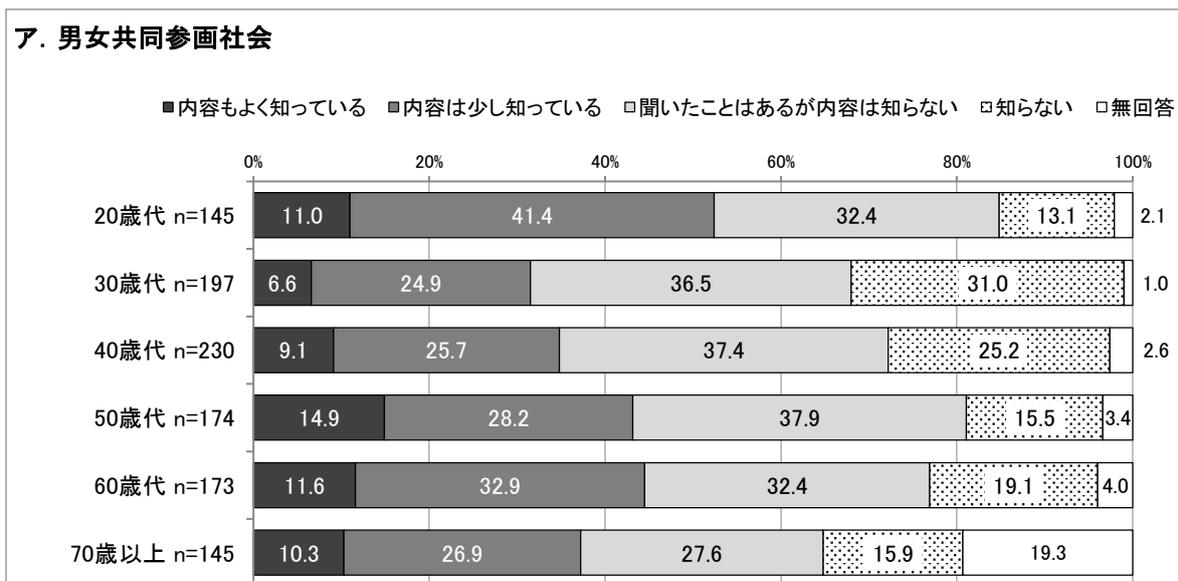
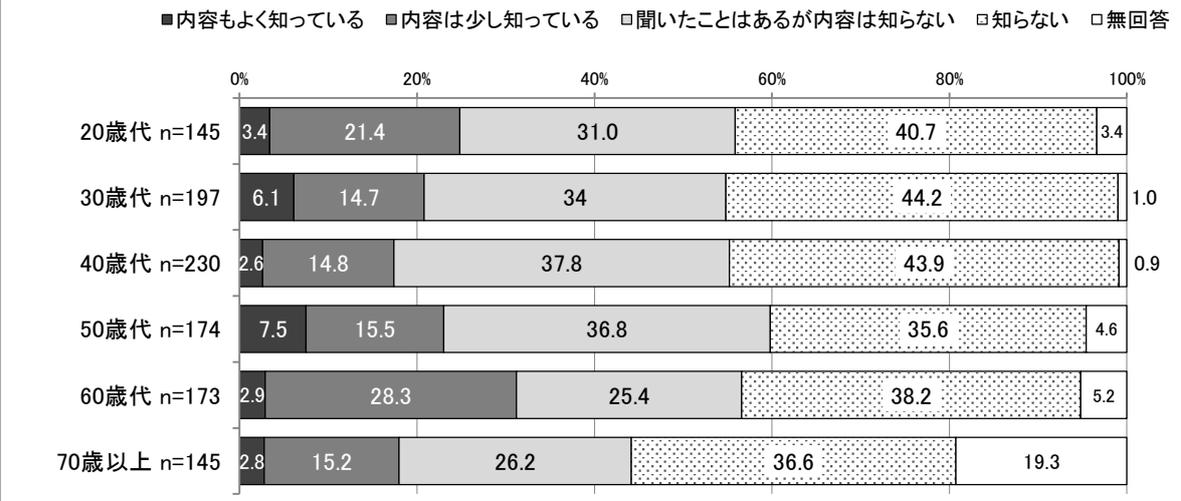


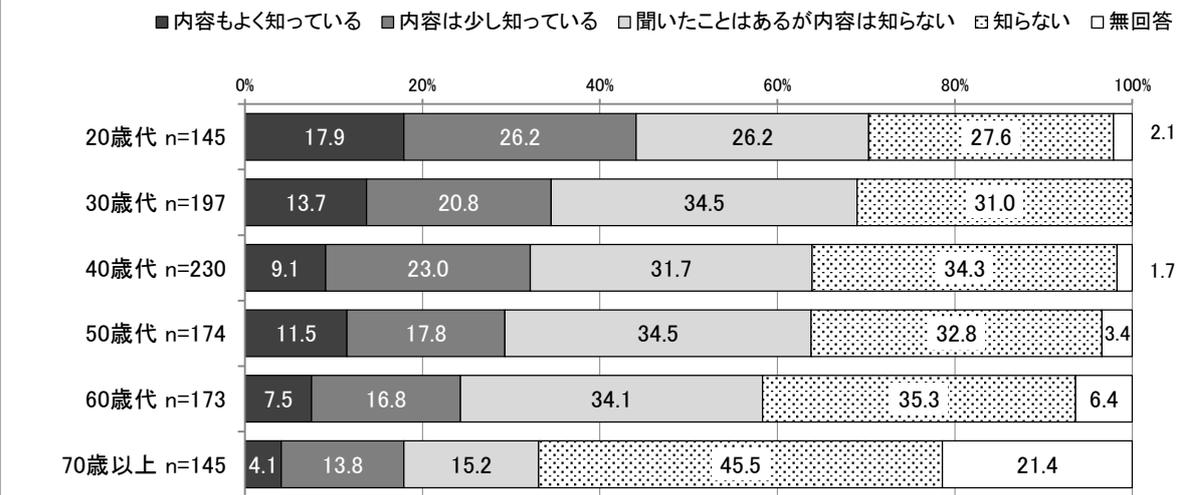
図 112. 年代別・男女共同参画社会等に関連する言葉の認知度



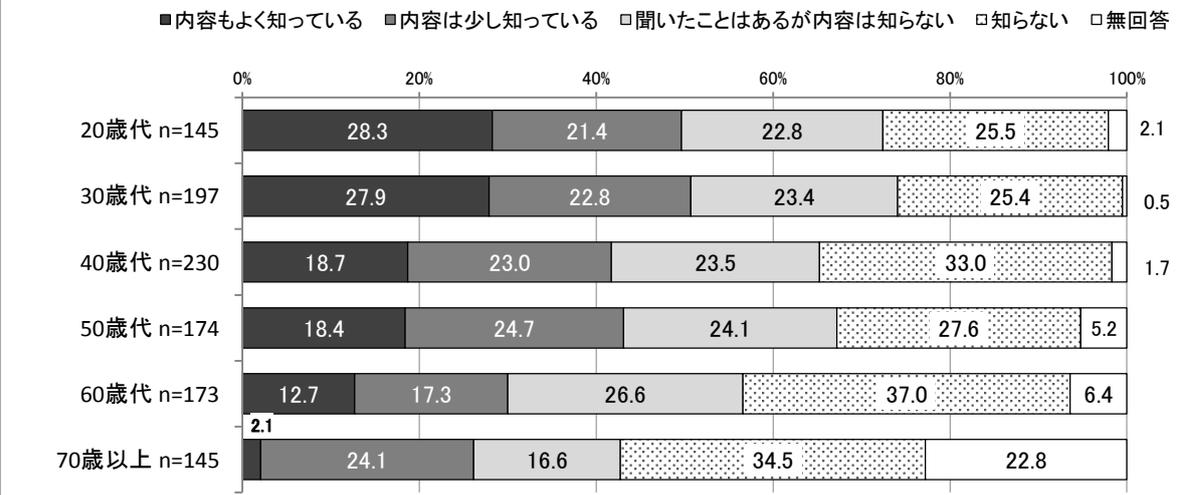
エ. 女性活躍推進法



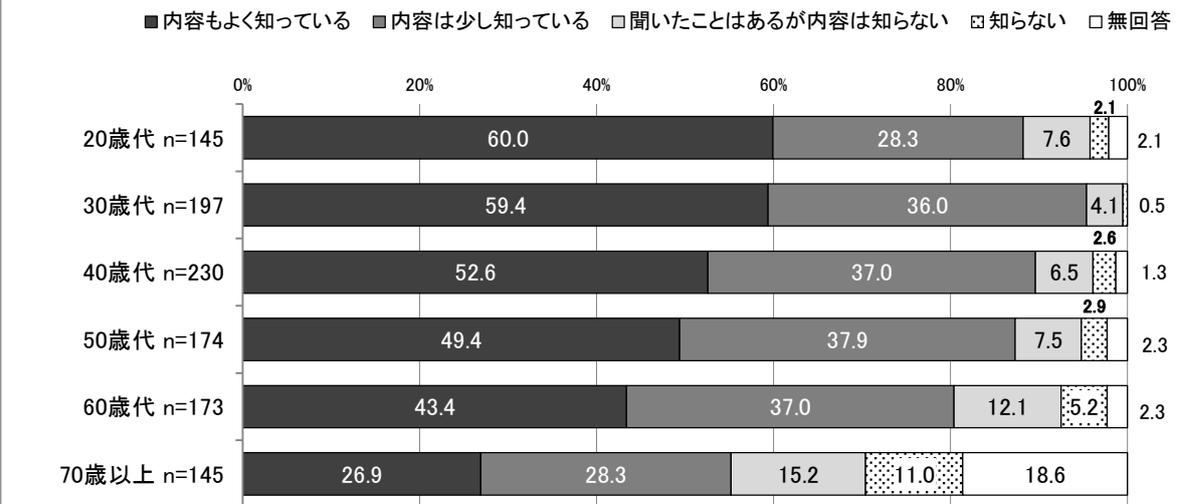
オ. ジェンダー(性別で要求される社会的役割等)



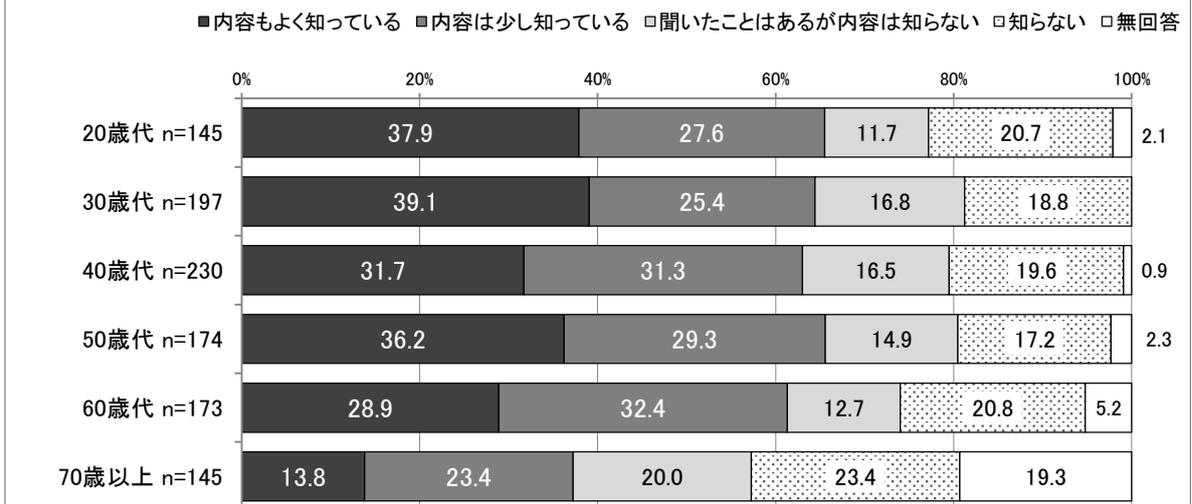
カ. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)



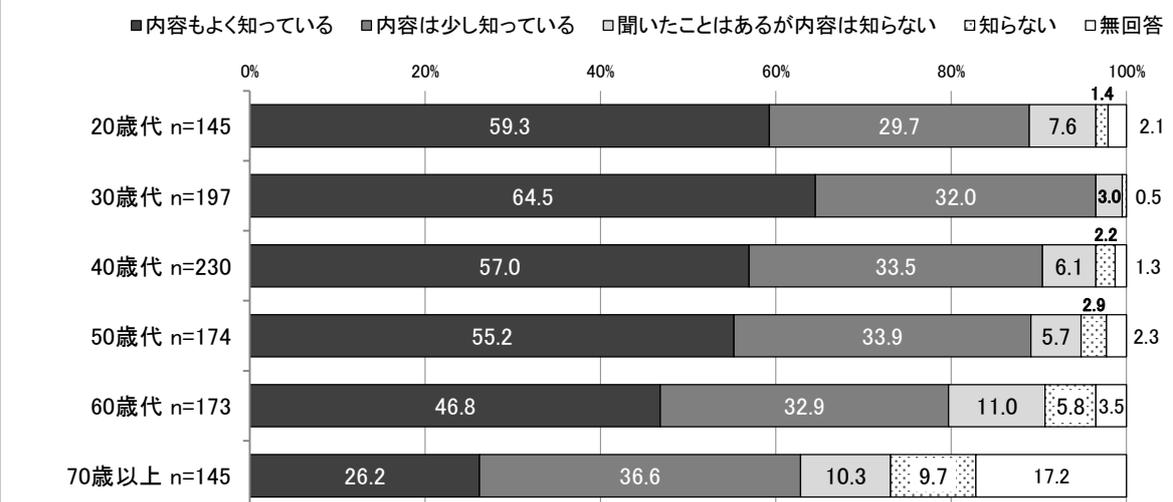
キ. ドメスティック・バイオレンス(DV)



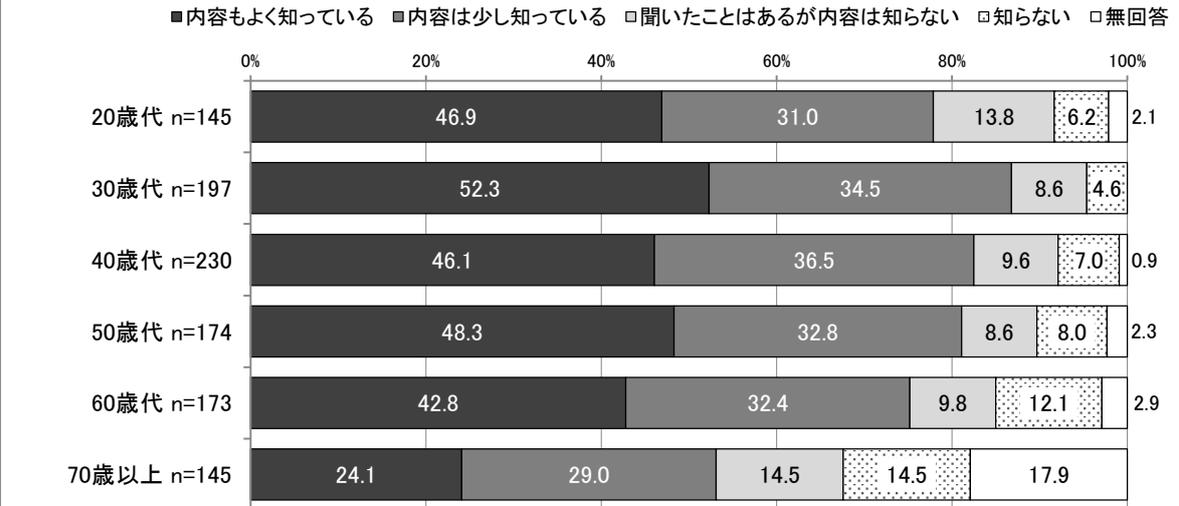
ク. デートDV(恋人同士で起こるDV)



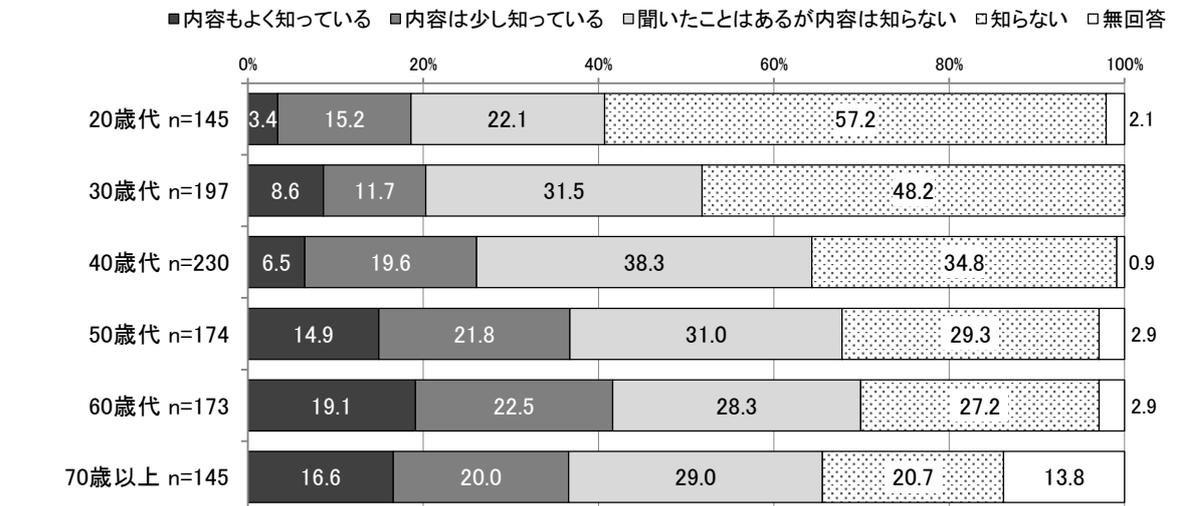
ケ. パワー・ハラスメント(パワハラ)



コ. マタニティ・ハラスメント(マタハラ)



サ. なは女性センター

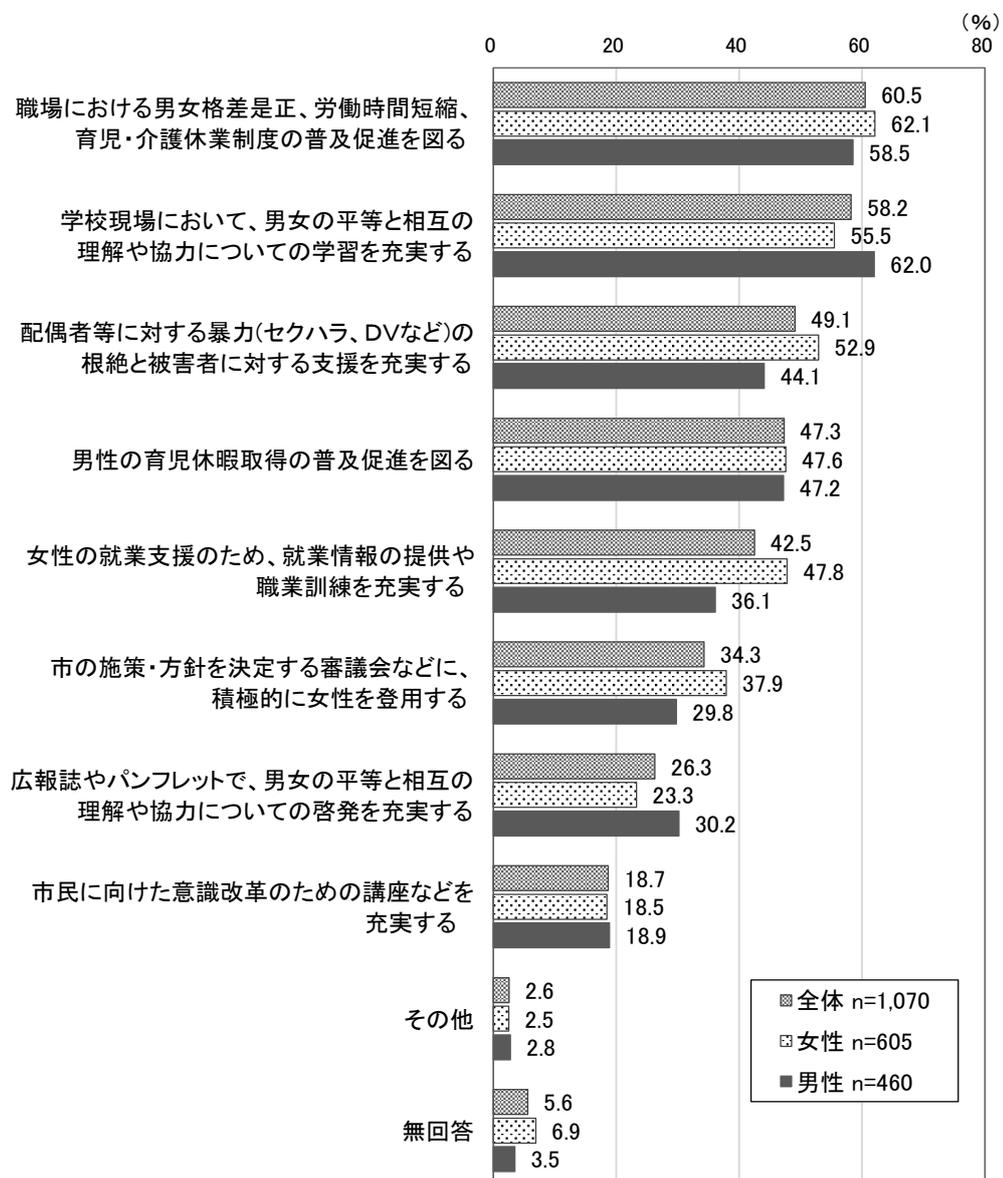


問 36 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、那覇市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか（〇はいくつでも）

男女共同参画社会の実現に向けて、今後、那覇市が力を入れて取り組むべきことを全体で見ると、「職場における男女格差是正、労働時間短縮、育児・介護休業制度の普及促進を図る」（60.5%）、「学校現場において、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」（58.2%）が上位となっており、組織や団体を中心に推進することが望まれている。

これを性別で見ると、全体的に極端な性差はない。その中で、女性の比率が比較的高い項目は、「配偶者に対する暴力（セクハラ・DVなど）の根絶と被害者に対する支援を充実する」（女性：52.9%、男性：44.1%）、「女性の就業支援のため、就業情報の提供や職業訓練を充実する」（女性：47.8%、男性：36.1%）、「市の政策・方針を決定する審議会などに、積極的に女性を登用する」（女性：37.9%、男性：29.8%）である。

図113. 性別・那覇市が力を入れるべきこと



これを平成27年の県調査結果と比較すると、各項目で割合が高くなっている。特に「配偶者等に対する暴力（セクハラ、DVなど）の根絶と被害者に対する支援を充実する」については、那覇市調査の方が20.1%ポイント高い。

図114. 男女共同参画社会の実現に向けて、今後、那覇市が力を入れていくべきこと
(H27年県調査結果との比較)

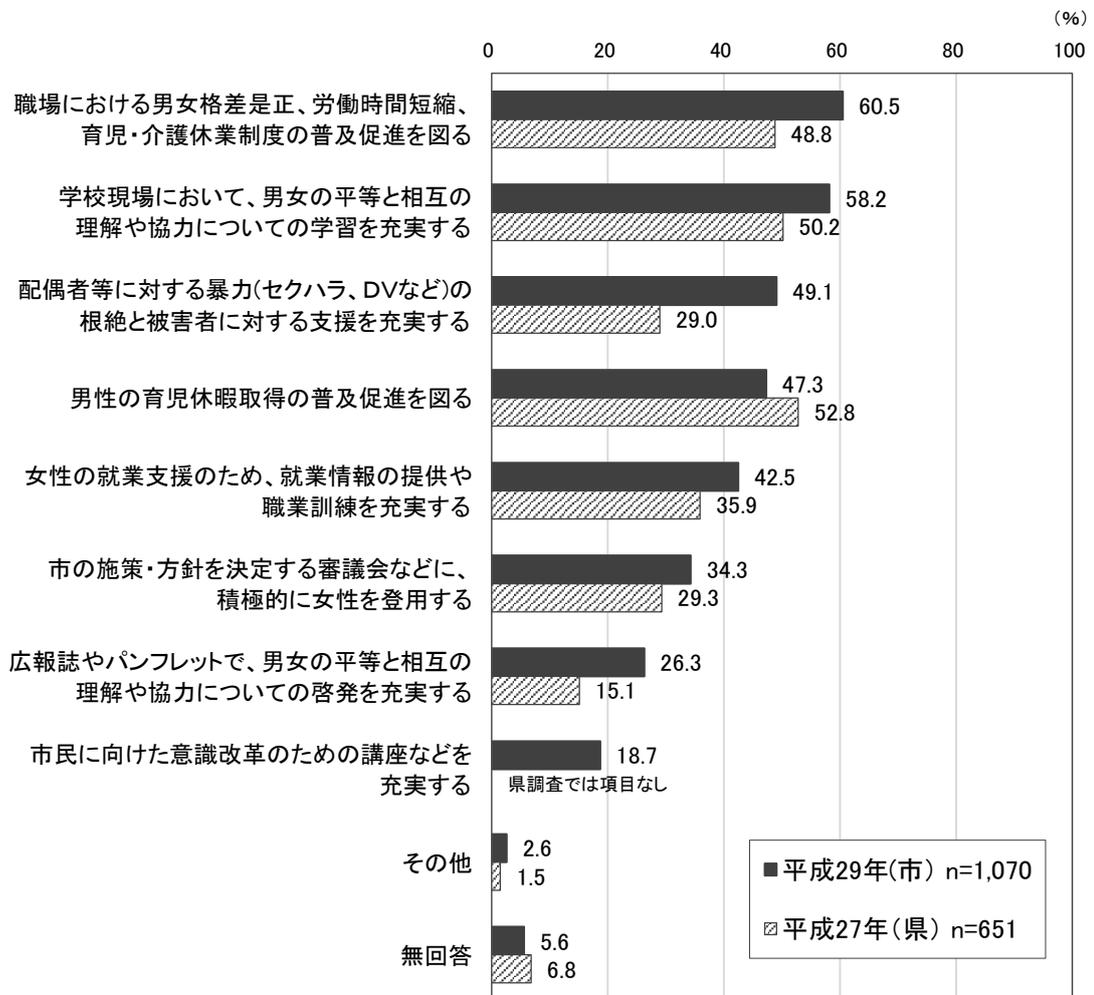


図115. 年代別・男女共同参画社会の実現に向けて、今後、那覇市が力を入れていくべきこと

